

**ニカラグア共和国
プエルトカベサス先住民コミュニティ
生計向上計画
終了時評価調査報告書**

平成 24 年 11 月
(2012 年)

独立行政法人国際協力機構
農村開発部

農 村
J R
12-102

**ニカラグア共和国
プエルトカベサス先住民コミュニティ
生計向上計画
終了時評価調査報告書**

平成 24 年 11 月
(2012 年)

**独立行政法人国際協力機構
農村開発部**

序 文

独立行政法人国際協力機構は、ニカラグア共和国（以下、「ニカラグア」と記す）政府からの技術協力の要請に基づき、当初、2008年2月27日から2012年2月26日までの予定で、技術協力プロジェクト「プエルトカベサス先住民コミュニティ生計向上計画」を実施いたしました。

当初のプロジェクト協力期間の終了を2012年2月に控え、当機構は2011年9月1日から24日まで、当機構農村開発部審議役である丸岡秀行（当時）を団長とする終了時評価調査団を現地に派遣し、ニカラグア側の評価チームと合同でこれまでの活動実績等について総合的評価を行いました。これらの評価結果は、日本・ニカラグア双方の評価委員による討議を経て合同評価報告書としてまとめられ、署名交換のうえ、両国の関係機関に提出されました。

この結果を受けて、プロジェクトは協力期間を1年間延長し、2013年2月26日まで協力を行うこととなりました。ついで、延長期間の活動実績等について総合的な評価を行うため、当機構は2012年9月30日から同年10月21日まで、当機構農村開発部審議役である中尾誠を団長とする終了時評価調査団を現地に派遣しました。

本報告書は、両調査団による協議結果、評価結果を取りまとめたものであり、今後プロジェクトの実施にあたり広く活用されることを願うものです。

ここに、本調査実施にご協力とご支援をいただいた関係者の皆様に対し心から感謝の意を表します。

平成 24 年 11 月

独立行政法人国際協力機構
農村開発部長 熊代 輝義

総合目次

序 文

総合目次

プロジェクト位置図

略語表

第 1 部 終了時評価調査報告書（当初協力期間）

第 2 部 終了時評価調査報告書（延長期間を含む）

プロジェクト位置図

RAAN 及びプエルトカベサス市



備考：Bilwi は CDR 関係機関が所在するプエルトカベサス市の中心地区（プエルトカベサス市全体を Bilwi と称することもある）。

プロジェクト対象コミュニティ



赤色：主要な地点
 黄色：農民プロモーター第2グループのコミュニティ
 青色：農民プロモーター第1グループのコミュニティ
 緑色：農民プロモーター第3グループのコミュニティ

略 語 表

略 語	欧 文	和 文
ADSIM	Asociación de Desarrollo Social de Iglesia Morava	モラビア教会社会開発協会(NGO)
AMC	Acción Medica Cristiana	アクション・メディカ・クリスティアーナ(NGO)
Alianza Comunitaria	Proyecto Fomento de Capacidades de Alianza Comunitaria para Desarrollo Teritorial Rural	JICA技術協力プロジェクト「農村開発のためのコミュニティ強化計画」
BICU-CIDCA	Bluefields Indian & Caribbean University-Centro de Investigación y Documentación de la Costa Atlantica	大西洋岸資料センター (BICU大学附属資料センター)
BICU-CIUM	Bluefields Indian & Caribbean University-Centro Inter Universitario de la Iglesia Morava	モラボ・インターユニバーシティセンター・ブルーフィールズ・インディアン・カリビアン大学 (BICU大学)
BID	Banco Interamericano para el Desarrollo	米州開発銀行
C/P	Counterpart	カウンターパート
CABEI	Central American Bank for Economic Integration	中米経済統合銀行
CDR	Comité de Desarrollo Rural	農村開発委員会
COMAL	Cooperativa Multisectrial Comandante Alex Lucer Blandon	アレックス・ルセール・ブランドンマルチセクター組合
CPC	Consejo del Poder Ciudadano	人民権評議会
DANIDA	Danish International Development Agency	デンマーク国際開発庁
DTASPAN	Proyecto de Difusión de Tecnología en Agricultura Sostenible a Pequeños Productores en Nicaragua	JICA技術協力プロジェクト「ニカラグア国小規模農家のための持続的農業技術普及プロジェクト」
EARTH	La Escuela de Agricultura de la Región Tropical Húmeda	熱帯湿潤地農業学校 (EARTH大学：コスタリカ)
FAO	Organización de las Naciones Unidas para la Alimentación y la Agricultura	国際連合食糧農業機構
IFAD (FIDA)	International Fund for Agricultural Development (Fondo Internacional de Desarrollo Agrícola)	国際農業開発基金
FISE	Fondo de Inversión Social de Emergencia	緊急社会投資基金
FSLN	Frente Sandinista de Liberación Nacional	サンディニスタ民族解放戦線
GRAAN	Gobierno Regional Autónoma del Atlántico Norte	北部大西洋自治政府
IDR	Instituto de Desarrollo Agrario	農村開発庁

INAFOR	Instituto Nacional Forestal	国家林業庁
INATEC	Instituto Nacional Tecnológico	国家技術庁
INETER	Instituto Nicaragüense de Estudios Territoriales	国土調査庁
INTA	Instituto Nicaragüense de Tecnología Agropecuaria	農牧技術庁
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Agencia de Cooperación Internacional de Japón	国際協力機構
KfW	Kreditanstalt für Wiederaufbau	ドイツ復興金融公庫
M/M	Minutes of Meeting	ミニッツ、協議議事録
MAGFOR	Ministerio de Agropecuario y Forestal	農牧林業省
MARENA	Ministerio del Ambiente y los Recursos Naturales	環境資源省
MASANGNI	Semilla Verde	緑の種子（NGO）
MEM	Ministerio de Energia y Mina	エネルギー・鉱山省
MM	Man Month	人月
NGO	Non Governmental Organization	非政府組織
PDM	Matriz de Diseño del Proyecto	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PERZA	Proyecto Electrificación Rural En Zonas Aisdadas	農村孤立地域電化プロジェクト
PLC	Partido Liberal Constitucionalista	立憲自由党
PNDH	Plan Nacional de Desarrollo Humano	国家人間開発計画
PO	Plan de Operación	活動実施計画
R/D	Registro de Discusión (en el momento de la Formación del Proyecto)	討議議事録
RAAN	Región Autónoma del Atlántico Norte	北部大西洋自治区
RAAS	Región Autónoma del Atlántico Sur	南部大西洋自治区
UNA	Univesidad Nacional Agraria	国立農科大学
UNAG	Unión Nacional de Agricultores y Ganaderos	農牧畜生産者組合
URACCAN	Universidad de Regiones Autónomas de la Costa Caribe Nicaragüense	カリブ海沿岸自治大学（URACCAN大学）
YATAMA	Yapti Tasba Masraka Nanih Aslatakanka（ミスキート語）	母なる大地の子（ミスキート族を中心とした先住民政治結社）

第 1 部

終了時評価調査報告書（当初協力期間）

目 次

写 真

終了時評価調査結果要約表（当初協力期間）（和文・英文）

第1章 プロジェクトの概要	1
1 - 1 プロジェクト名称	1
1 - 2 プロジェクト期間	1
1 - 3 プロジェクト対象国、対象地域	1
1 - 4 受益対象者	1
1 - 5 プロジェクト実施機関	1
1 - 6 プロジェクト概要	1
1 - 6 - 1 上位目標	2
1 - 6 - 2 プロジェクト目標	2
1 - 6 - 3 アウトプット	2
1 - 6 - 4 本プロジェクトの構成	2
第2章 終了時評価概要	3
2 - 1 終了時評価の目的	3
2 - 2 終了時評価の方法	3
2 - 3 合同評価委員会の構成	3
2 - 4 評価日程	4
2 - 5 評価のデザイン	4
第3章 プロジェクトの実績	6
3 - 1 投入実績	6
3 - 1 - 1 日本側投入	6
3 - 1 - 2 ニカラグア側投入	7
3 - 2 活動実績	7
3 - 3 アウトプットの達成状況	8
3 - 4 プロジェクト目標の達成状況	10
3 - 5 実施プロセスにおける特記事項	11
3 - 5 - 1 農村開発委員会（CDR）の設立と活動	11
3 - 5 - 2 普及アプローチの変遷	11
3 - 5 - 3 C/P 要員を核としたプロジェクト実施チームの形成	11
3 - 5 - 4 第2グループ農民プロモーター研修にみる地区別アプローチ	11
3 - 6 効果発現に貢献した要因	12
3 - 6 - 1 一貫した C/P 要員の配属	12
3 - 6 - 2 土壌条件と適正技術の導入	12

3 - 7	問題点及び問題を惹起した要因	12
3 - 7 - 1	外部条件の影響	12
3 - 7 - 2	第2グループの農民プロモーター研修の遅延	13
第4章	評価5項目による評価結果	14
4 - 1	妥当性	14
4 - 2	有効性	14
4 - 3	効率性	15
4 - 4	インパクト	15
4 - 5	持続性	16
4 - 5 - 1	政策面	16
4 - 5 - 2	組織・財政面	16
4 - 5 - 3	技術面	16
第5章	結 論	17
第6章	提言と教訓	18
6 - 1	提 言	18
6 - 2	教 訓	19
第7章	団長所感	20
7 - 1	プロジェクト実施期間の延長	20
7 - 2	CDRの活動定着	20
7 - 3	住民の主体性の形成	20
7 - 4	住民ニーズへの適切な対応	20
7 - 5	プロジェクトの成果の拡大	21
付属資料		
1.	調査日程表	25
2.	主要面談者リスト	26
3.	ミニッツ(署名版 西文)	28
4.	合同評価報告書(署名版 西文)	36
5.	PDM ver.2(和文)	81
6.	PDM ver.3(和文)	83
7.	投入実績	85
8.	活動計画の変遷	94

写 真



URACCAN 試験展示圃場



BICU-CIUM 試験展示圃場



Kuakuil



Iltara



Butku



Tuapi



Betania (1)



Betania (2)



Sukatpin



Trumlaya



Sumubila (1)



Sumubila (2)



プエルトカベサス市役所



MASANGNI



COMAL



Plan Nicaragua



AIKUKI WAL



合同評価委員会

終了時評価調査結果要約表（当初協力期間）

1. 案件の概要	
国名：ニカラグア共和国	案件名：プエルトカベサス先住民コミュニティ生計向上計画
分野：農業セクター	援助形態：技術協力
所轄部署：農村開発部畑作地帯第一課	協力金額：1億9,000万円（2010年度末実績）
協力期間	(R/D)：2008年02月27日～2012年02月26日
	(延長)：
	(F/U)：
	(E/N)（無償）
	先方関係機関：プエルトカベサス市役所等
	日本側協力機関：なし
	他の関連協力：なし
1-1 協力の背景と概要	
<p>ニカラグア共和国（以下、「ニカラグア」と記す）は、国土面積12万9,000k㎡、人口514万人（2005年国勢調査）、1人当たりGDPは1,096USD（2009年ニカラグア中央銀行速報）である。1979年から10年以上続いた内戦による国内経済の疲弊の影響により、現在はハイチ共和国に次ぐ中南米最貧国となっている。なかでも、北部大西洋自治区（RAAN）を含む大西洋側地方は、貧困人口が76.7%と国内でも最も貧困度が高く、貧困対策が大きな課題となっている。RAANは国土面積の24.6%を占め、主にミスキート族などの先住民族の多くが居住している地域であり、ニカラグア政府やドナーによる開発支援も少ない。</p> <p>住民の大部分は粗放な焼畑農業を主とする農業や林業、また沿岸地域では主に漁業に従事している。農業については肥沃な土壌に限られており、労働効率の悪い遠距離耕作を営んでいる。総じて酸性で有機物の乏しい土壌は肥沃度が低く、また未熟な耕作技術により作物の病害虫の被害も多いが、技術指導による農業・農村開発分野における支援はほとんど対策がとられていない。このような状況から、しばしば自家用の穀物さえ不足し、流通には若干の余剰分をまわす程度であり、プエルトカベサス市内の市場には換金作物の多くが首都から運ばれており、農民は市場を現金収入の場として十分に活用できていないなど、種々の問題を抱えている。</p> <p>これらの課題に対し、プエルトカベサス市等の自治体が住民支援の役割を担っているが、人材や技術不足のために十分な活動ができていない。現地NGOや他ドナーによる協力は小規模に行われているが、小規模融資や保健医療分野等の社会開発分野が主な協力分野となっており、農業従事者が大部分を占める地域にもかかわらず農業技術支援は行われていない。ニカラグア政府の農牧業の研究・普及機関である農牧技術庁（INTA）の出先機関は、プエルトカベサス市には存在せず、中央政府の技術普及サービスがいき届かない現状にあり、地元のリソースを生かした普及体制を整えることが必要である。</p> <p>このような背景の下、同地域における先住民コミュニティの貧困削減のために、農業・農村開発を主とする技術的な指導及び組織強化を通じた住民の生産と収入の改善支援が日本に要請された。本プエルトカベサス先住民コミュニティ生計向上計画は、プエルトカベサス市役所をカウンターパート（C/P）機関とし、同市役所、大学2校〔モラボ・インターユニバーシティセンター・ブルーフィールズ・インディアン・カリビアン大学（BICU-CIUM）、カリブ海沿岸自治</p>	

大学（URACCAN）] 及び NGO（PANA PANA）より構成された農村開発委員会（CDR）を実施機関として、2008年2月から4年間の予定で実施されてきた。

1-2 協力内容

(1) 上位目標

- 1) モデル農民グループで確立された農業の普及により、プエルトカベサス市全体において、農民の生計（生活水準）が向上する。
- 2) プエルトカベサス市以外の先住民自治地域へ、農業普及活動が波及する。

(2) プロジェクト目標

モデル農民グループの生計（生活水準）が向上する。

(3) 成果

- 1) 農村開発委員会が規約と役割分担に基づき、機能している。
- 2) モデル農民グループに普及された技術が導入されている。
- 3) 農村開発委員会の持続的な農業普及活動の実施体制が確立される。

(4) 投入（評価時点）

【日本側】

長期専門家派遣	延べ3名	機材供与	約360万円（4万1,000 USD）
短期専門家派遣	なし	ローカルコスト負担	約5,120万円（56万9,000 USD）
研修員受入	6名		

【相手国側】

C/P 配置	6名	ローカルコスト負担	約5万8,000 USD
土地・施設提供		事務所・展示圃場など	

2. 評価調査団の概要

調査者	（担当分野：氏名 職位） 総括：丸岡 秀行 JICA 農村開発部審議役兼次長 農業開発政策／環境保全型農業：城殿 博 JICA 国際協力専門員 評価分析：寺尾 豊光 水産エンジニアリング株式会社 通訳：高濱 さえ子 （財）日本国際協力センター	
調査期間	2011年9月1～24日	評価種類：終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) アウトプットの達成状況

1) アウトプット1：

2011年7月27日にプエルトカベサス市議会において CDR の内部規定及び戦略計画が承認され、CDR は常設化されるに至った。しかしながら、コミュニティに直結した組織としての CDR の機能が十分に発揮されるには、コミュニティの農業支援に向けた各構成機関の役割分担の明確化など、なお準備のプロセスが残っている。現在準備中の持続的農業普及計画により、自治体、教育機関及び NGO の特徴を生かした役割分担が明確にされ、これに沿って、終了時まで各構成機関がコスト負担を含み役割を果たすようになることがアウトプット1の達成のための条件となる。

2) アウトプット 2 :

現在第 1 グループのモデル農民に対して巡回指導が行われている。プロモーターの畑や展示圃場を利用して、必要な農業技術の指導が行われるとともに、農民が直面する農業生産に係る問題や制約条件がモニタリングされているが、どの程度のモデル農民が自分の畑や家庭で、指導された農業技術や生活改善の学習内容を実践しているかを示す、まとまったデータは存在しない。第 2 グループのモデル農民については、まだグループが存在しないので、巡回指導が行われる段階に到達していない。第 2 グループが大半を占めることから、指標の一部は達成が困難と考えざるを得ない。

3) アウトプット 3 :

CDR を構成する 4 機関の支出合計をみると当初予算の約 7 割が執行できている。また CDR が常設委員会となり内部規定が施行されたことで、委員会として予算確保を見通すことも可能となった。そのような状況から、CDR の構成機関が 2012 年度の活動予算を確保できるかがアウトプット 3 の達成の条件となる。

(2) プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標が達成される見込みは、6 カ月後のプロジェクト終了時点においても薄い。これは、モデル農民の大半を担当する第 2 グループの農民プロモーターが、仮に研修半ばで技術指導を始めたとしても、主な作物の植え付け時期を既に過ぎていたため、残余期間ではその効果は限定されと考えざるを得ないためである。このような状況にあっては、プロジェクト終了時までには、主要作物の収量増加や技術・技法の取得が指標で期待しているような程度や範囲で生じるとは見込めない。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性：高い

ニカラグアの「国家人間開発計画 (PNDH)」によれば、本プロジェクトが対象とする RAAN は国家開発の重点地域のひとつである。さらに、中央政府が策定した「カリブ沿岸開発計画」(2009~2012) では 12 分野の重点目標のひとつに「先住民地域や極貧村落の 1 万世帯に生産能力を付与する」ことを掲げている。プロジェクト対象地域が所在するプエルトカベサス市の「開発戦略計画 2003~2012」でも農牧生産の技術開発や支援プログラムの実施が必要とされている。本プロジェクトは、以上のカリブ海沿岸地域への支援に重点を置く国家政策と対象地域の自治体の開発戦略の実施に貢献する。

対象の 3 地区はいずれも農林業または零細漁業に生計を依存している。肥沃な土地が限られていることに加え、これまで開発援助がほとんど実施されていない地域であるため、本プロジェクトが行う農業普及は裨益対象グループのニーズを満たすものとなる。

日本の対ニカラグア事業展開計画 (2010 年 8 月) が定める「農村地域貧困削減支援プログラム」の下において、2011 年現在、本プロジェクトを含み計 6 件の各種援助スキームによる事業が実施中である。このプログラムの目標 (貧困削減、農村地域の生活水準向上、所得向上・雇用創出、地場産業育成) のうち、本プロジェクトの協力内容は 3 分野に合致し、このプログラムの実施によく貢献する。

(2) 有効性：中程度

外部要因の影響を受けた結果、第 2 グループの農民プロモーターの研修に大幅な遅れが生じており、雨期との兼ね合いもあって、プロジェクト終了時までにはモデル農民にまで技術指導の手が伸びることは難しい状況にある。第 2 グループのモデル農民が全体の大半を占めていることから、今後 6 カ月のうちにプロジェクト目標が達成される見込みは薄い。

このため、事情のいかんを問わず、本プロジェクトの有効性は高いと評価できない。

一方、先行した第 1 グループの農民プロモーターが所在するコミュニティでは、時を経るにつれ、プロモーター及びモデル農民が員数の増減が生じてはいるが、農民プロモーター自身の技術定着やモデル農民への普及は確実に進んでおり、特に Tasba Pri 地区のコミュニティでは、プロジェクトの成果を多くみることができる。ひとつには堆肥の生産による肥料の確保とその施肥による収量の安定確保や増加、またトマトやピーマン等の野菜を中心とした新規作物の導入がある。水撃あるいは手押しポンプなど地元で調達可能な資材で製作できる機材の導入により、従来は雨期に限定されていた作付けパターンの打開に見通しが立ちつつあることも重要である。以上は、第 2 グループのモデル農民への普及が可能となることで、本プロジェクトの有効性が格段と増すことを示唆する。

(3) 効率性：中程度

特に 2010 年 1 月以前の前半期間では、安全の確保を損ないかねない状況があった。その結果、展示圃場が Bilwi 近郊の 1 カ所に変更されるなど、本プロジェクトの活動の地理的範囲が大幅に縮小されることとなった。また、当初は普及員を主体とした普及アプローチをめざしたが、2010 年 1 月の PDM (ver.1) の導入に伴い、プロジェクト実施チームを主体とした普及アプローチに変更された。この変更により、「普及計画」の作成など、中断された活動が生じた。2010 年前半はコミュニティの圃場が撤収されていたため、第 2 グループの農民プロモーターの研修開始が遅れた。これにより、雨期との兼ね合いもあって、アウトプット 2 の達成が終了時までに見込めないこととなった。以上のなかで、アウトプット 2 の未達成は、本プロジェクトの効率性を低めた大きな要因となっている。

(4) インパクト：中程度（予想）

1 番目の上位目標の達成を可能とするには、プロジェクト目標の達成を通じて、CDR がプエルトカベサスの農業普及活動の実施・調整機関として機能することが前提となる。なお、対象コミュニティ以外の場所に本プロジェクトの効果が及んでいる事例として、隣の自治体である Waspam に居住する普及員が、プロジェクトの研修を受講した例がある。研修の成果を活用した普及を行っている可能性が高い。これは部分的ながら、2 番目の上位目標の発現を示唆する状況といえる。

(5) 持続性：中程度（予想）

1) 政策面

プロジェクト対象地域が位置する RAAN は、「国家人間開発計画 (PNDH)」及び「カリブ沿岸開発計画」において開発優先地域のひとつに挙げられている。セクター別には、住民が生計を依存する農業セクターに重点が置かれている。農牧林業省 (MAGFOR) による”Hambre Cero”計画や農林開発庁 (IDR) によるマイクロ・クレジットなど、農業セクターを対象とする個別の政府プロジェクトが実施されてきた。政府の RAAN に対する支援政策は今後も継続すると判断される。プエルトカベサス市の「開発戦略計画 2003～2012」では農業生産の技術開発に重点を置いている。2009 年 2 月には市の天然資源環境部に農業生産を担当する部署が新設されるなど、農業セクターへの支援体制は強化されつつある。

2) 組織・財政面

プロジェクト便益の再生産を担うこととなる CDR は、常設の委員会として市議会の承認を受けた。また、2012 年から 2017 年を実施期間とする CDR 戦略計画の承認も得られた。ただし、CDR の機能が十分に発揮されるには、現在準備中の持続的農業普及計画に

より、自治体、教育機関及び NGO の特徴を生かした役割分担が明確にされ、これに沿って各構成機関が役割を果たすようになることが求められる。

3) 技術面

本プロジェクトの研修や圃場での指導により移転された技術は、堆肥づくりや水撃ポンプの製作のように、地元で入手可能な資材・資源により対応可能なものが多い。また、農民間普及を可能とするために、栽培技術も低投入で簡易な内容のものが選定されている。第 1 グループの農民プロモーターには、移転技術が既に定着した者も見受けられる。巡回指導を維持することにより、技術面の持続性は確保できると考えられる。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 実施プロセスに関すること

土壌条件と適正技術の導入：プロジェクトが対象とする 3 地区のうち、普及活動が最も進んでいるのは Tasba Pri 地区である。同地区は土壌が農業に適しており、地区内における農作物の育ちも比較的良好である。これが他の 2 地域よりも活動を容易にした。

他方、土壌がやせており農業生産に適さない土地が多い Llano 地区においては、堆肥の導入などにより、やせた土地でも実施可能な農業手法の普及がめざされた。その結果、このような条件下でも、多様な作物の栽培・収穫が可能なが試験的に示された。Llano 地区では、化学肥料の使用に文化的に消極的な考えが一般的といわれる。プロジェクトの導入した肥料はコミュニティにある自然の資源を活用してつくるのが可能なことから、農民の関心を得ることができた。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 実施プロセスに関すること

<外部条件の影響>

プロジェクト開始直前の 2007 年 9 月に RAAN 北部を通過したハリケーン・フェリックスは Llano Norte 地区及び他の対象地区において、住宅や果樹の倒壊など、甚大な経済的被害をコミュニティに与えた。また、プエルトカバサスの社会情勢が安定しない期間が続いており、2008 年 4 月の Bilwi の暴動に伴う市役所襲撃、また 2009 年 4 月の武装強盗と、プロジェクト活動の実施に直接影響を与えた事件も発生した。以降も 2009 年 11 月の市内暴動、2010 年 4 月の幹線道路封鎖、6 月の空港封鎖及び Wana 川渡しの封鎖、2011 年 3 月の燃料値上げや土地問題の抗議デモ、9 月の URACCAN 大学の学生ストライキと、Bilwi や周辺では大小の社会的な騒擾が続いている。

このような状況のなかで、特に 2009 年 4 月の武装強盗事件の発生に際しては、事後に安全対策レベルが高められ、展示圃場が Bilwi 近郊に限定された結果、コミュニティでの活動が一時期停滞することを余儀なくされた。その後、活動の制限は緩和されたが、この事態はプロジェクト活動の進捗を遅らせる大きな要因となった。

3-5 結 論

本プロジェクトはニカラグアではまれにみるハリケーンにより対象地域が被災した直後に開始された。緊急支援や復興プロジェクトにより大量の物資援助が行われているなかで、3 年半にわたって本プロジェクトは自助努力の育成に向けた地道な支援を継続した。前半期間には治安状況の悪化に伴うさまざまな影響を直接・間接に受け、活動実施のうえで多大な障害が生じたこともある。そのような状況のなかで、開始以来 3 年目にして、現状に対応しかつ実施可能な普及体制の構築に成功し、その結果、活動が先行したコミュニティでは、普及指導の結実を示す営農状況が見受けられるに至っている。活動の遅延が災いし、期限内にはプロジェクト目標

の達成は見込めないものの、限られた条件のなかで、本プロジェクトに従事するプロジェクト実施チームと農民は、その使命を十分に果たしてきたと評価できる。

3-6 提言

(1) プロジェクトへの提言

- 1) CDR「持続的農業普及計画」及び農業普及のための「ガイドライン」の2011年12月までの策定。
- 2) 営農・生計等の状況を継続的に把握するための、過度に負担がかからない簡易な情報収集・モニタリング方法の2011年12月までの導入。
- 3) カリブ海沿岸開発庁と連携を取りつつ、大西洋岸自治区の自治体（RAAN 政府、プエルトカベサス以外の市役所等）、当該地域で活動する政府機関（MAGFOR、INTA 等）、さらにはドナー〔国連食糧農業機構（FAO）、国際農業開発基金（IFAD）、中米経済統合銀行（CABEI）、ドイツ復興金融公庫（KfW）等〕や NGO を集めた、プロジェクトの成果を公表し普及を図るためのセミナー／ワークショップの2012年1月までに開催。

(2) ニカラグア側への提言

- 1) CDR による次年度活動計画の適時・適切な策定、必要な投入の関係機関での合意、各機関で必要な予算措置。その前段として、プロジェクト実施期間中の適切な予算の確保。
- 2) MAGFOR、RAAN 政府といった機関の CDR への参加検討。
- 3) 畜産分野、販売、種子確保等の分野における支援強化。
- 4) 他ドナーの活動との連携促進。
- 5) 2大学が中心となつての、プロジェクトの経験、成果、弱点や、民族的テリトリーごとの住民の認識、あるべきアプローチの相違等に係る研究促進。

(3) 日本・ニカラグア側双方に対する提言

- 1) 自然災害や事件によりプロジェクトの活動が遅れていることにかんがみ、プロジェクト活動期間の1年間延長。
- 2) 延長の場合、PDM ver.3 への改訂。

3-7 教訓

農村での住民主体となる開発事業、特に援助慣れの傾向があるコミュニティや外的干渉に慎重なスタンスを取るコミュニティでの事業においては、生活改善アプローチのような住民の主体性を醸成するような活動をまずは行うことで、事業実施の基盤づくりが促進される。

3-8 フォローアップ状況

協力期間の1年間延長が提言されている。

終了時評価調査結果要約表（英文）（当初協力期間）

I. Outline of the Project		
Country : República de Nicaragua		Project title : Project for Improvement of Living Standard through Promotion of the Farming Production in the Indigenous / Ethnic-Communities of Puerto Cabezas
Issue/Sector : Agriculture sector		Cooperation scheme : Technical cooperation
Division in charge : Rural Development Dept. Field Crop Based Farming Area Division 1		Total cost : 190million Yen (at the end of JFY2010)
Period of Cooperation	(R/D): Feb. 2008 to Feb. 2012	Partner Country's Implementing Organization :
	(Extension): (F/U) : (E/N) (Grant Aid)	Municipality of Puerto Cabezas Supporting Organization in Japan : N.A.
Related Cooperation : N.A.		
1. Background of the Project		
<p>The Republic of Nicaragua has an area of 129,000 km² and a population of 5,140,000 inhabitants (Census 2005). Per capita GDP is U.S. \$1,096 (Report of the Central Bank of Nicaragua, 2009). Due to the internal conflicts that plunged the country into economic crisis and continued for over a decade since 1979, Nicaragua had fallen to the second poorest country in the region after Haiti. In particular, the Caribbean Coast region that includes the North Atlantic Autonomous Region (RAAN) is considered the poorest with 76.7% of its population in poverty, presenting as a national challenge that demands action for resolution. The RAAN occupies 24.6% of the country area mainly inhabited by ethnic groups such as indigenous Miskito and developmental delays due to less support both by the government and international donors.</p> <p>Most residents are devoted to extensive agriculture and forestry by means of shifting cultivation. In the coastal area, artisanal fishing is the main activity. Fertile land plots are largely limited, and agriculture is inefficient as the farming lands are far from community. In general, soil fertility is low due to lack of organic matter, and many problems of pests and diseases are caused in their crops because of undeveloped techniques, while communities not having access to technical support on issues of agriculture and rural development. This situation leaves occasional shortage of grains even for family consumption, and only a small quantity of surplus crops can be sold. Markets in the municipality of Puerto Cabezas sell agriculture products that are brought nearly 100% from the country's capital and local producers are failing to use the market as a source for cash income.</p> <p>The municipality of Puerto Cabezas is positioned to fulfill a role of assisting the communities. To counter the above problems, however, their activities are insufficient due to lack of resources and techniques. Local NGOs and donors extend support on a small scale, but they mainly assist in the field of microfinance and healthcare or other social development, having no agricultural technical assistance in spite of being an eminently agricultural region. In the municipality of Puerto Cabezas, there is no office of Instituto Nicaragüense de Tecnología Agropecuaria (INTA), a government institution responsible for agricultural research and extension, which creates a situation of not having enough agricultural support services. Thus, the municipality has needs for extension system that takes advantage</p>		

of locally available resources.

Under this circumstance, to alleviate poverty in the indigenous communities of this region, the Government of Nicaragua requested the Japanese government a technical cooperation to support the improvement of livelihood of these communities by strengthening their production system with technical guidance focused on agriculture and rural development. This "Project for Improvement of Living Standard through Promotion of the Farming Production in the Indigenous / Ethnic-Communities of Puerto Cabezas" has been implemented with a project term from February 2008 to February 2012. The counterpart institution (C/P) is the municipality of Puerto Cabezas, and the implementation agency, Comité de Desarrollo Rural (CDR), has been organized by the municipality, two universities (BICU-CIUM and URACCAN) and a local NGO (PANA PANA).

2. Project Overview

(1) Overall Goal

- 1) The standard of living of farmers in the municipality of Puerto Cabezas is improved by the agricultural extension system established through approach of the model farmer groups.
- 2) Agricultural extension activities extend to the indigenous areas outside the municipality of Puerto Cabezas.

(2) Project Purpose

The standard of living of the model farmer groups is improved.

(3) Outputs

- 1) The CDR functions according to prescribed rules and mandates of its member organizations.
- 2) The model farmer groups introduce techniques taught.
- 3) The CDR establishes a mechanism for implementing the sustainable agricultural extension.

(4) Inputs

Japanese side:

Long-term Expert: 3 persons in total	Equipment: 3.6 million Yen
Short-term Expert: None	Local cost: 51.2 million Yen
Trainees received: 6 persons in total	
	Total Cost: 1.93 million Yen

Nicaraguan side:

Counterpart: 6 persons	Local Cost: 58,000 US\$
Land and Facilities: Office and demonstration farming plots	

II. Evaluation Team

Members of Evaluation Team	Leader: Hideyuki Maruoka, Deputy Director General, Rural Development Dept., JICA Agriculture Development Policies: Hiroshi Kidono, Senior Advisor, JICA Evaluation Analysis: Toyomitsu Terao, Fisheries Engineering Co., Ltd Interpreter: Saeko Takahama, Japan International Cooperation Center
----------------------------	---

Period of Evaluation	1 Sept. 2011 to 24 Sept. 2011	Type of Evaluation : Terminal Evaluation
----------------------	-------------------------------	--

III. Results of Evaluation

1. Summary of Evaluation Results

(1) Relevance: high

According to “Plan Nacional de Desarrollo Humano de Nicaragua” (NHRP), the RAAN, targeted by the project, is one of the regions with the highest priority for the national development. Moreover, the "Development Plan for the Caribbean Coast (2009-2012)" lists, as one of 12 objectives to be met until 2012, a support “to provide production capacity to 10,000 families in communities indigenous and of extreme poverty”. The Strategic Development Plan 2003 -2012 of the municipality of Puerto Cabezas cites the need to deploy a technical assistance program for agricultural and livestock raising development. This project therefore contributes to implementation of both the central government's national policies that place priority on supporting the Caribbean coastal region and development strategies by the local municipalities.

In the whole area of the three target areas, the beneficiaries depend on agriculture, forestry or fishing as a means of livelihood. Besides the limited fertile land, very little assistance has been made for development in these areas to date, so the agricultural extension services to be developed by the project meet the needs of target groups.

Under the “program to support poverty alleviation in rural areas” that is defined in the medium term cooperation plan in Nicaragua made by the Japanese government (prepared in August 2010), as of 2011, six projects in Nicaragua including this project are ongoing, based on the various cooperation schemes. This project contributes to implementation of the program, meeting 3 areas among the program objectives (poverty reduction, improvement of living standards in rural areas, improvement in income and job creation, and promotion of local industries).

(2) Effectiveness: moderate

External conditions have caused a significant delay in training of the promoters in the second group. This delay made it difficult to extend the technical guidance to their model farmers by end of the project in consideration of timing of the rainy season. Since most of the model farmers will come from the second group, it cannot be expected to achieve the project within remaining 6 months. By this reason, it is hard to judge that the effectiveness of the project is high.

In the communities run by the promoters in the first group, though a number of promoters and model farmers raises or falls over time, the promoters have deepened settlement of the techniques and delivery of the techniques to model farmers have progressed steadily. Especially in some communities in the territory of Tasba Pri, we can see many effects of the project, which include stable or increased crop production through securing of fertilizer by producing composts and introduction of new crops of vegetables such as tomato or pepper as well. It is also important that the introduction of ram or hand pumps are opening a further step towards diversification in the cropping pattern, previously limited to the rainy season. The pump units can be driven without electricity and assembled using the materials available in local shops. These developments in the first group indicate that by making the extension services available to the second group, the effectiveness of the project would be increased significantly.

(3) Efficiency: moderate

Especially in the first half of the project term before January 2010, there existed a critical situation to jeopardize the safety of the experts and the project counterpart personnel. As a result, the geographic coverage of the project was greatly reduced, and the demonstration farms had been retreated to only one place situated in suburb of Bilwi. In the initial stage, though an extension approach is oriented to extension to be done by the extension agents, accompanied with applying of the PDM (ver.1) in January 2010, the approach was change to extension to be done by the project implementation team, which resulted in suspension of some activities that include formulation of the "extension plan". In the first half of 2010, the start of training the promoters in the second group was delayed, due to withdrawal of demonstration farms from the communities. Taking into consideration the rainy season, this caused delay in activities for output 2 that is not expected to be achieved by end of the project. Among all the causes referred here, nonattainment of output 2 is the major factor that lowers the efficiency of the project.

(4) Impacts: expected to be moderate

To facilitate the achievement of the overall goal 1), the CDR should be able to function as an implementation and coordination agency for extension services in the municipality of Puerto Cabezas first above all through achievement of the project purpose. The examples that the project has given an impact aside the target communities already may include a case of an extension agent who resides in the neighboring municipality of Waspám who has taken a training course. It is most likely that the agent uses the experience of training for his/her extension efforts. This therefore indicates a process that leads to generation of the overall goal 2).

(5) Sustainability: expected to be moderate

1) Policy Issue

The RAAN is cited as one of the prioritized regions in the NHRP and the "Development Plan for the Caribbean Coast". Especially the agricultural sector, on which the people depends their livelihood, has a higher priority. The government projects have also been implemented with focus on the agricultural sector, as shown in the program of "Hambre Cero" by MAGFOR and the micro-loans provided by Instituto de Desarrollo Agrario (IDR). It is considered that the Nicaraguan government policies to support the RAAN will continue further. In addition, the Strategic Development Plan of the municipality of Puerto Cabezas emphasizes the development of technology for agricultural production. In February 2009, the municipality thus established a technical division in charge of agricultural production in the Department of Natural Resources and Environment. In this way, the municipality is to strengthen their support for the agricultural sector.

2) Organizational and financial aspects

The CDR, which is responsible for reproducing the project benefits, has been approved by the municipality council as a permanent committee. At the same time, the strategic plan of CDR (2012 to 2017) has been approved. However, to fully deploy its required functions, it will be needed that the roles among the municipality, educational institutions and NGOs are clearly identified in order to maximize their capacities with based on the sustainable agriculture extension plan, and that they actually fulfill their due roles according to the program.

3) Technical aspect

Many of the techniques transmitted through training courses and guidance given in the demonstration farming plots, as like composting and assembling of ram pump, use materials or resources available in local. To make farmer to farmer extension easy and feasible, simple farming techniques that require less investment were selected as well. Among the promoters in the first group, there are some who have digested the introduced techniques. Sustainability of the technical aspect of the project would thus be ensured as long as maintaining on-site technical guidance.

2. Factors that promoted materialization of effects

(1) Factors concerning to the Implementation Process

Soil conditions and selection of technologies: Of the 3 territories under the project, Tasba Pri is the most advanced in the extension activities. This territory has soil suitable for agriculture and growth of crops is relatively good, which has helped out the project activities easier than in other two territories.

On the other hand, in the two territories of Llano where most of the land has unsuitable soil for agricultural production by low fertility, the project aims to disseminate agricultural techniques applicable even in low soil fertility that include introduction of organic fertilizer. It has been found in the level of experiment that such techniques can grow and harvest different types of crops in these difficult conditions. It is reported that in the territories of Llano there is a greater reluctance to use chemical fertilizer for cultural reasons, and in this sense the project has managed to grab the interest of farmers, as fertilizer introduced by the project utilizes the natural resources available in communities.

3. Factors that impeded materialization of effects

(1) Factors concerning to the Implementation Process

Outer conditions: Hurricane Felix passed north of the RAAN in September 2007 prior to the initiation of the project caused grave economic damage, such as destruction of houses and fruit trees, in the communities of North Llano and other target territories. Another factor is the precarious social order faced by the municipality of Puerto Cabezas. The incidents cited include the attack to the municipal office on public disturbance in Bilwi in May 2008 and the armed assault in April 2009, which directly impacted on the development of the project. These are followed by the other disturbance in the municipality (November 2009), blocking major roads (April 2010) and the airport and the Wawa River barge (June 2010), protests against rising fuel prices and the problem of land tenure (March 2011) and strikes by students of the University URACCAN (September 2011). In this way, so far the social unrest of various scales has continued within Bilwi and its surroundings.

As a result of the assault which occurred in April 2009 and subsequently increased security level, the demonstration farms were limited to operate in vicinity of Bilwi. This slowed for a time the community activities. Although the limitation of the activities has been eased afterwards, the incident generated the significant delay in progress of the project.

4. Conclusion

This project was begun soon after the project target areas were widely devastated by a hurricane of an extraordinary magnitude, rarely seen in Nicaragua. While other projects invested large amounts of emergency relief supplies, the project continued to provide ordinary and constant support over 3 and a half years to build self-reliant efforts in communities. In the first half of the project term, the project

was directly influenced by the worsened security that caused difficulty in implementing the activities. Even under these conditions, in the third year, the project has succeeded in building of a practicable extension system that can meet the actual situations, and as results of guidance and advice of the extension services, it is now able to see some forms of developed farming in advanced communities. Though it is difficult, because of the backwardness of the activities, to attain the project purpose by end of the project, it can be judged that the project team and farmers involved have been duly performing their role in rather limited conditions.

5. Recommendations

To Project team:

- (1) Formulation of the guideline and the sustainable agriculture extension plan by December 2011
- (2) Introduction of simplified information collection and monitoring by December 2011 for purpose of continued tracing of development in agriculture production and livelihood in the project sites
- (3) Hosting of a seminar or workshop by January 2012 for disseminating and extending outcomes of the project under participation of local governments in RAAN, government agencies that work in the region, donors and NGOs, with coordination with Secretaría de Desarrollo de la Costa Caribe.

To Nicaraguan organizations:

- (1) Timely and appropriate formulation by CDR of an action plan for the next year, together with agreement in the related organizations for necessary investing, budget allocation necessary in each organization; appropriate budget allocation for the project term as preparatory measure
- (2) Reviewing of the participation in CDR of the organizations such as Ministerio de Agropecuario y Forestal (MAGFOR) and the RAAN government
- (3) Enhanced support for livestock, marketing, seed securing and others
- (4) Promotion of coordination with activities of other donors
- (5) Research promotion to be made mainly by 2 universities with regard to experience, outcome, and defect of the project; ways of recognition of the farmers at every ethnic territory; difference of desirable approach, and others

To Both Japanese and Nicaraguan sides:

- (1) One year extension of the cooperation term considering natural disaster and incidents that impacted on the development of the project.
- (2) Revise of PDM to version 3.

6. Lessons Learned

In case of development projects with rural villagers as key actors, especially in communities where residents are accustomed to receiving donations or where they show reluctance to outsider's intervention, the first advance activities that promote the initiative in them, such as those focusing livelihood improvements, can develop a good foundation for implementing other components of the project.

7. Follow-up Actions

One year extension of the cooperation term was recommended by the Joint Evaluation Committee.

第1章 プロジェクトの概要

1 - 1 プロジェクト名称

- ・(和) プエルトカベサス先住民コミュニティ生計向上計画プロジェクト
- ・(英) Project for Improvement of Living Standard through Promotion of the Farming Production in the Indigenous / Ethnic-Communities of Puerto Cabezas

1 - 2 プロジェクト期間

2008年02月27日から2012年02月26日

1 - 3 プロジェクト対象国、対象地域

対象国：ニカラグア共和国（以下、「ニカラグア」と記す）
対象地域：プエルトカベサス市内プロジェクト3対象地域
（Llano Norte、Llano Sur、Tasba Pri）

1 - 4 受益対象者

直接裨益者：約2,500人

- ・農村開発委員会（Comité de Desarrollo Rural：CDR） C/P 6名
- ・モデル農民グループ 500人（25人×20コミュニティ）
- ・モデル農民以外の農民 約2,000人

間接裨益者：約18,500人

- ・プエルトカベサス市内プロジェクト対象3地域
Llano Norte（16コミュニティ 約7,400名）、Llano Sur（17コミュニティ 約5,300名）、
Tasba Pri（29コミュニティ 約8,300名）の住民（62コミュニティ）から直接裨益者を
除いた約18,500名
- ・NGO、大学2校関係者 約300名
PANA PANA（NGO）18名、カリブ海沿岸自治区大学（URACCAN）農学科 教授15名 職
員6名 学生120名、モラボ・インターユニバーシティセンター・ブルーフィールズ・イ
ンディアン・カリビアン大学（BICU-CIUM）農林学部 教授24名 職員2名 学生110
名

1 - 5 プロジェクト実施機関

北部大西洋自治区（RAAN）プエルトカベサス市役所、BICU 大学、URACCAN 大学、PANA PANA
（NGO）

1 - 6 プロジェクト概要

プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）（ver.2）における本プロ
ジェクトの上位目標、プロジェクト目標、アウトプットは以下に示すとおりである。

1 - 6 - 1 上位目標

(1) モデル農民グループで確立した農業の普及により、プエルトカベサス市全体において、農民の生計（生活水準）が向上する。

(2) プエルトカベサス市以外の先住民自治地域へ、農業普及活動が波及する。

1 - 6 - 2 プロジェクト目標

モデル農民グループの生計（生活水準）が向上する。

1 - 6 - 3 アウトプット

(1) 農村開発委員会が規約と役割分担に基づき機能している。

(2) モデル農民グループに普及された技術が導入されている。

(3) 農村開発委員会の持続的な農業普及活動の実施体制が確立される。

1 - 6 - 4 本プロジェクトの構成

上述のとおり、本プロジェクトにはプロジェクト目標達成のために 3 つのアウトプットが設定されている。PDM (ver.2) に基づく本プロジェクトの構成は表 1 - 1 に示すとおりである。

表 1 - 1 本プロジェクトの構成

上位目標	・ モデル農民グループで確立した農業の普及により、プエルトカベサス市全体において、農民の生計（生活水準）が向上する。 ・ プエルトカベサス市以外の先住民自治地域へ、農業普及活動が波及する。		
プロジェクト目標	モデル農民グループの生計（生活水準）が向上する。		
アウトプット	1 . 農村開発委員会が規約と役割分担に基づき機能している。	2 . モデル農民グループに普及された技術が導入されている。	3 . 農村開発委員会の持続的な農業普及活動の実施体制が確立される。

第 2 章 終了時評価概要

2 - 1 終了時評価の目的

本終了時評価は以下の目的の下に実施された。

- (1) 日本側の調査団とニカラグア側評価チームで合同評価委員会を構成し、現在までの活動内容やその成果・効果等について、計画に対する達成度及び評価 5 項目の観点から評価する。
- (2) 上記 (1) の結果を踏まえ、プロジェクト実施上の問題点や、今後のプロジェクト活動について協議し、合同評価報告書に取りまとめ、両国政府関係機関に報告・提言する。

2 - 2 終了時評価の方法

本評価調査は、「新 JICA 事業評価ガイドライン (第 1 版)」に基づき、PDM を用いた評価手法に基づいて実施した。PDM (ver.2) (付属資料 5 参照) を評価の枠組みとして適用し、ニカラグア側カウンターパート (Counterpart : C/P) 及び日本人専門家、その他関係機関に対して質問票・インタビューを通して情報収集を行うとともに、プロジェクトの事業対象地区を視察し、農民プロモーターやモデル農民グループからのヒアリングを行った。本評価調査における主なデータ収集方法及び情報源は以下のとおりである。

- ・既存資料レビュー〔ミニッツ (M/M) 討議議事録 (R/D) 事前評価報告書、中間レビュー調査報告書、業務完了報告書等〕
- ・質問票調査 (日本人専門家、C/P 機関、普及員)
- ・キーインフォーマント・インタビュー (日本人専門家、プエルトカベサス市役所、BICU 大学、URACCAN 大学、PANA PANA、普及員等)
- ・直接観察 (Tasba Pri 地区、Llano Norte 地区、Llano Sur 地区内のフィールド踏査)
- ・参加型ツールを用いたグループ・インタビュー (農民プロモーター、モデル農民グループ)

2 - 3 合同評価委員会の構成

(1) 終了時評価調査団 (日本側)

担当分野	氏名 / 所属先	期 間
総 括	丸岡 秀行 JICA 農村開発部 審議役兼次長	2011 年 9 月 12 ~ 20 日
農業開発政策 / 環境保全型農業	城殿 博 JICA 国際協力専門員	2011 年 9 月 2 ~ 20 日
評価分析	寺尾 豊光 水産エンジニアリング株式会社	同上
通 訊	高濱 さえ子 (財) 日本国際協力センター	同上

(2) ニカラグア側評価委員会

所属先	氏名・役職	期間
ブルーフィールズ・インディアン・カリビアン大学 (BICU-CIUM)	Victor Mairena Docente	2011 年 9 月 5 ~ 9、 16 ~ 20 日
カリブ海沿岸自治区大学 (URACCAN)	Abner Figeroa Docente	同上
NGO PANA PANA	Samuel Mercado Presidente de Junta Directiva	同上
プエルトカベサス市役所 Alcaldia	Ivonne Waters Directora de Cooperación Externa	同上
同上	Raynaldo Mairena Blexly Responsable de Producción	同上
MAGFOR RAAN 支所	Mojareth Alveres Facilitador Agropecuario	同上

2 - 4 評価日程

日本側終了時評価調査団の現地訪問は 2011 年 9 月 2 日から 20 日までの 19 日間である。日程の詳細は付属資料 1 を参照のこと。

2 - 5 評価のデザイン

本評価調査に先立ち評価グリッドを作成した。評価グリッドの主要な設問事項は以下のとおりである。

(1) プロジェクトの実績

プロジェクトの実績は投入、アウトプット、プロジェクト目標及び上位目標の各項目について、PDM (ver.2) にある指標を参照にその達成状況 (または達成見込み) を確認する。

(2) 実施プロセス

プロジェクトの実施プロセスは、技術移転の方法、関係者間のコミュニケーション、モニタリング等さまざまな観点に基づき、プロジェクトが適切に運営されたかどうかにつき検証するものである。さらに、実施プロセスの検証によりプロジェクトの効果発現に係る貢献要因、阻害要因の抽出を図る。

(3) 評価 5 項目に基づく評価

上記 2 つの項目における検証結果に基づき、プロジェクトは評価 5 項目の観点から検証する。評価 5 項目の各項目の定義は以下の表 2 - 1 のとおりである。

表 2 - 1 評価 5 項目の定義

評価 5 項目	JICA 事業評価ガイドラインによる定義
妥当性	プロジェクトのめざしている効果(プロジェクト目標や上位目標)が受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か、公的資金である ODA で実施する必要があるかなどといった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う視点。
有効性	プロジェクトの実施により、本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされているのか(あるいはもたらされるのか)を問う視点。
効率性	主にプロジェクトのコスト及び効果の關係に着目し、資源が有効に活用されているか(あるいはされるか)を問う視点。
インパクト	プロジェクトの実施によりもたらされる、より長期的、間接的効果や波及効果を見る視点。この際、予期しなかった正・負の効果・影響も含む。
持続性	援助が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか(あるいは持続の見込みはあるか)を問う視点。

出所：プロジェクト評価の手引き（JICA 事業評価ガイドライン）

第3章 プロジェクトの実績

3-1 投入実績

本プロジェクトの協力開始当初から 2011 年 9 月現在までの投入実績は以下のとおりである。

3-1-1 日本側投入

(1) 専門家派遣

本プロジェクト開始以降、チーフアドバイザー／普及組織／営農及び業務調整の 2 分野に係る業務を行うために、長期専門家が延べ 3 名派遣された。経過期間 3.6 年に対して、ニカラグア滞在のため投入された人月数は合計約 76 人月である。派遣期間等の詳細を付属資料 7-1 に示す。

(2) 本邦研修

本プロジェクト開始以降、プロジェクト C/P 要員 5 名と関係機関代表者 1 名が本邦研修を受講した。これらの受講者はプロジェクトに従事して以来一貫してプロジェクトにかかわっており、本邦研修で得た知識・経験を対象コミュニティ内外で伝達する立場にある。本邦研修の受講者氏名と実施概要の詳細を付属資料 7-2 に示す。

(3) 普及員及び農民プロモーター研修

普及員研修は 2008 年 11 月より開始され、2009 年 12 月に第 1 回目を終了した。10 テーマが研修され、延べ 286 名の普及員が参加した。第 2 回目は 2010 年 10 月から 2011 年 5 月の間に行われた。5 テーマが研修され、延べ 111 名の普及員が受講した（付属資料 7-3 参照）。普及員はそれぞれ政府機関、NGO または大学等に所属している。Bilwi にある URACCAN 大学や BICU 大学等において座学・実習が行われた。

対象コミュニティの農民プロモーターのための研修は 2 グループに分けて実施された。第 1 グループに対する研修は 2009 年 2～12 月の間に実施された。6 テーマの研修が実施され、対象 3 地区より延べ 260 名の農民プロモーターが参加した（付属資料 7-3 参照）。第 2 グループに対する研修は、2010 年 7 月に開始され、2011 年 12 月に終了する計画である。大きく分けると研修テーマの数は 12 課題が予定されている。2011 年 7 月までの間に、延べ 838 人が参加した。

(4) 機材供与

2011 年 9 月現在、合計約 4 万 530 USD 相当の機材が日本側より提供されている。供与先はその大半が市役所であり、一部 BICU 大学と URACCAN 大学に対して供与がなされた（コミュニティ巡回指導用のバイク等）。供与機材の内訳を付属資料 7-4 に示す。

(5) ローカルコスト費用

日本側のローカルコスト負担として、2011 年 7 月末までの間に、約 425 万コルドバ及び約 18 万 2,000 USD が支出された。合計約 56 万 9,000 USD となる。ローカルコスト費用の年度別支出金額を付属資料 7-5 に示す。

3-1-2 ニカラグア側投入

(1) C/P 要員の配属

本プロジェクトに対して、プエルトカベサス市役所から2名、BICU 大学から2名（うち1名は他のプロジェクトと兼任）、URACCAN 大学から1名、PANA PANA からは1名の合計6名のC/Pが配属されている。このうち3名はプロジェクトの協力開始当初から現在に至るまで継続してC/Pの業務に従事している。

プロジェクトの実施機関であるCDRメンバーとして4機関より10名が任命されており、うち5名はプロジェクト開始当初から現在まで委員として本プロジェクトにかかわっている。C/Pの配属状況を付属資料7-6に示す。

(2) 事務所、施設の提供

プロジェクト開始時には、プエルトカベサス市役所内に専門家やC/Pの執務スペースが設けられた。その後、2008年4月に市内で起きた暴動で市役所が襲撃対象となり、プロジェクト事務所を含む市役所施設が破壊された。そのため、2008年5月にBICU大学により提供されたBICU大学付属資料センター（BICU-CIDCA）付属施設にプロジェクト事務所を移転し、現在に至っている。

(3) ローカルコスト負担

2011年7月末までの間に、実施機関CDRの構成機関（市役所、BICU大学、URACCAN大学、PANA PANA）が負担したローカルコストは総額約5万8,000USDであった。年平均では、1万6,600USDに相当する。2011年1月から7月の期間で見ると、主な支出項目はC/Pの人件費である。実施機関のローカルコストの年度別支出金額を付属資料7-5に示す。

3-2 活動実績

プロジェクトの活動はPDM（ver.0）～PDM（ver.2）に従って実施された。現行の第2版に至るまでPDMは2回改訂されている。各PDMの適用期間を表3-1に示す。この間になされた活動計画の主な改訂には、付属資料8に示されるように、

- ① 普及の実施体制が「普及員→モデル農民グループリーダー」から「プロジェクト実施チーム→農民プロモーター」に変更されたこと、
- ② 展示圃場の位置が、対象地区ごとに選定されたコミュニティからBilwiに位置するBICU大学農林学部付属農場の1カ所に変更され、その後またコミュニティに戻ったこと等が含まれる。

表3-1 各PDMの適用期間

PDM（ver.0）の適用期間	PDM（ver.1）の適用期間	PDM（ver.2）の適用期間
2008年2月～2009年12月 （約2年間）	2010年1月～7月 （7カ月）	2010年8月～2011年9月 （13カ月）

プロジェクト実施チームは、C/P 要員、普及員及び中核的な農民プロモーターにより構成される。普及実施の主体が普及員からプロジェクト実施チームに変わったのは、少なくとも本プロジェクトにより実施可能な普及体制を特定するための試行の結果である。ただし、プロジェクト設計における普及員の位置づけが変わったことから、PDM (ver.0) にみられた普及員研修計画や普及計画の意義も変わり、なかには中断する活動も生じることとなった。このような状況の下で、コミュニティ・レベルの活動に経験が積まれる一方で、普及計画の立案のように CDR レベルで実施されるべきタスクに遅れが目立つようになった。なお、農民グループリーダーと農民プロモーターには基本的な相違はない。

展示圃場の位置が変わったのは、2009 年 4 月の武装強盗事件に示されるようなプロジェクトサイト周辺の治安状況に対処するためであった。展示圃場が Bilwi 近郊に限定されたこと等により、コミュニティでの活動は一定期間停滞することとなった。現在みられるようなコミュニティでの活発な活動が実施されるに至ったのは、PDM (ver.2) が適用された 2010 年 8 月以降である。

3 - 3 アウトプットの達成状況

(1) アウトプット 1：農村開発委員会が規約と役割分担に基づき機能している。

アウトプット 1 の指標：

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">1-1. カウンターパートが計画通りに配置される。1-2. プロジェクト運営予算が適正に確保され、執行される。1-3. 委員会及び定例運営会議が適正な頻度で開催される。 |
|--|

アウトプット 1 は、一定の条件が満たされれば、プロジェクト終了時まで達成される見込みである。指標でみる限りは、アウトプット 1 は現状でもほぼ達成されている。CDR のすべての 4 構成機関から、プロジェクト事務所に C/P が配属されている。R/D に沿ってみると、PANA PANA からの C/P が 1 名不足しているが、BICU 大学から当初計画 1 名のところ、事実上 2 名が任命されており、C/P の人数は当初計画の 6 人に達している。指標は達成済みである (指標 1-1)。

ニカラグア側が負担した運営経費について、これまでの年間予算額の平均をみると、当初計画 (年間 2 万 4,780 USD) の 66% が執行されたと示している。また、費目の内訳についてみると、実際に負担されたのは C/P の給料、家賃、電気代、清掃費 (プロジェクトと折半)、及び当初は予定されていなかった警備員雇用費、畑賃料などは負担されているが、普及活動にとって重要な C/P の日当、車両・バイクの燃油費と維持費などの負担には至っていないことが示される。指標は部分的に未達成である (指標 1-2)。

CDR の会議 (月 1 回) 及び専門家と C/P の巡回指導等に係る定例会議 (週 1 回) については、定期的実施されていることが確認された。指標は達成済みである (指標 1-3)。

2011 年 7 月 27 日にプエルトカベサス市議会において CDR の内部規定及び戦略計画が承認され、CDR は常設化されるに至った。しかしながら、以上の状況にかかわらず、聴取調査の結果では、コミュニティに直結した組織としての CDR の機能が十分に発揮されるには、コミュニティの農業支援に向けた各構成機関の役割分担の明確化など、なお準備のプロセスが残っている。現在準備中の持続的農業普及計画により、自治体、教育機関及び NGO の特徴を生かした役割分担が明確にされ、これに沿って、終了時まで各構成機関がコスト負担を含み

役割を果たすようになることがアウトプット1の達成のための条件である。

(2) アウトプット2：モデル農民グループに普及された技術が導入されている。

アウトプット2の指標：

- 2-1. 農民プロモーターが100名（20コミュニティ×5名）育成される。
- 2-2. モデル農民グループが20コミュニティで選定される（20グループ約500名）。
- 2-3. モデル農民グループの50%が農業生産性向上に関する技術や手法を実践している。
- 2-4. モデル農民グループの50%以上が生活改善研修で学んだ内容を実践している。

アウトプット2はプロジェクト終了時点においても達成される見込みは薄い。

これまで対象3地区8コミュニティに所在する農民プロモーターがまず40名（第1グループ）育成された。次いで別の15コミュニティに所在する75人（第2グループ）が2011年12月終了予定の研修を受講中である。両グループの合計は23コミュニティ、115人となる。指標は達成すると見込まれる（指標2-1）。

第1グループの農民プロモーターの下で計176名のモデル農民（裨益者）が選ばれた。第2グループの農民プロモーターは研修中のためモデル農民を選定するに至っていない。プロモーター1人が5人のモデル農民に技術指導する約束になっており、第2グループでは375人が選定されることとなるので、両グループを合わせるとモデル農民は500人を超えると見込まれる。指標は達成すると見込まれる（指標2-2）。2グループの農民プロモーターと第1グループのモデル農民のコミュニティ別人数については、付属資料4のAnexo5を参照のこと。

現在第1グループのモデル農民に対して巡回指導が行われている。プロモーターの畑や展示圃場を利用して、必要な農業技術の指導が行われるとともに、農民が直面する農業生産に係る問題や制約条件がモニタリングされているが、どの程度のモデル農民が自分の畑や家庭で、指導された農業技術や生活改善の学習内容を実践しているかを示す、まとまったデータは存在しない。第2グループのモデル農民については、まだグループが存在しないので、巡回指導が行われる段階に到達していない。第2グループが大半を占めることから、指標2-3及び2-4の達成は困難と考えざるを得ない。

アウトプット2の活動に携わるC/P要員が普及事業に注いできた努力は高く評価される。それにもかかわらず、アウトプット2の達成が困難となったのは、前述したように、外部要因によりコミュニティでの活動が停滞を余儀なくされたためであることに留意したい。なお、今後の課題として、現下の巡回指導の作業事項に、個別のモデル農民に対する技術定着を知るためのモニタリングを追加することが考えられる。その際には、作業負荷を考慮したモニタリング頻度と抽出調査が実施可能な案として検討できる。

(3) アウトプット3：農村開発委員会の持続的な農業普及活動の実施体制が確立される。

アウトプット3の指標：

- 3-1. 「持続的農業普及計画」を実施する普及員の数（50名）
- 3-2. 右普及計画を実行する予算源が確保される。

アウトプット3は、一定の条件が満たされれば、プロジェクト終了時までには達成される見

込みである。普及員研修は、プロジェクトの当初段階に実施され、42名が研修を修了した。そのうち受講完了者25名に対して修了証書が交付された。所属機関や所在地別の研修受講済みの普及員数については、付属資料4のAnexo 4を参照のこと。今後普及員研修を新たに行う予定がないので、受講済みの普及員が50人に達する見込みはない。しかしながら、プエルトカベサスのコミュニティ84カ所に対処するのに50人は不要で、20人程度で十分と考えられる。現在プロジェクトでは、C/P1人が4つのコミュニティを担当しており、その点からみても、普及員が21人いれば、84カ所に対処できることが示される（指標3-1）。

PDMの改訂を重ねるなかで、普及員の位置づけが変わり、普及実施の主体がプロジェクト実施チームになったことについては前述した。持続的農業普及計画が作成された段階では、継続的な普及体制として、普及員と農民プロモーターの組み合わせが想定されるとプロジェクトでは考えている。

CDRを構成する4機関の支出合計をみると、当初予算の約7割が執行できている。また、CDRが常設委員会となり内部規定が施行されたことで、委員会として予算確保を見通すことも可能となった。そのような状況から、CDRの構成機関が2012年度の活動予算を確保できるかがアウトプット3の達成の条件となる（指標3-2）。

3 - 4 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標：モデル農民グループの生計（生活水準）が向上する。

プロジェクト目標の指標：

2012年2月までに、

1. モデル農民グループの50%が地域に適した技術を導入することにより主要産物の単位当たり収量が向上することで余剰生産が20%増加する。
2. 「先行グループ」(第一タームで研修を受けた農民プロモーターとそのモデル農民グループ)の50%で農業生産性向上に関する技術や手法を「3収穫サイクル」以上導入している。
3. モデル農民グループの50%が生活改善研修で学んだ内容を継続的に実践している。

プロジェクト目標が達成される見込みは、6カ月後のプロジェクト終了時点においても薄い。これは指標1と3の達成が見込めないためである。すなわち、アウトプット2の指標を検討した際と同様に、モデル農民の大半を担当する第2グループの農民プロモーターが、仮に研修半ばで技術指導を始めたとしても、主な作物の植え付け時期を既に過ぎているため、残余期間ではその効果は限定されると考えざるを得ない。このような状況にあっては、プロジェクト終了時までには、主要作物の収量増加や技術・技法の取得が指標で期待しているような程度や範囲で生じるとは見込めない。

なお、指標1では余剰生産の増加を要求している。そのための比較情報として、プロジェクト開始時の状況を伝えるベースライン調査の結果が必要となるが、この調査に相当するものとして、本プロジェクトでは、農村実態調査（2008年5～6月実施）が実施されている。ただ、この調査はPDM（ver.0）に対応して実施されているため、第0版が要求する定性的な指標に相当する情報しか与えない。また一方、地方のコミュニティでは、余剰生産が直ちに生計（生活水準）の向上に結実することは一般に容易ではない。交通インフラが未整備か、あっても割高な地方では、作物の換金機会が大きく限定されるためである。以上から指標1は農村実態調査との対比が可能な記述内容に変更する必要があると考える。

指標 2 は、第 1 グループを対象としている。コミュニティによっては、2009 年にモデル農民グループが形成されているところもみられる。2010 年と 2011 年を経過期間にもつので、その分収穫サイクルの回数も多いと推定できる。また、堆肥や灌漑のように複数の作物に適用できる技術もある。相当数のモデル農民が指標にいう収穫サイクルを超えた回数を実績にもつ可能性もあると考えられる。ただ、まとまったデータが存在しないので、今のところ、以上の状況をより詳細に知る手段はない。

3 - 5 実施プロセスにおける特記事項

本プロジェクトの実施プロセスにおける特記事項は以下のとおりである。

3 - 5 - 1 農村開発委員会（CDR）の設立と活動

CDR は、技術支援、フォローアップ、モニタリング、評価、農業生産等を通じて経済開発及び人材養成に寄与する、農業セクターの計画・調整機関である（内部規定第 1 条）。当初は本プロジェクトの実施期間に限定された暫定組織であったが、2011 年 7 月に市議会の承認の下で常設化された。これに伴い委員の任務や財源を明らかにした内部規定が施行され、また 2012 年から 2017 年を実施期間とする CDR 戦略計画の承認も得られた。持続的農業普及計画に沿って、委員会を構成する 4 機関の役割が明確になることで、近い将来に委員会活動が本格的に開始される段階を迎えることとなる。

3 - 5 - 2 普及アプローチの変遷

プロジェクトの実施途上で、普及の主体が普及員から、C/P 要員を核とするプロジェクト実施チームに変わったことに示されるように、本プロジェクトでは、実施可能な普及体制の特定に向けた試行が行われた。また、レベルの異なった安全対策が手当てされるなかで、展示圃場が一時期 Bilwi 近郊に限定される状況もみられた。以上の結果、本プロジェクトが実施する普及計画の見直しが行われ、またコミュニティでの活動が一定期間停滞することともなった。

3 - 5 - 3 C/P 要員を核としたプロジェクト実施チームの形成

2010 年 8 月頃から C/P 要員を核とするプロジェクト実施チームによりコミュニティ巡回指導が本格的に実施されるに至った。巡回指導に際しては、プロモーター等の圃場を利用して、必要に応じて農業技術の指導が行われるとともに、プロモーターやモデル農民が直面する農業生産に係る問題や制約条件がモニタリングされ、報告書に取りまとめられた。専門家と C/P の毎週の会議で問題点が討議され対応策が検討された。以上は、現状に対応する普及体制が確立されつつあることを示す。また同時に、CDR に参集した 4 機関の技術要員の手により実施可能な普及体制のひとつの形が提示されたとみることでもある。

3 - 5 - 4 第 2 グループ農民プロモーター研修にみる地区別アプローチ

事前評価報告書など関連資料で示されるように、Llano 地区と Tasba Pri 地区とでは、コミュニティ住民の民族（ethnicity）が異なる。前者はミスキートが多く、後者はメスティーンが多い。Llano Norte 地区での第 2 グループ農民プロモーター研修には、収穫後処理、苗畑と栽培、栄養・家庭経済、家庭菜園などが取り上げられているのに対して、Tasba Pri では、森林再生、養鶏・

養豚、農林牧混交システムなどが含まれる。民族の違いによる農業のとらえ方、土壌条件、牧畜の有無など、地区によって異なる社会や農業の状態が研修テーマに反映されている。

3 - 6 効果発現に貢献した要因

3 - 6 - 1 一貫した C/P 要員の配属

プロジェクトには現在 4 機関より 6 名の C/P 要員が配置されているが、このうち 3 機関の 3 名はプロジェクト開始当初（2008 年 3 ～ 6 月）から継続して活動に従事している。一貫した C/P の配属は、現場レベルでの活動を展開するにあたり、専門家、農民プロモーター及びモデル農民グループとの関係構築に貢献した。また、C/P の全員が対象地域の先住民の言語であるミスキート語を第一言語または同等レベルで話すなど、コミュニティの文化的背景に習熟している。それでもミスキート社会との当初段階のコンタクトは大変困難であったといわれる。繰り返し行われたコンタクトによりコミュニケーションを深める途が開かれた。このような人材が長期間にわたり継続して活動に従事できたことは、困難な条件のなかで、本プロジェクトの実施を可能とした大きな要因のひとつとなった。

3 - 6 - 2 土壌条件と適正技術の導入

プロジェクトが対象とする 3 地区のうち、普及活動が最も進んでいるのは Tasba Pri 地区である。同地区は土壌が農業に適しており、地区内における農作物の育ちも比較的良好である。これが他の 2 地域よりも活動を容易にした。

他方、土壌がやせており農業生産に適さない土地が多い Llano 地区においては、堆肥の導入などにより、やせた土地でも実施可能な農業手法の普及がめざされた。その結果、このような条件下でも、多様な作物の栽培・収穫が可能なが試験的に示された。Llano 地区では、化学肥料の使用に対して文化的に消極的な考えが一般的といわれるが、プロジェクトの導入した肥料はコミュニティにある自然の資源を活用してつくることが可能なことから、農民の関心を得ることができた。

3 - 7 問題点及び問題を惹起した要因

3 - 7 - 1 外部条件の影響

プロジェクト開始直前の 2007 年 9 月に北部大西洋自治区（Región Autónoma del Atlántico Norte : RAAN）北部を通過したハリケーン・フェリックスは Llano Norte 地区及び他の対象地区において、住宅や果樹の倒壊など、甚大な経済的被害をコミュニティに与えた。また、プエルトカベサスの社会情勢が安定しない期間が続いており、2008 年 4 月の Bilwi の暴動に伴う市役所襲撃、また 2009 年 4 月の武装強盗と、プロジェクト活動の実施に直接影響を与えた事件も発生した。それ以降も 2009 年 11 月の市内暴動、2010 年 4 月の幹線道路封鎖、6 月の空港封鎖及び Wana 川渡しの封鎖、2011 年 3 月の燃料値上げや土地問題の抗議デモ、9 月の URACCAN 大学の学生ストライキと、Bilwi や周辺では大小の社会的な騒擾が続いている。

このような状況のなかで、特に 2009 年 4 月の武装強盗事件の発生に際しては、事後に安全対策レベルが高められ、展示圃場が Bilwi 近郊に限定された結果、コミュニティでの活動が一時期停滞することを余儀なくされた。その後、活動の制限は緩和されたが、この事態はプロジェクト活動の進捗を遅らせる大きな要因となった。

3-7-2 第2グループの農民プロモーター研修の遅延

第2グループの農民プロモーターに対する研修の遅れは、モデル農民選定の大幅な遅れとなって現れている。プロジェクト終了時まで6カ月を残す段階で、計画のモデル農民数の大半の選定が終わっていないために、プロジェクト目標の達成が困難になっている状況がみられる。そのようなことから、特に第2グループの農民プロモーター研修の遅延が全体工程の消化に大きな影響を与えたといえる。

第2グループの農民プロモーターの研修は、2010年7月から9月にかけて着手されている。第1グループの研修が2009年12月には終わっているため、第2グループの研修開始がもし2010年前半の期間中に実現していれば、そのモデル農民への技術指導は2011年の雨期に合わせて実施されていた可能性がある。これが実現できなかったのは、この2010年1～7月の間は、展示圃場がBICU大学農林学部附属農場の1カ所に限定されていたためである。すなわち、第2グループの農民プロモーター研修の遅延には、上述の外部条件が直接的に影響したとみるべきである。

第4章 評価5項目による評価結果

4 - 1 妥当性

本プロジェクトの妥当性は、以下の理由から高いと判断される。

ニカラグアの「国家人間開発計画（PNDH）」によれば、本プロジェクトが対象とする北大西洋自治区（RAAN）は国家開発の重点地域のひとつである。さらに、中央政府が策定した「カリブ沿岸開発計画」（2009～2012）では12分野の重点目標のひとつに「先住民地域や極貧村落の1万世帯に生産能力を付与する」ことを掲げている。プロジェクト対象地域が所在するプエルトカベサス市の「開発戦略計画 2003～2012」でも農牧生産の技術開発や支援プログラムの実施が必要とされている。本プロジェクトは、以上のカリブ海沿岸地域への支援に重点を置く国家政策と対象地域の自治体の開発戦略の実施に貢献する。

対象の3地区はいずれも農林業または零細漁業に生計を依存している。肥沃な土地が限られていることに加え、これまで開発援助がほとんど実施されていない地域であるため、本プロジェクトが行う農業普及は裨益対象グループのニーズを満たすものとなる。

日本の対ニカラグア事業展開計画（2010年8月）が定める「農村地域貧困削減支援プログラム」の下において、2011年現在、本プロジェクトを含み計6件の各種援助スキームによる事業が実施中である。このプログラムの目標（貧困削減、農村地域の生活水準向上、所得向上・雇用創出、地場産業育成）のうち、本プロジェクトの協力内容は3分野に合致し、このプログラムの実施によく貢献する。

4 - 2 有効性

本プロジェクトの有効性は、現状では中程度である。

外部要因の影響を受けた結果、第2グループの農民プロモーターの研修に大幅な遅れが生じており、雨期との兼ね合いもあって、プロジェクト終了時までにはモデル農民にまで技術指導の手が伸びることは難しい状況にある。第2グループのモデル農民が全体の大半を占めていることから、今後6カ月のうちにプロジェクト目標が達成される見込みは薄い。このため、事情のいかに問わず、本プロジェクトの有効性は高いと評価できない。

一方、先行した第1グループの農民プロモーターが所在するコミュニティでは、時を経るにつれ、プロモーター及びモデル農民が員数の増減が生じてはいるが、農民プロモーター自身の技術定着やモデル農民への普及は確実に進んでおり、特にTasba Pri地区のコミュニティでは、プロジェクトの成果を多くみることができる。ひとつには堆肥の生産による肥料の確保とその施肥による収量の安定確保や増加、またトマトやピーマン等の野菜を中心とした新規作物の導入がある。水撃あるいは手押しポンプなど地元で調達可能な資材で製作できる機材の導入により、従来は雨期に限定されていた作付けパターンの打開が見通しが立ちつつあることも重要である。また以上の結果として、野菜購入に要した家計費の低減及び栄養改善がなされていると推測できる。まだ少数ながら余剰作物をコミュニティ内あるいはBilwiで売る者も既に見受けられる。

他に本プロジェクトを契機として、ハリナシバチによる伝統的な養蜂が復活しつつあることも生活水準の向上に資する例として挙げることができる。また、なかには、自分で作った堆肥を販売することで現金収入を得る農民も存在する。

以上は、第2グループのモデル農民への普及が可能となることで、本プロジェクトの有効性が

格段と増すことを示唆する。

4 - 3 効率性

本プロジェクトの効率性は中程度である。

特に 2010 年 1 月以前の前半期間では、安全の確保を損ないかねない状況があった。その結果、展示圃場が Bilwi 近郊の 1 カ所に変更されるなど、本プロジェクトの活動の地理的範囲が大幅に縮小されることとなった。また、当初は普及員を主体とした普及アプローチをめざしたが、2010 年 1 月の PDM (ver.1) の導入に伴い、プロジェクト実施チームを主体とした普及アプローチに変更された。この変更により、「普及計画」の作成など、中断された活動が生じた。2010 年前半はコミュニティの圃場が撤収されていたため、第 2 グループの農民プロモーターの研修開始が遅れた。これにより、雨期との兼ね合いもあって、アウトプット 2 の達成が終了時までに見込めないこととなった。以上のなかで、アウトプット 2 の未達成は、本プロジェクトの効率性を低めた大きな要因となっている。

一方、2010 年 8 月の PDM (ver.2) 導入以降の期間では、コミュニティの展示圃場が再開され、またプロジェクト実施チームを主体とする普及体制が奏効するに至った。なお、単発的なレベルでしか、その関連情報を取りまとめることができないものの、普及活動は多様な形で結実をみせ始めている。この後半段階では、活動は順調に進捗している。ただし、第 2 グループの農民プロモーターの研修の遅れを取り戻すには至っていない。

4 - 4 インパクト

本プロジェクトのインパクトは、中程度と見込まれる。

1 番目の上位目標の達成を可能とするには、プロジェクト目標の達成を通じて、CDR がプエルトカベサスの農業普及活動の実施・調整機関として機能することが前提となる。なお、対象コミュニティ以外の場所に本プロジェクトの効果が及んでいる事例として、隣の自治体である Waspam に居住する普及員が、プロジェクトの研修を受講した例がある。研修の成果を活用した普及を行っている可能性が高い。これは部分的ながら、2 番目の上位目標の発現を示唆する状況といえる。

その他の波及効果として、以下が挙げられる。

- (1) 本邦研修を受講した C/P 要員により、生活改善分野の研修の成果が大学の講義に活用されている。本講義の前段に登場しており、独立した科目ではないが、履修時間には含まれている様子。
- (2) Llano Sur のコミュニティ Betania では、農民プロモーターのイニシアティブにより、コミュニティ全員が参加して、2011 年 9 月から、苗床を含む共同圃場の整備が始まっている。広さは 200m×240m (4.8ha) で、四周を木柵で囲み、柵外に沿って深さ 50 cm 程度の用水路の掘削がなされている。Bilwi の教会がシャベルとバケットを支援している。
- (3) Tasba Pri のコミュニティ Sumubila では、農民プロモーター 4 人により、販売を目的とした堆肥の組織的な生産が拡大されつつある。Tasba Pri は、Llano Norte や Llano Sur に比べて牧畜が盛んで、肥料の材料が入手し易い条件をもつ。

(4) 技術実践の持続性を高めるために、農耕具や苗木などの関連資材供与は避けられ、必要資材の入手への自助努力が求められた。このアプローチが徹底された結果、特に先住民地区で多くみられた物資援助への過度の依存から脱却し、主体性をもって営農する者が現れてきたといわれる。

4 - 5 持続性

本プロジェクトの持続性は、現状においては中程度と見込まれる。

4 - 5 - 1 政策面

プロジェクト対象地域が位置する RAAN は、「国家人間開発計画 (PNDH)」及び「カリブ沿岸開発計画」において開発優先地域のひとつに挙げられている。セクター別には、住民が生計を依存する農業セクターに重点が置かれている。農牧林業省 (Ministerio de Agropecuario y Forestal : MAGFOR) による「“Hambre Cero” 計画」や農村開発庁 (Instituto de Desarrollo Agrario : IDR) によるマイクロ・クレジットなど、農業セクターを対象とする個別の政府プロジェクトが実施されてきた。政府の RAAN に対する支援政策は今後も継続すると判断される。プエルトカベサス市の「開発戦略計画 2003～2012」では農業生産の技術開発に重点が置かれている。2009年2月には市の天然資源環境部に農業生産を担当する部署が新設されるなど、農業セクターへの支援体制は強化されつつある。

4 - 5 - 2 組織・財政面

プロジェクト便益の再生産を担うこととなる CDR は、常設の委員会として市議会の承認を受けた。また、2012年から2017年を実施期間とする CDR 戦略計画の承認も得られた。ただし、CDR の機能が十分に発揮されるには、現在準備中の持続的農業普及計画により、自治体、教育機関及び NGO の特徴を生かした役割分担が明確にされ、これに沿って各構成機関が役割を果たすようになることが求められる。

CDR を構成する 4 機関負担分のプロジェクト運営予算は、毎年で平均で 66% が執行された。C/P の人件費がこの支出の大半を占めている。これに加えて、現在 JICA が負担している車両の燃油費や維持費など、コミュニティでの活動を維持するための予算が将来増えることになる。コミュニティによっては、資金をもつ NGO との連携が可能な場合もあり、燃油費の負担を依存することもできるが、そのような例は限られる。新たに持続可能な財源を見いだすことが必要である。

4 - 5 - 3 技術面

本プロジェクトの研修や圃場での指導により移転された技術は、堆肥づくりや水撃ポンプの製作のように、地元で入手可能な資材・資源により対応可能なものが多い。また、農民間普及を可能とするために、栽培技術も低投入で簡易な内容のものが選定されている。第 1 グループの農民プロモーターには、移転技術が既に定着した者も見受けられる。巡回指導を維持することにより、技術面の持続性は確保できると考えられる。

第5章 結 論

本プロジェクトは、ニカラグアではまれにみるハリケーンにより対象地域が被災した直後に開始された。緊急支援や復興プロジェクトにより大量の物資援助が行われているなかで、3年と半年にわたって本プロジェクトは自助努力の育成に向けた地道な支援を継続した。前半期間には治安状況の悪化に伴うさまざまな影響を直接・間接に受け、活動実施のうえで多大な障害が生じたこともある。そのような状況のなかで、開始以来3年目にして、現状に対応しかつ実施可能な普及体制の構築に成功し、その結果、活動が先行したコミュニティでは、普及指導の結実を示す営農状況が見受けられるに至っている。活動の遅延が災いし、期限内にはプロジェクト目標の達成は見込めないものの、限られた条件のなかで、本プロジェクトに従事するプロジェクト実施チームと農民は、その使命を十分に果たしてきたと評価できる。

第6章 提言と教訓

6 - 1 提言

今後は、プエルトカベサス市における取り組みの強化・定着を図るとともに、他の大西洋岸自治区〔RAAN、南部大西洋自治区（Región Autónoma del Atlántico Sur：RAAS）〕への面的拡大をめざした活動を強化すべきである。具体的には以下のとおり。

（1）プロジェクトに対する提言

- 1）CDR による調整の下で、プエルトカベサス市における統一的な農村開発アプローチの下で関係機関が連携しつつ活動を実施するには、既に承認された「戦略計画」「内規」の下に、各機関の役割分担や予算、普及員や農民プロモーターの活動内容、地理的展開、活動スケジュール等を盛り込んだ「持続的農業普及計画」、農村開発にあたっての具体的な手順を定めた「ガイドライン」が作成されることが不可欠。双方とも、2011年12月までには完成させるべき。
- 2）現状では、農家レベルあるいはコミュニティ・レベルでの活動を定量的に把握することが十分できておらず、事業成果の確認、活動内容への反映が円滑になされていない。このため、普及員の活動の一環として、対象コミュニティでの社会・経済的ベースライン調査を農民参加の下で実施するとともに、その後も作付面積や収量、販売量・価格、さらには所有資産等について継続的に把握できるような、過度に負担がかからない簡易な方法を導入する必要がある。2011年12月までには、一連の活動内容が制度化され、上述のガイドラインに反映されるべき。
- 3）本プロジェクトの成果をプエルトカベサス市以外の自治区にも拡大させていく重要な一歩とするため、JICA ニカラグア事務所の支援を受け、カリブ海沿岸開発庁と連携を取りつつ、大西洋岸自治区の自治体（RAAN 政府、RAAS 政府に加え市レベルを含む）当該地域で活動する政府機関〔MAGFOR、農牧技術庁（Instituto Nicaragüense de Tecnología Agropecuaria：INTA）IDR、国家技術庁（Instituto Nacional Tecnológico：INATEC）等〕、さらにはドナー〔国際連合食糧農業機構（FAO）、国際農業開発基金（IFAD）、中米経済統合銀行（CABEI）、ドイツ復興金融公庫（KfW）等〕や NGO を集め、プロジェクトの成果を公表し普及を図るためのセミナー／ワークショップを2012年1月までに開催すべき。

（2）ニカラグア側に対する提言

- 1）プロジェクト終了後、プエルトカベサス市が中心となり CDR がプロジェクトの活動を継続していくためには、CDR が次年度の活動計画を適時・適切に策定し、必要な投入を関係機関で合意し、各機関で必要な予算措置を講じることが必要となる。この観点からは、プロジェクト実施期間中から、将来のプロジェクト終了後の活動を見据え、適切な予算を確保することが望まれる。
- 2）プエルトカベサス市の農村開発活動の持続性を増すためには、農村地域で活動する、あるいは活動に関係する主要機関とより連携する必要がある、この観点からは MAGFOR、RAAN 政府といった機関の CDR への参加も検討すべき。
- 3）現在の活動の中心は農業であるが、活動を多角化しリスクを軽減するとともに統合的な

営農活動ができるようになるための畜産分野での活動、自給自足を超えた生計向上活動に寄与するための収穫後処理、輸送、市場といった販売に係る活動、加えて、種子の確保に向けての収穫後種子保存、種苗交換等の活動を強化する必要がある。

- 4) 大西洋岸自治区では、FAO が MAGFOR とプロモーター育成の取り組みを行うほか、IFAD・CABEI、KfW も事業を開始する見込みであり、本プロジェクトの事業効果を定着させ、大西洋岸自治区で拡大させていくためには、このような他ドナーの活動との連携を促進し、各ドナーによる事業の中に本プロジェクトの成果を含めるようにすべき。
- 5) 本プロジェクトの経験、成果、弱点、さらには民族的テリトリーごとの住民の認識、あるべきアプローチの相違等について、2つの大学が中心となり研究として取りまとめ、大西洋沿岸自治区における今後の活動への基礎とすべき。

(3) 日本・ニカラグア側双方に対する提言

- 1) 自然災害や事件によりプロジェクトの活動が遅れていることにかんがみ、今後策定予定の持続的農業普及計画やガイドラインにのっとった取り組みを実際に行い、活動を定着させ、生計・生活水準向上を実現するためには、ニカラグア側に対するプロジェクトの更なる支援が必要である。また、上述の畜産、販売、種子といった分野での活動、さらには他のドナーとの連携促進に係る活動も強化する必要がある。このような状況にかんがみ、プロジェクト活動期間を1年間延長すべき。
- 2) 延長を行う場合のプロジェクトの活動内容については、付属資料6・PDM ver.3(案)にのっとるべき。

6 - 2 教 訓

- (1) 農村での住民主体となる開発事業、特に援助慣れの傾向があるコミュニティや外的干渉に慎重なスタンスを取るコミュニティでの事業においては、生活改善アプローチのような住民の主体性を醸成するような活動をまずは行うことで、事業実施の基盤づくりが促進される。

第7章 団長所感

7 - 1 プロジェクト実施期間の延長

本事業は、事業開始前のハリケーンや、事業開始後の騒乱・事件等によりプロジェクトの前半においては計画どおりの進展がみられなかったものの、特に中間レビュー以降はおおむね順調に活動が進捗してきている。

この観点からは、ようやく成果が出始めた段階であり、現在の活動をニカラグア側にも定着させ、プロジェクト終了後の持続、拡大を確保するためには、プロジェクト期間の延長により、CDRの強化とコミュニティ・レベルでの活動双方において現在の取り組みを継続することが適当であると判断された。

7 - 2 CDRの活動定着

本プロジェクトの終了後、その成果が持続あるいは拡大していくためには、必要な普及員の投入や活動予算が確保されることが不可欠である。この観点からは、プエルトカベサス市における普及活動の調整機関としてCDRが果たす役割が極めて重要であり、CDRが参加機関の調整を行うことで、普及員や予算を確保し、地理的展開において重複を避けシナジー効果を高めることが不可欠である。

他方、農民への支援においては、多分に政治的な意味をもった物資供与型の支援も多くあるが、このような支援は災害後等の一時的な貧困層への緊急策としては重要であるものの、農民の援助への依存を強め、本プロジェクトでめざす農民の自立発展を阻害するような側面もある。このため、同じ地域で活動する機関が、政府機関、地方自治体、NGO等を含め、あくまでも住民の主体性に基づき自立をめざすという同じ方針の下で活動を行う意義は極めて大きい。

これらの観点からは、CDRの定着なくして本プロジェクト後の持続性はないといってもよい。このため、プロジェクトにおいて、CDRの持続的農業普及計画やガイドラインの作成、さらにはこれら計画に基づいたモニタリング体制の確保等において支援することが極めて重要である。

7 - 3 住民の主体性の形成

教訓のところで触れているように、本プロジェクトで対象としているような貧困地域での開発事業、特に独特の伝統や価値観をもつ先住民族地域や、物品の供与に慣れたコミュニティ等においては、生活改善アプローチなどを用い、生産性向上等に係る技術移転により短期的な成果を示しつつも、対象農民やコミュニティの主体性を醸成し、開発に係る認識を変えるような活動をまずは行うことが極めて重要である。

ニカラグアでは、このような基礎づくりを行う技術協力として、「農村開発のためのコミュニティ強化計画」も行われているが、このような取り組みが着実に草の根レベルで浸透していることが実感され、地道ではあってもこのような取り組みを継続することで、将来的に非常に大きなインパクトを生む可能性があると考えられる。

7 - 4 住民ニーズへの適切な対応

今般訪問したコミュニティの多くでは、ミーティング等において女性を含めて活発な発言がみられ、また自分自身で取り組む自信がついてきたとの発言も多かった。そのうえで、次の段階に

向けての支援を求める声も多数あり、住民のモチベーションを維持し、さらにイニシアティブを醸成するためには、プロジェクトあるいは他の普及主体からの適時・適切な支援が必要である。具体的には、畜産分野での支援、市場や輸送など余剰生産物の販売に関する支援、種子に関する支援などへの期待が各地で聞かれた。

7 - 5 プロジェクトの成果の拡大

プエルトカベサス市の人口は約 6 万人であり、RAAN 全体でも 30 万人余りである。本事業が成功した場合には、プロジェクトで推進・普及した個々の農業技術に加え、市が中心となって CDR を形成し農村開発に取り組むとのプロセスについても、プエルトカベサス市のみにとどめるのではなく、RAAN の他市、さらには RAAS や他の地域への拡大をめざすべきである。実際、RAAN 政府、さらにはカリブ海沿岸開発庁は本プロジェクトの成果拡大に強い関心をもっており、これら機関と連携し、拡大に向けた取り組みを進めるべきである。

また、この過程では、本プロジェクトに参加している大学が、プロジェクトでの経験や成果、教訓等を取りまとめ、今後の同地域開発のための知的バックボーンとなるべきである。

さらに、他のドナーも大西洋岸自治区でさまざまな活動を実施しており、これら機関との連携を進め、これら機関の事業に本プロジェクトの成果が取り込まれるように働きかけを強めるべきである。

付 属 資 料

- 1 . 調査日程表
- 2 . 主要面談者リスト
- 3 . ミニッツ（署名版 西文）
- 4 . 合同評価報告書（署名版 西文）
- 5 . PDM ver.2（和文）
- 6 . PDM ver.3（和文）
- 7 . 投入実績
- 8 . 活動計画の変遷

1. 調査日程表

			農業開発政策／環境保全型農業、評価分析、通訳	総括
1	9月1日	木	日本発・マナグア着	
2	9月2日	金	事務所表敬 MAGFOR、UNDP(寺尾、高濱)、IICA(城殿)訪問	
3	9月3日	土	至：プエルトカベサス プロジェクト専門家との打合せ、インタビュー	
4	9月4日	日	プロジェクト専門家インタビュー	
5	9月5日	月	合同評価委員会、BICU-CIUM、市役所、URACCAN、BICU-CIUM及びURACCAN大学園場、PANA PANA訪問	
6	9月6日	火	MASANGNI、COMAL、Plan Nicaragua、AIKUKI WAL訪問	
7	9月7日	水	コミュニティ調査：Iltara、Butku、Kuakuil、Tuapi	
8	9月8日	木	コミュニティ調査：Skatpin、Betania	
9	9月9日	金	コミュニティ調査：Sumubila、Trumlaya	
10	9月10日	土	資料整理	
11	9月11日	日	資料整理	日本発・マナグア着
12	9月12日	月	カウンターパート面談調査 合同評価委員会	事務所との打合せ MAGFOR、カリブ海沿岸開発庁、INTA、UNAG訪問
13	9月13日	火	資料整理(城殿、寺尾、高濱)、MAGFOR(城殿)	至：プエルトカベサス 市役所、URACAAN、BICU-CIUM、PANA PANA訪問(丸岡、城殿)
14	9月14日	水	資料整理(寺尾、高濱)	コミュニティ調査(丸岡、城殿)： Iltara、Butku、Kuakuil
15	9月15日	木	資料整理(寺尾、高濱)	コミュニティ調査(丸岡、城殿)： Sumubila、Trumlaya
16	9月16日	金	団内協議、専門家と打合せ、ラジオ放送局訪問(城殿)、警察表敬(丸岡)	
17	9月17日	土	合同評価委員会	
18	9月18日	日	資料整理	
19	9月19日	月	合同評価委員会	
20	9月20日	火	合同調整委員会、議事録署名 至：マナグア	
21	9月21日	水	事務所・大使館報告 資料整理	事務所、大使館報告、INIFOM訪問 至：Matagalpa Alianza関係者と意見交換
22	9月22日	木	マナグア発	Alianzaプロジェクト集落調査：Matagalpa 至：マナグア
23	9月23日	金	移動日	マナグア発
24	9月24日	土	日本着	

2. 主要面談者リスト

中央政府関係機関

氏名	職位	所属
Benjamin Dixon Cunningham	副大臣	MAGFOR
Arkángel Abáunza A.	政策技術部長	MAGFOR
Claudia Tijerino Haslam	対外協力部長	MAGFOR
Rossana E.Espinoza O.	アジア・アフリカ局長	MINREX
María Auxiliadora Vindel	同対外協力部	MINREX
Jesus Virgilio Rivera A.	プログラムオフィサー	UNDP ニカラグア事務所

プエルトカバサス市関係機関

氏名	職位	所属
政府機関		
Larry Palmer	Director Ejecutivo	RAAN 政府 Gobernador
Knight Andrews	計画部長	RAAN 政府 Gobernador
Dany Wilson	経済顧問	RAAN 政府 Gobernador
Harold Willson	事務局長	RAAN 政府 生産事務局
Isabel Morales S.	所長	MAGFOR RAAN 事務所
Iquigalla Borst McCoy	普及技師	MAGFOR RAAN 事務所
ニカラグア側合同評価委員		
Victor Mairena	教官	BICU-CIUM カバサス分校
Abner Figeroa	教官	URACCAN
Samuel Mercado	理事会代表	PANA PANA
Ivonne Waters	対外協力部長	プエルトカバサス市役所
Raynaldo Mairena Blexly	生産担当	プエルトカバサス市役所
Mojareth Alveres	普及技師	MAGFOR RAAN 支所
CRD 構成機関、NGO		
Guillermo Espinoza	市長	プエルトカバサス市役所
Nitzae Dixon	天然資源環境部長	プエルトカバサス市役所
Reynaldo Figuero	副学長 (分校の代表者)	BICU-CIUM カバサス分校
Enrique Cordón Suavez		URACCAN
Lucila Law	代表	PANA PANA
Guillermira Torres		MASANGNI
Onotrex Thomas Gerente	代表	COMAL

Willard James Green	モニタリング担当スタッフ	Plan Nicaragua
Tessia Torres Thomas	コーディネーター	Plan Nicaragua
Roger Herman Hernandez	代表	AIKUKI WAL
プロジェクト・カウンターパート		
Hemsly Francia W.	技術カウンターパート	プエルトカベサス市役所
Elga Thomas Bency	技術カウンターパート	プエルトカベサス市役所
Wilfod Devis	技術カウンターパート	BICU-CIUM カベサス分校
Zamir Mairena Bermudez	技術カウンターパート	BICU-CIUM カベサス分校
Alexa Torres Thomas	技術カウンターパート	URACCAN

日本側関係機関

氏名	職位	所属
高橋貞雄	派遣専門家	(有)アールディーアイ
福岡正行	派遣専門家	(有)アールディーアイ
柴崎二郎	大使	在ニカラグア日本大使館
鈴木利幸	参事官	在ニカラグア日本大使館
西山慎二	書記官	在ニカラグア日本大使館
石川剛生	所長	JICA ニカラグア事務所
田中健紀	企画調査員	JICA ニカラグア事務所
佐藤友昭	企画調査員	JICA ニカラグア事務所

3. ミニッツ (署名版 西文)

MINUTA DE DISCUSIONES
ENTRE
LA AGENCIA DE COOPERACIÓN INTERNACIONAL DEL JAPÓN
Y
LAS AUTORIDADES CORRESPONDIENTES DE
LA REPÚBLICA DE NICARAGUA
SOBRE
EL PROYECTO DE MEJORAMIENTO DEL NIVEL DE VIDA A TRAVÉS DEL
FORTALECIMIENTO DE LA PRODUCCIÓN AGROPECUARIA DE LAS COMUNIDADES
INDÍGENAS Y ÉTNICAS DE PUERTO CABEZAS EN NICARAGUA

La Misión de Evaluación Final (en adelante denominada "la Misión"), organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante denominada "JICA") y presidida por el Lic. Hideyuki Maruoka, visitó la República de Nicaragua del 2 al 20 de septiembre de 2011 con el propósito de realizar la evaluación final conjunta del PROYECTO DE MEJORAMIENTO DEL NIVEL DE VIDA A TRAVÉS DEL FORTALECIMIENTO DE LA PRODUCCIÓN AGROPECUARIA DE LAS COMUNIDADES INDÍGENAS Y ÉTNICAS DE PUERTO CABEZAS EN NICARAGUA (en adelante denominado "el Proyecto").

El Comité de Evaluación Conjunta, conformado por los miembros de la Misión y el Comité de Evaluación Nicaragüense, ha realizado la evaluación del Proyecto a través de estudios y entrevistas correspondientes, y elaborado el "Informe de Evaluación Final" (en adelante denominado como "Informe"). Dicho Informe fue presentado al Comité de Coordinación Conjunta del presente Proyecto.

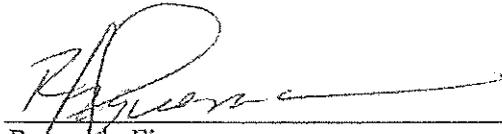
Al recibir el Informe arriba mencionado, el Comité de Coordinación Conjunta ha acordado sobre el contenido del Documento Adjunto.

Esta Minuta de Discusiones se firma en seis originales de igual valor y contenido, quedando un ejemplar bajo la custodia de cada una de las Partes firmantes.

Puerto Cabezas, 20 de septiembre de 2011

Hideyuki Maruoka
Director General Adjunto del
Departamento de Desarrollo Rural
Agencia de Cooperación Internacional del
Japón (JICA)

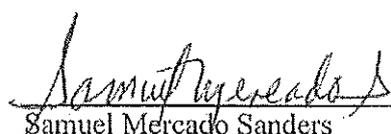
Martha Downs Anibal
Vice Alcaldesa
Municipio de Puerto Cabezas
Región Autónoma del Atlántico Norte
República de Nicaragua



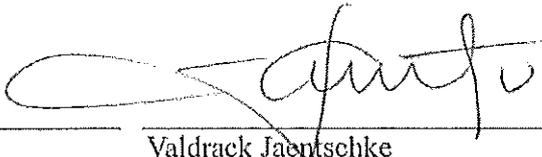
Reynaldo Figueroa
Vice Rector
Bluefields Indian & Caribbean
University-Centro Interuniversitario
Recinto Bilwi Moravo(BICU-CIUM)



Enrique Cordón
Coordinador
Ingeniería Agroforestal (IAF)
Universidad de Regiones Autónomas de la
Costa Caribe Nicaragüense(URACCAN)
Recinto Bilwi



Samuel Mercado Sanders
Presidente de Junta Directiva
Pana Pana



Valdrack Jaentschke
Viceministro Secretario de Cooperación
Externa
Ministerio de Relaciones Exteriores
(MINREX)
de la República de Nicaragua



Documento Adjunto

1. El Comité de Evaluación Conjunta conformado por la Misión de JICA y el Comité Nicaragüense ha presentado el Informe de Evaluación Final al Comité Conjunto de Coordinación del Proyecto.
2. El Comité Conjunto de Coordinación del Proyecto ha recibido el Informe de Evaluación Final presentado por el Comité de Evaluación Conjunta y ha confirmado que tomará medidas necesarias para poner en práctica las recomendaciones que se expresan a continuación de manera resumida, con el objeto de contribuir al éxito del Proyecto.

1) Recomendaciones para el Proyecto

1. Con el fin de desplegar las actividades con el enfoque de desarrollo agrícola uniforme del Municipio mediante la coordinación del Comité de Desarrollo Rural (CDR) y colaboración entre las instituciones correspondientes, es necesario elaborar los siguientes documentos según el "Plan Estratégico" y el "Reglamento Interno" del CDR: 1) "Programa de Extensión Agrícola Sostenible" que especifica las funciones de las instituciones integrantes así como el presupuesto de las mismas, contenido de las actividades de los extensionistas y promotores de productores, cobertura geográfica, el cronograma de actividades, etc., 2) "Guías" que determinan los procesos específicos al trabajar con tema del desarrollo rural. Ambos documentos se deben completar para diciembre de 2011.
2. Actualmente no se puede saber cuantitativamente las actividades a nivel de productores ni de comunidad, lo que ha de ser utilizado para confirmar los efectos del Proyecto y retroalimentar al trabajo. En ese sentido, se hace necesario realizar un estudio de línea base socioeconómico en las comunidades beneficiarias, como parte del trabajo de extensionista, pero contando con la participación de los productores, y luego de eso introducir una metodología afin sencilla y no muy recargada, con la que sí se puede saber de manera constante información como; el área cultivada, producción de cosecha, monto de venta de productos y su precio y hasta los bienes que tiene el encuestado. Estas actividades han de ser sistematizadas hasta diciembre de 2011, reflejándose en las Guías arriba mencionadas.
3. Con el fin de dar un paso importante para ampliar efectos del Proyecto hacia otros territorios afuera del Municipio de Puerto Cabezas, se requiere celebrar un seminario-taller, en el que se hacen públicos los resultados del Proyecto para facilitar su difusión con el apoyo de la oficina de JICA en Managua-Nicaragua y la colaboración con la Secretaría de Desarrollo de la Costa Caribe. Para ello se invitarán diferentes organizaciones tales como: las autoridades locales de las Regiones Autónomas del Atlántico (GRAAN -el gobierno de RAAN-, GRAAS -el gobierno de RAAS-, y autoridades municipales inclusive), las instituciones públicas gubernamentales que trabajan en el área beneficiaria (MAGFOR, INTA, IDR, INATEC, etc.), los donantes (FAO, FIDA-Fondo Internacional de Desarrollo Agrícola-), BCIE (Banco Centroamericano de Integración Económica-), KfW (Banco de Crédito para la Reconstrucción) y las ONGs.

2) Recomendaciones para la parte nicaragüense

1. Con el fin de seguir con las actividades del Proyecto teniendo como eje a la Alcaldía



luego de finalizado el mismo, es preciso que el CDR elabore oportuna y adecuadamente el plan operativo del próximo año fiscal, y las instituciones correspondientes se pongan de acuerdo de la inversión requerida y a su vez, cada una de ellas tome las medidas presupuestarias necesarias. En este sentido, con miras puestas a la situación posterior al Proyecto, se espera debida presupuestación asegurada aun en el plazo de ejecución del Proyecto.

2. Para fortalecer la sostenibilidad de actividades de desarrollo rural en el Municipio de Puerto Cabezas, se requiere buscar más colaboración con las instituciones principales que trabajan el sector rural o que tienen relación con actividades del Proyecto, por tanto se debe discutir sobre la participación de las instituciones tales como MAGFOR y GRAAN en el CDR.
3. En estos momentos son mayores las actividades de la práctica agrícola, pero se ve la necesidad de fortalecer otro tipo de actividades como: el sector pecuario para aprender el manejo estadístico de la finca así como para diversificar la producción y reducir el riesgo de la administración; la comercialización de productos tales como la postcosecha, transporte y la mercadería, que contribuyan a mejorar el nivel de vida que busque más allá de la autosuficiencia; almacenamiento de semillas cosechadas para asegurar la próxima siembra así como el intercambio de semillas.
4. Se tiene previsto hacer la FAO con MAGFOR un proyecto de formación de promotores, así como FIDA, BCIE y KfW que están considerando el inicio de sus proyectos. Con miras a asegurar los efectos del Proyecto y extenderlos en las Regiones Autónomas del Atlántico, se requiere fomentar la colaboración con otros donantes para que ellos induzcan los resultados del presente Proyecto en sus programas o proyectos.
5. Debería hacer investigación mayormente por las dos Universidades del Proyecto con temas de: la experiencia adquirida, resultados y las debilidades del Proyecto, así como el nivel de reconocimiento por parte de pobladores según territorio étnico o los enfoques a tomar del respecto, que ha de servir como una base para las futuras actividades a ser desarrolladas en las Regiones Autónomas del Atlántico.

3) Recomendaciones para ambas partes de Nicaragua y Japón

1. En consideración con el atraso en las actividades del Proyecto a causa de los desastres naturales y los incidentes provocados, se necesita más apoyo a Nicaragua por parte del Proyecto tanto para implementar tareas que van a estipular el Programa de Extensión Agrícola Sostenible y las Guías que se formulen en adelante, como para asegurar más las actividades y permitir el mejoramiento del nivel de vida y los ingresos. Además se requiere fortalecer actividades del sector pecuario, de la comercialización y de semillas aparte de las actividades colaborativas con otros donantes. Considerando en todo lo especificado, se recomienda prolongar el periodo del Proyecto por 1 año.
2. En el caso de que se decide la prolongación del Proyecto, sus actividades estarían sujetas a la PDM (ver.3).



Documento Anexo:
PDM (ver.3).

Documento de referencia:
Informe de Evaluación Conjunta del Estudio de Evaluación Final



Anexo PDM (ver.3)

Proyecto de Mejoramiento del Nivel de la Vida a través del Fortalecimiento de la Producción Agropecuaria de las Comunidades Indígenas y Étnicas de Puerto Cabezas en Nicaragua (PDM ver. 3, Septiembre 2011)

Período del Proyecto: Febrero de 2008 – Febrero de 2013 (5 años)

Área de impacto: tres territorios del Municipio de Puerto Cabezas (Llano Norte, Llano Sur, Tasba Pri),

Grupo enfocado: Pequeños productores del área de impacto del Proyecto. (500 familias)

Resumen del Proyecto	Indicadores	Medios de Verificación	Condiciones Externas
<p><i>Objetivo superior</i></p> <p>1. El nivel de vida de los productores en el Municipio de Puerto Cabezas se mejora a través de la difusión agrícola establecida por los grupos modelo.</p> <p>2. Las actividades de difusión agrícola se extienden a las áreas indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas.</p>	<p>Antes del año 2017,</p> <p>1-1 El plan del Comité de Desarrollo Rural se revisa periódicamente y se ejecuta.</p> <p>1-2 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas aplican las tecnologías introducidas por el Proyecto.</p> <p>1-3 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas mejoran la producción de los principales cultivos (arroz, frijoles, cultivos de raíces y tubérculos, etc.).</p> <p>1-4 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas introducen más de 3 nuevos productos agrícolas (diversificación de cultivos)</p> <p>1-5 En todo el municipio de Puerto Cabezas el sistema de divulgación de mejoramiento de vida funciona apropiadamente.</p> <p>2-1 Cada año, se realiza el intercambio de productores de comunidades indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas, en los 3 municipios colindantes.</p>	<p>Informe sobre la encuesta por muestreo.</p> <p>Informe anual de actividades de las universidades</p>	
<p><i>Objetivo del Proyecto</i></p> <p>Se mejora el nivel de vida de los productores de los grupos modelo.</p>	<p>Antes de febrero del 2013,</p> <p>1. El hecho de que el 50% de productores modelo introdujeran las tecnologías agrícolas apropiadas para la zona, mejora la producción de los principales cultivos.</p> <p>2. El 50% de los productores modelo introducen más de 3 nuevos productos agrícolas (diversificación de cultivos).</p> <p>3. El 50% de los productores modelo están aplicando sosteniblemente lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.</p>	<p>Informe de estudio por el Proyecto</p> <p>Informe del Proyecto</p> <p>Informe de monitoreo</p>	<p>•No hay caída repentina de precios.</p> <p>•No hay alza de precios de los equipos y materiales a suministrar o incremento de gastos operativos.</p> <p>•No hay epidemias de enfermedades contagiosas de cultivo y ganado.</p> <p>•No hay desastres naturales de gran escala.</p>
<p><i>Resultados del Proyecto</i></p> <p>1) El Comité de Desarrollo Rural ha funcionado de acuerdo a su reglamento y Plan Estratégico de CDR.</p>	<p>1-1. Número del personal contraparte</p> <p>1-2. Presupuesto proyectado y ejecutado para los gastos operativos del Proyecto.</p>	<p>Informes vinculados al Proyecto</p>	<p>No hay cambio en las políticas de la Alcaldía en cuanto a</p>

Amel

[Handwritten mark]

[Handwritten signature]

<p>2) Los productores del grupo modelo han introducido las técnicas impartidas.</p> <p>3) El Comité de Desarrollo Rural ha establecido el mecanismo para ejecutar de manera sostenible las actividades de extensión agrícola.</p>	<p>1-3. Número de celebración del Comité Conjunto de Coordinación y del Comité de Desarrollo Rural.</p> <p>2-1 Numero de promotores capacitados (100 promotores en 20 comunidades X 5 promotores.)</p> <p>2-2 Numero de los grupos modelos de productores seleccionados. (20 grupos y 500 productores.)</p> <p>2-3 El 50% del grupo de productores modelo aplican técnicas y métodos para mejorar la productividad.</p> <p>2-4 Más del 50% de productores modelo aplican lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.</p> <p>3-1 Varios entidades relacionados además de los institutos contrapartes (Alcaldía, 2 universidades, PanaPana) ejecutan el Programa de Extensión Agrícola Sostenible.</p> <p>3-2 Se asegura la financiación para ejecutar el "Programa" arriba mencionado.</p>	<p>Informe del Proyecto</p> <p>Informe de monitoreo</p> <p>Programa de extensión agrícola sostenible</p> <p>Entrevistas a los integrantes del Comité de Desarrollo rural.</p>	<p>la extensión agrícola.</p> <p>No hay cambio frecuente de extensionistas y productores del grupo modelo.</p>
<p>(Actividades del Proyecto)</p> <p>1-1. Formular Plan Estratégico del CDR para determinar el funcionamiento del Comité de Desarrollo Rural.</p> <p>1-2. Conformar un equipo técnico para la ejecución del Proyecto (Contrapartes y extensionistas).</p> <p>1-3. Elaborar un plan anual de actividades del Comité de Desarrollo Rural.</p> <p>1-4. Realizar estudios sobre la producción y analizar los resultados junto con los productores.</p> <p>1-5. Seleccionar los promotores y los grupos modelos de productores junto con los comunitarios.</p> <p>2-1 Establecer fincas demostrativas del Consejo de Desarrollo Rural.</p> <p>2-2 El equipo técnico del Proyecto ejecuta las capacitaciones para los promotores.</p> <p>2-3 Proporcionar asistencia técnica a los promotores en sus fincas por el equipo técnico (técnicos extensionistas).</p> <p>2-4 Coordinar apoyo por parte del equipo técnico a las actividades agropecuarias que los promotores realizan.</p> <p>2-5 Proporcionar asistencia técnica a los productores del grupo modelo por el equipo técnico y los promotores.</p> <p>2-6 Proporcionar asistencia técnica a los productores que</p>	<p>(Aportaciones)</p> <p>(Parte japonesa)</p> <p>1. Envío de expertos</p> <p>Expertos a largo plazo:</p> <p>Un (1) responsable de organización de extensión agrícola/manejo de finca (jefe, por 2 años)</p> <p>Un (1) responsable de Capacitación de extensión agrícola/manejo de finca (jefe, por 3 años)</p> <p>Un (1) Responsable de coordinación/capacitación (por 2 años).</p> <p>Un (1) Responsable de coordinación del Proyecto (por 3 años)</p> <p>Expertos a corto plazo: Depende de la necesidad</p> <p>2. Capacitación del personal contraparte</p> <p>3. Suministro de equipos y materiales (camioneta de tina/motocicleta/computadora)</p> <p>(Parte nicaragüense)</p> <p>1. Suministro de instalaciones y equipos (terrenos para establecer finca y aulas para capacitación)</p> <p>2. Asignación del personal contraparte</p> <p>Financiamiento de los gastos corrientes necesarios para la implementación del Proyecto.</p>		<p>La situación de la seguridad de los territorios beneficiarios del Proyecto está relativamente estable al grado de no afectar las actividades del mismo</p> <p>Los grupos de productores acordaron participar en el Proyecto de manera organizada.</p>

Handwritten signature/initials

Handwritten mark

Handwritten signature

Handwritten mark

Handwritten signature

<p>no son miembros del grupo modelo por los extensionistas junto con el grupo modelo.</p> <p>2-7 Coordinar apoyo por parte del equipo técnico para realizar reuniones de intercambio en experiencias entre productores organizados de otras comunidades y el grupo modelo.</p> <p>3-1 El Comité de Desarrollo Rural(CDR) define claramente el rol de los extensionistas y promotores dentro del "Programa de Extensión Agrícola Sostenible"</p> <p>3-2 El CDR referente al "Programa de Extensión" arriba mencionado y su correlación con los extensionistas, delibera y obtiene consenso con las instituciones, a las que pertenecen estos extensionistas.</p> <p>3-3 El CDR formula "Programa de Extensión" arriba mencionado y ejecuta a través de los promotores y extensionistas.</p> <p>3-4 Publicar materiales didácticos para la capacitación, y guías para la extensión en el Comité de Desarrollo Rural</p> <p>3-5 El CDR monitorea las actividades del "Programa de Extensión" arriba mencionado.</p> <p>3-6 El CDR realiza relaciones públicas sobre actividades del "Programa de Extensión" a las entidades relacionadas.</p>			
		<p>(Condición Previa) Se estableció el reglamento del Comité de Desarrollo Rural y los miembros distribuyen las responsabilidades</p>	

D. Valderrama

R

A

Am

P

Prof

4. 合同評価報告書（署名版 西文）

Proyecto de Mejoramiento del Nivel de Vida a través del Fortalecimiento de la Producción

Agropecuaria de las Comunidades Indígenas y Étnicas de Puerto Cabezas

en Nicaragua

Informe del Comité Conjunto de Evaluación Final

Puerto Cabezas, 19 de septiembre del 2011

Miembros del Comité de Evaluación Conjunta



Hideyuki Maruoka

Líder del Equipo

Director General Adjunto, Departamento de
Desarrollo Rural, Agencia de Cooperación
Internacional del Japón (JICA)



Ivonne Waters

Directora de Cooperación Externa
Municipio de Puerto Cabezas
Región Autónoma del Atlántico Norte
República de Nicaragua

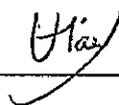


Reynaldo Mairena Blexly

Responsable de Producción,

Municipio de Puerto Cabezas

Región Autónoma del Atlántico Norte



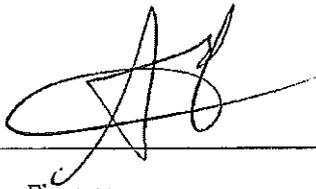
Victor Mairena Lau

Docente

Bluefields Indian & Caribbean University-

Centro Interuniversitario

Recinto Bilwi Moravo (BICU-CIUM)

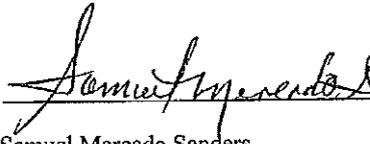


Abner Figueroa

Docente

Universidad de Regiones Autónomas de la
Costa Caribe Nicaragüense (URACCAN)

Recinto Bilwi



Samuel Mercado Sanders

Presidente de Junta Directiva

Pana Pana



Mojareth Álvarez

Facilitador Agropecuario, MAGFOR-Programa

Productivo Alimentario, RAAN



Proyecto de Mejoramiento del Nivel de Vida

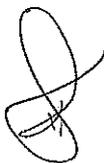
a través del

Fortalecimiento de la Producción Agropecuaria de las Comunidades Indígenas y Étnicas

de Puerto Cabezas en Nicaragua

Estudio de Evaluación Final

Informe de Evaluación Conjunta



19 de septiembre de 2011

3



Índice

1. Resumen del Estudio de Evaluación Final
 - 1-1. Resumen de la cooperación
 - 1-2. La finalidad del envío de la Misión de Estudio
 - 1-3. Composición del Comité de Evaluación Conjunta
 - 1-4. Programa de actividades de la Misión de Estudio
 - 1-5. Metodología e ítems de evaluación

2. Diseño del Proyecto
 - 2-1. Objetivo Superior
 - 2-2. Objetivo del Proyecto
 - 2-3. Resultados
 - 2-4. Estructura del Proyecto

3. Resultados del Proyecto y el proceso de implementación
 - 3-1. Resultados de insumos asignados
 - 3-2. Resultados de actividades y sus efectos
 - 3-3. Menciones especiales sobre el proceso de implementación del Proyecto
 - 3-4. Factores que contribuyeron a la generación de resultados
 - 3-5. Problemas y factores causantes de problemas

4. Resultado de la evaluación por los 5 criterios
 - 4-1. Relevancia
 - 4-2. Efectividad
 - 4-3. Eficiencia
 - 4-4. Impacto
 - 4-5. Sostenibilidad

5. Conclusiones

6. Recomendaciones y lecciones aprendidas
 - 6-1. Recomendaciones
 - 6-2. Lecciones aprendidas



Anexo 1 Programa de la Misión del Estudio

Anexo 2 PDM (ver.2)

Anexo 3 Resultado de la asignación de insumos

1 Envío de expertos de largo plazo

2 Recepción de becarios contrapartes en el Japón

3 Seminarios y capacitaciones realizados

4 Donación de equipos y el estado de mantenimiento

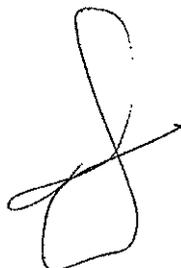
5 Costos locales asumidos (por la parte japonesa y la parte nicaragüense)

6 Lista de asignación de contrapartes nicaragüenses

Anexo 4 Número de extensionistas capacitados y su área

Anexo 5 Número de promotores de productores y grupos modelo por comunidad

Anexo 6 Borrador de la PDM modificada (Ver.3)



5



1. Resumen del Estudio de Evaluación Final

1-1. Resumen de la cooperación

1-1-1. Nombre del Proyecto

Proyecto de Mejoramiento del Nivel de Vida a través del Fortalecimiento de la Producción Agropecuaria de las Comunidades Indígenas y Étnicas de Puerto Cabezas en Nicaragua

1-1-2. Período del Proyecto

Desde el 27 de febrero de 2008 hasta el 26 de febrero de 2012

1-1-3. País y área objeto del Proyecto

País: República de Nicaragua

Área Objeto: tres territorios del Municipio de Puerto Cabezas (Llano Norte, Llano Sur y Tasba Pri)

1-1-4. Beneficiarios del Proyecto

Beneficiarios directos: aproximadamente 2,500 personas que son;

- 6 contrapartes del Comité de Desarrollo Rural,
- 500 productores de grupo modelo (25 productores × 20 comunidades), más
- Unos 2,000 productores aparte de los grupos modelo

Beneficiarios indirectos: aproximadamente 18,500 personas que son;

- unas 18,500 personas que, el número la población de las 58 comunidades en los 3 territorios del Municipio de Puerto Cabezas (7,400 en 16 comunidades de Llano Norte, 5,300 en 17 comunidades de Llano Sur, 8,300 en 29 comunidades de Tasba Pri), menos el número de beneficiarios directos), y
- unas 300 personas de la ONG Pana Pana y de las 2 universidades (18 personas de Pana Pana, 15 profesores más 6 del personal universitario más 120 estudiantes de la Facultad de Agroforestería de la Universidad URACCAN, 24 profesores más 2 del personal universitario más 110 estudiantes de la Facultad de Agroforestería de la Universidad BICU-CIUM).

1-1-5. Organizaciones ejecutores del Proyecto

Son la Alcaldía Municipal de Puerto Cabezas de la Región Autónoma del Atlántico Norte (RAAN), la Universidad BICU-CIUM, la Universidad URACCAN y la ONG Pana Pana.

1-1-6. Antecedentes de la cooperación

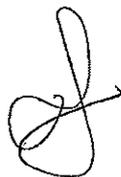
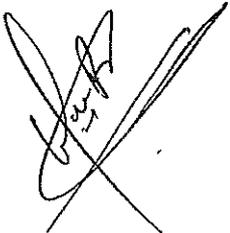
La República de Nicaragua (en adelante Nicaragua) posee una extensión territorial de 129,000 Km² y su población es de 5,140,000 habitantes (censo del 2005). El PIB per cápita es de US\$ 1,096 (Informe del Banco

Central de Nicaragua del 2009). Debido a la guerra interna que sumió al país a la crisis económica y que continuó por más de una década desde 1979, es considerado como el segundo país más pobre de la región después de Haití. En particular, la región de la Costa Caribe que incluye a la Región Autónoma del Atlántico Norte (en adelante la RAAN) es considerada como la más pobre con el 76.7% de su población en pobreza, problemática que demanda medidas para su solución. La RAAN ocupa el 24.6% del área total del país en donde habitan principalmente étnias autóctonas como los miskitos y con atrasos en su desarrollo debido a la poca asistencia, tanto por el mismo gobierno como por los donantes internacionales.

La mayoría de los pobladores se dedican a la agricultura extensiva con quema de bosques y la actividad forestal. En el litoral la pesca sigue siendo la actividad principal. Con relación a la agricultura, por la escasez de tierra fértil trabajan en parcelas muy distantes de la comunidad, de manera muy ineficiente. En general el suelo es de baja fertilidad por carecer de materia orgánica y muchos problemas de plagas y enfermedades en sus cultivos, además de no tener acceso a orientaciones técnicas en temas de agricultura y desarrollo rural. Esta situación hace que muchas veces hasta les hace falta granos básicos de consumo familiar y sólo venden productos cuando hay excedente de su producción, que es muy poca. Al mercado del Municipio de Puerto Cabezas, los productos de venta son traídos casi 100% desde la capital del país y los productores locales entre otros problemas, no están pudiendo utilizar el mercado como sitio para su ingreso.

Para enfrentar a dichas problemáticas la Alcaldía de Puerto Cabezas está cumpliendo el rol de asistir a las comunidades. No obstante, las actividades son insuficientes por falta de recursos y técnicas. Hay presencia de ONGs locales y donantes en pequeña escala pero éstos principalmente asisten en el campo de desarrollo social como microfinanciación y asistencia en salud, no habiendo asistencia en la técnica agropecuaria a pesar de ser una región inminentemente agropecuaria. Asimismo en el Municipio de Puerto Cabezas no existe la oficina del Instituto Nicaragüense de Tecnología Agropecuaria (INTA), institución oficial encargada de la investigación y extensión agropecuaria, generando una situación de no tener suficientes servicios de asistencia agropecuaria, lo que indica la necesidad de establecer un sistema de extensión aprovechando los recursos locales.

Bajo esta circunstancia, para combatir la pobreza en las comunidades indígenas y étnicas de esta región, el gobierno de Nicaragua solicitó al gobierno de Japón, la cooperación para apoyar al mejoramiento del nivel de vida de estas comunidades a través de fortalecer su sistema productivo con orientaciones técnicas enfocadas a la agricultura y el desarrollo rural. "El Proyecto de Mejoramiento del Nivel de Vida a través del Fortalecimiento de la Producción Agropecuaria de las Comunidades Indígenas y Étnicas de Puerto Cabezas en Nicaragua" (de febrero de 2008 a febrero de 2012) está desarrollando las actividades con la Municipalidad de Puerto Cabezas como institución contraparte (C/P) y con base al CDR que además de la Municipalidad, se compone de miembros que son la Universidad BICU-CIUM, la Universidad URACCAN y PANA PANA que es una ONG local. En estos momentos 2 expertos japoneses (el asesor líder/extensión agrícola/manejo de fincas y el coordinador) han sido enviados para asistir en actividades para establecer el mecanismo en pro de la



7



extensión agropecuaria sostenible con base en el CDR, con el fin de lograr el objetivo de mejorar el nivel de la vida de los productores modelo.

1-2. La finalidad del envío de la Misión de Estudio

La evaluación final se efectuó con objeto de;

- 1) Estructurar el Comité de Evaluación Conjunta compuesto por evaluadores por las partes japonesa y nicaragüense para realizar la evaluación del grado de logro del Proyecto en las actividades realizadas hasta el momento y sus resultados y efectos, comparados con los planes y desde el enfoque de los 5 criterios de evaluación, y
- 2) Teniendo en cuenta los resultado del 1), deliberar sobre los problemas en la implementación del Proyecto así como las actividades a realizar en adelante, para resumir en el Informe de Evaluación Conjunta con el objeto de informar y recomendar a sus respectivos gobiernos.

1-3. Composición del Comité de Evaluación Conjunta

(1) Misión de Estudio de Evaluación Final (parte japonesa)

Área de Trabajo	Nombre y Cargo	Período
Líder	Hideyuki Maruoka Director General Adjunto, Departamento de Desarrollo Rural, JICA	12 - 20 de sep. de 2011
Políticas de desarrollo agrícola/ Agricultura amigable al ambiente	Hiroshi Kidono Asesor Senior, JICA	2 - 20 de sep. de 2011
Análisis de evaluación	Toyomitsu Terao Fisheries Engineering Co., Ltd	2 - 20 de sep. de 2011
Intérprete	Saeko Takahama Japan International Cooperation Center	2 - 20 de sep. de 2011

(2) Evaluadores de la parte nicaragüense

Área de Trabajo	Nombre y Cargo	Período
Alcaldía Municipal de Puerto Cabezas	Ivonne Waters Directora de Cooperación Externa	5-9 y 16-20 de sep. de 2011
i.d.	Raynaldo Mairena Blexly Responsable de Producción	5-9 y 16-20 de sep. de 2011

Universidad BICU-CIUM	Victor Mairena Docente	5-9 y 16-20 de sep. de 2011
Universidad URACCAN	Abner Figueroa Docente	5-9 y 16-20 de sep. de 2011
Pana Pana	Samuel Mercado Presidente de Junta Directiva	5-9 y 16-20 de sep. de 2011
Delegación del MAG-FOR en Puerto Cabezas, RAAN	Mojareth Álvarez Facilitador Agropccuario	5-9 y 16-20 de sep. de 2011

1-4. Programa de actividades de la Misión de Estudio

La visita de la Misión del Estudio de Evaluación Final de la parte japonesa es del 2 al 20 de septiembre del 2011, por los 24 días (Ver detalle de actividades en el Anexo 1).

1-5. Metodología e ítems de evaluación

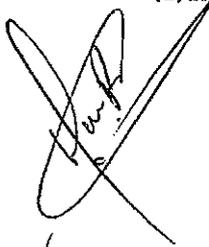
La presente Misión ha realizado la evaluación con base en la metodología que utiliza la Matriz del Diseño de Proyecto (la PDM) de acuerdo a la "Nueva Guía para la Evaluación de Proyectos de JICA" (1ra Versión). Se ha aplicado la PDM (Versión 2, ver Anexo 2) como marco para la evaluación para llevar a cabo la recolección de informaciones por medio de cuestionarios y entrevistas a las C/P Nicaragüenses, expertos japoneses y otras personas e instituciones involucradas. Al igual, se ha realizado reuniones con los promotores agrícolas y agricultores modelo, visitando las comunidades beneficiarias del Proyecto.

La metodología principal y fuente de informaciones para el presente estudio de evaluación son las siguientes:

- ◆ Revisión de documentos (Minutas, R/D, Informe de Evaluación Inicial, Informe de Revisión Intermedia, Informe de término de actividades del experto, etc.)
- ◆ Estudio a través de cuestionarios (Expertos japoneses, instituciones C/P, extensionistas)
- ◆ Entrevista a personas claves (Expertos japoneses, Municipalidad de Puerto Cabezas, Universidad BICU-CIUM, Universidad URACCAN, Pana Pana, extensionistas, etc.)
- ◆ Visitas a comunidades (Estudio de campo en Llano Norte, Llano Sur y Tasba Pri.)
- ◆ Entrevistas a grupos utilizando herramientas participativas (taller con promotores agrícolas, productores modelo)

Los principales ítems que se ha confirmado en este estudio fueron los siguientes:

(1) Resultados del Proyecto








En resultados del proyecto, se confirma la situación del logro (o la posibilidad) de cada ítem como insumos, resultados, objetivo del proyecto y objetivo superior, con relación a los indicadores de la PDM (Ver. 2)

(2) Proceso de implementación

En proceso de implementación del Proyecto, se corrobora si la operación ha sido apropiada en: la metodología de la transferencia tecnológica; comunicación entre los involucrados; monitoreo; etc. del proyecto con diferentes enfoques. Además de procurar la extracción de factores contribuyentes y limitantes relacionados a la generación de los efectos del proyecto, corroborando a través del proceso de la implementación.

(3) Evaluación basada en los 5 criterios

Con base en los 2 ítems arriba mencionados, el Proyecto se evalúa desde el enfoque de los 5 criterios. Cada criterio se define como se muestra en el siguiente Cuadro 1-1.

Cuadro 1-1 Definición de los 5 criterios de evaluación

Criterio	Definición para el Cuadro 1-1 de la Guía para la Evaluación de Proyectos
1. Relevancia	Es el enfoque para preguntarse sobre "la pertinencia o la necesidad del proyecto de cooperación" como: ¿si está de acuerdo a la necesidad de los beneficiarios los efectos que el proyecto aspira lograr? (objetivo del proyecto y objetivo superior), ¿son apropiados para solucionar problemas?, ¿existe o no la armonización de políticas entre el país beneficiario y Japón?, ¿si la estrategia y enfoques del proyecto son pertinentes?, ¿si existe la necesidad de implementar con fondos de AOD que es un recurso público?, etc.
2. Efectividad	Es el enfoque para preguntarse ¿si a través de implementar el proyecto realmente está aportando (o aportará) beneficios a la sociedad o beneficiarios?.
3. Eficiencia	Es el enfoque que principalmente observa la relación "costo-beneficio" del proyecto, para preguntarse ¿si los recursos están siendo utilizados (o serán utilizados) efectivamente o no?.
4. Impacto	Es el enfoque para observar los efectos expansivos por la implementación del proyecto de manera indirecta y a largo plazo. También se incluyen los efectos y resultados tanto positivos y/o negativos que no se esperaban.
5. Sostenibilidad	Es el enfoque para preguntarse ¿si los efectos producidos por el proyecto se sostienen (o se sostendrían) o no?, aún después de terminado el mismo.

Fuente :Manual para la evaluación de proyectos(De la Guía para la Evaluación de Proyectos de JICA)

Handwritten signatures and initials are present on the right side of the page, including a large signature at the top, another signature below it, and several initials or smaller signatures further down.

2. Diseño del Proyecto

El Objetivo Superior, el Objetivo del Proyecto y los Resultados del presente Proyecto en la Matriz de Diseño del Proyecto (PDM Ver.2) son los siguientes:

2-1. Objetivo Superior

- 1) El nivel de vida de los productores en el Municipio de Puerto Cabezas se mejora a través de la difusión agrícola establecida por los grupos modelo.
- 2) Las actividades de difusión agrícola se extienden a las aéreas indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas.

2-2. Objetivo del Proyecto

Se mejora el nivel de vida de los productores de los grupos modelo.

2-3. Resultados

- 1) El CDR ha funcionado de acuerdo a su reglamento y sus miembros distribuyen las responsabilidades.
- 2) Los productores del grupo modelo han introducido las técnicas impartidas.
- 3) El CDR ha establecido el mecanismo para ejecutar de manera sostenible las actividades de extensión agrícola.

2-4. Estructura del Proyecto

Como se menciona arriba, en el presente Proyecto se ha establecido 3 Resultados esperados para el logro del Objetivo del Proyecto. La estructura del presente Proyecto basada en la PDM(Ver.2) es como se muestra en el Cuadro 2-1.

Cuadro 2-1 Estructura del Proyecto

Objetivo Superior	<ul style="list-style-type: none"> •El nivel de vida de los productores en el Municipio de Puerto Cabezas se mejora a través de la difusión agrícola establecida por los grupos modelo. •Las actividades de difusión agrícola se extienden a las áreas indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas. 		
Objetivo del Proyecto	Se mejora el nivel de vida de los productores de los grupos modelo.		
Resultados	1. El CDR ha funcionado de acuerdo a su reglamento y sus miembros distribuyen las responsabilidades.	2. Los productores del grupo modelo han introducido las técnicas impartidas.	3. El CDR ha establecido el mecanismo para ejecutar de manera sostenible las actividades de extensión agrícola.

3. Resultados del Proyecto y el proceso de implementación

3-1. Resultados de insumos asignados

Los insumos asignados desde el inicio del Proyecto hasta el presente mes de septiembre de 2011 son los siguientes:

3-1-1. Insumos asignados por la parte japonesa

a) Envío de los expertos

Desde el inicio del Proyecto, han sido enviados 3 expertos de largo plazo en dos áreas que son: una de jefe así como de organización de extensión y manejo de fincas, y otra de coordinación del Proyecto. Son 76 hombre-meses totales invertidos para sus estadias en Nicaragua en el período de 3.6 años pasados. Los detalles del envío de expertos se especifican en el Anexo 3-1.

b) Recepción de becarios C/P en el Japón

Desde el inicio del Proyecto, 5 C/P nicaragüenses y 1 representante de la institución involucrada han sido becados a Japón. Son personas que permanecen vinculadas de manera constante al Proyecto desde su comienzo y ocupan el cargo de transferir dentro y fuera de las comunidades los conocimientos y experiencias adquiridas en el Japón. Los detalles de los cursos de capacitación y de los becarios se muestran en el Anexo 3-2

c) Capacitaciones a extensionistas y promotores agrícolas

Los cursos de capacitación para extensionistas iniciaron a partir de noviembre de 2008 terminando la primera ronda en diciembre de 2009. Se desarrollaron 10 temas en los que participaron 286 extensionistas en total. Luego se dieron cursos de segunda ronda desde octubre de 2010 hasta mayo de 2011. En ello participaron un total de 111 extensionistas en 5 temas (ver Anexo 3-3). Los extensionistas pertenecen a instituciones oficiales, ONGs y universidades, y se llevaron a cabo las capacitaciones tanto teóricas como prácticas en las universidades URACCAN y BICU-CIUM ubicadas en Bilwi.

Los cursos para promotores de las comunidades beneficiarias han sido realizado en 2 grupos. La capacitación para el primer grupo se implementó desde febrero hasta diciembre de 2009 en 6 temas, a la que asistieron en total 260 promotores de productores de los 3 territorios beneficiarios (Ver Anexo 3-3). El segundo grupo ha iniciado su capacitación de 12 temas grandes en julio de 2010 proyectando su fin en diciembre de 2011. Hasta julio de 2011 asistieron 838 personas en total de los dos grupos.

d) Donación de equipos

A septiembre del 2011, la donación de equipos por parte del Japón alcanza la suma de US\$ 40,530. El destino de dichas donaciones en su mayoría es la Alcaldía Municipal de Puerto Cabezas y parte a la Universidad de BICU-CIUM y la Universidad de URACCAN (como motocicletas para visitar comunidades).



Los detalles sobre los equipos donados se muestran en el Anexo 3-4.

e) Costos locales

Como costos locales asumidos por la parte japonesa, se desembolsaron unos 4.25 millones de córdobas en total (aproximadamente US\$ 182,000) hasta finales de julio de 2011. Los detalles por cada año se muestran en el Anexo 3-5.

3-1-2. Insumos por la parte nicaragüense

a) La asignación de las C/P

Para el Proyecto están siendo asignados 6 C/P en total: 2 técnicos de la Alcaldía de Puerto Cabezas, 2 técnicos de la Universidad BICU-CIUM (uno de ellos se dedica al otro proyecto paralelamente), 1 técnica de la Universidad URACCAN y 1 técnico de PANA PANA. De los cuales 3 siguen como técnico C/P desde el inicio del Proyecto hasta la fecha.

Por otro lado, 10 personas están siendo asignadas como miembros del Comité de Desarrollo Rural (el CDR) por 4 instituciones integrantes, de las cuales 5 siguen vinculadas al Proyecto como miembro desde el inicio hasta el momento. La lista de las C/P se muestra en el Anexo 3-6.

b) Facilitación de oficina e instalaciones

Al comienzo del Proyecto, se asignó un espacio para la oficina de expertos japoneses y contrapartes dentro de la Alcaldía de Puerto Cabezas. Luego, debido al disturbio generado en abril de 2008 la turba incursionó dentro de la Alcaldía y fueron destruidas las instalaciones incluyendo el espacio del Proyecto. Posteriormente, desde mayo de 2008, la Universidad BICU-CIUM proporcionó el espacio para la oficina del Proyecto dentro de una instalación universitaria de BICU-CIDCA, en donde se encuentra ubicada hasta el momento.

c) Costos locales

La erogación en costos locales a fin de julio de 2011, asumida por las instituciones integrantes del CDR (la Alcaldía, la Universidad BICU-CIUM, la Universidad URACCAN y Pana Pana) como ejecutor del Proyecto ha sido alrededor de US\$57,000, siendo el promedio anual de US\$16,300. Los rubros principales de erogación durante el período de enero a julio del 2011 son los gastos personales de C/P. El detalle del costo local por las instituciones ejecutoras se muestra en el Anexo 3-5.

3-2. Resultados de actividades y sus efectos

3-2-1. Resultados de actividades

Las actividades del Proyecto han sido implementadas con base a la PDM (ver.0 – ver.2). Se ha modificado la PDM dos veces antes la versión 2 vigente. Las principales modificaciones de las actividades del Proyecto son,

entre otras: 1) El mecanismo de la ejecución de extensión se ha cambiado como “de extensionistas a líderes de grupo modelo de productores” a “de equipo técnico del Proyecto a promotores de productores”; y 2) La ubicación de parcelas demostrativas se ha cambiado una vez desde las comunidades de los territorios beneficiarios a la finca de la Facultad de Agroforestería de la Universidad BICU-CIUM en Bilwi, y luego se ha retornado otra vez a las comunidades.

El equipo técnico del Proyecto consiste en las contrapartes, extensionistas y promotores núcleo de productores comunitarios. El hecho de haber cambiado el cuerpo principal de extensión desde los extensionistas al equipo técnico del Proyecto era una respuesta en busca del mecanismo de extensión que sea implemetable por lo menos por el Proyecto. No obstante, el cambio del papel funcional de extensionista a nivel de diseño del Proyecto influyó tanto en el plan de capacitación a extensionistas como en la significativa del programa de extensión, lo cual trajo consigo la suspensión de algunas actividades del Proyecto. Mientras tanto se desarrollaban actividades y acumulaban experiencias a nivel comunitario, se hacía notable la demora en el desempeño de las tareas que correspondían al nivel del CDR incluyendo la formulación del Programa de Extensión. Por otra parte, no hay diferencia fundamental entre el líder de grupo modelo de productores y el promotor de productores.

El cambio de la ubicación de parcelas demostrativas se debe a la condición de seguridad alrededor del área del Proyecto, como por ejemplo el caso de asalto armado ocurrido en abril de 2009. Tener parcelas demostrativas solamente en la cercanía de Bilwi produjo en las actividades comunitarias un estancamiento a lo largo de cierto tiempo. Fue a partir del mes de agosto de 2010 cuando se aplicó la PDM (ver.2) y se hicieron animadas las actividades en las comunidades tal como lo que se observa en estos momentos.

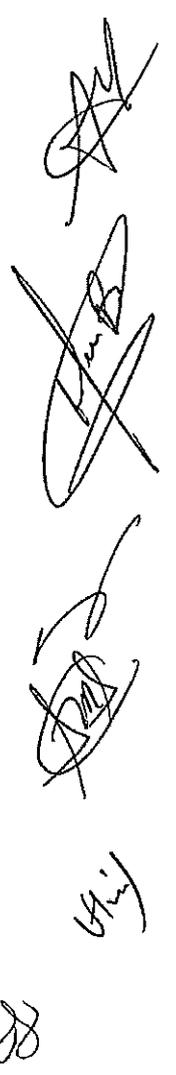
3-2-2. Situación del logro de los resultados

Resultado 1: El CDR ha funcionado de acuerdo a su reglamento y sus miembros distribuyen las responsabilidades

Indicadores del Resultado 1:

- | |
|--|
| 1-1. Número del personal contraparte |
| 1-2. Presupuesto proyectado y ejecutado para los gastos operativos del proyecto. |
| 1-3. Número de celebración del Comité Conjunto de Coordinación y del CDR. |

Se espera lograr el Resultado 1 hasta el fin del Proyecto una vez cumplidas ciertas condiciones. En lo que se refiere a sus indicadores, la presente situación casi cumple el Resultado 1. Están asignadas las contrapartes a la oficina del Proyecto por todas las organizaciones integrantes del CDR. Si se trata del Registro de Discusiones (R/D), hace falta una contraparte de Pana Pana. Sin embargo la BICU-CIUM asigna de hecho a 2 contrapartes



en lugar de 1 prevista, por lo que el número de contrapartes satisface lo programado inicialmente o sea el indicador al respecto ha sido cumplido (indicador 1-1).

En cuanto a los gastos operativos asumidos por Nicaragua, ha sido ejecutado del orden de 66% del promedio del presupuesto anual programado al inicio del Proyecto (US\$24,780 anual). En relación al desglose de los costos, la parte asumida realmente por Nicaragua son; el sueldo de C/P, alquiler de la oficina, luz, limpieza (mitad por Nicaragua, mitad por el Proyecto), contratación del guardia y el alquiler de las parcelas, siendo los 2 últimos que no se esperaban al inicio, y otros. Pero, se indica que los gastos importantes para la extensión tales como: asignaciones a contrapartes, y gastos de combustible y mantenimiento de vehículos no han sido asumidos por ellos, por lo tanto el indicador no ha sido alcanzado parcialmente (indicador 1-2).

Con respecto a las reuniones periódicas, se ha confirmado que las del CDR se realizan una vez al mes, mientras que entre expertos japoneses y contrapartes nicaragüenses se realizan una vez a la semana sobre las visitas a comunidades, lo que quiere decir que el indicador ha sido alcanzado (indicador 1-3).

Se han aprobado el 27 de julio de 2011 en el Consejo Municipal el Plan Estratégico del CDR y su Reglamento Interno, con lo que llegó a ser el CDR un órgano permanente del Municipio. Sin embargo, según las entrevistas realizadas por la Misión, el CDR aún deja ciertos puntos pendientes como proceso preparativo para conectar con comunidades de manera directa y desempeñar su función en plenitud. Son como ejemplo la distribución de las funciones entre las respectivas instituciones integrantes y la asignación del presupuesto necesario para prestar apoyo agrícola a las comunidades del Municipio. Los requisitos para lograr el Resultado 1 son: determinar claramente las funciones entre las autoridades locales, instituciones educativas y la ONG de acuerdo al Programa de Extensión Agrícola Sostenible que está en proceso de formular, y poder cumplirla incluyendo la contribución de costos por cada una de las organizaciones integrantes, hasta la terminación del Proyecto, con base a dicho Programa.

Resultado 2: Los productores del grupo modelo han introducido las técnicas impartidas.

Indicadores del Resultado 2:

- | |
|---|
| <p>2-1. Número de promotores capacitados (100 promotores en 20 comunidades x5).</p> <p>2-2. Número de los grupos modelos de productores seleccionados (20 grupos y 500 productores).</p> <p>2-3. El 50% del grupo de productores modelo aplican técnicas y métodos para mejorar la productividad.</p> <p>2-4. Más del 50% de productores modelo aplican lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.</p> |
|---|

Hay baja posibilidad de lograr el Resultado 2 al final del Proyecto.

Han sido capacitados hasta el momento 40 promotores de 8 comunidades beneficiarias en los 3 territorios del

Municipio (primer grupo), seguidos por 75 promotores de otras 15 comunidades que se esperan terminar capacitados en diciembre de 2011 (segundo grupo). Sumando los dos grupos serán 115 promotores de 23 comunidades. Se prevé alcanzar el indicador (indicador 2-1).

Se seleccionaron un total de 176 productores modelo (beneficiarios) a través de los promotores del primer grupo, mientras que los promotores del segundo grupo no los han seleccionado todavía ya que se están pasando actualmente sus cursos de capacitación. Considerando que cada promotor está prometido que, una vez capacitado, dará orientación técnica a los 5 productores modelo respectivamente, se calcularía superar 500 productores modelo por los dos grupos, ya que en el segundo van a seleccionarse 375 productores. Así se prevé alcanzar el indicador (indicador 2-2). El número de promotores de primero y segundo grupos y de productores modelo del primero se muestra en el Anexo 5 por cada comunidad.

En estos momentos se están dando la orientación por visita a los productores modelo del primer grupo. La orientación técnica agrícola se hace utilizando la parcela demostrativa o huerto del promotor. Al mismo tiempo se monitorean los problemas y las condiciones limitantes que encaran los productores respecto a la producción agrícola, pero no existe dato arreglado sobre ¿cuánta cantidad de productores modelo están practicando las técnicas enseñadas en sus parcelas o el aprendizaje del mejoramiento de vida en su hogar? Con respecto a los productores del segundo grupo, no está en la etapa de realizar visitas porque no existen todavía los grupos mismos. Considerando que el segundo grupo va a ser la mayoría de los productores modelo, obviamente resulta difícil alcanzar el indicador 2-3 ni el 2-4.

En cuanto al Resultado 2, amerita apreciar los trabajos de las contrapartes que se dedican a las actividades de extensión. Hay que tener en cuenta que la dificultad de lograr el Resultado 2 se debe, como lo mencionado anteriormente, al estancamiento de las actividades comunitarias ocasionado por los factores externos. Como medida a tomarse en adelante, se considera agregar una actividad como parte de orientación de visita a las comunidades, que es el estudio de monitoreo-seguimiento con el propósito de conocer el nivel de apropiación de cada uno de los productores modelo. Se podría analizar la posibilidad de la idea del monitoreo por muestreo así como su frecuencia en consideración con la carga del trabajo.

Resultado 3: El CDR ha establecido el mecanismo para ejecutar de manera sostenible las actividades de extensión agrícola.

Indicadores del Resultado 3:

- | |
|---|
| 3-1. Número de extensionistas que ejecutan el Programa de Extensión Agrícola Sostenible (50). |
| 3-2. Se asegura la fuente de financiación para ejecutar el "Programa" arriba mencionado. |

Se espera lograr el Resultado 3 hasta el final del Proyecto una vez cumplidas ciertas condiciones. Ha sido

efectuada la capacitación a los extensionistas en los primeros momentos del Proyecto, la cual cursaron 42 personas. Se entregó un diploma a los 25 extensionistas cuyo porcentaje de asistencia era alto. Se muestra en el Anexo 4 el número de extensionistas capacitados según el nombre y el lugar de las organizaciones a las que pertenecen ellos. Como no está planeada para en adelante la capacitación a los extensionistas, no habrá posibilidad de llegar 50 el número de extensionistas capacitados. Sin embargo, no se necesitarían hasta 50 para un total de 84 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas, sino con 20 es suficiente para atender. Actualmente en el Proyecto cada contraparte atiende 4 comunidades respectivas de modo que si hay 21 extensionistas podrían atender 84 comunidades. (indicador 3 – 1).

Ha sido mencionado anteriormente el hecho de haber sido cambiada la posición de extensionistas, así como que el equipo técnico del Proyecto llegó a trabajar como cuerpo principal de extensión como consecuencia de repetidas modificaciones de la PDM. Cuando haya formulado el Programa de Extensión Agrícola Sostenible, el Proyecto supone la combinación de extensionista con promotor como mecanismo de extensión a durar.

Con respecto al presupuesto, está materializado alrededor del 70% del presupuesto proyectado inicialmente, asumido por las 4 organizaciones integrantes del CDR. El CDR, que actualmente es un comité permanente del Municipio, puede esperar la financiación presupuestaria de ella misma. De modo que si las organizaciones miembro del CDR pueden afianzar su presupuesto del 2012, será una condición para lograr el Resultado 3.

3-2-3. Posibilidad de lograr el objetivo del Proyecto

Objetivo del Proyecto: Se mejora el nivel de vida de los productores modelo.

Indicadores de Objetivo del Proyecto:

- Antes de febrero del 2012,
1. El hecho de que el 50% de productores modelo introdujeran las tecnologías agrícolas apropiadas para la zona, mejora la producción por área de unidad de los principales cultivos aumentando en 20 % la producción excedente.
 2. El 50 % del “grupo avanzado de productores” (los promotores y productores modelo que recibieron capacitaciones en la primera mitad del Proyecto) introducen por más de “3 ciclos de cosecha” las técnicas y métodos con fines de mejorar la productividad.
 3. El 50% de los productores modelo están aplicando sosteniblemente lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.

Hay baja posibilidad de lograr el Objetivo del Proyecto al final del mismo en 6 meses, porque no se podrá alcanzar el indicador 1 ni 3. Tal como lo analizado sobre los indicadores del Resultado 2, aunque los promotores del segundo grupo, que ocupan la mayoría del número de promotores, empezaran la orientación técnica a su grupo modelo a medio camino de su capacitación, se estima arrojar nada más que los efectos

restringidos ya que se ha pasado el período de siembra de los principales cultivos. En esta circunstancia no se podrá obtener hasta el final del Proyecto los indicadores ni en su magnitud ni su alcance tal como lo esperado sobre el incremento de la producción de cultivos principales o de la apropiación de técnicas y metodologías.

El indicador 1 requiere del incremento de la producción excedente, para lo cual se necesita el resultado del Estudio de Línea Base como información comparativa con los inicios del Proyecto, que en el caso del presente Proyecto se tiene una serie de investigaciones del estado real de las comunidades (efectuadas desde mayo hasta junio de 2008). Dichas investigaciones, realizadas originalmente para la PDM (ver.0), aclaran informaciones sólo cuantitativas que corresponden a los indicadores que requería la versión 0. Por otra parte hay una verdad que en las comunidades rurales la producción excedente no conduce tan fácilmente al mejoramiento del nivel de vida de productores. Eso se debe a la infraestructura transportística no suficientemente desarrollada o que les cuesta caro el pasaje aunque se la tienen, y les quitan oportunidades en gran medida para vender sus productos y conseguir el dinero. Por razón de lo mencionado arriba, se considera la necesidad de modificar descripciones del indicador 1 de manera que sea comparable con las investigaciones del estado real de las comunidades efectuadas en el pasado.

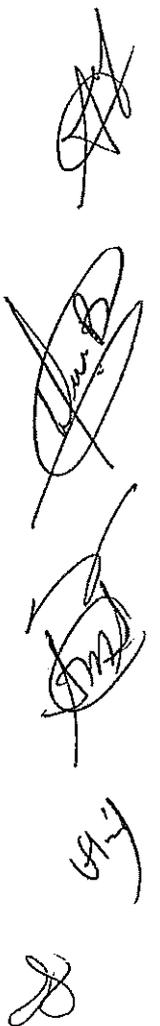
El indicador 2 se refiere al primer grupo. Entre las comunidades del primero, hay grupos modelo que se formaron ya en el 2009. Como ellos llevan 2 años (2010 y 2011) de trabajo, se estima que han tenido ciclos de cosecha repetidas veces. Cuentan también con las técnicas aplicables a varios cultivos, por ejemplo abono o el riego. Hay posibilidad de que bastante número de productores modelo tengan más veces de ciclos de cosecha que requiere el indicador, pero no hay forma de verificar en detalle porque no existe un dato arreglado.

3-3. Menciones especiales sobre el proceso de implementación del Proyecto.

Por parte de la presente Misión de Estudio, se hace mención de los siguientes puntos especiales en la implementación del Proyecto.

3-3-1. Creación del CDR y sus actividades

El CDR es el órgano de planeación y coordinación del sector agrícola en el Municipio para contribuir al desarrollo socioeconómico y formación de capital humano para atender de manera eficiente el sector agrícola (según el Artículo 1. del Reglamento Interno). A comienzos del Proyecto era un órgano temporal y luego en julio de 2011 se tradujo en un comité de planeación permanente por medio de la aprobación del Consejo Municipal. Entró en vigor el Reglamento Interno del CDR que aclara sus funciones y el fondo operativo junto con el Plan Estratégico aprobado en el Consejo que corresponde al período comprendido entre 2012 y 2017. Ahora se espera entrar en otra fase de desarrollar las actividades sustanciales del CDR una vez definidos los papeles de manera clara de las 4 instituciones que integran al Comité con base al Programa de Extensión Agrícola Sostenible.

The right margin of the page contains several handwritten signatures and initials. At the top, there is a signature that appears to be 'A'. Below it is a larger, more complex signature. Further down is another signature, and below that, the initials 'MA' are written. At the bottom of this column, the initials 'GJ' are written. At the very bottom right, there is a small, stylized signature.

3-3-2. Cambio en los enfoques para la extensión

Tal como ha sido cambiado el cuerpo principal de extensión desde los extensionistas al equipo técnico del Proyecto, que principalmente consta de los técnicos contrapartes, se buscaron en el transcurso del Proyecto alternativas con fines de determinar un mecanismo de extensión práctica e implementable. También otra situación referente a las medidas de seguridad a diversos niveles restringió por un tiempo el desarrollo de fincas demostrativas permitiendo su función sólo en las proximidades de Bilwi. Todo aquello referido trajo como consecuencia una revisión del plan de extensión a desarrollar en el Proyecto que procedió también al estancamiento de las actividades en las comunidades por cierto período.

3-3-3. Formación de equipo técnico del Proyecto que tiene como núcleo a las contrapartes

Desde aproximadamente agosto de 2010 se están realizando las visitas a las comunidades por parte del equipo técnico del Proyecto cuyos agentes principales son el personal contraparte del Proyecto. En la visita se da la orientación técnica agrícola según las necesidades con el uso de las parcelas demostrativas que tienen los promotores, etc., y al mismo tiempo se monitorean los problemas o condiciones limitantes que enfrentan tanto los promotores como los productores modelo respecto a la producción, resumiéndose luego en forma del informe de bitácora. Los temas pendientes se analizan y discuten entre los expertos japoneses y contrapartes en busca de las contramedidas. Esto indica que se encuentra en proceso de establecer un mecanismo de extensión que responde la situación actual, o dicho de otra forma, ha sido presentada una forma del mecanismo de extensión implementable mediante el personal técnico de las 4 instituciones integrantes del CDR.

3-3-4. Enfoque según territorio en la capacitación de promotores de segundo grupo

Tal como lo indicado en los datos relativos por ejemplo el Informe de Evaluación Inicial, los Llanos y Tasba Prí presentan diferentes etnicidades. En el primero viven muchos miskitus, mientras que en el segundo hay más mestizos. La capacitación de promotores del segundo grupo incluye, para el Territorio de Llano Norte, temas de postcosecha, viveros y cultivo, nutrición y economía de hogar, huerto familiar, etc., mientras tanto para el Territorio Tasba Prí, incluye reforestación, cría de avícolas o porcinos, sistema de agroforestería, etc. De esta manera la situación diferente de agricultura está reflejada en los temas de capacitación.

3-4. Factores que contribuyeron a la generación de resultados

3-4-1. Disposición persistente de las C/P

Actualmente en el Proyecto están asignados 6 técnicos de las 4 instituciones C/P. De los cuales 3 técnicos de 3 instituciones son las mismas personas que desde los inicios del Proyecto (entre marzo y junio de 2008) se encuentran trabajando con constancia para el Proyecto. La disposición persistente de los técnicos C/P ha

contribuido a la construcción de relaciones con confianza entre los expertos japoneses y los promotores así como los productores modelo de las comunidades para desarrollar las actividades del campo. Todos los técnicos C/P hablan idioma miskitu como lengua materna o a nivel similar y que conocen a fondo las culturas y costumbres de las comunidades de áreas beneficiarias. Siendo así, igual les costó la comunicación en los primeros momentos del Proyecto, o sea dicen que repetidas veces de contactos lograron desarrollar la comunicación. La disposición de recursos humanos de tal forma que trabajan consistentemente a lo largo del Proyecto es uno de los factores grandes que han permitido la ejecución de presente Proyecto a pesar de las condiciones dificultosas.

3-4-2. Suelo adecuado para la actividad agrícola e introducción de tecnologías apropiadas

De los 3 territorios objeto del Proyecto, Tasba Prí es el más avanzado en sus actividades de extensión. Este territorio posee suelo apto para la agricultura y el desarrollo de los productos es relativamente bueno, cosa que ha servido para desplegar las actividades más fácil que en otros dos territorios.

Por otro lado, en los Llanos donde se considera que la mayor parte de los suelos no es apta para la producción agrícola por su baja fertilidad, el Proyecto se orienta para la difusión de las metodologías agrícolas aplicables aun en el suelo de baja fertilidad, que por ejemplo es la introducción de abono orgánico. Se ha comprobado en el nivel de experimento que es posible cultivar y cosechar diferentes tipos de productos en estas condiciones difíciles. Dicen que, en dichos territorios de los dos Llanos existe mayor reticencia al uso de abono químico por motivos culturales, y en este sentido el Proyecto ha logrado acaparar el interés de los productores puesto que se puede preparar el abono introducido por el Proyecto contando con los recursos naturales accesibles en las comunidades.

3-5. Problemas y factores causantes de problemas

3-5-1. Los efectos de condiciones externas

El huracán Félix que pasó por el norte de la RAAN en septiembre de 2007 antes de la iniciación del Proyecto causó gravísimos daños económicos, como la destrucción de las viviendas y la caída de los árboles frutales en las comunidades de Llano Norte y otros territorios beneficiarios. Otro factor es el orden social precario que enfrenta el Municipio de Puerto Cabezas. Entre los incidentes a citarse, son: el ataque a la Alcaldía incitado por el disturbio público de mayo de 2008 en Bilwi y el asalto armado sufrido en abril de 2009, que impactaron de forma directa en el desarrollo del Proyecto, seguidos por el otro disturbio en el municipio (noviembre de 2009), los bloqueos de las carreteras principales (abril de 2010) y del aeropuerto y el lanchón del Río Wawa (junio de 2010), manifestaciones contra la subida del precio de combustible y el problema de tenencia de tierra (marzo de 2011) y huelga por los estudiantes de la Universidad URACCAN (septiembre de 2011). De esta manera sigue hasta el momento la inquietud social de mayor o menor escala dentro de Bilwi y sus alrededores.

Como consecuencia del asalto ocurrido en abril de 2009 y el nivel de seguridad posteriormente intensificado, se forzaba a desarrollar las fincas demostrativas nada más en los alrededores de Bilwi, lo cual frenó por cierto tiempo las actividades en las comunidades. A pesar de que luego se ha aliviado la limitación de las actividades, se generó la demora en los avances del Proyecto en gran medida.

3-5-2. Demora en la capacitación a promotores de productores del segundo grupo

El atraso en la capacitación de los promotores del segundo grupo influye en la selección de productores modelo que está atrasada de igual manera. En estos momentos que quedan 6 meses hasta el final del Proyecto, se observa una situación difícil de alcanzar el Objetivo del Proyecto, por razón de no haber terminado la selección de la mayoría de los productores modelo proyectados. Se considera, por lo tanto, que el retraso especialmente en la capacitación de promotores del segundo grupo dio un impacto grande en todo el cronograma del Proyecto.

Los cursos de capacitación para el segundo grupo dieron inicio entre julio y septiembre de 2010, mientras que acababan los cursos del primer grupo a lo más tardar para diciembre de 2009. Si hubiera comenzado la capacitación del segundo en la primera mitad del 2010, habría permitido la oportunidad de realizar la orientación técnica a productores a tiempo para la época de lluvia del 2011. La razón de no haber realizado es que estaba limitada la parcela demostrativa solo en la finca de la Facultad de Agroforestería en la Universidad BICU-CIUM, lo que quiere decir que la demora en la capacitación del segundo grupo era provocada de manera directa por las condiciones externas arriba mencionadas.

4. Resultado de la evaluación por los 5 criterios.

4-1. Relevancia

Se juzga alta la relevancia por razones que se especifican a continuación:

De acuerdo al Plan Nacional de Desarrollo Humano de Nicaragua (PNDH), la región objeto del Proyecto, la RAAN es de las que tienen la prioridad más alta para el desarrollo. Además, el “Plan de Desarrollo para la Costa Caribe (2009-2012)” menciona como uno de los 12 objetivos a cumplir hasta el 2012: el “apoyar para dotar con capacidad productiva a 10,000 familias de comunidades indígenas y de localidades de extrema pobreza”. En el Plan Estratégico de Desarrollo 2003 -2012 de la Alcaldía de Puerto Cabezas se cita la necesidad de desplegar un programa de asistencia técnica para el desarrollo agropecuario. Por consiguiente el presente Proyecto contribuye a la materialización tanto de las políticas nacionales del gobierno central como de las estrategias de desarrollo por las autoridades locales, que ponen la prioridad en prestar apoyo a la región costera caribeña.

Toda el área de los tres territorios beneficiarios depende de la agricultura, forestería o pesca artesanal como medios de la vida. Además del terreno fértil muy limitado, son territorios donde se ha efectuado muy poca asistencia de desarrollo hasta la fecha, por lo que la difusión agrícola del Proyecto responde las necesidades de los grupos beneficiarios de dichos territorios.

Existe el “programa de reducción de pobreza en área rural” definido en el “Plan Ajustable de Mediano Plazo en la República de Nicaragua” que formuló el gobierno japonés (elaborado en 8 de 2010), según lo cual están en curso en el momento del 2011, 6 proyectos en Nicaragua incluyendo éste en base con los diversos esquemas de cooperación. Este Proyecto contribuye en gran medida a la realización de dicho programa, concordándose con las 3 áreas de cooperación que representa el programa dentro de las 6 áreas totales (la reducción de pobreza, mejoramiento del nivel de vida en el sector rural, mejoramiento en los ingresos, creación de empleo y el fomento de las industrias locales).

4-2. Efectividad

La efectividad se juzga mediana en estos momentos.

Las condiciones externas han causado mayor demora en la capacitación de los promotores del segundo grupo, de modo que se encuentra en una situación difícil de hacer llegar la orientación técnica a la mano de los productores modelo hasta la terminación del Proyecto en consideración con la época de lluvia a su vez.. La mayoría de los productores modelo van a ser del segundo grupo, y como consecuencia no se puede juzgar alta la efectividad del Proyecto, siendo baja la posibilidad de alcanzar el Objetivo del Proyecto en 6 meses restantes

de la terminación.

En cuanto a las comunidades dirigidas por los promotores del primer grupo, aunque se observa con el correr del tiempo la disminución del número de miembros productores modelo y de los promotores mismos, se están fomentando firmemente la asimilación de las técnicas por los promotores y la entrega de las técnicas a los grupos modelo. Sobre todo en unas comunidades del territorio de Tasba Pri se pueden observar muchos efectos del Proyecto, que son: la producción estable o aumentada gracias al abono disponible asegurado así como a la fertilización misma, y la introducción de los nuevos cultivos centrados en las hortalizas como tomate o chiltoma, entre otros. También es importante que la introducción de los equipos, por ejemplo las bombas de ariete y de mano, está abriendo un paso más hacia la diversificación en el patrón de cultivos, que antes se limitaba para la época de lluvia. Estos equipos se pueden elaborar aprovechando los materiales accesibles en las comunidades. Como parte de sus efectos, se estiman menos gastos familiares al comprar hortalizas y a la vez el mejoramiento en estado de nutrición. Existen personas que venden su producción excedente dentro de la comunidad o en Bilwi a pesar de que todavía son muy pocas.

Otro ejemplo que podría contribuir al mejoramiento del nivel de vida es que el Proyecto está dando la mano para resucitar la meliponicultura tradicional con abejas sin aguijón. Entre los productores también hay algunos que venden abono que preparan y ganan dinero en efectivo.

Todo aquello mencionado recientemente indica que una vez facilitada la difusión a los productores modelo de segundo grupo, se aumentaría la efectividad del Proyecto de manera notable.

4-3. Eficiencia

Es mediana la eficiencia del Proyecto.

Sobre todo en la primera mitad del Proyecto antes del mes de enero de 2010 se encontraba una situación crítica de poder perjudicar la seguridad del personal del Proyecto. Como consecuencia, la cobertura geográfica del Proyecto quedó reducida en gran medida, resumiendo la finca demostrativa en tan solo un lugar en las afueras de Bilwi. En los momentos iniciales se orientaba el enfoque de extensión por medio de los extensionistas, pero al aplicar la PDM (ver.1) en enero de 2010 se tradujo en el enfoque centrado en el equipo técnico del Proyecto, produciendo esta modificación la suspensión de ciertas actividades tal como la formulación del "plan de extensión". En la primera mitad del año 2010, se atrasó el comienzo de la capacitación de promotores del segundo grupo debido al retiro de las fincas demostrativas desde las comunidades, lo cual se hizo insperable alcanzar el Resultado 2. hasta a la terminación del Proyecto teniendo en consideración la época de lluvia. En todo lo que se ha referido, el no lograr el Resultado 2. es el mayor factor causante de la eficiencia baja del Proyecto.

Por otro lado en el período aplicado de la PDM(ver.2) a partir del mes de agosto de 2010, se reanudaron las fincas demostrativas en las comunidades beneficiarias, produciendo también efectos el sistema de extensión organizado principalmente por el equipo técnico del Proyecto. Las actividades de extensión están dando fruto en diferentes formas aunque se recopilan informaciones nada más esporádicas. En esta fase posterior del Proyecto se están llevando a cabo las actividades sobre ruedas. No obstante no alcanza recuperar el retraso en la capacitación de promotores del segundo grupo.

4-4. Impacto

Se estima mediano el impacto del Proyecto.

Para facilitar el logro del Objetivo Superior 1., se requiere como premisa que funcione la CDR como órgano ejecutor y coordinador de las actividades de extensión en el Municipio de Puerto Cabezas mediante la realización del Objeto del Proyecto. Un ejemplo que da el Proyecto un impacto hacia afuera de las comunidades beneficiarias es lo de haber tomado los cursos de capacitación un extensionista que reside en el vecino Municipio de Waspám. Es muy probable que él utilice la experiencia de la capacitación para sus actividades de extensión, lo cual indicaría la germinación del proceso que se conduzca al Objetivo Superior 2.

Otros impactos son como sigue:

- 1) El personal contraparte que recibió la capacitación en Japón con el tema del mejoramiento de vida aprovecha su experiencia adquirida en una materia que se da en la Universidad. Dicta charla como parte de la asignatura. Parece que se calcula como horas matriculadas aunque no es una materia independiente.
- 2) En la comunidad de Betania de Llano Sur, se ha iniciado en septiembre de 2011 el desarrollo de la finca demostrativa comunal incluyendo viveros con la participación de toda la gente comunitaria. La extensión es de 200 ms × 240 ms. (4.8 has), rodeada en forma cuadrada por barreras de madera teniendo el canal surcado de unos 50cms de profundidad a lo largo de las barreras. Una iglesia de Bilwi les ayuda para disponer palas y cubos.
- 3) En la comunidad de Sumbila de Tasba Prí, 4 promotores de productores intentan aumentar la producción de abono de manera organizada con el fin de venderlo. Tasba Prí es el territorio más desarrollado de ganadería que en Llano Norte y Llano Sur, por lo que es fácil conseguir los materiales para preparar abono.
- 4) Se evitaba la donación de insumos relativos tales como plántulas o instrumentos agrícolas con el propósito de aumentar la sostenibilidad de la práctica técnica, y se requería el autoesfuerzo para conseguir los materiales necesarios. Como consecuencia de este enfoque persistente, se indican que hay pobladores que laboran con iniciativa saliendo de la dependencia desmedida que se observa con mucha



frecuencia en los territorios de los indígenas en especial .

4-5. Sostenibilidad

Se estima mediano el impacto del Proyecto.

4-5-1. Aspecto político

La Región Autónoma del Atlántico Norte (la RAAN) que se ubica en el área del Proyecto, se cita como una de las regiones más prioritarias en el “Plan de Desarrollo Humano” y el “Plan de Desarrollo para la Costa Caribe”, dentro de los cuales el sector agrícola del que dependen los pobladores para ganar la vida es de los más importantes. Se están desarrollando los proyectos gubernamentales de manera separada enfocados en el sector agrícola tales como el programa “Hambre Cero” del MAGFOR y los micro-créditos del IDR. Se considera seguir en el futuro las políticas del gobierno nicaragüense de apoyar la RAAN. En el Plan Estratégico de Desarrollo 2003 -2012 de la Alcaldía de Puerto Cabezas se da importancia al desarrollo de tecnología para la producción agrícola, que en febrero de 2009 se estableció una sección encargada de la producción agrícola dentro de la Dirección de Recursos Naturales y Medio Ambiente. De esta manera, está fortaleciéndose el sector de producción agrícola en la Alcaldía.

4-5-2. Aspectos organizativo y financiero

El CDR, que se encargaría de replicar los beneficios generados en el Proyecto, ha sido aprobado en el Consejo Municipal como comité de planeación permanente. Al mismo tiempo ha sido aprobado el Plan Estratégico del CDR que corresponde al período comprendido entre 2012 y 2017. Sin embargo, para desplegar sus funciones en plenitud se requieren cumplir los dos puntos pendientes, que son: determinar claramente los papeles entre la autoridad local, las instituciones educativas y la ONG para poder aprovechar al máximo las cualidades de cada una de ellas, teniendo como base el Programa de Extensión Agrícola Sostenible que está en proceso de formular; y cumplir realmente sus debidos papeles acorde a dicho Programa.

Dentro del presupuesto operativo del Proyecto ha sido materializado un promedio anual del 66%, contribuido por 4 organizaciones integrantes del CDR, de los cuales ocupan mayor parte los gastos del personal contraparte. Se le agregarán además en el futuro los costos que actualmente están encargados por JICA, que son tales como gastos de combustible y de mantenimiento para los vehículos para mantener las actividades en comunidades. Dependiendo de las comunidades, habría posibilidad de compartir los costos con otras ONGs que manejen los fondos suyos. En ese caso podría contar con ellas para gastos de combustible, pero no serán muy frecuentes tales ocasiones. Por consiguiente, será necesario buscar una nueva fuente del presupuesto más sostenible.

4-5-3. Aspecto técnico

Con el uso de los materiales o recursos accesibles en las comunidades, pueden replicar muchas de las técnicas o tecnologías transmitidas mediante cursos de la capacitación y orientación dada en las parcelas demostrativas, que son tales como la preparación de abono y la fabricación de bomba ariete. Han sido seleccionadas las técnicas de cultivo sencillas que necesitan menos inversión con el fin de poder multiplicarlas entre los productores mismos. Entre los promotores del primer grupo, se observan unos cuantos que han asimilado la tecnología introducida. Se podría garantizar la sostenibilidad del aspecto técnico del Proyecto siempre y cuando se mantienen las visitas a las comunidades.

5. Conclusiones

Este Proyecto dio inicio poco después del desastre del huracán de una magnitud extraordinaria en Nicaragua. Mientras que otros proyectos invertían grandes cantidades de ayuda de emergencia y de recuperación, el Proyecto siguió prestando apoyo sincero y constante a lo largo de 3 años y medio con el fin de formar el espíritu de autoayuda. En la primera mitad del período, sufrió influencia directa de la inseguridad empeorada generando mayores dificultades para seguir con las actividades. Bajo estas condiciones del tercer año del Proyecto, se ha construido el sistema de extensión implementable que responde al mismo tiempo la situación real, y sus resultados se llegan a observar en las comunidades avanzadas de las actividades en su manejo de la finca, que representa todo un fruto de la orientación y asesoría de la extensión. Es cierto que debido al atraso de las actividades, no se puede esperar el Objetivo del Proyecto alcanzado dentro del plazo, pero sí se puede apreciar lo que se han venido cumpliendo bastante el rol tanto el equipo técnico del Proyecto como los productores beneficiarios que se dedican al Proyecto, aprovechando al máximo sus condiciones limitadas.



6. Recomendaciones y lecciones aprendidas

6-1. Recomendaciones

Para en adelante, se debe de intensificar y asegurar los trabajos del Proyecto del Municipio de Puerto Cabezas así como fortalecer acciones con miras a extender su dimensión en otros territorios de la Costa Atlántica (en la RAAN y la RAAS). Se especifican los detalles a continuación:

1). Recomendaciones para el Proyecto

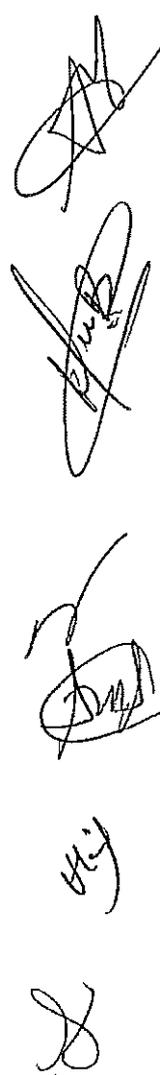
1. Con el fin de desplegar las actividades con el enfoque de desarrollo agrícola uniforme del Municipio mediante la coordinación del CDR y colaboración entre las instituciones correspondientes, es de necesario elaborar los siguientes documentos según el "Plan Estratégico" y el "Reglamento Interno" del CDR: 1) "Programa de Extensión Agrícola Sostenible" que especifica las funciones de las instituciones integrantes así como el presupuesto de las mismas, contenido de las actividades de los extensionistas y promotores de productores, cobertura geográfica, el cronograma de actividades, etc., 2) "Guías" que determinan los procesos específicos al trabajar con tema del desarrollo rural. Ambos documentos se deben completar para diciembre de 2011.
2. Actualmente no se puede saber cuantitativamente las actividades a nivel de productores ni de comunidad, lo que ha de ser utilizado para confirmar los efectos del Proyecto y retroalimentar al trabajo. En ese sentido, se hace necesario realizar un estudio de línea base socioeconómico en las comunidades beneficiarias, como parte del trabajo de extensionista, pero contando con la participación de los productores, y luego de eso introducir una metodología afin sencilla y no muy recargada, con la que sí se puede saber de manera constante información como; el área cultivada, producción de cosecha, monto de venta de productos y su precio y hasta los bienes que tiene el encuestado. Estas actividades ha de ser sistematizadas hasta diciembre de 2011, reflejándose en las Guías arriba mencionadas.
3. Con el fin de dar un paso importante para ampliar efectos del Proyecto hacia otros territorios afuera del Municipio de Puerto Cabezas, se requiere celebrar un seminario-taller, en el que se hacen públicos los resultados del Proyecto para facilitar su difusión con el apoyo de la oficina de JICA en Managua-Nicaragua y la colaboración con la Secretaría de Desarrollo de la Costa Caribe. Para ello se invitarán diferentes organizaciones tales como: las autoridades locales de las Regiones Autónomas del Atlántico (GRAAN -el gobierno de RAAN-, GRAAS -el gobierno de RAAS-, y autoridades municipales inclusive), las instituciones públicas gubernamentales que trabajan en el área beneficiaria (MAGFOR, INTA, IDR, INATEC, etc.), los donantes (FAO, FIDA-Fondo Internacional de Desarrollo Agrícola-), BCIE (Banco Centroamericano de Integración Económica-), KfW (Banco de Crédito para la Reconstrucción) y las ONGs.

2). Recomendaciones para la parte nicaragüense

1. Con el fin de seguir con las actividades del Proyecto teniendo como eje a la Alcaldía luego de finalizado el mismo, son precisos que el CDR elabore oportuna y adecuadamente el plan operativo del próximo año fiscal, y las instituciones correspondientes se pongan de acuerdo de la inversión requerida y a su vez, cada una de ellas tome las medidas presupuestarias necesarias. En este sentido, con miras puestas a la situación posterior al Proyecto, se espera debida presupuestación asegurada aun en el plazo de ejecución del Proyecto.
2. Para fortalecer la sostenibilidad de actividades de desarrollo rural en el Municipio de Puerto Cabezas, se requiere buscar más colaboración con las instituciones principales que trabajan en el sector rural o que tienen relación con actividades del Proyecto, por tanto se debe discutir sobre la participación de las instituciones tales como MAGFOR y GRAAN en el CDR.
3. En estos momentos son mayores las actividades de la práctica agrícola, pero se ve la necesidad de fortalecer otro tipo de actividades como de: el sector pecuario para aprender el manejo estadístico de la finca así como para diversificar la producción y reducir el riesgo de la administración; la comercialización de productos tales como la postcosecha, transporte y la mercadería, que contribuyan a mejorar el nivel de vida que busque más allá de la autosuficiencia; almacenamiento de semillas cosechadas para asegurar la próxima siembra así como el intercambio de semillas.
4. Se tiene previsto hacer la FAO con MAGFOR un proyecto de formación de promotores, así como FIDA, BCIE y KfW que están considerando el inicio de sus proyectos. Con miras a asegurar los efectos del Proyecto y extenderlos en las Regiones Autónomas del Atlántico, se requiere fomentar la colaboración con otros donantes para que ellos induzcan los resultados del presente Proyecto en sus programas o proyectos.
5. Debería hacer investigación mayormente por las 2 Universidades del Proyecto con temas de: la experiencia adquirida, resultados y las debilidades del Proyecto, así como el nivel de reconocimiento por parte de pobladores según territorio étnico o los enfoques a tomar del respecto, que ha de servir como una base para las futuras actividades a ser desarrolladas en las Regiones Autónomas del Atlántico.

3) Recomendaciones para ambas partes de Nicaragua y Japón

1. En consideración con el atraso en las actividades del Proyecto a causa de los desastres naturales y los incidentes provocados, se necesita más apoyo a Nicaragua por parte del Proyecto tanto para implementar tareas que van a estipular el Programa de Extensión Agrícola Sostenible y las Guías que se formulan en adelante, como para asegurar más las actividades y permitir el mejoramiento del nivel de vida y los ingresos. Además se requiere fortalecer actividades del sector pecuario, de la comercialización y de semillas aparte de las actividades colaborativas con otros donantes. Considerando en todo lo especificado, se recomienda

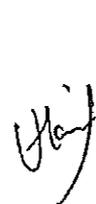


prolongar el período del Proyecto por 1 año.

2. En el caso de que se decide la prolongación del Proyecto, sus actividades deben estar sujetas a la PDM(ver.3).

6-2. Lecciones aprendidas

1. Cuando se trata de los proyectos de desarrollo que tienen a los pobladores rurales como actores principales, sobre todo en las comunidades donde los pobladores están acostumbrados a recibir donación o donde muestran ellos reticencia a la intervención de las personas ajenas, es bueno adelantar primero con las actividades que fomenten la iniciativa en ellos tal como el enfoque del mejoramiento de vida, "kaizen", con lo que se desarrolla un fundamento para implementar otros componentes del proyecto.

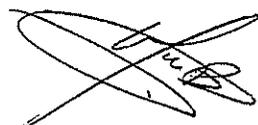





Anexo 1 Programa de la misión del Estudio

		Programa de la Misión del Estudio		Misión del Estudio	
1	01/09/2011	J	Narita --> Managua		
2	02/09/2011	V	Visita a JICA Nicaragua Visita a MAGFOR, UNDP (Terao y Takahama), IICA(Kidono)		
	03/09/2011		Reunión con el Comité de Evaluación Conjunta (Explicación de los métodos de evaluación) y reunión con expertos japoneses		
	04/09/2011	D	Reunión con los equipos de Proyecto		
5	05/09/2011	L	Sesión de Comité de Evaluación Conjunta y Reunión con Alcaldía de Puerto Cabezas, BICU-CIUM, URACCAN, BICU-CIUM, URACCAN y PanaPana		
6	06/09/2011	M	Reunión con MASANGNI, COMAL, Plan Nicaragua y AIKUKI WAL		
7	07/09/2011	M	Investigación de Campo Llano Norte : Itara, Butku, Kuakul, Tuapi		
8	08/09/2011	J	Investigación de Campo Llano Sur : Sukatpin, Betania		
9	09/09/2011	V	Investigación de Campo Tasba Pri : Sumubila y Truslaya		
	10/09/2011		Documentación		
	11/09/2011	D	Documentación		
12	12/09/2011	L	Reunión con los equipos de Proyecto Sesión de Comité de Evaluación Conjunta		Visita a Consejo de Desarrollo de la Costa Caribe, INTA, UNAO
13	13/09/2011	M	Documentación (Terao, Takahama), MAGFOR Pto. Cabezas(Kidono)		Managua --> Pto. Cabezas Visita a Alcaldía de Puerto Cabezas, BICU-CIUM, URACCAN, BICU-CIUM, URACCAN y PanaPana (Maruoka, Kidono)
14	14/09/2011	M	Documentación (Terao, Takahama)		Investigación de Campo (Maruoka y Kidono) : Itara, Butku, Kuakul y Finca BICU
15	15/09/2011	J	Documentación (Terao, Takahama)		Investigación de Campo (Maruoka y Kidono) : Truslaya, Sumbila, Nazareth
16	16/09/2011	V	Sesión de Comité de Evaluación (Revisión del informe de evaluación), Reunión con dos Expertos Japoneses, Visita de Programa a Radio(Kidono), Visita a Policía(Maruoka)		
	17/09/2011	S	Sesión de Comité de Evaluación Conjunta		
	18/09/2011	D	Documentación		
19	19/09/2011	L	Sesión de Comité de Evaluación Conjunta (Revisión del informe de evaluación)		
20	20/09/2011	M	Sesión de Comité Conjunto de Coordinación (JCC) y Ceremonia de Firma de Minuta Viaje a Managua		
21	21/09/2011	M	Información de Embajada de Japón y JICA Nicaragua, Documentación (Kidono, Terao, Takahama)		Información de Embajada de Japón y JICA Nicaragua Managua --> Matagalpa Reunión con Alcalde de Matagalpa(Maruoka)
22	22/09/2011	J	Managua --> Miami		Investigación de las comunidades de Proyecto de Alianza en Matagalpa
23	23/09/2011	V	Miami -->		Managua --> Japón

Anexo2 PDM (ver.2)



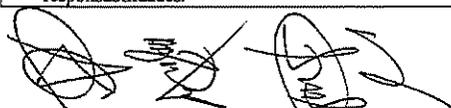
Proyecto de Mejoramiento del Nivel de la Vida a través del Fortalecimiento de la Producción Agropecuaria de las Comunidades Indígenas y Étnicas de Puerto Cabezas en Nicaragua (PDM ver. 2, Junio 2010)

Periodo del Proyecto: Febrero de 2008 – Febrero de 2012 (4 años)

Área de impacto: tres territorios del Municipio de Puerto Cabezas (Llano Norte, Llano Sur, Tasba Pri),

Grupo enfocado: Pequeños productores del área de impacto del Proyecto. (500 familias)

Resumen del Proyecto	Indicadores	Medios de Verificación	Condiciones Externas
<p>(Objetivo superior)</p> <p>1. El nivel de vida de los productores en el Municipio de Puerto Cabezas se mejora a través de la difusión agrícola establecida por los grupos modelo.</p> <p>2. Las actividades de difusión agrícola se extienden a las áreas indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas.</p>	<p>Antes del año 2017,</p> <p>1-1 El plan del Comité de Desarrollo Rural se revisa periódicamente y se ejecuta.</p> <p>1-2 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas aplican las tecnologías introducidas por el Proyecto.</p> <p>1-3 En 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas se mejora la producción por área de unidad de los principales cultivos (arroz, cultivos de raíces, etc.) aumentando en 30 % la producción excedente.</p> <p>1-4 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas introducen más de 3 nuevos productos agrícolas (diversificación de cultivos)</p> <p>1-5 En todo el municipio de Puerto Cabezas el sistema de divulgación de mejoramiento de vida funciona apropiadamente.</p> <p>2-1 Cada año, se realiza el intercambio de productores de comunidades indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas, en los 3 municipios colindantes.</p>	<p>Informe sobre la encuesta por muestreo.</p> <p>Informe anual de actividades de las universidades</p>	
<p>(Objetivo del Proyecto)</p> <p>Se mejora el nivel de vida de los productores de los grupos modelo.</p>	<p>Antes de febrero del 2012,</p> <p>1. El hecho de que el 50% de productores modelo introdujeran las tecnologías agrícolas apropiadas para la zona, mejora la producción por área de unidad de los principales cultivos aumentando en 20 % la producción excedente.</p> <p>2. El 50% del “grupo avanzado de productores” (los promotores y productores modelo que recibieron capacitaciones en la primera mitad del Proyecto) introducen por más de “3ciclos de cosecha” las técnicas y métodos con fines de mejorar la productividad.</p> <p>3. El 50% de los productores modelo están aplicando sosteniblemente lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.</p>	<p>Informe de estudio por el Proyecto</p> <p>Informe del Proyecto</p> <p>Informe de monitoreo</p>	<p>·No hay caída repentina de precios.</p> <p>·No hay alza de precios de los equipos y materiales a suministrar o incremento de gastos operativos.</p> <p>·No hay epidemias de enfermedades contagiosas de cultivo y ganado.</p> <p>·No hay desastres naturales de gran escala.</p>
<p>(Resultados del Proyecto)</p> <p>1) El Comité de Desarrollo Rural ha funcionado de acuerdo a su reglamento y sus miembros distribuyen las responsabilidades.</p>	<p>1-1. Número del personal contraparte</p> <p>1-2. Presupuesto proyectado y ejecutado para los gastos operativos del Proyecto.</p> <p>1-3. Número de celebración del Comité Conjunto de Coordinación y del Comité de Desarrollo</p>	<p>Informes vinculados al Proyecto</p>	<p>No hay cambio en las políticas de la Alcaldía en cuanto a la extensión agrícola.</p>




<p>2) Los productores del grupo modelo han introducido las técnicas impartidas.</p> <p>3) El Comité de Desarrollo Rural ha establecido el mecanismo para ejecutar de manera sostenible las actividades de extensión agrícola.</p>	<p>Rural</p> <p>2-1 Numero de promotores capacitados (100 promotores en 20 comunidades X 5 promotores.)</p> <p>2-2 Numero de los grupos modelos de productores seleccionados. (20 grupos y 500 productores.)</p> <p>2-3 El 50% del grupo de productores modelo aplican técnicas y métodos para mejorar la productividad.</p> <p>2-4 Más del 50% de productores modelo aplican lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.</p> <p>3-1 Número de extensionistas que ejecutan el Programa de Extensión Agrícola Sostenible (50).</p> <p>3-2 Se asegura la fuente de financiación para ejecutar el "Programa" arriba mencionado.</p>	<p>Informe del Proyecto</p> <p>Informe de monitoreo</p> <p>Programa de extensión agrícola sostenible</p> <p>Entrevistas a los integrantes del Comité de Desarrollo rural.</p>	<p>No hay cambio frecuente de extensionistas y productores del grupo modelo.</p>
<p>(Actividades del Proyecto)</p> <p>1-1. Determinar el reglamento de funcionamiento del Comité de Desarrollo Rural.</p> <p>1-2. Conformar un equipo técnico para la ejecución del Proyecto (Contrapartes y extensionistas).</p> <p>1-3. Elaborar un plan anual de actividades del Comité de Desarrollo Rural.</p> <p>1-4. Realizar estudios sobre la producción y analizar los resultados junto con los productores.</p> <p>1-5. Seleccionar los promotores y los grupos modelos de productores junto con los comunitarios.</p> <p>2-1 Establecer fincas demostrativas del Consejo de Desarrollo Rural.</p> <p>2-2 El equipo técnico del Proyecto ejecuta las capacitaciones para los promotores.</p> <p>2-3 Proporcionar asistencia técnica a los promotores en sus fincas por el equipo técnico (técnicos extensionistas).</p> <p>2-4 <u>Coordinar</u> apoyo por parte del equipo técnico a las actividades agropecuarias que los promotores realizan.</p> <p>2-5 Proporcionar asistencia técnica a los productores del grupo modelo por el equipo técnico y los promotores.</p> <p>2-6 Proporcionar asistencia técnica a los productores que no son miembros del grupo modelo por los extensionistas junto con el grupo modelo.</p>	<p>(Aportaciones)</p> <p>(Parte japonesa)</p> <p>1. Envío de expertos</p> <p>Expertos a largo plazo:</p> <p>Un (1) responsable de organización de extensión agrícola/manejo de finca (jefe, por 2 años)</p> <p>Un (1) responsable de organización de extensión agrícola/manejo de finca (jefe, por 2 años)</p> <p>Un (1) Responsable de coordinación/capacitación (por 2 años).</p> <p>Un (1) Responsable de coordinación del Proyecto (por 2 años)</p> <p>2. Capacitación del personal contraparte</p> <p>3. Suministro de equipos y materiales (camioneta de finca/motocicleta/computadora)</p> <p>(Parte nicaragüense)</p> <p>1. Suministro de instalaciones y equipos (terrenos para establecer finca y aulas para capacitación)</p> <p>2. Asignación del personal contraparte</p> <p>Financiamiento de los gastos corrientes necesarios para la implementación del Proyecto.</p>		<p>La situación de la seguridad de los territorios beneficiarios del Proyecto está relativamente estable al grado de no afectar las actividades del mismo</p> <p>Los grupos de productores acordaron participar en el Proyecto de manera organizada.</p>

<p>2-7 <u>Coordinar</u> apoyo por parte del equipo técnico para realizar reuniones de intercambio en experiencias entre productores organizados de otras comunidades y el grupo modelo.</p> <p>3-1 El Comité de Desarrollo Rural(CDR) define claramente el rol de los extensionistas y promotores dentro del "Programa de Extensión Agrícola Sostenible"</p> <p>3-2 El CDR referente al "Programa de Extensión" arriba mencionado y su correlación con los extensionistas, delibera y obtiene consenso con las instituciones, a las que pertenecen estos extensionistas.</p> <p>3-3 El CDR formula "Programa de Extensión" arriba mencionado y ejecuta a través de los promotores y extensionistas.</p> <p>3-4 <u>Publicar</u> materiales didácticos para la capacitación, y guías para la extensión en el Comité de Desarrollo Rural</p>			
		<p>(Condición Previa) Se estableció el reglamento del Comité de Desarrollo Rural y los miembros distribuyen las responsabilidades</p>	

Anexo 3 Resultado de la asignación de insumos

3-1 Envío de expertos de largo plazo

No.	Nombre	Encargo	El tiempo de Trabajo	
1	Yuichi Endo	Coordinador y Encargo de Capacitación	27/02/2008	- 26/02/2010
2	Sadao Takahashi	Extension Agrícola, Manejo de Finca y Asesor Jefe	27/02/2008	- 03/01/2009
3	Sadao Takahashi	Extension Agrícola, Manejo de Finca y Asesor Jefe	23/02/2009	- 14/02/2010
4	Masayuki Fukuoka	Coordinador	11/02/2010	- 16/12/2010
5	Sadao Takahashi	Encargo de Capacitación, Extension Agrícola, Manejo de Finca y Asesor Jefe	13/03/2010	- 11/12/2010
4	Masayuki Fukuoka	Coordinador	09/02/2011	-
5	Sadao Takahashi	Encargo de Capacitación, Extension Agrícola, Manejo de Finca y Asesor Jefe	15/02/2011	-

3-2. Recepción de becarios contrapartes en el Japón

Contrapartes capacitadas en Japón							
No.	Nombre del Contraparte	Instituto	Cargo		Tema	Tema e institución encargada de la Capacitación	Periodo de capacitación
			Alimentación de capacitación	Actual			
1	Wilford Davis Geman	BICU-CIUM	Profesor de Agro-Forestal	Profesor de Agro-Forestal	Desarrollo Rural	Fortalecimiento de las Redes para el Desarrollo Rural Participativo para la Región América Central y el Caribe (JICA Tsukuba)	12/01/2009
							18/03/2009
2	Alexa Torres Thomas	URACCAN	Profesor de Agro-Forestal	Profesor de Agro-Forestal	Desarrollo Rural	Fortalecimiento de la Liderazgo Femenino Mediante el Mejoramiento de Vida Rural (JICA Tokyo)	18/01/2009
							31/01/2009
3	Hensely Francis	Atealida	Funcionario de la Dirección de Recursos Naturales y Medio Ambiente	Funcionario de la Dirección de Recursos Naturales y Medio Ambiente	Desarrollo Rural	Fortalecimiento de las Redes para el Desarrollo Rural Participativo para la Región América Central y el Caribe (JICA Tsukuba)	09/10/2010
							10/12/2010
4	Elga Torres	Atealida	Funcionario de la Dirección de Recursos Naturales y Medio Ambiente	Funcionario de la Dirección de Recursos Naturales y Medio Ambiente	Desarrollo Rural	Endogenous Regional Economic Development Utilizing Local Resources in Latin America and the Caribbean countries A (JICA Oshybu)	03/01/2011
							10/02/2011
5	Lucía Low Branco	Pana Pana	Directora Ejecutiva, Pana Pana	Directora Ejecutiva, Pana Pana	Desarrollo Rural	Rural Development Through Livelihood Improvement (by Kaizen) for Central and South America (JICA Tsukuba)	10/01/2011
							25/01/2011
6	Limberth Bucardo G	Pana Pana	Departamento de Proyecto	Departamento de Proyecto	Desarrollo Rural	Extension Methodologies of Organic Agricultural Techniques for Small Scale Farmers (JICA Tsukuba)	24/05/2011

Anexo3-3.Seminario y capacitación realizados

Capacitación para extensionistas (2008~2009)

REGISTRO DE CAPACITACION TEORICO-PRACTICO REALIZADA A EXTENSIONISTAS DURANTE EL PERIODO NOVIEMBRE 2008 A DICIEMBRE 2009								
MODULO	CONTENIDOS	FECHAS	PARTICIPANTES	PLANES Y PROGRAMAS DE ESTUDIO	EXPOSITORES	MATERIALES DIDACTICOS UTILIZADOS	DOCUMENTOS	PRACTICA
I. INTRODUCCION AL DESARROLLO RURAL	Metodología de motivación y Organización	15/11/2008	18	1. Los modos de enseñanza y los porcentajes de retención de los conocimientos. 2. Métodos de enseñanza	Ing. Karla Mazarapán (Experta de INTA)	Tarjetas de colores, marcadores y pizarra escrita	Metodología de organización y motivación (3era edición)	Trabajo de grupo
	KAIZEN	28/11/2008	20	1. ¿Qué es KAIZEN? 2. Aplicación del mejoramiento de vida.	Ing. Josué Brenes (Asesor del Proyecto)	Tarjetas, psicografías datashow	Documento de Kaizen	Trabajo de Grupo
	Manejo del ciclo del proyecto -PCM -PDM	21/11/2008 y 22/11 05/12/2008 y 06/12	18 18	1. Descripción de PCM 2. Identificación participativa	Ing. Josué Brenes (Asesor del Proyecto)	Tarjetas, psicografías datashow	Documento de PCM y PDM	Elaboración de pequeño proyecto
	Diagnóstico Rural Participativo	29/11/2008	23	1. Principios del diagnóstico rural participativo. 2. Herramientas del diagnóstico rural participativo	Ing. Margarita Munguía (Asesora del Proyecto)	Marcadores, datashow, Computadora, tarjetas de colores	Documentos de Diagnóstico Rural participativo (DRP)	Trabajo de grupo
	Generalidades de la agricultura orgánica	09/05/2009 y 09/05 16/05/2009 y 16/05	37 28	1. Introducción a la Agricultura Orgánica. 2. La Evolución de la tierra. 3. Alternativas ecológicas para la recuperación de los suelos agrícolas 4. Transgénicos	Ydo. Lijbarth Bucardo (Asesor del Proyecto)	Marcadores, datashow, Computadora, tarjetas de colores y poldarados	Folleto de agricultura Orgánica	Practica de campo
II. AGRICULTURA ORGANICA	Abono orgánico	12/06/2009 y 13/06 07/08/2009 y 08/08	21 26	1. Abono tipos compost 2. Abono tipo Bokashi 3. Abono biofertilizante	Tec. Limorith Bucardo (Consultor del Proyecto)	Materiales y herramientas de trabajo: Mielaza, Casaca de arroz, Levadura, Leche, Sepollina, Estiércol, Bidones	Folleto de Abono Orgánicos	1. Recolección y preparación de microorganismos de montaña. 2. Preparación de abonos sólidos 3. Preparación de abonos líquidos 4. Preparación de insecticidas orgánicos 5. Preparación de fungicidas orgánicos
	Biodigestor	17/07/2009 y 18/07	25	1. Generalidades de un biodigestor 2. Diseño de un biodigestor 3. Sistemas constructivos	Ing. Josué Brenes (Consultor del Proyecto)	Datashow, herrillos, mangueras de presión, accesorios PVC, estiércol de vaca.	Guía técnica de referencias	Revisar el sistema constructivo
III. CULTIVOS TROPICALES	Cultivo de plátano	16/09/2009	13	1. Generalidades del cultivo de plátano 2. Establecimiento y manejo del cultivo de plátano	Ing. Sandra Segura (Prof. de la BICU)	Computadora y Datashow	Guía técnica del cultivo	
	Frutas tropicales	28/08/2009 y 29/08	20	1. Generalidades edafoclimáticas de frutas tropicales 2. Establecimiento y manejo de frutas tropicales 3. Uso potenciales de frutas tropicales 4. Extracción de semillas de frutas tropicales.	Ing. Josué Brenes (Asesor del Proyecto)	Datashow, pizarra.	Guías técnicas de principales frutas tropicales	Practica sobre extracción de semillas e identificación de plagas y enfermedades.
IV. Granos básicos	El Cultivo de Frijol	12/12/2009 y 13/12	21	1. Generalidades del cultivo de frijol 2. Mejoramiento genético del cultivo de frijol (semillas artesanales)	Ing. Noel Eduarda y Ing. Julio Molina (Experto de INTA)	Datashow, pizarra, computadora	Presentaciones y Guías técnicas	
NOTAS:								
1. Fueron capacitados a 12 extensionistas (3 de ellos con el personal contraparte del Proyecto) en la Escuela de Agricultura de la Región Tropical Húmeda (EARTH) de Costa Rica durante un mes (del 09 de febrero al 09 de marzo del 2009), con los temas Agricultura Orgánica, Cultivos Tropicales, Manejo Pecuario y Forestal.								
2. Fueron capacitados a 40 estudiantes de las Universidades BICU-CIUM y URACCAN, con el tema Agricultura Orgánica, para la fecha (03 y 04 de Junio del 2009)								

(2010 - 2011)

Tema	FECHAS	PARTICIPANTES	PLANES Y PROGRAMAS DE ESTUDIO	EXPOSITORES	MATERIALES DIDACTICOS UTILIZADOS	DOCUMENTOS	PRACTICA
Metodología de Motivación y Organización	20 y 21 de octubre 2010	25	Aprender metodología de facilitación.	Exp. Tetsuo Nohara	Tarjetas de colores, marcadores y Pizarra acrílica	Metodología de organización y motivación (3era edición)	Capacitación participativa
Horticultura	30 de Noviembre, 2010	26	Aprender sistema de riego por goteo, Lombricultura, Preparación de plántula	INTA-JICA Exp. Misao, Okabayashi, INTA-Schaeck José	PC, Proyector	Texto de INTA	Trabajo de grupo
Melponicultura	17 y 18 de diciembre, 2010	26	Aprender sobre importancia básica de melponicultura	Jose Martí	PC, Proyector	Texto de Melponicultura	Trabajo de grupo
Melponicultura	16 de abril, 2011	13	Seguimiento de aprendizaje anterior y monitoreo de melponario.	Jose Martí	PC, Proyector	Texto de Melponicultura	Trabajo de grupo
Metodología de Motivación y Organización	12 de mayo, 2011	28	Aprender metodología de facilitación.	Exp. Tetsuo Nohara	Tarjetas de colores, marcadores y Pizarra acrílica	Metodología de organización y motivación (4ta. edición)	Capacitación participativa

Capacitación para 1er grupo de promotores

REGISTRO DE CAPACITACION TEORICO-PRACTICO REALIZADA A PROMOTORES COMUNITARIOS DURANTE EL PERIODO FEBRERO - DICIEMBRE 2009.								
MODULO	CONTEN.	FECHAS	PART	PROGRAMAS DE ESTUDIO	EXPOSIT	DIDACTICOS UTILIZADOS	DOCUMENTOS	PRACTICA
I. Introducción al desarrollo rural	Promotoría comunal	2009/7/14 y 15	16	1. Generalidades de la Promotoría. 2. El promotor comunal.	Ing. Margarita Munguía Asesor del Proyecto	Marcadores, cartulinas, pizarra acrílica, Póstergrafos, Tarjetas de colores.	Plan y Guía de Capacitación	Trabajos de grupos
		2009/8/18 y 19	25	3. El papel del promotor en el 4. El promotor experimentador				
	KAIZEN	2009/8/25 y 26	13	1. ¿Qué es KAIZEN?	Ing. Jossué Brenes (Asesor del Proyecto)	Datashow, Computador, Tarjeta de color, pizarra acrílica	Documento de KAIZEN elaborado para promotores	Trabajos de grupos
		2009/8/8 y 9	28	2. Aplicación del mejoramiento de vida.				
II. Agricultura orgánica	Generalidades de la agricultura orgánica	2009/9/29 y 30	24	1. Introducción y generalidades a la 2. Aprovechamiento de los recursos locales 3. Transgénicos	Téc. Limborth Bucardo (Asesor del Proyecto)	Datashow, Computadora, pizorra, papelografos, Marcadores, Tarjetas de colores	Manual práctico de agricultura orgánica	Trabajo Práctico
		2009/10/13 y 14	15					
	Abonos orgánicos	2009/10/27 y 28	18	1. Abono tipo compost 2. Abono tipo Bokashi	Téc. Limborth Bucardo	Materiales y herramientas de trabajo, Molino, Casaca de arroz, Cal, ceniza, carbón, Levadura, Leche, Semillas, Estiércol, Bidones	Manual de Abono Orgánico	Recolección y preparación de microorganismos de montaña Preparación de abonos sólidos Preparación de abonos líquidos Preparación de inoculados orgánicos Preparación de fungicidas orgánicos
		2009/11/25 y 26	14	3. Abono biofertilizante				
III. Cultivos tropicales	Nutrición y Economía Familiar	2009/12/2 y 3	22	1. Higiene de los alimentos 2. Cuadras de los alimentos 3. Desnutrición 4. Análisis, diseño, establecimiento y 5. Cuido de aves de corral 6. Proceso de deshidratación de	Lic. Marjilo Coleman Experta Médica del Mundo Ing. Jossué Brenes Asesor del Proyecto	Papelografos Marcadores, Papel blanco Pc Rompe cabezas escolares y proyector Equipos y materiales agrícolas. Tarjetas de colores	Folleto Folleto Guías técnicas	Elaboración de un sistema de huerto integral
		2009/12/15 y 16	11	7. Planificación de la economía familiar 8. Técnicas para agregar valor				
Otras actividades	Fogones mejorados	Febrero 2009	75	Elaboración de Fogones mejorados en las comunidades de: Kíngoa, Kuniuil, Sumubila y Salsipin	Téc. Kellin Reyes La Cruz Rojas	Materiales de construcción: Barro, Conchas Paja seca Estiércol de caballo	Folleto Kubus Raya Pasikala Sualkanka	Trabajo Práctico

Handwritten mark

Capacitación para 2do grupo de promotores

Modulo	Contenido	Fecha	Participante			Territorio	
			M	F	T		
Desarrollo Rural	Motivacion y Organizacion	2010/7/9	11	6	17	Tasba Pri	
	Motivacion y Organizacion	2010/7/18	4	10	14	Llano Norte	
	Motivacion y Organizacion	2010/7/30	12	5	17	Tasba Pri, Llano Sur	
	Motivacion y Organizacion	2010/7/16	9	6	15	Llano Norte	
	Motivacion y Organizacion	2010/8/5	9	3	12	Llano Norte	
	Motivacion y Organizacion	2010/9/1	14	8	22	Tasba Pri	
	Motivacion y Organizacion	2010/12/17	13	11	24	Llano Norte	
	Motivacion y Organizacion	2010/12/18	13	11	24	Llano Norte	
	Motivacion y Organizacion	2011/3/22	12	5	17	Llano Sur	
	Motivacion y Organizacion	2011/3/23	11	4	15	Llano Sur	
	Motivacion y Organizacion	2011/3/30	12	5	17	Tasba Pri	
	Motivacion y Organizacion	2011/3/31	12	5	17	Tasba Pri	
	Motivacion y Organizacion	2011/5/18	15	5	20	Tasba Pri, Llano Sur	
	Motivacion y Organizacion	2011/5/21	8	14	22	Llano Norte	
	Mejoramiento de vida(Katzen)	2011/3/16	13	12	25	Llano Sur	
	Mejoramiento de vida(Katzen)	2011/4/5	7	11	18	Tasba Pri	
	Mejoramiento de vida(Katzen)	2011/4/14	15	3	18	Llano Sur	
	Mapa de recursos	2010/9/2	16	10	26	Llano Norte	
	Mapa de recursos	2010/9/17	9	8	17	Llano norte	
	Mapa de recursos	2010/9/29	15	9	25	Llano Norte	
	Mapa de recursos	2011/1/1	12	4	16	Tasba Pri	
	Mapa Futuro	2010/10/21	8	8	16	Llano Sur	
	Mapa Futuro	2010/10/26	12	11	23	Tasba Pri	
	Mapa Futuro	2010/10/27	8	10	18	Llano sur	
	Mapa Futuro	2010/10/28	12	16	28	Llano Sur	
	Mapa Futuro	2010/10/28	13	14	27	Llano Norte	
	Elaboracion del plan anual	2010/11/24	9	13	22	Tasba Pri	
	Elaboracion del plan anual	2010/12/11	14	12	26	Llano Norte	
	Promotoria Comunitario	2010/11/25	13	1	14	Llano Norte	
	Promotoria Comunitario	2010/11/25	12	11	23	Llano Norte	
	Promotoria Comunitario	2011/3/10	10	6	16	Llano Sur	
	Promotoria Comunitario	2011/3/17	8	7	15	Tasba Pri	
	Genero y la comunidad	2011/3/25	10	14	24	Llano Norte	
	Genero y la comunidad	2011/4/8	10	5	15	Tasba Pri	
	Genero y la comunidad	2011/4/16	15	5	20	Llano Sur	
	Agricultura organica	Abono Organico	2011/5/5	11	7	18	Tasba Pri
		Abono Organico	2011/5/6	11	10	21	Tasba Pri
		Abono Organico	2011/5/12	5	20	25	Llano Norte
		Abono Organico	2011/5/13	5	20	25	Llano Norte
		Sistema de Agroforestacion	2011/6/29	6	11	17	Llano Norte
		Sistema de Agroforestacion	2011/6/30	7	7	14	Llano Sur
		Post cosecha	2011/7/14	8	2	10	Llano Norte
		Vivero y plantacon	2011/7/20	8	5	13	Llano Sur
	Vivero y plantacon	2011/7/21	4	6	10	Tasba Pri	
					0		
	Total	40	462	376	838		
	Promedio		12	9.4	21		
Intercambio de experiencia, Día del Campo etc.	melinocultura	2010/12/15	13	1	14	Llano Sur	
	Asamblea General	2010/10/7	32	15	47	3 Territorio	
	Bomba Arlete	2011/3/24	17	3	20	Llano Sur	
	Vinje a INTA Cebaco	2011/3/23	15	15	30	Norte	
	Sub total		77	34	111		
	Total		539	410	949		

Anexo 3-4. Donación de equipos y el estado de mantenimiento

Donación de equipos y el estado de mantenimiento							
Año	No.	Detalle de equipos	Precio en US\$	Cantidad	Total	Uso	Mantenimiento
2008	1	Vehicle, TOYOTA, HILUX, Doble Cabine, Model 2009	26,646.00	1	26,646.00	A	A
2008	2	Motorcycle, YAMAHA, AG 200	3,565.21	2	7,130.42	A	A
2008	3	Personnel computer; Lap-top, Acer Aspire 4720Z	1,127.00	2	2,254.00	A	A
2008	4	Foto Copiador, ZEREX, WorkCenter 4150	4,500.00	1	4,500.00	A	A
2009	5	Mini Bus, TOYOTA, HIACE, Motor 3000c.c., 89HP, Model 2010	23,950.00	1	23,950.00	A	A
2009	6	Motorcycle, HONDA, CTX200	2,700.00	2	5,400.00	A	A
2009	7	Personnel computer; Lap-top, DELL, Vostro 1520	840.00	2	1,680.00	A	A
				Total	40,530.42		
<Frecuencia del uso> A: todos los días, B: semanal, C: de vez en cuando <Estado de mantenimiento> A: buena, B: se requiere reparación, C: averiado							

Anexo 3-5. Costos locales asumidos (por la parte japonesa y la nicaragüense)

Fondo del Japon

			Cordova	Yenes	US\$
Proyecto de JICA	Feb. 2008	a Mar. 2008	0.00	0.00	
	Abr. 2008	a Mar. 2009	566,213.40	0.00	70,325.18
	Abr. 2009	a Mar. 2010	1,593,796.29	0.00	59,574.25
	Abr. 2010	a Mar. 2011	1,668,435.70	0.00	35,769.56
	Abr. 2011	a Jul. 2011	436,462.60	0.00	16,554.02
総額			4,254,907.99	0.00	182,223.01

Fondo de Nicaragua

			Cordova	Yenes	US\$
Alcaldía de Puerto Cabezas	Feb. 2008	a Dic. 2008			3,700.00
	Ene. 2009	a Dic. 2009			2,563.12
	Ene. 2010	a Dic. 2010	6,400.00		5,600.00
	Ene. 2011	a Jul. 2011	1,500.00		3,266.00
	Sub Total			7,900.00	0.00
BICU-CUMA	Feb. 2008	a Dic. 2008			8,349.36
	Ene. 2009	a Dic. 2009			17,212.83
	Ene. 2010	a Dic. 2010			4,000.00
	Ene. 2011	a Jul. 2011			2,300.00
	Sub Total			0.00	0.00
URACCAN	Feb. 2008	a Dic. 2008			1,800.00
	Ene. 2009	a Dic. 2009			2,160.00
	Ene. 2010	a Dic. 2010			2,640.00
	Ene. 2011	a Jul. 2011			1,540.00
	Sub Total			0.00	0.00
PanPana	Feb. 2008	a Dic. 2008			500.00
	Ene. 2009	a Dic. 2009			500.00
	Ene. 2010	a Dic. 2010			0.00
	Ene. 2011	a Jul. 2011			1,165.00
	Sub Total			0.00	0.00
Total			7,900.00	0.00	57,296.31

Handwritten initials and marks at the bottom right of the page.

3-6 Lista de asignación de contrapartes nicaragüenses

Fondo de Nicaragua		Cordoba	Yenes	US Dolares	備考
Alcaldia de Puerto Cabezas	febrero 08-diciembre 08			3,700.00	
	enero 09-diciembre 09			2,563.12	
	enero 10-diciembre 10	6,400.00		5,600.00	
	enero 11-julio 11	1,500.00		3,266.00	
	Sub total	7,900.00	0.00	15,129.12	
BICU-CUMA	febrero 08-diciembre 08			8,349.36	
	enero 09-diciembre 09			17,212.83	
	enero 10-diciembre 10			4,000.00	
	enero 11-julio 11			2,300.00	
	Sub total	0.00	0.00	31,862.19	
URACCAN	febrero 08-diciembre 08			1,800.00	
	enero 09-diciembre 09			2,160.00	
	enero 10-diciembre 10			2,640.00	
	enero 11-julio 11			1,540.00	
	Sub total	0.00	0.00	8,140.00	
PanPana	febrero 08-diciembre 08			500.00	
	enero 09-diciembre 09			500.00	
	enero 10-diciembre 10			0.00	
	enero 11-julio 11			1,165.00	
	Sub total	0.00	0.00	2,165.00	
Total		7,900.00	0.00	57,296.31	

Anexo 4 Numero de los extensionistas capacitados y su área

	Pto. Cabezas		Otros		Certificado	Total
	Certificado	Total	Certificado	Total		
GOBIERNO NACIONAL	8	13	0	0	8	13
MAGFOR	6	7			6	7
INAFOR	2	2			2	2
MERENA	0	2			0	2
GRAAN	0	2			0	2
ALCALDIA	1	4	0	0	1	4
ACADEMICO	8	11	1	0	9	12
BICU-CIUM	2	4	1		3	5
URACCAN	6	7			6	7
ONG	6	11	1	1	7	13
AIKUKIWAL	1	1			1	1
ADSIM	0	0	1		1	1
PANA PANA	5	5			5	5
PLAN – NIC.	0	1			0	1
A.MC.	0	1			0	1
CMG-BSF	0	1			0	1
Cruz Roja	0	0		1	0	1
FAO	0	1			0	1
MI FAMILIA	0	1			0	1
TOTAL	23	39	2	1	25	42

Fuente : Información de Proyecto Sep. 2011

Extensionista Certificada por CDR indica los extensionistas que participan la capacitación de Extensionistas del Proyecto más de 80 % de asistencia y otra Certificado del Extensionistas del CDR noviembre del 2011.




Anexo 5 Número de promotores de productores y grupos modelo por comunidad

(1) Promotores del 1er grupo

Territorio	Comunidad	Cantidad de Promotores	Grupo modelo
Llano Norte	Kuakul	6	26
	Tuapi	5	17
Llano Sur	Klingna	6	25
	Sukatpin	5	25
	Lapan	5	15
Tasba Pri	Truslaya	4	15
	Sumbila	4	30
	Nazareth	4	23
Total	8	39	176

(2) Promotores del 2do grupo

Territorio	Comunidad	Cantidad de promotores
Llano Norte	Sangnilaya	5
	Il Tara	3
	Panua	4
	Butku	5
	Auhya Pihni	7
	Auhya Tara	5
Llano Sur	Betania	4
	Km43	6
	Km51	8
	Maniwatla	5
Tasba Pri	Empalme de columbus	5
	San Pablo	5
	San Miguel	2
	Kuakuil II	6
	Naranjal	4
Total	15	74

Fuente : Informe del Proyecto (Septiembre, 2011)

Nota : Indica la cantidad de promotores ultimo por la visita de las comunidades.

Handwritten signatures and initials are present on the right side of the page, including a large signature at the top right, a signature in the middle right, and initials at the bottom right.

Anexo 6 Borrador de la PDM modificada (ver.3)

Proyecto de Mejoramiento del Nivel de la Vida a través del Fortalecimiento de la Producción Agropecuaria de las Comunidades Indígenas y Étnicas de Puerto Cabezas en Nicaragua

~~PDM revisado el 23 de Septiembre 2011~~

Periodo del Proyecto: Febrero de 2008 – Febrero de ~~2011~~ años

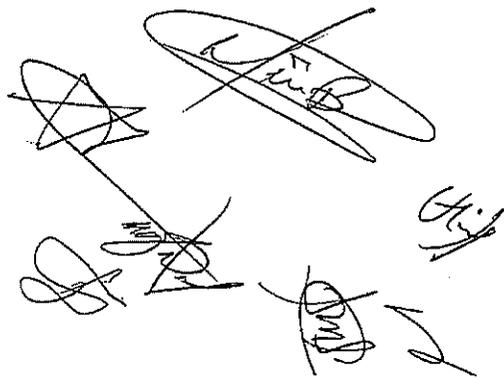
Área de impacto: tres territorios del Municipio de Puerto Cabezas (Llano Norte, Llano Sur, Tasba Pri),

Grupo enfocado: Pequeños productores del área de impacto del Proyecto. (500 familias)

Resumen del Proyecto	Indicadores	Medios de Verificación	Condiciones Externas
<p>(Objetivo superior)</p> <p>1. El nivel de vida de los productores en el Municipio de Puerto Cabezas se mejora a través de la difusión agrícola establecida por los grupos modelo.</p> <p>2. Las actividades de difusión agrícola se extienden a las áreas indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas.</p>	<p>Antes del año 2017,</p> <p>1-1 El plan del Comité de Desarrollo Rural se revisa periódicamente y se ejecuta.</p> <p>1-2 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas aplican las tecnologías introducidas por el Proyecto.</p> <p>1-3 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas aplican la producción de los principales cultivos (arroz, frijoles, cultivos de raíces y tubérculos) etc.</p> <p>1-4 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas introducen más de 3 nuevos productos agrícolas (diversificación de cultivos)</p> <p>1-5 En todo el municipio de Puerto Cabezas el sistema de divulgación de mejoramiento de vida funciona apropiadamente.</p> <p>2-1 Cada año, se realiza el intercambio de productores de comunidades indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas, en los 3 municipios colindantes.</p>	<p>Informe sobre la encuesta por muestreo.</p> <p>Informe anual de actividades de las universidades</p>	
<p>(Objetivo del Proyecto)</p> <p>Se mejora el nivel de vida de los productores de los grupos modelo.</p>	<p>Antes de febrero del 2011,</p> <p>1. El 50% de los productores modelo introdujeron las tecnologías agrícolas apropiadas para la zona a través de la capacitación de los principales cultivos.</p> <p>2. El 50% de los productores modelo introdujeron más de 3 nuevos productos agrícolas diversificados en cultivos.</p> <p>3. El 50% de los productores modelo están aplicando sosteniblemente lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.</p>	<p>Informe de estudio por el Proyecto</p> <p>Informe del Proyecto</p> <p>Informe de monitoreo</p>	<ul style="list-style-type: none"> • No hay caída repentina de precios. • No hay alza de precios de los equipos y materiales a suministrar o incremento de gastos operativos. • No hay epidemias de enfermedades contagiosas de cultivo y ganado. • No hay desastres naturales de gran escala.
<p>(Resultados del Proyecto)</p> <p>1) El Comité de Desarrollo Rural ha funcionado de acuerdo a su reglamento y Plan Estratégico del CD</p>	<p>1-1. Número del personal contraparte</p> <p>1-2. Presupuesto proyectado y ejecutado para los gastos operativos del Proyecto.</p>	<p>Informes vinculados al Proyecto</p>	<p>No hay cambio en las políticas de la Alcaldía en cuanto a</p>

<p>2) Los productores del grupo modelo han introducido las técnicas impartidas.</p> <p>3) El Comité de Desarrollo Rural ha establecido el mecanismo para ejecutar de manera sostenible las actividades de extensión agrícola.</p>	<p>1-3. Número de celebración del Comité Conjunto de Coordinación y del Comité de Desarrollo Rural.</p> <p>2-1 Numero de promotores capacitados (100 promotores en 20 comunidades X 5 promotores.)</p> <p>2-2 Numero de los grupos modelos de productores seleccionados.(20 grupos y 500 productores.)</p> <p>2-3 El 50% del grupo de productores modelo aplican técnicas y métodos para mejorar la productividad.</p> <p>2-4 Más del 50% de productores modelo aplican lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.</p> <p>3-1 Se asegura la ejecución del programa de extensión agrícola sostenible en las comunidades seleccionadas.</p> <p>3-2 Se asegura la financiación para ejecutar el "Programa" arriba mencionado.</p>	<p>Informe del Proyecto</p> <p>Informe de monitoreo</p> <p>Programa de extensión agrícola sostenible</p> <p>Entrevistas a los integrantes del Comité de Desarrollo rural.</p>	<p>la extensión agrícola.</p> <p>No hay cambio frecuente de extensionistas y productores del grupo modelo.</p>
<p>(Actividades del Proyecto)</p> <p>1-1. Elaborar un plan anual de actividades del Comité de Desarrollo Rural.</p> <p>1-2. Conformar un equipo técnico para la ejecución del Proyecto(Contrapartes y extensionistas).</p> <p>1-3. Elaborar un plan anual de actividades del Comité de Desarrollo Rural.</p> <p>1-4. Realizar estudios sobre la producción y analizar los resultados junto con los productores.</p> <p>1-5. Seleccionar los promotores y los grupos modelos de productores junto con los comunitarios.</p> <p>2-1 Establecer fincas demostrativas del Consejo de Desarrollo Rural.</p> <p>2-2 El equipo técnico del Proyecto ejecuta las capacitaciones para los promotores.</p> <p>2-3 Proporcionar asistencia técnica a los promotores en sus fincas por el equipo técnico (técnicos extensionistas).</p> <p>2-4 Coordinar apoyo por parte del equipo técnico a las actividades agropecuarias que los promotores realizan.</p> <p>2-5 Proporcionar asistencia técnica a los productores del grupo modelo por el equipo técnico y los promotores.</p> <p>2-6 Proporcionar asistencia técnica a los productores que</p>	<p>(Aportaciones)</p> <p>(Parte japonesa)</p> <p>1. Envío de expertos</p> <p>Expertos a largo plazo:</p> <p>Un (1) responsable de organización de extensión agrícola/manejo de finca (jefe, por 2 años)</p> <p>Un (1) responsable de Capacitación de extensión agrícola/manejo de finca (jefe, por 2 años)</p> <p>Un (1) Responsable de coordinación/capacitación (por 2 años).</p> <p>Un (1) Responsable de coordinación del Proyecto (por 2 años)</p> <p>Expertos a corto plazo de acuerdo a la necesidad</p> <p>2. Capacitación del personal contraparte</p> <p>3. Suministro de equipos y materiales (camioneta de tina/motocicleta/computadora)</p> <p>(Parte nicaragüense)</p> <p>1. Suministro de instalaciones y equipos (terrenos para establecer finca y aulas para capacitación)</p> <p>2. Asignación del personal contraparte</p> <p>Financiamiento de los gastos corrientes necesarios para la implementación del Proyecto.</p>		<p>La situación de la seguridad de los territorios beneficiarios del Proyecto está relativamente estable al grado de no afectar las actividades del mismo</p> <p>Los grupos de productores acordaron participar en el Proyecto de manera organizada.</p>

<p>no son miembros del grupo modelo por los extensionistas junto con el grupo modelo.</p> <p>2-7 Coordinar apoyo por parte del equipo técnico para realizar reuniones de intercambio en experiencias entre productores organizados de otras comunidades y el grupo modelo.</p> <p>3-1 El Comité de Desarrollo Rural(CDR) define claramente el rol de los extensionistas y promotores dentro del "Programa de Extensión Agrícola Sostenible"</p> <p>3-2 El CDR referente al "Programa de Extensión" arriba mencionado y su correlación con los extensionistas, delibera y obtiene consenso con las instituciones, a las que pertenecen estos extensionistas.</p> <p>3-3 El CDR formula "Programa de Extensión" arriba mencionado y ejecuta a través de los promotores y extensionistas.</p> <p>3-4 Publicar materiales didácticos para la capacitación, y guías para la extensión en el Comité de Desarrollo Rural</p> <p>3-5 El CDR promueve las actividades del Programa de Extensión arriba mencionado.</p> <p>3-6 El CDR realiza labores públicas sobre actividades del Programa de Extensión en las entidades relacionadas.</p>			
		<p>(Condición Previa) Se estableció el reglamento del Comité de Desarrollo Rural y los miembros distribuyen las responsabilidades</p>	



Handwritten signatures and initials, including a large signature at the top, a signature with a star-like mark on the left, and several initials and smaller signatures at the bottom.

PDM (ver.2)

ニカラグア国 プエルトカベサス先住民コミュニティ生計向上計画(PDM ver.2)(2010年6月)

実施期間:2008年2月～2012年2月(4年間)

対象地域:プエルトカベサス市内プロジェクト対象3地域(Llano Sur, Llano Norte, Tasba Pri)

ターゲット・グループ:プロジェクト対象地域の小規模農民(500家族)

プロジェクトの要約	指標	指標の入手手段	外部条件
<p>[上位目標]</p> <p>1. モデル農民グループで確立した農業の普及により、プエルトカベサス市全体において、農民の生計(生活水準)が向上する。</p> <p>2. プエルトカベサス市以外の先住民自治地域へ、農業普及活動が波及する。</p>	<p>2017年までに、</p> <p>1-1. 農村開発委員会の活動計画が定期的に見直され実施される。</p> <p>1-2. プエルトカベサス市内の50コミュニティにおける小規模農民の1500名が、プロジェクトにより導入された技術を適用する。</p> <p>1-3. プエルトカベサス市内の50コミュニティにおいて、プロジェクトにより導入された技術により主要作物(イネ、根菜類)の単位面積当たりの収量が向上し、余剰生産が30%増加する。</p> <p>1-4. プエルトカベサス市内の50コミュニティにおける小規模農民の1500名が、新たに3作物またはそれ以上を新規に導入する。</p> <p>1-5. プエルトカベサス市全域で、生活改善に関する普及体制が機能している。</p> <p>2-1. プエルトカベサス市以外の先住民自治地域での農民交流会が毎年周辺3市で実施される。</p>	<p>サンプル調査報告書</p> <p>大学の年間活動報告</p>	
<p>[プロジェクト目標]</p> <p>モデル農民グループの生計(生活水準)が向上する。</p>	<p>2012年2月までに、</p> <p>1. モデル農民グループの50%が地域に適した技術を導入することにより主要産物の単位当たり収量が向上することで余剰生産が20%増加する。</p> <p>2. 「先行グループ」(第一チームで研修を受けた農民プロモーターとそのモデル農民グループ)の50%で農業生産性向上に関する技術や手法を「3収穫サイクル」以上導入している。</p> <p>3. モデル農民グループの50%が生活改善研修で学んだ内容を継続的に実践している。</p>	<p>プロジェクトによる調査報告書</p> <p>プロジェクト報告書</p> <p>モニタリング報告書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生産物の価格が急落しない ・関連する投入財や経費の価格が高騰しない ・農作物、牧畜に重大な伝染病が発生しない ・重大な自然災害が発生しない
<p>[成果]</p> <p>1)農村開発委員会が規約と役割分担に基づき機能している。</p> <p>2)モデル農民グループに普及された技術が導入されている。</p> <p>3)農村開発委員会の持続的な農業普及活動の実施体制が確立される。</p>	<p>1-1.カウンターパートが計画通りに配置される。</p> <p>1-2.プロジェクト運営予算が適正に確保され、執行される。</p> <p>1-3.委員会及び定例運営会議が適正な頻度で開催される。</p> <p>2-1.農民プロモーターが100名(20コミュニティ×5名)育成される。</p> <p>2-2.モデル農民グループが20コミュニティで選定される(20グループ約500名)。</p> <p>2-3.モデル農民グループの50%が農業生産性向上に関する技術や手法を実践している。</p> <p>2-4.モデル農民グループの50%以上が生活改善研修で学んだ内容を実践している。</p> <p>3-1.「持続的農業普及計画」を実施する普及員の数(50名)</p> <p>3-2.右普及計画を実行する予算源が確保される。</p>	<p>プロジェクト関連報告書、議事録、活動計画書、普及計画書</p> <p>プロジェクト報告書</p> <p>モニタリング報告書</p> <p>「持続的農業普及計画」</p> <p>農村開発委員会幹部へのインタビュー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業普及に関する市役所の方針が変わらない ・普及員および農民プロモーターが頻繁に変わらない

<p>[活動]</p> <p>1-1.農村開発委員会の規約と役割を明確にする。 1-2.農村開発委員会内にプロジェクト実施チーム(C/Pおよび普及員)を立ち上げる。 1-3.農村開発委員会の年間活動計画を立案する。 1-4.生産状況の調査・分析を農民とともに実施する。 1-5.コミュニティ自治組織とともに農民プロモーターおよびモデル農民グループを選定する。</p> <p>2-1.農村開発委員会の実証展示・研修圃場を設置する。 2-2.プロジェクト実施チームが、農民プロモーターに研修を実施する。 2-3.プロジェクト実施チームが農民プロモーターの圃場で技術指導を実施する。 2-4.プロジェクト実施チームは農民プロモーターの実践する営農活動を支援する。 2-5.プロジェクト実施チームと農民プロモーターはモデル農民グループに技術指導を実施する。 2-6.プロジェクト実施チームはモデル農民グループと共に、モデル農民グループ以外の農民も招いた研修を実施する。 2-7.プロジェクト実施チームはモデル農民グループによる農民交流会の開催を支援し、モデル農民グループおよび他コミュニティ農民との技術・情報交換を促進する。</p> <p>3-1.農村開発委員会が、「持続的農業普及計画」内における普及員、農民プロモーターの役割を明確化する。 3-2.農村開発委員会は、右普及計画に関わる普及員の所属先関係機関との協議、合意形成を図る。 3-3.農村開発委員会は、上記農業普及計画を策定し、農民プロモーターおよび普及員によって実施する。 3-4.農村開発委員会において、研修教材と普及ガイドラインを発行する。</p>	<p>[投入]</p> <p>日本側</p> <p>1.専門家派遣 長期:チーフアドバイザー／普及組織／営農 一名(2年) チーフアドバイザー／研修普及／営農 一名(2年) 業務調整／研修 一名(2年) 業務調整 一名(2年)</p> <p>2.C/P研修 3.機材供与:ピックアップトラック、オートバイ、パソコン</p> <p>ニカラグア側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの実施に必要な施設および設備の提供(実証展示研修圃場用地、研修室等) ・JICAの長期および短期専門家の指導分野に関連するバックグラウンドを持ち合わせた、必要なカウンターパートの配置 ・燃料費、事務用品費、普及経費、出張旅費を含むカウンターパート経費の確保 	<p>[前提条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村開発委員会の規約および役割分担が制定されている 	<p>対象地域の治安がプロジェクトの活動に影響を与えない程度に安定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農民グループが、組織的にプロジェクトへの参加に合意する
---	--	--	---

添付資料 6 改訂版 PDM (ver.3)案

ニカラグア国 プエルトカベサス先住民コミュニティ生計向上計画(PDM ver.3)(2011年9月)

実施期間:2008年2月~2013年2月(5年間)

対象地域:プエルトカベサス市内プロジェクト対象3地域(Llano Sur, Llano Norte, Tasba Pri)
ターゲット・グループ:プロジェクト対象地域の小規模農民(500家族)

プロジェクトの要約	指標	指標の入手手段	外部条件
<p>[上位目標]</p> <p>1. モデル農民グループで確立した農業の普及により、プエルトカベサス市全体において、農民の生計(生活水準)が向上する。</p> <p>2. プエルトカベサス市以外の先住民自治地域へ、農業普及活動が波及する。</p>	<p>2017年までに、</p> <p>1-1. 農村開発委員会の活動計画が定期的に見直され実施される。</p> <p>1-2. プエルトカベサス市内の50コミュニティにおける小規模農民の1500名が、プロジェクトにより導入された技術を適用する。</p> <p>1-3. プエルトカベサス市内の50コミュニティにおける小規模農民の1500名が、プロジェクトにより導入された技術により主要作物(イネ、豆、根菜類)の収量を増加させる。</p> <p>1-4. プエルトカベサス市内の50コミュニティにおける小規模農民の1500名が、新たに3作物またはそれ以上を新規に導入する。</p> <p>1-5. プエルトカベサス市全域で、生活改善に関する普及体制が機能している。</p> <p>2-1. プエルトカベサス市以外の先住民自治地域での農民交流会が毎年周辺3市で実施される。</p>	<p>サンプル調査報告書</p> <p>大学の年間活動報告</p>	
<p>[プロジェクト目標]</p> <p>モデル農民グループの生計(生活水準)が向上する。</p>	<p>2013年2月までに、</p> <p>1. モデル農民グループの50%が地域に適した技術を導入することにより主要作物の収量が増加する。</p> <p>2. モデル農民グループの50%が新たに3作物またはそれ以上を新規に導入する。</p> <p>3. モデル農民グループの50%が生活改善研修で学んだ内容を継続的に実践している。</p>	<p>プロジェクトによる調査報告書</p> <p>プロジェクト報告書</p> <p>モニタリング報告書</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生産物の価格が急落しない 関連する投入財や経費の価格が高騰しない 農作物、牧畜に重大な伝染病が発生しない 重大な自然災害が発生しない
<p>[成果]</p> <p>1) 農村開発委員会が規約と戦略計画に基づき機能している。</p> <p>2) モデル農民グループに普及された技術が導入されている。</p> <p>3) 農村開発委員会の持続的な農業普及活動の実施体制が確立される。</p>	<p>1-1. カウンターパートが計画通りに配置される。</p> <p>1-2. プロジェクト運営予算が適正に確保され、執行される。</p> <p>1-3. 委員会及び定例運営会議が適正な頻度で開催される。</p> <p>2-1. 農民プロモーターが100名(20コミュニティ×5名)育成される。</p> <p>2-2. モデル農民グループが20コミュニティで選定される(20グループ約500名)。</p> <p>2-3. モデル農民グループの50%が農業生産性向上に関する技術や手法を実践している。</p> <p>2-4. モデル農民グループの50%以上が生活改善研修で学んだ内容を実践している。</p> <p>3-1. カウンターパート機関以外の複数の機関が「持続的農業普及計画」を実施する。</p> <p>3-2. 右普及計画を実行する予算が確保される。</p>	<p>プロジェクト関連報告書、議事録、活動計画書、普及計画書</p> <p>プロジェクト報告書</p> <p>モニタリング報告書</p> <p>「持続的農業普及計画」 農村開発委員会幹部へのインタビュー</p>	<ul style="list-style-type: none"> 農業普及に関する市役所の方針が変わらない 普及員および農民プロモーターが頻繁に変わらない

<p>[活動]</p> <p>1-1.農村開発委員会の役割を明確にするために戦略計画を策定する。</p> <p>1-2.農村開発委員会内にプロジェクト実施チーム(C/P および普及員)を立ち上げる。</p> <p>1-3.農村開発委員会の年間活動計画を立案する。</p> <p>1-4.生産状況の調査・分析を農民とともに実施する。</p> <p>1-5.コミュニティ自治組織とともに農民プロモーターおよびモデル農民グループを選定する。</p> <p>2-1.農村開発委員会の実証展示・研修圃場を設置する。</p> <p>2-2.プロジェクト実施チームが、農民プロモーターに研修を実施する。</p> <p>2-3.プロジェクト実施チームが農民プロモーターの圃場で技術指導を実施する。</p> <p>2-4.プロジェクト実施チームは農民プロモーターの実践する営農活動を支援する。</p> <p>2-5.プロジェクト実施チームと農民プロモーターはモデル農民グループに技術指導を実施する。</p> <p>2-6.プロジェクト実施チームはモデル農民グループと共に、モデル農民グループ以外の農民も招いた研修を実施する。</p> <p>2-7.プロジェクト実施チームはモデル農民グループによる農民交流会の開催を支援し、モデル農民グループおよび他コミュニティ農民との技術・情報交換を促進する。</p> <p>3-1 農村開発委員会が、「持続的農業普及計画」内における普及員、農民プロモーターの役割を明確化する。</p> <p>3-2. 農村開発委員会は、右普及計画に関わる普及員の所属先関係機関との協議、合意形成を図る。</p> <p>3-3. 農村開発委員会は、上記農業普及計画を策定し、農民プロモーターおよび普及員によって実施する。</p> <p>3-4. 農村開発委員会において、研修教材と普及ガイドラインを発行する。</p> <p>3-5. 農村開発委員会は、上記農業普及計画の活動内容をモニタリングする。</p> <p>3-6. 農村開発委員会は、上記持続的農業普及計画の活動内容を関係機関に広報活動を実施する。</p>	<p>[投入]</p> <p>日本側</p> <p>1. 専門家派遣</p> <p>長期: チーフアドバイザー/普及組織/営農 一名(2年) チーフアドバイザー/研修普及/営農 一名(3年) 業務調整/研修 一名(2年) 業務調整 一名(3年)</p> <p>短期: 必要に応じ派遣</p> <p>2. C/P 研修</p> <p>3. 機材供与: ピックアップトラック、オートバイ、パソコン</p> <p>ニカラグア側</p> <p>・プロジェクトの実施に必要な施設および設備の提供(実証展示研修圃場用地、研修室等)</p> <p>・JICAの長期および短期専門家の指導分野に関連するバックグラウンドを持ち合わせた、必要なカウンターパートの配置</p> <p>・燃料費、事務用品費、普及経費、出張旅費を含むカウンターパート経費の確保</p>	<p>[前提条件]</p> <p>・農村開発委員会の規約および役割分担が制定されている</p>	<p>対象地域の治安がプロジェクトの活動に影響を与えない程度に安定している。</p> <p>・農民グループが、組織的にプロジェクトへの参加に合意する</p>
---	--	---	--

7. 投入実績

添付資料 7-1 専門家派遣実績

No.	氏名	指導科目	派遣期間
1	遠藤 又一	業務調整／研修	2008年2月27日 - 2010年2月26日
2	高橋 貞雄	チーフアドバイザー／普及組織・営農	2008年2月27日 - 2009年1月3日
3	高橋 貞雄	チーフアドバイザー／普及組織・営農	2009年2月23日 - 2010年2月14日
4	福岡 正行	業務調整	2010年2月11日 - 2010年12月16日
5	高橋 貞雄	チーフアドバイザー／普及組織・営農・研修	2010年3月13日 - 2010年12月11日
4	福岡 正行	業務調整	2011年2月9日 - 2011年9月20日
5	高橋 貞雄	チーフアドバイザー／普及組織・営農・研修	2011年2月15日 - 2011年9月20日

添付資料7-2 C/Pの本邦研修員受入実績

No.	氏名		所属先	職位		研修分野	研修内容及び受入機関	派遣期間
				派遣時	帰国後			
1	Wilford Davis German	ウィルフォード ディビス ヘル	BICU-CIUM大学	農学部教官	農学部教官	農村開発	住民参加型農村開発ネット ワーク運営・管理	12/01/2009 - 18/03/2009
2	Alexa Torrez Thomas	アレクサ トー レス トマス	URACCAN大学	プロジェクト専 従職員	農学部教官	農村開発	中南米地域農村部生活改善 を通じた女性のリーダー	18/01/2009 - 31/01/2009
3	Hemsly Francis	ヘムスリー フ ランシス	プエルトカベサ ス市役所（環境	プロジェクト専 従職員	プロジェクト専 従職員	農村開発	住民参加型農村開発ネット ワーク運営・管理	09/10/2010 - 10/12/2010
4	Elga Torres	エルガ トーレ ス	プエルトカベサ ス市役所（環境	プロジェクト専 従職員	プロジェクト専 従職員	農村開発	中南米地域資源を生かした 内発的経済開発A	03/01/2011 - 10/02/2011
5	Lucila Low Branco	ルシイラ ロー ブランコ	Pana Pana	理事長	理事長	農村開発	準高級研修：生活改善を通 じた農村開発	10/01/2011 - 25/01/2011
6	Limborth Bucardo G	リンボウ ブカ ルド	Pana Pana	プロジェクト専 従職員	プロジェクト専 従職員	農村開発	小規模農民支援有機農業技 術普及手法	24/05/2011 - 27/12/2011

※いずれも課題別研修への参加

添付資料7-3 普及員対象研修(2008-2009)

課題	テーマ	実施日	参加者数	学習計画	指導者	使用資機材	教材	実施内容
I. 農村開発序論	同期付けと組織化の方法	2008年11月15日	18	1.指導と知識として残る確立 2.指導の方法	Karla技師(INTA専門家)	カラーカード マジックペン ホワイトボード	同期付けと組織化の方法(3改訂版)	グループ学習
	KAIZEN(改善)	2008年11月28日	20	1.KAIZEN(改善)とは何か? 2.生活改善への応用	Jossué Brenes技師(現地契約コンサル)	カード、筆記用具、プロジェクター	「Kaizen」	グループ学習
	プロジェクトマネージメント -PCM -PDM	2008年11月21日 ~22日 2008年12月5日 ~06日	18	1.PCMの描き方 2.立案	Jossué Brenes技師(現地契約コンサル)	カード、筆記用具、プロジェクター	PCM と PDM の資料	参考計画の評価
	地域参加者の評価	2010年11月29日	23	1.地域参加者の評価の基礎 2.地域参加者の評価項目	Margarita Mungula 技師(現地契約コンサル)	PC、カラーカード、マジック、プロジェクター	DRP 資料	グループ学習
II. 有機農業	有機農業の基礎	2009年5月8日 ~9日 2009年5月15日 ~16日	37 26	1.有機農業の概論 2.土壌分析 3.農地の改良 4.遺伝子組替	Limborth Bucardo 技師(現地契約コンサル)	PC、カラーカード、マジック、プロジェクター	有機農業者のパンフレット	現地学習
	有機肥料	2009/6/12 ~13日 2009/6/7 ~8日	21 26	1.コンポスト 2.ボカシ 3.有機液肥	Limborth Bucardo 技師(現地契約コンサル)	使用材料:液糞、切藁、石灰、灰、炭、酵母菌、牛乳、米ぬか、牛糞、容器	有機肥料のパンフレット	1.自生の有用菌の採集 2.確実な肥料の準備 3.確実な液肥 4.有機忌避剤 5.有機追肥
	有機分解	2009年7月17日 ~18日	25	1.微生物の活動 2.微生物の要約 3.原理	Jossué Brenes 技師(現地契約コンサル)	プロジェクター、バケツ、ホース、PVC配管、牛糞	技術指導書参照	原理の検証
III. 熱帯作物	バナナ栽培	2009年9月16日	13	1.バナナ栽培の基礎 2.安定的なバナナ栽培の方法	Sandra Segura 技師(BICU大学教授)	PC、プロジェクター	栽培指導書	
	熱帯果樹栽培	2009年8月28日 ~29日	20	1.熱帯果樹栽培の土壌の基礎 2.熱帯果樹の管理方法 3.熱帯果樹の有効利用 4.熱帯果樹の種子の選択方法	Jossué Brenes 技師(現地契約コンサル)	プロジェクター、黒板	熱帯果樹栽培指導書	種子の選択方法と外斤と病気の見分け方
IV. 主要作物	フリフォル豆の栽培	2009年12月12日 ~13日	21	1.フリフォル豆栽培の基礎 2.フリフォル豆の栽培技術向上とじか採取種子の改良	Noel Eduarte 技師, Julio Molina 技師(INTA 専門家)	プロジェクター、PC、黒板	技術指導書参照	

備考:

1. 12名の技術普及員(内3名はプロジェクトのC/P)はコスタリカEARTH大学の、熱帯雨林農業講座の有機農業、熱帯農業、牧畜と林業管理の講座に2009年2月9日から、3月9日まで参加した。

2. BICU-CIUM 大学とURACCAN大学の40名の学生が、2009年6月3日、4日と有機農業の講座に参加した。

添付資料7-3 普及員研修(2010-2011)

テーマ	実施日	参加者数	学習計画	指導者	使用資機材	教材	実施内容
動機付けと相乗効果	2010年10月20日 ～21日	25	組織強化	野原専門家	ホワイトボード	動機付けと組織化の方法(3改訂版)	グループ学習
新しい農業技術	2010年11月30日	20	農業技術	INTA-JICA 操専門家、岡林専門家	プロジェクター、PC、ホワイトボード	INTA発行の技術紹介パンフレット	講習と体験学習
針なし蜂の基礎	2010年12月17日 ～18日	25	生活改善	Jose Marti講師	プロジェクター、PC、ホワイトボード		グループ学習
針なし蜂の飼育現状報告	2011年4月16日	13	生活改善	Jose Marti講師	PC、プロジェクター	現地調査報告書	報告会
普及員の認定式と基調講演	2011年5月12日	28	組織強化	野原専門家	プロジェクター、PC、黒板	動機付けと組織化の方法(3改訂版)	グループ学習

添付資料7-3 農民プロモーター研修(第1グループ)

課題	テーマ	実施日	参加者数	学習計画	指導者	使用資機材	教材	実施内容
I. 地域開発の基礎	地域プロモーターの活動 Metodología de motivación y Organización	2009年7月14日 ～15日	15	1. プロモーターの活動 2. 地域プロモーター	Margarita Mungula 技術者(現地契約コンサル)	マジック、厚紙、ホワイトボード、資料、カラー用紙	能力開発の計画と指導	グループ活動
		2009年8月18日 ～19日	25	3. 各地区のプロモーターの活動計画 4. 経験をつんだプロモーター				
	改善 KAIZEN	2009年8月25日 ～26日	13	1. kaizen(改善)とは何か	Jossué Brenes 技術者(現地契約コンサル)	プロジェクター、CP、色紙、ホワイトボード	プロモーターへのKAIZEN普及書	グループ活動
		2009年8月8日 ～9日	28	2. 生活改善への応用方法				
II. 有機農業	有機農業の基礎	2009年9月29日 ～30日	24	1. 有機農業の入門 2. 地域での講習の活用方法(廃棄物の利用)	Limborth Bucardo 技術者(現地契約コンサル)	プロジェクター、CP、マジック、厚紙、ホワイトボード、資料、カラー用紙	Manual práctico de agricultura organica	実地研修
		2009年10月13日 ～14日	15	3. 遺伝子組み換え				
	有機肥料	2009年10月27日 ～28日	18	1. コンポスト 2. ボカシ	Limborth Bucardo 技術者(現地契約コンサル)	使用材料: 液糖、籾殻、石灰、灰、炭、酵母菌、牛乳、米ぬか、牛糞、容器	有機肥料のパンフレット	1. 自生の有用菌の採集 2. 確実な肥料の準備 3. 確実な液肥 4. 有機忌避在 5. 有機追肥
		2009年11月25日 ～26日	14	3. 有機液肥				
III. 熱帯農業	栄養と家庭経済	2009年12月2日 ～3日	22	1. 食品衛生 2. 食品の品質 3. 栄養失調 4. 家庭菜園の設計、計画 5. 油料理の注意 6. 乾燥食品	Marilú Coleman 有資格者 Experta Médicos del Mundo Limborth Bucardo 技術者(現地契約コンサル)	グラフ用紙、マジック、コピー用紙 PC、教育用パズル、プロジェクター	パンフレット	果樹栽培の総合開発
		2009年12月15日 ～16日	11	7. 家庭経済計画 8. 余剰作物の市場での販売方法		農業用機材 カラーカード	パンフレット 技術指導書	
V. その他の活動	改良かまどの普及	2009年2月	75	改良かまどの普及活動を以下の地区で行った Klingna, Kuakul, Sumubila, y Sukatrain	Ketlin Reyes 技術者(赤十字)	使用資機材 泥、灰、籾殻、馬糞	パンフレット Kubus Raya Paskaja	実地研修

添付資料7-3 農民プロモーター研修(第2グループ)

課題	テーマ	実施日	参加者数			地区	
			M	F	T		
地域開発の基礎	Motivacion y	動機付けと組織	2010/7/9	11	6	17	Tasba Pri
	Motivacion y	動機付けと組織	2010/7/18	4	10	14	llano norte
	Motivacion y	動機付けと組織	2010/7/30	12	5	17	Tasba Pri, Llano Sur
	Organizacion	動機付けと組織	2010/7/16	9	6	15	llano norte
	Motivacion y	動機付けと組織	2010/8/5	9	3	12	llano norte
	Motivacion y	動機付けと組織	2010/9/1	14	8	22	Tasba Pri
	Motivacion y	動機付けと組織	2010/12/17	13	11	24	Llano Norte
	Organizacion	動機付けと組織	2010/12/18	13	11	24	Llano Norte
	Motivacion y	動機付けと組織	2011/3/22	12	5	17	Llano Sur
	Organizacion	動機付けと組織	2011/3/23	11	4	15	Llano Sur
	Motivacion y	動機付けと組織	2011/3/30	12	5	17	Tasba Pri
	Motivacion y	動機付けと組織	2011/3/31	12	5	17	Tasba Pri
	Organizacion	動機付けと組織	2011/5/18	15	5	20	Tasba Pri, Llano Sur
	Motivacion y	動機付けと組織	2011/5/21	8	14	22	Llano Norte
	mejoramiento de vida	生活改善	2011/3/16	13	12	25	Llano Sur
	mejoramiento de vida	生活改善	2011/4/5	7	11	18	Tasba Pri
	mejoramiento de vida	生活改善	2011/4/14	15	3	18	Llano Sur
	Mapa de recursos	現在地図	2010/9/2	16	10	26	Llano Norte
	Mapa de recursos	現在地図	2010/9/17	9	8	17	Llano norte
	Mapa de recursos	現在地図	2010/9/29	16	9	25	Llano Norte
	Mapa de recursos	現在地図	2011/1/1	12	4	16	Tasba Pri
	Mapa Futuro	未来地図	2010/10/21	8	8	16	Llano Sur
	Mapa Futuro	未来地図	2010/10/26	12	11	23	Tasba Pri
	Mapa Futuro	未来地図	2010/10/27	8	10	18	Llano sur
	Mapa Futuro	未来地図	2010/10/28	12	16	28	Llano Sur
	Mapa Futuro	未来地図	2010/10/28	13	14	27	Llano Norte
	Elaboracion del plan	年間計画作り	2010/11/24	9	13	22	Tasba Pri
	Elaboracion del plan	年間計画作り	2010/12/11	14	12	26	Llano Norte
	Promptoria Comunitario	農民プロモーターの役割	2010/11/25	13	1	14	no
	Promptoria Comunitario	農民プロモーターの役割	2010/11/25	12	11	23	Llano Norte
	Promptoria Comunitario	農民プロモーターの役割	2011/3/10	10	6	16	Llano Sur
	Promptoria Comunitario	農民プロモーターの役割	2011/3/17	8	7	15	Tasba Pri
	Genero y la comunidad	ジェンダーと地域	2011/3/25	10	14	24	Llano Norte
Genero y la comunidad	ジェンダーと地域	2011/4/8	10	5	15	Tasba Pri	
Genero y la comunidad	ジェンダーと地域	2011/4/15	15	5	20	Llano Sur	
有機農業の基礎	Abono Organico	堆肥づくり	2011/5/5	11	7	18	Tasba Pri
	Abono Organico	堆肥づくり	2011/5/6	11	10	21	Tasba Pri
	Abono Organico	堆肥づくり	2011/5/12	5	20	25	Llano Norte
	Abono Organico	堆肥づくり	2011/5/13	5	20	25	Llano Norte
	Sistema de Agroforestacion	農林業の基礎	2011/6/29	6	11	17	Llano Norte
	Sistema de post cosecha	農林業の基礎	2011/6/30	7	7	14	Llano Sur
	vivero y plantacon	収穫	2011/7/14	8	2	10	Llano Norte
	vivero y plantacon	育苗床と植付	2011/7/20	8	5	13	Llano Sur
	vivero y plantacon	育苗床と植付	2011/7/21	4	6	10	Tasba Pri
						0	
一般講習会			40	462	376	838	
1回平均				12	9.4	21	

農民交流会・総会・その他の活動	meliponicultura	蜂の飼育方法	2010/12/15	13	1	14	Llano Sur
	Asamblea General	総会	2010/10/7	32	15	47	全城
	Bomba Ariete	農民交流会(水撃ポンプ)	2011/3/24	17	3	20	Llano Sur
	Viaje a INTA Cebaco	修	2011/3/23	15	15	30	Sur,Llano Norte
					77	34	111
				539	410	949	

添付資料7-4 供与機材実績、維持管理状態

購入年	No.	機材名称	価格(米ドル)	数量	合計	利用 頻度	管理 状況
2008	1	車両, トヨタ ハイラックス Pick-Up 2008年型	26,646.00	1	26,646.00	A	A
2008	2	自動二輪車, YAMAHA, AG 200	3,565.21	2	7,130.42	A	A
2008	3	ノートパソコン; Lap-top, Acer Aspire 4720Z	1,127.00	2	2,254.00	A	A
2008	4	レーザープリンター, ZEROX, WorkCenter 4150	4,500.00	1	4,500.00	A	A
2009	5	ミニバス, TOYOTA, HIACE, Motor 3000c.c., 89HP, Model 2010	23,950.00	1	23,950.00	A	A
2009	6	自動二輪車, HONDA, CTX200	2,700.00	2	5,400.00	A	A
2009	7	ノートパソコン; Lap-top, DELL, Vostro 1520	840.00	2	1,680.00	A	A
2009	8	緊急無線通信システム一式	36,599.37	1	36,599.37	A	A
				Total	40,530.42		

<利用状況> A: 毎日, B: 週に一度, C: 時々 <管理状況> A: 良好, B: 修理必要, C: 破損
 固定局用無線機2台を現在マナグアの購入業者で修理中

添付資料7-5 ローカルコスト負担(日本側・ニカラグア側)

日本側ローカルコスト予算執行実績(2011年7月末現在)

機 関	執行期間	総額(コルドバ)	総額(米ドル)
国際協力機構 (JICA)	2008年2月～2008年3月	0.00	
	2008年4月～2009年3月	566,213.40	70,325.18
	2009年4月～2010年3月	1,593,796.29	59,574.25
	2010年4月～2011年3月	1,658,435.70	35,769.56
	2011年4月～2011年7月	436,462.60	16,554.02
総 額		4,254,907.99	182,223.01

ニカラグア側投入予算執行実績

機 関	執行期間	総額(コルドバ)	総額(米ドル)
プエルトカベサス市 役所	2008年2月～2008年12月		3,700.00
	2009年1月～2009年12月		2,563.12
	2010年1月～2010年12月	6,400.00	5,600.00
	2011年1月～2011年7月	1,500.00	3,266.00
	小計	7,900.00	15,129.12
BICU大学	2008年2月～2008年12月		8,349.36
	2009年1月～2009年12月		17,212.83
	2010年1月～2010年12月		4,000.00
	2011年1月～2011年7月		2,300.00
	小計	0.00	31,862.19
URACCAN大学	2008年2月～2008年12月		1,800.00
	2009年1月～2009年12月		2,160.00
	2010年1月～2010年12月		2,640.00
	2011年1月～2011年7月		1,540.00
	小計	0.00	8,140.00
PANA PANA	2008年2月～2008年12月		500.00
	2009年1月～2009年12月		500.00
	2010年1月～2010年12月		0.00
	2011年1月～2011年7月		1,165.00
	小計	0.00	2,165.00
総 額		7,900.00	57,296.31

添付資料7-6 C/P配属実績一覧

農村開発委員会メンバー

2008年2月27日 ~ 2011年7月31日

機関名		役職	氏名	プロジェクト在任期間
農村開発委員会 (CDR)	プエルトカベサス市役所	市長	Nancy Elizabeth Henrique ナンシー・エリザベス・エンリケ	2008年2月27日 ~ 2009年1月29日
		★ 市長	Gullermo Espinoza ギジェルモ・エスピノサ	2009年1月29日 ~
		自然資源環境部長	Amilcar Padilla アミルカ・パディージャ・モラレス	2009年1月29日 ~ 2011年1月29日
		★★ 自然資源環境部長	Nitza Dixon ニツア・ディクソン	2011年1月29日
		プロジェクト部部長	Ariel Chacon アリエル・チャコン	2008年2月27日 ~ 2009年1月29日
		プロジェクト部部長	Elvis Hernández エルビス・ヘルナンデス	2009年1月29日 ~
		渉外担当	Ivonne Waters イボンヌ・ワッター	2009年1月29日 ~
	モラボ・インターユニバーシティセンター・ブルーフィールド・インディアナ・カリビアン大学 (BICU大学)	副学長	Reynaldo Figueroa レイナルド・フィゲロ	2008年2月27日 ~
		農林学部長	Diógenes Solózano ディオヘネス・ソロサノ	2008年2月27日 ~
		観光学部長	Milton Sorano ミルトン・ソラノ	2008年2月27日 ~
	カリブ海岸自治大学 (URACCAN大学)	副学長	Albert Stclair アルベルト・ストクライール	2008年2月27日 ~
		農林学部コーディネ	Enrique Cordón A. エンリケ・コルドン	2008年2月27日 ~
	PANA PANA	理事	Samel サムエル	
代表		Lucila Law Branco ルシラ・ロウ・ブランコ	2008年2月27日 ~	

★ : プロジェクトディレクター ★★ : プロジェクトマネージャー

技術C/P

機関名		役職	氏名	プロジェクト在任期間
プエルトカベサス市役所	自然資源環境部	職員	Hemsly Francia W. ヘムスリー・フランシア	2008年2月27日 ~
		職員	Elga Thomas Bency エルガ・トーマス・ベンシ	2010年1月19日 ~
		職員	Wilfred Jhonson ウィルフォード・ジョンソン	2008年2月27日 ~ 2008年8月31日
BICU大学	農林学部	職員	Wilfod Devis ウィルフォード・デイビス	2008年2月27日 ~
		教員	Zamir Mairena Bermudez サミル・マイレナ・ベルムデス	2009年8月1日
URACCAN大学	農林学部	プロジェクト専任職員	Alexa Torres アレクサ・トーレス・トーマス	2008年5月1日 ~
PANA PANA	普及部	プロジェクト専任職員	Limborth Bucardo リンボウ・ブカド	2011年6月21日
PANA PANA	クレジット部	職員	Samuel Saballos サウル・サバジョス	2008年2月27日 ~ 2009年6月30日
現地コンサル	Conutor Independiente	農業技師	Jessue Brenes B. ホスエ・ブレネス	~ 2010年2月28日
現地コンサル		農業技師	Margarita Mungia マルガリタ・ムンギア	~ 2010年1月31日
現地コンサル		農業指導員	Limborth Bucardo リンボウ・ブカド	2009年6月27日 ~ 2011年6月20日

8. 活動計画の変遷

成果と活動 (PDM Ver0) 適用期間：2008年2月～2009年12月		成果と活動 (PDM Ver1) 適用期間：2010年1月～7月		成果と活動 (PDM Ver2) 適用期間：2010年8月～現在	
成果 1. 農村開発委員会が規約と役割分担に基づき機能している。					
1-1.	生産状況の調査・分析を農民と共に実施する	1-1.	農村開発委員会の規約と役割を明確にする。	1-1.	農村開発委員会の規約と役割を明確にする。
1-2.	コミュニティ自治組織と共にモデル農民グループとモデル農民グループリーダーを選定する	1-2.	農村開発委員会内にプロジェクト実施チーム(C/Pおよび普及員)を立ち上げる。	1-2.	農村開発委員会内にプロジェクト実施チーム(C/Pおよび普及員)を立ち上げる。
1-3.	農村開発委員会の活動計画と普及計画を策定する	1-3.	農村開発委員会の年間活動計画を立案する。	1-3.	農村開発委員会の年間活動計画を立案する。
1-4.	普及員研修計画を策定する	1-4.	生産状況の調査・分析を農民とともに実施する。	1-4.	生産状況の調査・分析を農民とともに実施する。
1-5.	普及員に研修を実施する	1-5.	コミュニティ自治組織とともに農民プロモーターおよびモデル農民グループを選定する。	1-5.	コミュニティ自治組織とともに農民プロモーターおよびモデル農民グループを選定する。
		1-6.	普及員研修計画を立案・実施する。		
成果 2. モデル農民グループに普及された技術が導入されている。					
2-1.	モデル農民グループが農村開発委員会と共に展示圃場の場所と活動計画を決定する	2-1.	農村開発委員会の実証展示・研修圃場をBICU 大学農林学部付属農場に設置する。	2-1.	農村開発委員会の実証展示・研修圃場を設置する。
2-2.	普及員が、モデル農民グループリーダーにリーダー研修を実施する	2-2.	普及員が、農民プロモーターに研修を実施する。	2-2.	プロジェクト実施チームが、農民プロモーターに研修を実施する。
2-3.	普及員が、モデル農民グループに展示圃場で農業技術研修を実施する	2-3.	プロジェクト実施チームが農民プロモーターの圃場で技術指導を実施する。	2-3.	プロジェクト実施チームが農民プロモーターの圃場で技術指導を実施する。
2-4.	普及員は、活動 2-1 で作成した活動計画に基づいてモデル農民グループが実践する営農活動を支援する	2-4.	プロジェクト実施チームは農民プロモーターの実践する営農活動を支援する。	2-4.	プロジェクト実施チームは農民プロモーターの実践する営農活動を支援する。
2-5.	普及員は、モデル農民グループによる農民交流会の開催を支援し、モデル農民グループおよび他農民との技術・情報交換を促進する	2-5.	プロジェクト実施チームと農民プロモーターはモデル農民グループに技術指導を実施する。	2-5.	プロジェクト実施チームと農民プロモーターはモデル農民グループに技術指導を実施する。
2-6.	普及員は、モデル農民グループと共に、モデル農民グループ以外の篤農家や意欲のある農民も招いた研修を実施する	2-6.	プロジェクト実施チームはモデル農民グループと共に、モデル農民グループ以外の農民も招いた研修を実施する。	2-6.	プロジェクト実施チームはモデル農民グループと共に、モデル農民グループ以外の農民も招いた研修を実施する。
2-7.		2-7.	プロジェクト実施チームはモデル農民グループによる農民交流会の開催を支援し、モデル農民グループおよび他コミュニティ農民との技術・情報交換を促進する。	2-7.	プロジェクト実施チームはモデル農民グループによる農民交流会の開催を支援し、モデル農民グループおよび他コミュニティ農民との技術・情報交換を促進する。
成果 3. 農村開発委員会の持続的な農業普及活動の実施体制が確立される。					
3-1.	モデル農民グループリーダーの活動をモニタリングする	3-1.	農村開発委員会が、モデル農民グループの活動をモニタリングする。	3-1.	農村開発委員会が、「持続的な農業普及計画」内における普及員、農民プロモーターの役割を明確化する。
3-2.	モニタリング結果を生かした農民グループリーダー研修プログラムを確立する	3-2.	農村開発委員会が、BICU 大学の实証展示・研修圃場で実施する農業普及活動をモニタリングする。	3-2.	農村開発委員会は、上記農業普及計画に関わる普及員の所属先関係機関との協議、合意形成を図る。
3-3.	普及員研修教材と普及ガイドラインを作成する	3-3.	農村開発委員会が、モニタリング結果を生かしたモデル農民グループへの農業普及計画を確立する。	3-3.	農村開発委員会は、上記農業普及計画を策定し、農民プロモーターおよび普及員によって実施する。
3-4.	プエルトカバサス市のプロジェクトサイト以外への展開も含めた農村開発委員会の活動計画を作成する	3-4.	農村開発委員会において、研修教材と普及ガイドラインを作成・改訂する。	3-4.	農村開発委員会において、研修教材と普及ガイドラインを発行する。
		3-5.	プエルトカバサス市のプロジェクトサイト以外への展開も含めた農村開発委員会の活動計画を作成する。		

第 2 部

終了時評価調査報告書（延長期間を含む）

目 次

写 真

終了時評価調査結果要約表（延長期間を含む）

第 1 章 評価調査の概要	1
1 - 1 調査団派遣の経緯	1
1 - 2 調査の目的	2
1 - 3 調査団の構成	2
1 - 4 調査期間	2
1 - 5 対象プロジェクトの概要	2
第 2 章 終了時評価の方法	3
2 - 1 合同評価	3
2 - 2 評価方法	3
2 - 3 データ収集方法	3
2 - 4 データ分析方法	4
第 3 章 プロジェクトの実績	6
3 - 1 投入実績、アウトプットの実績	6
3 - 1 - 1 日本側の投入実績	6
3 - 1 - 2 ニカラグア側の投入	6
3 - 1 - 3 アウトプットの達成状況	7
3 - 2 プロジェクト目標の達成状況	10
3 - 3 実施プロセスにおける特記事項	10
3 - 4 効果発現に貢献した要因	13
3 - 5 問題点及び問題を惹起した要因	13
第 4 章 評価結果	15
4 - 1 評価 5 項目による評価	15
4 - 1 - 1 妥当性	15
4 - 1 - 2 有効性	16
4 - 1 - 3 効率性	17
4 - 1 - 4 インパクト	18
4 - 1 - 5 持続性	20
4 - 2 結 論	21
第 5 章 提言と教訓	22
5 - 1 提 言	22

5 - 2 教 訓	23
第 6 章 団長所感	24
付属資料	
1 . 調査日程	29
2 . 主要面談者リスト	31
3 . PDM (和文)	33
4 . PO (和文)	35
5 . 日本側投入実績	38
6 . ニカラグア側投入実績	40
7 . 研修・セミナー実績	42
8 . 成果品リスト	46
9 . ミニッツ	49
10 . 普及ガイドライン和訳 (プロジェクトの普及モデルを説明した第 2 章のみ抜粋)	110

写 真



プロジェクト事務所（2階部分）



Nazarethコミュニティの圃場視察



Trusrayaコミュニティの水撃ポンプ視察



ニカラグア側評価委員との協議



JCCでの評価結果プレゼンテーション



JCCでのミニッツ署名

終了時評価調査結果要約表（延長期間を含む）

1. 案件の概要	
国名：ニカラグア共和国	案件名：プエルトカベサス先住民コミュニティ生計向上計画
分野：農村開発	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：農村開発部畑作地帯第一課	協力金額（評価時点）：2億9,000万円
協力期間	(R/D)：2008年2月～2012年2月（4年間）
	(延長)：2013年2月まで（1年間延長）
	(F/U)：
	先方関係機関：北部大西洋自治区プエルトカベサス市役所、BICU 大学、URACCAN 大学、PANA PANA（NGO）
	日本側協力機関：なし
	他の関連協力：なし
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>ニカラグア共和国（以下、「ニカラグア」と記す）の北部大西洋自治区（RAAN）を含む大西洋側地方は、貧困人口が76.7%と国内でも最も貧困度が高く、貧困対策が大きな課題となっている。RAANは国土面積の24.6%を占め、主にミスキート族などの先住民族の多くが居住している地域であり、政府やドナーによる支援も少なく開発から取り残されている。郊外の道路はすべて未舗装で、太平洋側を結ぶ幹線道路でも河川に架橋されていない区間があり、雨期には通行が困難となり住民の経済活動や生活に支障を来している。</p> <p>また、住民の大部分は粗放な焼畑農業を主とする農業に従事しているが、肥沃な土壌が限られていることから、肥沃な農地を求めて居住地から離れた耕作地を利用している（平均徒歩2時間）。このように遠距離耕作のため労働効率が極めて悪く、総じて有機物の乏しい土壌は肥沃度が低く、また単一作で病害・虫害の被害も多いが、技術指導は全くなく何ら対策がとられていない。このような状況から既存の陸稲、イモ類、マメ類の収量は十分でなく、しばしば自家用の穀物さえ不足し、流通には若干の余剰分をまわす程度である。他方、プエルトカベサス市内の市場では、野菜等換金作物はほぼ100%首都から運ばれており、農民は市場を現金収入の場として十分に活用できていない。また、栽培作物が根菜類やマメ、コメに限られていることから、食材が限定され、食物の摂取が偏っている等農民は種々の問題を抱えている。</p> <p>プエルトカベサス市では、農業従事者が大部分を占める地域にもかかわらず農業技術支援は行われていない。ニカラグア政府の農業普及機関である農牧技術庁（INTA）の出先機関は、RAAN内ではSiuna市とWaspam市に置かれているが、それぞれ5名程度の職員が活動している程度であり、プエルトカベサス市には存在せず、普及サービスがいき届かない現状にある。また、プエルトカベサス市内には農牧林業省（MAGFOR）RAAN支所が置かれているが、プエルトカベサス担当者は1名のみであり、活動能力は不十分であり、中央政府の技術普及サービスがいき届かない状態に陥っている。このためプエルトカベサス市においては、農業を主とする技術的指導、及びその技術を利用する組織の強化による生産と収入の改善支援が課題となっている。</p> <p>以上の背景の下、2008年3月から2012年2月までの4年間の実施期間で、プエルトカベサス市内における先住民コミュニティの貧困削減のために、農業・農村開発を主とする技術的な指導及び組織強化を通じた住民の生産と収入の改善を目的とし、プロジェクトが開始された。2011年9月の終了時評価において、自然災害や治安状況悪化等の外部条件の影響によりプロジェクトの活動が遅れていることから、1年間の協力期間の延長が提言され、これに基づき、協力期間が2013年2月までに延長された。</p>	

1-2 協力内容

4つの実施機関が形成する農村開発委員会（CDR）の管理の下、プエルトカベサス市内のプロジェクト3対象地域（Llano Norte、Llano Sur、Tasba Pri）において、農民プロモーターを中心としたモデル農民グループを形成し、農民間の農業技術普及を通じて生計（生活水準）の向上をめざす。

(1) 上位目標

- 1) モデル農民グループで確立された農業の普及により、プエルトカベサス市全体において、農民の生計（生活水準）が向上する。
- 2) プエルトカベサス市以外の先住民自治地域へ、農業普及活動が波及する。

(2) プロジェクト目標

モデル農民グループの生計（生活水準）が向上する。

(3) 成果

- 1) 農村開発委員会が規約と戦略計画に基づき機能している。
- 2) モデル農民グループに普及された技術が導入されている。
- 3) 農村開発委員会の持続的な農業普及活動の実施体制が確立される。

(4) 投入（評価時点）

日本側：総投入額 2億 9,000万円

長期専門家派遣 2名	機材供与	約 1,153万 7,333円
短期専門家派遣 3名（合計 4.4 MM）	ローカルコスト負担	約 4,550万 3,861円
研修員受入 11名（集団研修コース）		

相手国側：

カウンターパート配置 カウンターパート（C/P）職員7名及びCDR委員10名
 土地・施設提供 BICU 大学附属大西洋資料センター（BICU-CIDCA）2階にプロジェクト事務所
 モラボ・インターユニバーシティセンター・ブルーフィールド・インディアン・カリビアン大学（BICU 大学）・カリブ海沿岸自治大学（URACCAN 大学）・PANA PANA 圃場
 ローカルコスト負担 約 1,447万 1,236円

2. 評価調査団の概要

調査者	（担当分野：氏名 職位）	
	総括：中尾 誠	国際協力機構農村開発部審議役兼次長
	計画運営：瀧口 暁生	国際協力機構農村開発部畑作地帯第一課
	評価分析：大橋 由紀	合同会社 適材適所
調査期間	2012年9月30日～10月21日	評価種類：終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) アウトプット1：農村開発委員会が規約と戦略計画に基づき機能している。

本アウトプットは評価時点では一部達成されていない。「指標 1-1. カウンターパートが計画どおりに配置される」については、プロジェクト期間を通して必要な人材が配置された。「指標 1-2. プロジェクト運営予算が適正に確保され、執行される」については、人件費や事務所経費等が確保・執行されたが、普及活動に必要な経費は必ずしも十分な額が適時に

は確保されなかった。「指標 1-3. 委員会及び定例運営会議が適正な頻度で開催される」については、CDR の会合は各組織のトップである委員全員の日程調整が困難であり、計画どおりの頻度では開催されなかった。規約や戦略計画の記述と比較すると現在の CDR の機能には改善の余地がみられる。

(2) アウトプット 2：モデル農民グループに普及された技術が導入されている。

本アウトプットは高い達成度が確認された。「指標 2-1. 農民プロモーターが 100 名（20 コミュニティ×5 名）育成される」については、合計 23 コミュニティの 110 人の農民プロモーターが育成された。「指標 2-2. モデル農民グループが 20 コミュニティで選定される（20 グループ約 500 名）」については、プロジェクトのモニタリング結果によると、農民グループに参加している農民の人数は 600 人に達している。「指標 2-3. モデル農民グループの 50% が農業生産性向上に関する技術や手法を実践している」については、80% が農業生産性向上に関する技術や手法を実践していることが確認された。「指標 2-4. モデル農民グループの 50% 以上が生活改善研修で学んだ内容を実践している」については、90% 以上が生活改善研修で学んだ内容を実践していることが確認された。

(3) アウトプット 3：農村開発委員会の持続的な農業普及活動の実施体制が確立される。

本アウトプットは評価時点では十分に達成されていない。「指標 3-1. カウンターパート機関以外の複数の機関が「持続的農業普及計画」を実施する」について、プロジェクト活動は対象地域内で活動する複数の機関とさまざまな連携をもちながら実施された。持続的農業普及計画は現在見直しを行っており、2012 年末までには完成する予定である。「指標 3-2. 右普及計画を実行する予算が確保される」については、既述のとおり普及活動に必要な経費は必ずしも十分な額が適時には確保されていない。現在 2013 年の予算確保のために、2012 年 11 月の予算申請に向けて必要な年間計画を作成中である。

(4) プロジェクト目標：モデル農民グループの生計（生活水準）が向上する。

本プロジェクト目標は高い達成度が確認された。「指標 1：モデル農民グループの 50% が地域に適した技術を導入することにより主要作物の収量が増加する」については、80% が主要作物（コメ、フリホーレス豆、根菜類）の収量が増加したことが確認された。「指標 2：モデル農民グループの 50% が新たに 3 作目またはそれ以上を新規に導入する」については、80% が新たに 3 作目またはそれ以上を新規に導入したことが確認された。「指標 3：モデル農民グループの 50% が生活改善研修で学んだ内容を継続的に実践している」については、50% 以上が生活改善研修で学んだ内容を継続的に実施していることが確認された。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

本プロジェクトは高い妥当性が確認されている。プロジェクトの内容はニカラグア政府の「国家人間開発計画（PNDH）」やプエルトカベサス市の「開発戦略計画」の重点分野と整合しており、また日本の対ニカラグア援助戦略とも整合している。対象地域住民の多くは零細な農林漁業により生計を立てており、対象地域のニーズにも合致している。さらに、「考える農民の育成（農民の主体形成の促進）」、「ニーズに基づいた技術支援」、「農民間の技術」を特徴とした本プロジェクトの普及モデルは適切であると関係者に高く評価されている。

(2) 有効性

本プロジェクトの有効性は高いといえる。プロジェクト目標の指標の達成度は高く、さらに、参加している農民からは作物の生産性の向上、食生活の改善、収入の向上、周囲の人々との関係の改善などの点から生活が改善している様子が確認された。これらは特にアウトプット2の達成の結果であり、従来自助努力による生産活動を推進することが難しかった地域で、活動の状況は農民グループによって異なるものの、農民プロモーターや農民たちがプロジェクト活動をとおして自分たちで入手可能な資源を活用した生産活動に従事するようになったことがプロジェクト目標の高い達成度に直接結びついている。

(3) 効率性

本プロジェクトでは、活動の進展状況によりそれぞれのアウトプットの達成度は異なっているが、全般的には限られた投入を適切に活動に用いている。アウトプット1については、ニカラグア側の予算確保が必ずしも十分とはいえないことやCDRの機能にも改善の余地があることから、一部の指標は未達成である。アウトプット2については、高い達成度が確認できた。アウトプット3については、さまざまな組織・機関との連携を行うなど持続的な実施体制の確立に努めてきたが、達成度を高めるためにはプロジェクト活動の継続に必要な予算の確保が求められる。投入については、プロジェクト期間の前半は治安状況の影響もあり、現地状況に適した普及手法確立のため試行錯誤した結果、すべての投入が効率的に発現しないこともあったが、そのような経験から教訓を得てプロジェクト期間の後半では投入をアウトプットの達成に効率的に結びつけることができている。

(4) インパクト

適切な計画に沿って予算を確保しながらプロジェクト活動を継続・拡大していくことで、上位目標の達成が見込まれる。プエルトカベサス市以外の地域への普及については、特に延長期間において、州レベルの生産者会議に参加するなどしてRAAN政府やMAGFOR、FAO等のRAAN内で活動する関連機関との関係を育んできた。これら機関のなかにはプロジェクトでつくり上げた普及モデルや人材を活用して普及活動に取り組む意欲を示している機関もあり、今後の展開が期待される。正のインパクトとして、育成された農民プロモーターが自主的に期待以上の活動を行っているケースや、女性のプロモーターの生活への良好な変化等、さまざまなインパクトが確認された。負のインパクトは確認されなかった。

(5) 持続性

政策面では、本プロジェクトの手法や成果は4つの実施機関や州政府生産局などの他の関係機関から高く評価されており、今後も活用していく意思を表明している。組織・財政面では、C/Pはプロジェクトの活動を継続していくために十分な知識・能力を習得しており、実施機関はそれらの人材を今後もプロジェクト活動の継続のために配置することに合意している。活動に必要な予算を確保していくことが不可欠であり、2013年の予算計画をプエルトカベサス市議会に提出し予算請求を行う予定である。プエルトカベサス市外での活動については、CDRの州レベルでの認知度を高めるとともに、実施体制については適切な体制を検討していく必要がある。技術面では農業技術の導入にはコミュニティで受け入れられ活用されるための配慮がなされており、継続して技術が活用されると考えられる。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

- 異なる機関の連携によるCDRをプロジェクトの実施体制としたことで、各機関の少ない

人材を最大限に活用し、農業技術の普及活動に取り組むことができた。

(2) 実施プロセスに関すること

- ・プロジェクトの関係者の多くが対象地域の問題への意識が高く、本プロジェクトの手法が適切なものであることを納得したうえで活動に従事していたことが、プロジェクト活動の進展に貢献した。
- ・本プロジェクトが導入した手法は対象地域にみられる援助への依存傾向を低減する取り組みであり、このような手法を導入したことが成果の発現に貢献した。
- ・MAGFOR の C/P の参加でポストハーベスト等の技術が導入されたり、家族経済省が普及ガイドラインにコメントを提供したりするなど、さまざまな機関との連携・協力の下にプロジェクト活動を進めたことで、活動の内容が充実した。
- ・対象地域のコミュニティでは、MASANGNI (「緑の種子」の意) の既存の植林用の苗の圃場や、アクション・メディカ・クリスティアーナ (AMC) の圃場で本プロジェクトの研修を実施するなど、同じ地域で活動する NGO と十分に連携することでプロジェクト活動が促進された。
- ・2010 年からラジオ放送でプロジェクト活動の広報と普及を始めた。それにより、コミュニティへの訪問が難しい時期においても、週 2 回の放送でコミュニティの人々に対してプロジェクト活動に関する情報やポジティブなメッセージを送り続けることができた。
- ・URACCAN 大学の実習、インターン、論文研究などにより、学生がコミュニティでモデル農民グループの農作業を手伝ったり農業技術に関する調査を実施したりしたことで、プロジェクト活動の進展に貢献した。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

計画内容に関する要因は特定されなかった。

(2) 実施プロセスに関すること

- ・プロジェクト開始前 (2007 年 9 月) にニカラグアを襲ったハリケーン・フェリックスの被害や、プロジェクト実施中の武装強盗などの外部要因は、活動に遅れを生じさせ、プロジェクトの全般的な進展に影響を及ぼした。
- ・本プロジェクトでは外部からの支援への依存や援助体質を減少させ、農民自身の自助努力や創造力の醸成を促進するために、単に物資を提供するような方法はとっていない一方で、対象地域では従来の物資供与による支援を行う支援団体も存在している。直接農民への指導を行う C/P からは、従来型の支援が本プロジェクトの意図とは反する影響を与え、農民の本プロジェクトへの参加意欲に対してネガティブな影響が生じるケースもあったと指摘されている。

3-5 結 論

以上のように、本プロジェクトのプロジェクト目標は十分な達成度が確認された。評価時点において十分に達成されていない成果指標も一部あり、プロジェクト期間中に達成すべき課題もいくつか残されてはいるものの、後述の提言を考慮しつつ課題に取り組むことで達成度を高めることが可能である。よって、本延長期間をもって協力を終了することが妥当であると結論づけられる。

3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

プロジェクトの効果が持続し、他の地域に波及するために、合同評価委員会として、プロジェクト終了後に向けた提言を以下のとおり行った。

(1) CDR のあり方について

現在の CDR はプエルトカベサス市内における活動を前提として、同市役所を中核とした 4 団体で構成されている。他方、プロジェクトは協力期間中の成果に基づいてプエルトカベサス市外にまで活動を展開することをめざしている。また、RAAN においてはテリトリ政府の設立や権限移譲が進行中であり、行政機能のあり方は将来的に変化していく可能性についても考慮する必要がある。

このような状況下、CDR については必ずしも現在のあり方にこだわることなく、その構成要員の増員や、機能、意思決定機構の変更等について、地域の状況の変化に柔軟に適応させていくことが望ましい。

CDR の永続性を確保するためには、法的ステータスを有した組織として設立することも一案である。

(2) 他組織との調整及び連携について

本プロジェクトで導入した TAWAN INGNIKA（ミスキート語で「農村の光」の意）のモデルは、受益者の自立意識を高め自らを開発主体として認識させる特徴を有している。このモデルは、多くの組織が行っているような従来型の手法、即ち、住民に物を与えることによって支援への依存性を高めることにもつながり得る手法とは全く異なっている。

同一地域内でこのように全く異なる手法で活動が実施される場合、時として効果が減少したり、場合によっては混乱を起こして状況を悪化させることもあり得る。このため、よりよい連携及び相乗効果をめざして、こうした支援を行う他組織とより一層の効果的な調整を行う必要がある。

3-7 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

本プロジェクトはこれまで普及システムが存在しなかった地域において、地域に適した普及モデルの創出と、またそのモデルを実行し得る人材とチームの育成を成し遂げた。このモデルの持続性を確保する機能を強化する必要があるものの、この取り組みは既存の普及システムの存在する地域における普及システムの強化とは全く次元の異なるものであり、これを成し遂げたプロジェクトチームの努力は称賛に値する。

特筆すべきことは、この過程において、普及の手法や技術内容については当初の想定したものにこだわらず相当柔軟な試行錯誤を行ってきたことである。

協力の開始にあたり綿密な調査や仮定の設定が重要であることは論を待たないが、活動の進捗とともに明らかになりあるいは変化していく状況に即して、必ずしも当初の仮定に固執することなく果敢に新たな取り組みを行うことも必要である。

3-8 フォローアップ状況

- ・評価時点でフォローアップは予定されていない。

第 1 章 評価調査の概要

1 - 1 調査団派遣の経緯

ニカラグア共和国（以下、「ニカラグア」と記す）の北部大西洋自治区（RAAN）を含む大西洋側地方は、貧困人口が 76.7%と国内でも最も貧困度が高く、貧困対策が大きな課題となっている。RAAN は国土面積の 24.6%を占め、主にミスキート族などの先住民族の多くが居住している地域であり、政府やドナーによる支援も少なく開発から取り残されている。郊外の道路はすべて未舗装で、太平洋側を結ぶ幹線道路でも河川に架橋されていない区間があり、雨期には通行が困難となり住民の経済活動や生活に支障を来している。

また、住民の大部分は粗放な焼畑農業を主とする農業に従事しているが、肥沃な土壌に限られていることから、肥沃な農地を求めて居住地から離れた耕作地を利用している（平均徒歩 2 時間）。このように遠距離耕作のため労働効率が極めて悪く、総じて有機物の乏しい土壌は肥沃度が低く、また単一作で病害・虫害の被害も多いが、技術指導は全くなく何ら対策がとられていない。このような状況から既存の陸稲、イモ類、マメ類の収量は十分でなく、しばしば自家用の穀物さえ不足し、流通には若干の余剰分をまわす程度である。他方、プエルトカベサス市内の市場では、野菜等換金作物はほぼ 100%首都から運ばれており、農民は市場を現金収入の場として十分に活用できていない。また、栽培作物が根菜類やマメ、コメに限られていることから、食材が限定され、食物の摂取が偏っている等農民は種々の問題を抱えている。

プエルトカベサス市では、農業従事者が大部分を占める地域にもかかわらず農業技術支援は行われていない。ニカラグア政府の農業普及機関である農牧技術庁（INTA）の出先機関は、RAAN 内では Siuna 市と Waspam 市に置かれているが、それぞれ 5 名程度の職員が活動している程度であり、プエルトカベサス市には存在せず、普及サービスが行き届かない現状にある。また、プエルトカベサス市内には農牧林業省（MAGFOR）RAAN 支所が置かれているが、プエルトカベサス担当者は 1 名のみであり¹、活動能力は不十分であり、中央政府の技術普及サービスが行き届かない状態に陥っている。このためプエルトカベサス市においては、農業を主とする技術的指導、及びその技術を利用する組織の強化による生産と収入の改善支援が課題となっている。以上の背景の下、2008 年 3 月から 2012 年 2 月までの 4 年間の実施期間で、プエルトカベサス市内における先住民コミュニティの貧困削減のために、農業・農村開発を主とする技術的な指導及び組織強化を通じた住民の生産と収入の改善を目的とし、プロジェクトが開始された。

2011 年 9 月に本案件の終了時評価が行われた結果、本案件は自然災害や騒乱、事件によりプロジェクトの活動が遅れており、今後策定予定の持続的農業普及計画やガイドラインにのっとりた取り組みを実際に行い、活動を定着させ、生計・生活水準向上を実現するためには、ニカラグア国側に対する更なる支援が必要であることが指摘された。この提案を検討した結果、プロジェクト活動期間を 1 年間延長し、追加で活動と投入を行うこととなった。

¹ 2009 年の本プロジェクト形成当時。その後、国家人間開発計画（PNDH）の農村公的セクター 5 年計画（2008～2012）において、食料安全保障を主要目標とし農村地域の活性化をめざした政策プログラム「Hambre Cero（飢餓ゼロ）」が実施され、同プログラムに連動して普及員が 30 名ほどに増加した。2011 年 11 月現在、同プログラムは家族経済省へ移管予定であり、普及員も移管される予定。

1 - 2 調査の目的

プロジェクト延長活動期間終了の約半年前において、プロジェクト目標の達成見込み、効率性及び持続性等の観点から協力の実施状況を総合的に評価し、プロジェクト終了に向けて必要な事項等について提言を行う。

1 - 3 調査団の構成

担当分野	氏名	所属先
総括	中尾 誠	JICA 農村開発部審議役 / 次長兼農村開発第一グループ長
計画運営	瀧口 暁生	JICA 農村開発部畑作地帯第一課主任調査役
評価分析	大橋 由紀	合同会社適材適所

1 - 4 調査期間

平成 24 年 9 月 30 日～10 月 21 日（22 日間）
（詳細は付属資料 1 のとおり）

1 - 5 対象プロジェクトの概要

（1）協力期間

2008 年 2 月 27 日～2013 年 2 月 26 日（5 年間）（1 年間の延長含む）

（2）実施機関

プエルトカベサス市役所、モラボ・インターユニバーシティセンター・ブルーフィールズ・インディアン・カリビアン大学（BICU 大学）、カリブ海沿岸自治大学（URACAAN 大学）、PANA PANA（NGO）

（3）協力総額

2 億 9,000 万円（評価時点における実績額）

（4）上位目標

- ・モデル農民グループで確立した農業の普及により、プエルトカベサス市全体において、農民の生計（生活水準）が向上する。
- ・プエルトカベサス市以外の先住民自治地域へ、農業普及活動が波及する。

（5）プロジェクト目標

モデル農民グループの生計（生活水準）が向上する。

（6）成果

- 1）農村開発委員会が規約と戦略計画に基づき機能している。
- 2）モデル農民グループに普及された技術が導入されている。
- 3）農村開発委員会の持続的な農業普及活動の実施体制が確立される。

第2章 終了時評価の方法

2 - 1 合同評価

評価は、1 - 3 節に記載の調査団員と以下のニカラグア側評価委員により構成された合同評価委員会によって行われた。

ニカラグア側評価委員

氏名	所属・役職
Charlotte Cruz Bush	プエルトカベサス市対外協力部長
Peter Salgado Garth	自然資源環境部技術者
Samuel Mercado Sanders	PANA PANA 理事長
Victor Mairena Lau	BICU 大学教員
Roberto Martínez	URACCAN 大学教員
Thelma Morales Gradiz	MAGFOR プエルトカベサス支局普及員
Carlos Downs	RAAN 政府生産部長

2 - 2 評価方法

本終了時評価調査は、「新 JICA 事業評価ガイドライン第一版」に沿い、以下の手順で行った。

1. 評価グリッドを作成し、評価のデザインに合意する。
2. 評価グリッドに基づいて文献調査、質問票、インタビュー調査により情報を収集する。
3. 討議議事録 (R/D) に記載された投入計画やプロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) に記載された指標に基づき、達成状況や進捗を確認する。
4. プロジェクトの計画や実施プロセスにおける貢献要因や阻害要因を明らかにする。
5. 評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）に基づき、プロジェクト全体の分析を行う。
6. 分析結果を基に提言や教訓を抽出し、評価結果案を取りまとめる。
7. 評価結果案に基づき関係者で協議を行い、その結果を終了時評価報告書に取りまとめる。
8. ニカラグア・日本の双方で終了時評価報告書に合意し、協議議事録 (M/M) に署名交換を行う。

なお、当初のプロジェクト期間（2008年2月～2012年2月）における終了時評価が2011年9月に実施されたが、その結果としてプロジェクト期間の1年間の延長（2013年2月まで）が決定された。本終了時評価では、プロジェクト期間全体を対象としつつも、特に前回の終了時評価以降から延長期間を中心として分析を行った。

2 - 3 データ収集方法

本終了時評価調査では以下の方法で情報収集を行った。

(1) 文献調査

M/M、R/D、事前評価報告書、中間レビュー報告書、専門家の事業進捗報告書、2011年9月の終了時評価報告書、その他の関連文書から必要な情報を入手。

(2) 質問票

ニカラグア側カウンターパート (C/P) や農村開発委員会 (CDR) のメンバーに対する質問票による情報の収集。

(3) 聴取調査

専門家、C/P、プエルトカベサス市役所、BICU 大学、URACCAN 大学、PANA PANA、対象地域で活動に従事している各関係者、市役所等に対し、インタビューによる必要な情報の入手。

(4) 現地踏査

Llano Norte、Llano Sur、及び Tasba Pri の対象コミュニティへの訪問及び活動状況の確認。

(5) グループインタビュー

上記対象コミュニティの農民プロモーターや生産者たちから、達成状況、課題等を確認。

2 - 4 データ分析方法

本終了時評価では、現行の PDM である PDM ver.3 (2011年9月作成) に基づき、以下の点からプロジェクトの現状把握・検証を行った。

検証項目	検証の視点
実績	プロジェクト実施の結果何が達成されたのか、それらは期待どおりであるか。
実施プロセス	プロジェクトを実施する過程 (プロセス) で何が起きているのか、それらはプロジェクトのアウトカム目標の達成にどのような影響を与えているか。
因果関係	プロジェクトのアウトカム目標の達成が本当にプロジェクト実施によってもたらされたものであるか、あるいはもたらされるものであるか。

出所：新 JICA 事業評価ガイドライン第 1 版 (JICA 評価部 2010 年 6 月)

上記の検証結果は、以下に示す評価 5 項目による評価基準を基に分析した。

5 項目	視 点
妥当性	開発援助と、ターゲットグループ・相手国・ドナーの優先度並びに政策・方針との整合性の度合い。
有効性	開発援助の目標の達成度合いを測る尺度。
効率性	インプットに対するアウトプット (定性並びに定量的) を計測する。開発援助が期待される結果を達成するために最もコストのかからない資源を使っていることを示す経済用語。最も効率的なプロセスが採用されたかを確認するため、通常、他のアプローチとの比較を必要とする。

インパクト	開発援助によって直接または間接的に、意図的または意図せずに生じる、正・負の変化。開発援助が、地域社会・経済・環境並びにその他の開発の指標にもたらす主要な影響や効果を含む。
持続性	ドナーによる支援が終了しても、開発援助による便益が継続するかを測る。開発援助は、環境面でも財政面でも持続可能でなければならない。

出所：新 JICA 事業評価ガイドライン第 1 版（JICA 評価部 2010 年 6 月）

第3章 プロジェクトの実績

3-1 投入実績、アウトプットの実績

3-1-1 日本側の投入実績

2012年9月末までの日本側の投入実績は以下のとおりである。詳細は付属資料5を参照のこと。

(1) 専門家派遣

プロジェクト期間を通して、①チーフアドバイザー／研修普及／営農、②業務調整の2名の長期専門家が派遣されており、延長期間中も同様の配置がなされた。2012年9月末までの長期専門家の配置期間は合計で102人月（MM）である。

また、2011年9月の終了時評価以降、①地域活性化のための農業開発政策調整／ドナー間協調、②参加型開発／組織強化、③生活改善／組織強化の3名の短期専門家が合計4.4MMの期間で投入された。

(2) C/Pの本邦研修

2011年9月の終了時評価以降、3名のC/Pと1名のRAAN政府職員が本邦研修に参加し、2012年10月に更に1名のC/Pが本邦研修に参加する予定になっている。本プロジェクトの関係者の本邦研修参加は合計で11名となり、C/P全員とCDRの委員数人が参加したこととなる。

(3) 機材供与

2011年9月の終了時評価までに車両、コンピュータ、バイク、コピー機等の機材供与がなされており、その後2012年に4台のバイクが供与され、機材供与の合計額は12万3,560USD（約1,153万7,333円²）となっている。

(4) 現地業務費

現地活動費として主に研修実施、モニタリング、圃場・プロジェクト事務所の維持管理費などに日本側の予算が活用され、2012年8月までの合計額は51万4,453USD（約4,550万3,861円³）である。

3-1-2 ニカラグア側の投入

ニカラグア側からの投入は以下に示すとおりであった。詳細は付属資料6を参照のこと。

(1) C/P人材の配置

2011年9月の終了時評価以降、プエルトカベサス市役所から2名、BICU大学から2名、

² 各機材の購入年度のJICA精算レートの平均（2008年度：1USD=100.825円、2009年度：1USD=92.74円、2011年度：1USD=78.89円）で換算

³ 各支出年度のJICA精算レートの平均（2008年度：1USD=100.825円、2009年度：1USD=92.74円、2010年度：1USD=86.19円、2011年度：1USD=78.89円）で換算

URACCAN 大学から 1 名、PANA PANA から 1 名の職員が引き続き本プロジェクトの C/P として配置されている。さらに、2012 年 5 月からは新たに MAGFOR の職員 1 名が C/P に配置されおり、合計 7 名となった。

CDR の委員は 4 つの C/P 機関から合計 10 名が参加しているが、2011 年 9 月の終了時評価後にプエルトカバサス市国際協力部長と URACCAN 大学副学長の 2 名は各機関の人事交代により委員も変更された。

(2) 施設及び設備の提供

ニカラグア側からプロジェクトの実施のために提供されている施設・設備は以下のとおりである。

1) プロジェクト事務所

BICU 大学附属大西洋資料センター (BICU-CIDCA) の建屋、2 階部分が事務所として提供されている。

2) 展示・研修用圃場

- － BICU 大学農林学部附属圃場 (プロジェクト事務所より北東に約 7 km)
- － URACCAN 大学農林学部附属圃場 (プロジェクト事務所より北東に 10 km)
- － PANA PANA 敷地内に苗畑 (プロジェクト事務所より北東に約 3 km)

(3) C/P 経費

2012 年 8 月末までにニカラグア側の 4 機関から合計 17 万 1,918 USD (約 1,447 万 1,236 円⁴) がプロジェクトの活用経費として支出された。これらの経費の大部分は各機関による C/P の人件費であり、BICU 大学の場合は更にプロジェクト事務所や圃場の経費が含まれている。

3-1-3 アウトプットの達成状況

(1) アウトプット 1 : 農村開発委員会が規約と戦略計画に基づき機能している。

プロジェクト期間を通してプロジェクトに必要な C/P 人材やその人件費は十分に配置された。その結果、C/P は CDR の実施機能として期待どおりの役割を果たしており、本プロジェクトの手法のスペシャリストとして育成された。しかし、人件費以外の予算が十分に執行されていないことや、延長期間中に CDR の会合の開催頻度が減少したことを考慮すると、CDR の管理機能はまだ十分に果たされていないといえる。アウトプットの各指標の達成状況は表 3-1 に示すとおりである。

また、指標に示されている内容以外についても規約や戦略計画に記載している内容と比較すると CDR は記載内容に則した機能を十分に果たしているとはいえず、改善の余地がみられる。

⁴ 各支出年度の JICA 精算レート の平均 (2008 年度 : 1 USD = 100.825 円、2009 年度 : 1 USD = 92.74 円、2010 年度 : 1 USD = 86.19 円、2011 年度 : 1 USD = 78.89 円) で換算

表3 - 1 アウトプット1の指標の達成状況

指 標	達成状況
1-1. カウンターパートが計画どおりに配置される。	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト開始当初は人材配置に困難が生じたことがあったが、PANA PANA の配置が1名不足した時には BICU 大学から1名増員されるなどし、R/D のとおり6名のC/Pが配置されている。さらに2012年5月からは MAGFOR の職員1名がプロジェクトに配置され、現状では計画の6名を上回る7名が配置されている。
1-2. プロジェクト運営予算が適正に確保され、執行される。	<ul style="list-style-type: none"> 当初のプロジェクト期間である4年間は、ニカラグア側から執行された予算は主にC/Pの人件費であり、事務所の家賃、光熱費、清掃夫の人件費（ニカラグア側と日本側で折半）、守衛の人件費及び圃場の家賃（当初計画には含まれていなかった）などである。しかし、普及活動に必要なC/Pの日当や車両の燃料費、車両の維持管理費などはニカラグア側から必ずしも十分な額が適時には支出されなかった。 延長期間中は、2011年9月の終了時評価の提言を受けて予算を確保するよう再度試みたが、適切なタイミングで十分な予算を執行するには至っていない。その結果、コミュニティへの訪問を計画どおりの頻度で実施することができなかった。
1-3. 委員会及び定例運営会議が適正な頻度で開催される。	<ul style="list-style-type: none"> CDR の会合は毎月1回、C/P と専門家の打合せは週に1回、合同調整委員会（JCC）は年に1回の開催が計画されている。 CDR の会合については、その他の都合や健康上の理由などからプロジェクト期間を通して委員全員が集合することが困難であり、計画どおりでの頻度では開催されなかった。 実施チーム（C/P 及び専門家）の打合せは週1回の開催頻度が維持された。

(2) アウトプット2：モデル農民グループに普及された技術が導入されている。

普及員（主にC/P）や農民プロモーターへの研修（研修の詳細は付属資料7を参照）やフォローアップ、モニタリング等一連の活動の成果として各指標の達成レベルは高く、本アウトプットは適切に達成されているといえる。各指標の達成状況は下表に示すとおりである。

表3 - 2 アウトプット2の指標の達成状況

指 標	達成状況															
2-1. 農民プロモーターが100名（20コミュニティ×5名）育成される。	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト期間中の研修は第1～3グループが計画されている。現在は第3グループの研修を実施中である。既に終了した第1グループと第2グループでは、育成されたプロモーターは合計23コミュニティの110人である。 <p style="text-align: center;">育成された農民プロモーターの数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>グループ</th> <th>コミュニティ数</th> <th>農民プロモーター人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1グループ</td> <td>8</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>第2グループ</td> <td>15</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>第3グループ</td> <td>5⁵</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>23</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">出展：プロジェクトのデータ</p>	グループ	コミュニティ数	農民プロモーター人数	第1グループ	8	36	第2グループ	15	74	第3グループ	5 ⁵	20	合 計	23	130
グループ	コミュニティ数	農民プロモーター人数														
第1グループ	8	36														
第2グループ	15	74														
第3グループ	5 ⁵	20														
合 計	23	130														

⁵ 第3グループに参加しているプロモーターの所属コミュニティは第1と第2グループのコミュニティと重複している。

2-2. モデル農民グループが 20 コミュニティで選定される (20 グループ約 500 名)。	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトのモニタリング結果によると、農民グループに参加している農民の人数は 600 人に達しているの見積もられている⁶。 プロジェクトのモニタリング結果によると、約 80 のグループ (参加人数は平均 7~8 人) が形成されている。当初モデル農民グループはコミュニティごとに形成されることが想定されていたが、実際はプロモーターごとにつくられたため、1 カ所のコミュニティに複数のモデル農民グループが形成されている場合もある。つまり、プロモーターが 1 人で数人のグループをつくり指導している場合もあれば、プロモーター数人が共同で農民を集めてグループをつくっている場合もある。 形成された農民グループの参加人数は、転居や健康上の理由等、農民たちの生活上のさまざまな理由から流動的であるが、20 人以上のグループもあれば 2、3 人ほどのグループもある。
2-3. モデル農民グループの 50% が農業生産性向上に関する技術や手法を実践している。	<ul style="list-style-type: none"> モデル農民グループに参加している農民の 80% が農業生産性向上に関する技術や手法を実践していることが確認された⁷。
2-4. モデル農民グループの 50% 以上が生活改善研修で学んだ内容を実践している。	<ul style="list-style-type: none"> モデル農民グループに参加している農民の 90% 以上が生活改善研修で学んだ内容を実践していることが確認された⁸。主に衣食住環境にかかわる「金のかからない改善」を実施している。

(3) アウトプット 3 : 農村開発委員会の持続的な農業普及活動の実施体制が確立される。

持続的農業普及計画はまだ見直しが行われている状態であるが、一方で本プロジェクトの 4 つの実施機関以外にもさまざまな機関との連携によりプロジェクト活動が実施されてきた。2011 年 9 月の終了時評価の提言を受けて、プロジェクト終了後の持続性を確固たるものにするために、延長期間中はさまざまな機関との関係構築に一層取り組んだ。普及計画の実施のための資金については、2013 年の予算を確保するためには 2012 年 11 月までに予算申請をする必要があるため、それに必要な年間計画を作成中である。下表に各指標の達成状況を示す。

表 3 - 3 アウトプットの指標の達成状況

指 標	達成状況
3-1. カウンターパート機関以外の複数の機関が「持続的農業普及計画」を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 対象地域で活動する複数の機関と以下に示すような連携をもちながらプロジェクト活動が実施された。 <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの研修を受けた普及員⁹たちは、本プロジェクトの手法をそれぞれの所属機関である MAGFOR、国家林業庁 (INAFOR)、NGO のモラビア教会社会開発協会 (ADSIM)、同じく NGO のアレックス・ルセール・ブランドンマルチセクター組合 (COMAL) 等の活動で活用している。

⁶ 育成された農民プロモーターが少なくとも 5 家族をグループに取り込む方法で、ターゲットグループである対象地域の 500 家族以上に対して技術普及を実施した。

⁷ プロジェクトによるインパクト調査の結果 (2012 年 2 ~ 4 月に 21 コミュニティを対象に農民プロモーター 88 人及びモデル農民グループの参加農民 61 人を対象に実施したサンプル調査)。

⁸ 同上。

⁹ 40 人が研修に参加し、25 人が修了した (参加機関、研修内容の詳細は付属資料 7 を参照)。

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ モデル農民グループの圃場の設置には、アクション・メディカ・クリスティアーナ（AMC）や緑の種子（MASANGNI）等のNGOとの連携により、森林保全などの活動のために設置されていた既存の圃場が活用された。 ➤ CDRの会合にはMAGFOR、RAAN政府生産局、MASANGNI、COMAL、AMC等の機関が参加している。 ● 持続的農業普及計画は現在見直しを行っており、2012年末までには完成する予定である。 ● 持続的農業普及計画は完成後、MAGFOR、RAAN政府、家族経済省¹⁰、NGOなどのプロジェクト期間中に連携を構築してきた各機関と共有する予定である。
3-2. 右普及計画を実行する予算が確保される。	● CDR はプエルトカバサス市議会の承認を受けた常設の委員会であるが、指標 1-2 の達成状況で示したとおり、本プロジェクトの活動資金として同市に申請した予算は十分に確保されていない。

3 - 2 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標である「モデル農民グループの生計（生活水準）が向上する」の指標は、下表に示すようにすべて達成されている。

表 3 - 4 プロジェクト目標の指標の達成状況

指 標	達成状況
2013年2月までに、 1. モデル農民グループの50%が地域に適した技術を導入することにより主要作物の収量が増加する。	● プロジェクトの研修で学んだ技術を導入したことにより、モデル農民グループの80%が主要作物（コメ、フリホーレス豆、根菜類）の収量が増加したことが確認された ¹¹ 。
2. モデル農民グループの50%が新たに3作物またはそれ以上を新規に導入する。	● モデル農民グループの80%が新たに3作物またはそれ以上を新規に導入したことが確認された（主に野菜類） ¹² 。
3. モデル農民グループの50%が生活改善研修で学んだ内容を継続的に実践している。	● モデル農民グループの50%以上が生活改善研修で学んだ内容を継続的に実施していることが確認された ¹³ 。

3 - 3 実施プロセスにおける特記事項

(1) 活動の実績

プロジェクト活動は活動実施計画（PO）¹⁴に沿って実施された。延長期間中は、普及ガイドラインや持続的普及計画などの文書の作成にやや遅れが生じたが、まず本プロジェクトの手法を明確に示すガイドラインを作成し、ガイドラインの内容を実行するために必要な計画を立案することが重要であるという判断から、必要なプロセスであったと考えられている。また、手法を具体的に他の関係機関に紹介するためにもガイドラインの作成が必要であり、優

¹⁰ 前農村開発庁（IDR）が組織改革により家族経済省（正式名称は Ministerio Economía Familiar, Comunitaria, Cooperativa y Asociativa）となった。

¹¹ プロジェクトによるインパクト調査の結果（2012年2～4月に21コミュニティを対象に農民プロモーター88人及びモデル農民グループの参加農民61人を対象に実施したサンプル調査）。

¹² 同上。

¹³ 同上。

¹⁴ 2011年9月の終了時評価の結果PDMに変更があり、活動にも修正があったため、POも修正された。現行のPOは2011年9月以降のものである。

先的な作業とされた。

延長期間中のコミュニティでの活動については、既述のとおり予算が十分に確保されなかったことから、コミュニティへの訪問は計画よりも頻度が少なかった。さらに、社会的な騒乱による主要道路や渡し船の封鎖や、大雨の影響による渡し船の欠航などが普及員のみならず農民プロモーターの活動にも影響を与えた。しかし、C/Pによると、これらの理由により農民プロモーターがプロジェクト活動を止めるような状況は生じていないとのことである。活動の計画とその結果については、付属資料4に示すとおり。

(2) プロジェクト実施体制

本プロジェクトの意思決定は、プロジェクト実施チーム（C/Pと専門家）の打合せ、打合せ内容のCDRの委員である各機関の上司との情報共有（報告・連絡・相談）、意思決定の最高機関としてCDRでの協議、といったプロセスで行われている。しかし、CDRについては各委員の職掌柄、全員が揃って会合に参加できることは少なく、延長期間中もそのような状況が継続した。議事録の回覧を徹底するなどの対策をとっているが、効率的かつ効果的な事業実施のための意思決定が適切なタイミングで行われているとはいえない状況だった。

また、CDRを構成する個々の実施機関はプロジェクトに対して高い認識をもっているものの、CDRとしては十分な機能を果たしていたとはいえない。CDRの機能はプロジェクトの実施を通して徐々に改善されてきているものの、各機関の役割が延長期間中も明確になっていない部分があった。結果として、各機関がCDRに参画することによる相乗効果が当初の期待ほどは発揮できていなかった。

(3) 活動実施レベルの機能

C/Pと専門家から構成される実施チームは、延長期間中もプロジェクトに対する深い理解の下、団結して積極的に活動を実施しており、同チーム自体がプロジェクト活動成果のひとつであるといえる。各機関から配置されたC/Pは適切な人材であり、プロジェクト活動を通じて農村開発のファシリテーターとして成長を続けている。

日本人専門家の支援や指導については、適切な技術と経験をもって外部要因や地域特有の問題にも柔軟に対処するなど、活動実施に不可欠な存在であったと各関係者から評価されている。

実施チーム内のコミュニケーションは、C/Pと専門家による週1度の打合せにより必要な情報の共有が行われており、延長期間中も良好に保たれている。

(4) PDMの改訂

プロジェクト期間中にPDMは3度改訂されているが、活動と指標が主な変更であった。2011年9月の終了時評価の結果によりバージョン3に修正されたが、その際にはプロジェクト目標やアウトプットについて変更があり、アウトプット1については「農村開発委員会が規約と役割分担に基づき機能している」から、「農村開発委員会が規約と戦略計画に基づき機能している」に改訂された。

(5) 2011年9月の終了時評価の提言に対するフォローアップ状況

2011年9月に実施された終了時評価では、次の10項目の提言が残された。その後の提言へのフォローアップ状況は下表に示すとおりである。

表3 - 5 2011年9月終了時評価の提言のフォローアップ状況

提言（概要）	フォローアップ状況
<p><u>プロジェクトに対する提言1:</u> 既に承認された「戦略計画」「内規」の下に、①各機関の役割分担や予算、普及員や農民プロモーターの活動内容、地理的展開、活動スケジュール等を盛り込んだ「持続的農業普及計画」、②農村開発にあたっての具体的な手順を定めた「ガイドライン」を2011年12月までには完成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2011年12月に持続的普及計画が作成された。 ● その後、今後のアクションを具体化するためには本プロジェクトの手法を明確に示す必要があると考えられたことから、まず普及ガイドラインの作成に集中し、作成されたガイドラインに基づいて戦略計画や持続的普及計画の見直しを行っている。2012年末には全文書が完成する予定である。
<p><u>プロジェクトに対する提言2:</u> 普及員の活動の一環として、対象コミュニティでの社会・経済的ベースライン調査を農民参加の下で実施するとともに、その後も作付面積や収量、販売量・価格、さらには所有資産等について継続的に把握できるような、過度に負担がかからない簡易な方法を導入する。2011年12月までに、一連の活動内容が制度化され、上述のガイドラインに反映させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 受益コミュニティの社会経済調査として、2012年2月から4月に152人に対するサンプル調査を実施した。 ● 情報を継続的に収集することを考慮し、データ収集にも活用されるモニタリングフォームが作成され、上記調査でも活用された。このフォームを活用して上位目標の指標データも収集することが可能である。 ● 普及ガイドラインにモニタリングの方法について記載された。
<p><u>プロジェクトに対する提言3:</u> JICA ニカラグア駐在員事務所の支援を受け、カリブ海沿岸開発庁と連携を取りつつ、大西洋岸自治区の自治体（RAAN 政府及び RAAS 政府）と市レベル、当該地域で活動する政府機関、ドナーや NGO を集め、プロジェクトの成果を公表し普及を図るためのセミナー／ワークショップを2012年1月までに開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトの活動や成果を広めるためのセミナーが3回実施された。それらのセミナーには、MAGFOR、RAAN 政府生産局、家族経済省、保健省、Waspam 市、Siuna 市、MASANGNI、COMAL、国際連合食糧農業機構（FAO）、カリブ開発庁、プラン・ニカラグア、アグロ・アクション・アレマン、AMC などの機関が参加した。セミナーの詳細は付属資料7を参照。
<p><u>ニカラグア側に対する提言1:</u> CDR は次年度の活動計画を適時・適切に策定し、必要な投入を関係機関で合意し、各機関で必要な予算措置を講じること。この観点から、プロジェクト実施期間中から、将来のプロジェクト終了後の活動を見据え、適切な予算を確保すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2012年の年間計画は CDR が適切なタイミング承認しなかったことで、適切な予算申請ができなかった。既述のとおり、C/P の人件費や事務所の家賃等の一部の費用は十分に確保されたものの、日当、燃料費、車両の維持管理費など活動実施に必要な経費は十分に確保されておらず、コミュニティの訪問が制限された。
<p><u>ニカラグア側に対する提言2:</u> プエルトカバサス市の農村開発活動の持続性を増すために、MAGFOR、RAAN 政府といった機関の CDR への参加も検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● MAGFOR は CDR の会合に参加しているほか、2012年5月からはプロジェクトに C/P を1名配置している。 ● RAAN 政府からはセミナーやその他の活動への参加を得るなど、連携が強化されている。
<p><u>ニカラグア側に対する提言3:</u> 畜産分野での活動、自給自足を超えた生計向上活動に寄与するための収穫後処理、輸送、市場といった販売に係る活動、加えて、種子の確保に向けての収穫後種子保存、種苗交換等の活動を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 畜産分野では URACCAN 大学による養鶏、Nazareth 村でのティラピアの養殖、ハリナシミツバチによる養蜂の導入、家畜飼育の指導などが行われた。 ● 販売に係る活動については、市役所のイニシアティブで農産物産展への参加が行われた。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 種子の確保に関しては、MAGFORから配置されたC/Pの支援により「ポストハーベストと種子保存」の研修が実施され、マニュアルも作成された。
<u>ニカラグア側に対する提言 4：</u> 他ドナーの活動との連携を促進し、各ドナーによる事業の中に本プロジェクトの成果を含めるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 短期専門家が FAO、国際農業開発基金（FIDA）、米州開発銀行（BID）との連携の可能性について調査し、関係の強化が行われた。
<u>ニカラグア側に対する提言 5：</u> 本プロジェクトの経験、成果、弱点、さらには民族的テリトリーごとの住民の認識、あるべきアプローチの相違等を研究としてとりまとめ、今後の活動への基礎とする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 本提言に直接関連するような調査は実施していない。 ● URACCAN 大学の学生が本プロジェクトによって導入した生活改善をテーマに論文調査を実施している。 ● 今までの活動の経験や教訓については、普及ガイドラインに記述されている。
<u>日本・ニカラグア側双方に対する提言 1：</u> プロジェクト活動期間を1年間延長する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 1年間の延長がなされた。
<u>日本・ニカラグア側双方に対する提言 2：</u> PDM ver.3 に則した活動実施。	<ul style="list-style-type: none"> ● PDM ver.3 に則して活動が実施された。

3 - 4 効果発現に貢献した要因

効果の発現を促進した要因として、以下の点が確認された。

- ・異なる機関の連携による CDR をプロジェクトの実施体制としたことで、各機関の少ない人材を最大限に活用し、農業技術の普及活動に取り組むことができた。
- ・本プロジェクトが導入した手法は対象地域にみられる援助への依存傾向を低減する取り組みであり、このような手法を導入したことが効果の発現に貢献した。
- ・プロジェクトの関係者の多くが対象地域の問題への意識が高く、本プロジェクトの手法が適切なものであることを納得したうえで活動に従事していたことが、プロジェクト活動の進展に貢献した。
- ・MAGFOR の C/P の参加でポストハーベスト等の技術が導入されたり、家族経済省が普及ガイドラインにコメントを提供したりするなど、さまざまな機関との連携・協力の下にプロジェクト活動を進めたことで、活動の内容が充実した。
- ・対象地域のコミュニティでは、MASANGNI の既存の植林用の苗の圃場や、AMC の圃場で本プロジェクトの研修を実施するなど、同じ地域で活動する NGO と十分に連携することによりプロジェクト活動が促進された。
- ・2010 年からラジオ放送でプロジェクト活動の広報と普及を始めた。それにより、コミュニティへの訪問が難しい時期においても、週 2 回の放送でコミュニティの人々に対してプロジェクト活動に関する情報やポジティブなメッセージを送り続けることができた。
- ・URACCAN 大学の実習、インターン、論文研究などにより、学生がコミュニティでモデル農民グループの農作業を手伝ったり農業技術に関する調査を実施したりしたことで、プロジェクト活動の進展に貢献した。

3 - 5 問題点及び問題を惹起した要因

プロジェクトの効果の発現に対してネガティブな悪影響を及ぼした点や問題点として、以下が確認された。

- ・プロジェクト開始前（2007年9月）にニカラグアを襲ったハリケーン・フェリックスの被害や、プロジェクト実施中の武装強盗などの外部要因は、活動に遅れを生じさせ、プロジェクトの全般的な進展に影響を及ぼした。
- ・本プロジェクトでは外部からの支援への依存や援助体質を減少させ、農民自身の自助努力や創造力の醸成を促進するために単に物資を提供するような方法はとっていない一方で、対象地域では従来の物資供与による支援を行う支援団体も存在している。直接農民への指導を行う C/P からは、従来型の支援が本プロジェクトの意図とは反する影響を与え、農民の本プロジェクトへの参加意欲に対してネガティブな影響が生じるケースもあったと指摘してきている。

第4章 評価結果

4 - 1 評価5項目による評価

4 - 1 - 1 妥当性

本プロジェクトは、ニカラグア政府やプエルトカベサス市のニーズや優先課題、日本の対ニカラグア支援戦略との整合性が高い。また、以下に示すように開発課題に貢献する適切な手段を用いていることが確認されたことから、本プロジェクトの妥当性は高いといえる。

(1) 政府の優先課題や対象地域のニーズとの整合性

2011年9月の終了時評価で示されたとおり、本プロジェクトは中央及び地方政府の政策との高い整合性が確認されている。ニカラグア政府の「国家人間開発計画（PNDH）」によれば、本プロジェクトが対象とする RAAN は国家開発の重点地域のひとつである。また、中央政府が策定した「カリブ沿岸開発計画」（2009～2012）では12分野の重点目標のひとつに「先住民地域や極貧村落の1万世帯に生産能力を付与する」ことを掲げている。さらに、プロジェクト対象地域が所在するプエルトカベサス市の「開発戦略計画 2003～2012」では、農牧生産の技術開発や支援プログラムの実施が必要とされている。現時点ではこれらの政策に変更はなく、引き続き整合性は高いといえる。

対象地域のニーズについても現時点までに変化は生じていない。対象の3地区はいずれも農林業、または零細漁業に生計を依存している。しかし、肥沃な土地が限られていることに加え、これまで開発援助がほとんど実施されていない地域であるため、本プロジェクトが実施する農業普及は裨益対象グループのニーズを満たすものである。

(2) 日本の支援政策との整合性

日本の対ニカラグア支援政策についても現時点までに変更はなく、対ニカラグア事業展開計画（2010年8月）が定める「農村地域貧困削減支援プログラム」の下において、農村の貧困削減が重要な課題として取り上げられていることから、本プロジェクトとの整合性に変わりはない。

(3) 手段としての適切性

<本プロジェクト（TAWAN INGNIKA）の手法>

本プロジェクトの手法は考える農民の育成に力を入れている。農民プロモーターを対象とした研修では、農業技術研修の前にまずは動機づけと組織づくり、生活改善、農村のプロモーター活動、ジェンダーといった社会的なテーマの研修を実施している。農業技術の研修内容はそれぞれのコミュニティが参加型の農村調査（診断）の結果によって選択する方法をとっており、各コミュニティで適切な技術や必要とされている技術のみが導入されている。研修の方法についても、考える農民を育成するための「農村学校」でニーズに基づいた技術の実地研修が行われており、さらに農民から農民への技術移転を促進している。これらの手法は時間がかかるプロセスではあるものの、生産者たちの依存心や援助慣れの傾向を低減することに貢献することが可能であり、本プロジェクトの手法は従来型の支援と比べて適切であると高く評価されている。本プロジェクトの普及モデルを説明する資料

として、付属資料 10 にプロジェクトで作成した「普及ガイドライン」第 2 章の和訳を付す。

<地域のリソースの有効活用>

中間レビュー以降、本プロジェクトでは地域のリソースの有効活用に力を入れている。異なる複数の機関の参加を促進し CDR を形成・強化することによって普及活動を行うことは、限られた地域のリソースを有効に活用しているといえる。CDR の機能は更に強化していく必要があるものの、異なる機関間の連携による普及体制の整備は、人的・資金的リソースが不足している現状にかんがみて有効かつ効率的なアプローチであるといえる。この取り組みに、他の政府機関やドナー機関、NGO 等が関心を示している。今後機関間連携による相乗効果を更に醸成していくためには、CDR がリーダーシップを発揮できるような体制を構築していくことが不可欠である。

(4) 他の支援機関や JICA 事業との連携

本プロジェクトの活動レベルでは既述のとおりさまざまな機関と連携して活動が行われてきた。また、延長期間中には更に連携を強めるための活動が行われてきており、既述のとおり関係が構築された。

一方、JICA の他事業との連携もさまざまな形で行われており、例えば動機づけや組織づくり、農業技術などの専門家を他の JICA 技術協力プロジェクトから招き研修を実施するなど、有用な連携が実施された。

4-1-2 有効性

下記に示すようにプロジェクト目標の達成状況は良好であり、高い有効性が確認されている。

(1) プロジェクト目標の達成見込み

「3-2 プロジェクト目標の達成状況」で述べたとおり、プロジェクト目標の指標はすべて達成されている。さらに、本終了時評価の農民プロモーターや生産者への聴取調査では、以下のようなさまざまな形でプロジェクトに参加している人々の生活が既に改善していることが確認された。

- ・以前は野菜を食べる頻度は少なかったが毎日食べるようになり、家庭の食生活が改善された。
- ・野菜を自分で栽培・収穫するようになり、野菜を買うための出費を抑えることができるようになった。
- ・収穫物の一部を売ることによって家庭の収入が向上した。
- ・作物の生産性が向上し、栽培作物の種類も増えた。
- ・以前は家から遠い畑で作業していたが、今は近くで栽培するようになり便利になった。
- ・人々との接し方やジェンダーについて研修を受けたことで、配偶者や家族、コミュニティの人々との関係が改善された。
- ・今まで得たことのない「知識」を得ることができ、自分で継続して活用していくことができる。

(2) プロジェクト目標とアウトプットの因果関係

上述のプロジェクト目標の達成状況は、アウトプット1と特にアウトプット2の達成状況が直接関係している。対象地域の農村開発に見識が深い関係者によると、従来これらの地域では資金的・物的支援を受けることに人々が慣れてしまっており生産活動を推進することは難しかったが、本プロジェクトの農民プロモーターや農民たちは自分たちで入手可能な資源を活用した生産活動に従事している。まだ習得した知識を継続的に活用して生産活動を行うレベルまで達しておらず今後もフォローアップを必要とするグループもあるが、上述のような効果が発現していることは本プロジェクトの直接の結果であるといえる。アウトプット3については、CDRの機能は本プロジェクトが導入したモデルの活動を確実に実行していくためには、まだ十分に強化されたとはいえない状況である。

プロジェクト目標達成に向けた外部条件については、「農業普及に関する市役所の方針が変わらない」及び「普及員および農民プロモーターが頻繁に変わらない」が挙げられているが、本終了時評価の時点では市役所の方針に変化はなく、また普及員の役割はC/Pが果たしているため大きな変化は生じていない。農民プロモーターはそれぞれの事情で活動を止めることもあるが、C/Pによると、研修を受けた農民プロモーターのおおよそ80~85%が継続的に農民プロモーターとして活動に従事しており、達成状況にネガティブな影響を及ぼすほどの事態は生じていないと考えられている。

4-1-3 効率性

以下に示すとおり、活動の進展状況によりそれぞれのアウトプットの達成度は異なっている。投入については、プロジェクト期間の前半には効率的な投入の活用においていくつかの問題が生じたが、全般的には限られた資源を適切に活動に用いている。

(1) アウトプットの達成状況

「3-1-3 アウトプットの達成状況」で示したとおり、アウトプット1については、いくつかの費目においては予算確保に困難が生じたことやCDRの機能にも改善の余地があることから、一部の指標は未達成である。アウトプット2については、高い達成度が確認できた。アウトプット3については、さまざまな組織・機関との連携を行うなど持続的な実施体制の確立に努めてきたが、達成度を高めるためにはプロジェクト活動の継続に必要な予算を確保することが求められる。

(2) アウトプットと活動の因果関係

上述のアウトプットの達成状況は、プロジェクト活動の内容と直接的に関係しており、活動の結果として発現していることが確認されている。アウトプット達成のための外部条件として、「対象地域の治安がプロジェクトの活動に影響を与えない程度に安定している」と「農民グループが組織的にプロジェクトへの参加に合意する」の2つが挙げられているが、前者については「3-5 問題点及び問題を惹起した要因」で述べたように、プロジェクト活動の進捗にネガティブな影響を与える状況が生じている。後者については、対象地域のコミュニティは伝統的にコミュニティを代表する組織・代表者の決定に従う慣習がある。プロジェクト開始当初には、他の支援組織が活動を実施しているリーダーと活動を

開始したものの、コミュニティの権威からの承認がなかったため、その他の住民の参加を得ることが難しいケースが生じたが、その教訓からその後はプロジェクトではコミュニティの権威の承認を受けてから活動を行っており、問題は生じていない。

(3) 投入の質、量、タイミング

投入は概してPDMに設定されているアウトプットを発現させるために適切に活用されたと考えられる。プロジェクト期間の前半には、プロジェクトの運営方法や活動のフォーカスについてCDRの委員やプロジェクト実施チームのコンセンサスが十分に確立されていなかったことから、投入が十分に効率的に活用されなかったこともあった。例えば、ローカルコンサルタントを活用してプロジェクト活動を進めようとしたものの、アウトプットの達成には適切に結びつかなかったことがあった。しかし、そのような経験から教訓を得て、プロジェクト期間の後半では投入をアウトプットの達成に効率的に結びつけることができている。

日本側から供与された機材については、既にほとんどの機材の権利をCDRに委譲しているが、プロジェクト終了後もそれらの機材をどのようにプロジェクト活動のために活用していくかを定めた使用規則が整っていないことが指摘されている。

4-1-4 インパクト

適切な計画に沿って予算を確保しながらプロジェクト活動を継続・拡大していくことで、上位目標の達成が見込まれる。プロジェクトの効果としてさまざまな正のインパクトが確認された。負のインパクトは確認されなかった。

(1) 上位目標の達成見込み

上位目標1「モデル農民グループで確立した農業の普及により、プエルトカベサス市全体において、農民の生計（生活水準）が向上する」及び、上位目標2「プエルトカベサス市以外の先住民自治地域へ、農業普及活動が波及する」の達成のためには、適切な計画に沿って予算を確保しながら、本プロジェクトの活動を継続・拡大していくことが必要である。そのために、CDRではプロジェクト実施チームと共に2013年の活動計画を策定し、プエルトカベサス市議会に予算申請を行う予定である。また、上位目標の指標として設定されている「プエルトカベサス市内の50コミュニティにおける小規模農民の1,500名」の達成に向けて受益者を拡大するために、各年の目標値を設定していくことも必要である。

なお、上述の上位目標の指標に必要なデータは、普及ガイドラインに示されている活動内容を継続していけば、モニタリングの結果によって確認することが可能である。

(2) 上位目標とプロジェクト目標の因果関係

上位目標1は、日本の協力が終了したあともプロジェクト活動を継続していけば、本プロジェクトの効果として達成することが可能である。上位目標2については、プエルトカベサス市以外の地域で本プロジェクトの活動を実施していくことが必要である。本プロジェクトの中心的な実施機関はプエルトカベサス市であり、PDMでは対象地域外での普及活動を展開するための体制について具体的な活動は記述していないが、プロジェクトでは特

に延長期間において、将来的にプエルトカベサス市以外で活動を展開することを考慮し、州レベルの生産者会議に参加するなどして RAAN 政府や MAGFOR、FAO 等の RAAN 内で活動する関連機関との関係を育んできた。これら機関のなかにはプロジェクトでつくり上げた普及モデルや人材を活用して普及活動に取り組む意欲を示している機関もあり、今後の展開が期待される。

上位目標の達成のための外部条件としては、以下の 4 点が挙げられている。

- ・生産物の価格が急落しない。
- ・関連する投入財や経費の価格が高騰しない。
- ・農作物、牧畜に重大な伝染病が発生しない。
- ・重大な自然災害が発生しない。

これらの外部条件については、プロジェクト開始当初にもハリケーン・フェリックスの影響があったように、気候変動などの影響で自然災害が生じたり、その結果作物の価格の変動が生じたりする可能性は考えられる。

上位目標の達成に影響を与える可能性のあるその他の要因としては、本プロジェクトが時間をかけて自助努力の促進に取り組む一方で、同じ地域で他の支援機関が従来のような資金・物資を供与することは本プロジェクトの効果発現にネガティブな影響を及ぼす可能性があることから、資金・物資の供与を最大限に活用できるような支援機関間の連携が必要となっている。

(3) 波及効果

本プロジェクトの正の波及効果として以下のような状況が確認された。

- 1) 農業技術の持続的な適用を促すために、本プロジェクトでは農具、種子、苗などの物資を提供するのではなく、それらの物資は自助努力により入手することを促進した。このアプローチに取り組んだ結果、特に先住民のコミュニティにおいて物的支援への依存から脱却し自助努力で農業に取り組む住民が生じている。
- 2) プロジェクト活動に従事してきた農民プロモーターが自分のコミュニティ外の生産者に対して技術支援を行うケースが生じている。近隣のコミュニティから 9 人、別のコミュニティから 12 人の農民がそのプロモーターの農場を訪問し、本プロジェクトの農業技術を学んでいる。
- 3) プエルトカベサス市内から転出した農民プロモーターの 1 人が、引っ越し先の土地でプロモーターとして生産者のグループに対して技術指導を実施している。
- 4) 農民プロモーターの数人がコミュニティの宗教グループと協力し 30 人程度のグループで活動を実施しているケースが生じている。
- 5) 一部の農民プロモーターは地域で育成された人材として知られるようになり、NGO が地域のリーダーとして NGO の活動実施のために雇用するケースが生じている。
- 6) 本プロジェクトが実施している研修のテーマのひとつにはジェンダーの平等が含まれており、またプロモーターの約 45% は女性である。女性のプロモーターへのインタビューでは以下のような効果が確認された。
 - ▶ 以前は人々の前で発言することもできなかったが、今は多くの人々の前で話をできるようになった。

- ▶ プロジェクト活動に参加することで新しい知識を学ぶことの喜びを認識し、その結果プエルトカバサス市中心にある週末学校で勉強を始めた（8～10人程度の女性が確認されている）。
 - ▶ 家族からの理解や支援が向上し、家族間の関係性が改善された。
- 7) プロジェクトの普及員として C/P を含む 25 人が育成されているが、C/P 以外の人材は研修で習得した技術や知識をそれぞれの普及員が所属する組織や担当業務において活用している。
- 8) 本邦研修に参加した C/P が、研修で学んだ生活改善の知識を URACAAN や BICU の大学の授業で活用している。
- 9) 本プロジェクトの経験を知り、Waspam 市役所は本プロジェクトの活動を導入することに関心を示していることから、本プロジェクトの実施するセミナーに招待したり、本プロジェクトの C/P が Waspam 市で実施されるセミナーでジェンダーに関する講演を行うなどの関係が保たれている。

なお、本プロジェクトによる負の効果は確認されなかった。

4-1-5 持続性

本プロジェクトの C/P はプロジェクトの活動を継続していくために十分な知識・能力を習得している。しかし、本プロジェクトのモデルの持続性を担保し更なる拡大をめざすためには、本プロジェクトの活動を継続するための手段を明確にする必要がある。

(1) 政策・制度面

本プロジェクトの実施機関である 4 機関は本プロジェクトの手法や成果を高く評価しており、今後も対象地域の農業開発や生活状況の改善に貢献するこのような活動を重視していくことを表明している。さらに、MAGFOR、RAAN 政府生産局、家族経済省などの関係機関についても本プロジェクトのモデルを評価しており、それぞれの組織の活動に活用していくことを検討している。よって、政策面での支援は継続することが期待できる。なお、プエルトカバサス市役所については、本終了時評価終了直後の 11 月に市長選挙が予定されており、結果によっては今後の政策支援に大小の影響が生じる可能性がある。

(2) 組織・財政面

4 つの実施機関は今後の活動継続において今までどおりの人材を配置することに問題はないと述べている。よって、本プロジェクトを通して育成された C/P が今後も活動を継続していくことが可能である。しかし、活動に必要な日当、交通費などの予算を確保する必要がある。現在 CDR はプロジェクト実施チームと共に 2013 年の活動計画と予算を策定しており、プエルトカバサス市議会に提出し予算請求を行う予定である。

他機関との連携の可能性については、MAGFOR、RAAN 政府生産局、家族経済省のようにそれぞれの活動で本プロジェクトのモデルを活用することに関心を示している機関があり、それぞれの機関の活動を本プロジェクトの対象コミュニティで実施することや、本プロジェクトで育成されたプロモーターを活用してそれぞれのプロジェクトの活動を展開す

ることが検討されている。

一方、現在 CDR は市議会に承認された委員会であるが、州政府議会には認知されていない。また、RAAN ではテリトリ政府の設置を進めていることから、今後統治体制に変更が生じる可能性がある。よって、周囲の環境を分析しながら将来的にプエルトカベサス市内及びそれ以外の地域で CDR がどのような体制をとっていくべきかを検討し活動を進める必要がある。

なお、今までに本邦研修に参加した人材のネットワークが生活改善や農村開発などのテーマごとに形成されているが、彼らは本プロジェクトのモデルに関連するテーマにおいて育成された人材であることから、本プロジェクトの活動を継続するにあたり活用することが可能である。

(3) 技術面

C/P はプエルトカベサス市内のみならず、RAAN の異なるコミュニティで本プロジェクトのモデルの活動を展開していくために必要な能力や経験を十分に得ている。

農業技術の導入の際には、コミュニティの伝統的な農耕スタイル、在地の農耕を基本とした技術を基本とし、①コミュニティでできる技術、②経済的に導入できる技術、③社会的に受け入れられる技術、④環境に優しい持続的な技術、といった点が考慮されてきた。具体的には、家庭菜園を中心とした屋敷畑の導入、堆肥作成技術、灌漑技術等がある。対象コミュニティでは、農民プロモーターはさまざまな技術を習得しており、農民自身はそれらの技術が自分たちの農業に適した技術であったと認識しており、プロジェクト終了後も活動を継続していくことが考えられる。また多くの農民プロモーターは他の生産者へ技術を移転しており、今後も技術移転に努めていく考えであることが確認された。

(4) 文化、社会、環境、ジェンダー面

本プロジェクトは民族・社会経済・地理・文化・環境などの点で多様性を考慮して活動を実施してきた。例えば、コミュニティで実施する研修の内容は参加型の調査・診断の結果によって選ばれている。さらに、本プロジェクトでは既述のとおりジェンダーに配慮して活動を実施している。よって、これらの側面では持続性を阻害するような要因はないと考えられる。

4 - 2 結 論

以上のように、本プロジェクトのプロジェクト目標は十分な達成度が確認された。評価時点において十分に達成されていない成果指標も一部あり、プロジェクト期間中に達成すべき課題もいくつか残されてはいるものの、後述の提言を考慮しつつ課題に取り組むことで達成度を高めることが可能である。よって、本延長期間をもって協力を終了することが妥当であると結論づけられる。

第5章 提言と教訓

5 - 1 提言

プロジェクトの効果が持続し、自治区内に波及するために、合同評価委員会として以下の提言を行った。

(1) 協力期間中の活動に対する提言

1) 文書の完成

ニカラグア関係機関による自立的な活動継続のために、「戦略計画」「持続的農業普及計画」「ガイドライン」の3文書が作成されている。これらはいずれも第1版やドラフト版が作成済みであるが、修正もしくは完成させる必要がある。このため、実施チームとCDRは日本人専門家の技術支援を得て、これらを可及的速やかに完成させる必要がある。

2) 2013年度予算の確保

協力期間中、ニカラグア関係機関が負担すべき経費のうち燃料費や実施チームの日当等の一部経費について日本側が支援してきた。協力終了後は、ニカラグア側はこれらの経費を確実に負担しなければならない。

このため、2013年度の予算確保に向けた手続きを行う必要がある。具体的には、実施チームは日本人専門家の技術支援を得て2013年の年間活動計画を作成し、CDRの承認を得て2012年11月の市議会に提出する必要がある。同様にBICU大学、URACCAN大学、PANA PANA(NGO)についても各機関の負担すべき経費について予算確保の手続きが必要である。これは緊急かつ重要な課題であり、確実に実行されなければならない。

3) プロジェクト効果の波及

プロジェクトは、上位目標として現在の対象3地域のみならずプエルトカベサス市全域、さらにはプエルトカベサス市以外に、その効果が波及することをめざしている。この目標を近い将来に達成するため、プロジェクトでは特に延長期間において自治区政府や他の自治体、政府機関、ドナー等と積極的にコンタクトを行ってきた。しかしながら、これらの機関に対してプロジェクトのコンセプト、デザイン、手法を明確に示すことが困難であった。実施チームにより作成の最終段階にある「ガイドライン」には、プロジェクトのコンセプト、デザイン、手法の全体像が示されており、これらをより詳細に説明することが可能となっている。

協力期間中及び終了後において、この「ガイドライン」を活用してプロジェクトのつくり上げたTAWAN INGNIKAモデルについて、自治区政府や他の自治体、政府機関、ドナー等に紹介し、理解を得て具体的な連携を促進することに注力する必要がある。

4) 供与機材の使用及び維持管理規定

日本の協力により供与された機材は、プロジェクト活動のためにのみ使用されなければならない。このため、CDRは、日本人専門家の支援を得て、プロジェクト終了までに、機材の使用及び維持管理の規定を定める必要がある。

5) 実施機能の強化

5年間のプロジェクト実施期間において、日本人専門家がプロジェクトの事務局的機能を担ってきた。持続性を確保するために、この役割はニカラグア側によって担われるべきで

あり、このため、CDR のメンバーは協力期間終了前にその体制を定める必要がある。

6) CDR における適時の意思決定

CDR における意思決定が必ずしも円滑になされていない現状について多くの関係者から懸念が示された。日本の協力が終了する前に、上述の課題を達成していくためには、CDR 参加機関の一層の努力によって CDR における迅速な意思決定がなされる必要がある。

(2) 協力期間終了後に向けた提言

1) CDR のあり方について

現在の CDR はプエルトカベサス市内における活動を前提として、同市役所を中核とした 4 団体で構成されている。他方、プロジェクトは協力期間中の成果に基づいてプエルトカベサス市外にまで活動を展開することをめざしている。また、RAAN においてはテリトリ政府の設立や権限移譲が進行中であり、行政機能のあり方は将来的に変化していく可能性についても考慮する必要がある。

このような状況下、CDR については必ずしも現在のあり方にこだわることなく、その構成要員の増員や、機能、意思決定機構の変更等について、地域の状況の変化に柔軟に適応させていくことが望ましい。

CDR の永続性を確保するためには、法的ステータスを有した組織として設立することも一案である。

2) 他組織との調整及び連携について

本プロジェクトで導入した TAWAN INGNIKA のモデルは、受益者の自立意識を高め自らを開発主体として認識させる特徴を有している。このモデルは、多くの組織が行っているような従来型の手法、すなわち、住民に物を与えることによって支援への依存性を高めることにもつながり得る手法とは全く異なっている。

同一地域内でこのように全く異なる手法で活動が実施される場合、時として効果が減少したり、場合によっては混乱を起こして状況を悪化させることもあり得る。このため、より良い連携及び相乗効果をめざして、こうした支援を行う他組織とより一層の効果的な調整を行う必要がある。

5 - 2 教 訓

本プロジェクトは、これまで普及システムが存在しなかった地域において、地域に適した普及モデルの創出と、またそのモデルを実行し得る人材とチームの育成を成し遂げた。このモデルの持続性を確保する機能を強化する必要があるものの、この取り組みは既存の普及システムの存在する地域における普及システムの強化とは全く次元の異なるものであり、これを成し遂げたプロジェクトチームの努力は称賛に値する。

特筆すべきことは、この過程において、普及の手法や技術内容については当初の想定したものにこだわらず相当柔軟な試行錯誤を行ってきたことである。

協力の開始にあたり綿密な調査や仮定の設定が重要であることは論を待たないが、活動の進捗とともに明らかになりあるいは変化していく状況に即して、必ずしも当初の仮定に固執することなく果敢に新たな取り組みを行うことも必要である。

第6章 団長所感

(1) プロジェクトの終了

本プロジェクトは2008年2月に開始され、当初4年間（2012年2月まで）で終了の予定であったが、外部要因に起因する事業の遅延によりまだプロジェクトの活動が定着していないとして1年間延長され、2013年2月まで期間5年間のプロジェクトとなった。1年の延長期間の間に、プロモーターの研修や「ガイドライン」のドラフト作成等の作業が進みプロジェクトの活動が定着していることが確認されたことから、今次終了時評価にあたっては、予定どおり2013年2月に終了させることが妥当との結論となり、ニカラグア側の合意を得たものである。これまでのプロジェクト関係者の努力に敬意を表するとともに、プロジェクトの残り期間においてペンディングとなっている事項が順調に進捗するよう関係者のより一層の努力を期待する。

(2) プロジェクトの成果

本プロジェクトの目標は、モデル農民グループの生計向上であり、具体的には、モデル農民グループの半数が主要作物の収量を増加させ、かつ新たに3作目あるいはそれ以上の新規の農作物を導入し、かつ生活改善研修で学んだ内容を継続的に実践するようになることであるが、モデル農民グループに属する農民のうちの80%が主要作物の収量を増加させ、同じく80%以上が実際に3作目以上の新規の作物を導入し、50%以上が生活改善研修で学んだ内容を継続して実践していることが確認されている。すなわち、本プロジェクトの目標は十分に達成されたといえることができる。

数字上の目標もさることながら、今次調査団は実際に事業対象地域に赴き、本プロジェクトの各農村プロモーターとのインタビューにおいて、「以前は全く知らなかった野菜のつくり方を本プロジェクトにおいて学んだ。また土壌を改善し農作物の収量を上げる方法を学び、実際に収量が増加することを体験した。今後もさまざまな試行を継続し、生産改善に結びつけていきたい。学ぶことの大切さを学んだ。」という声を多数聞くことができ、プロジェクトの効果が根付いてきていることを確認することができた。

(3) プロジェクトのオーナーシップの確立

本プロジェクトの上記のような成功の理由は、JICA側インプットによる専門家はじめ関係者の努力によるところが大きいほか、その土地の状況に適した農作物その他の生産手段を柔軟に導入した点などが挙げられるが、成功の大きな理由となったのはとりわけC/P機関であるCDRとその構成メンバーであるプエルトカベサス市、BICU大学、URACCAN大学及びPANA PANA (NGO) が本プロジェクトを自らが実施の責任を有するプロジェクトであると強く認識し、オーナーシップを強く発揮しつつプロジェクトを推進してきた点が挙げられよう。CDRの共通の問題意識は唯一先住民族であるミスキート族の生活水準向上であり、この強い共通の問題意識が関係組織間の調整を円滑にし、プロジェクト推進の原動力になったものと考えられる。

(4) 今後プロジェクト終了までの課題

今次終了時評価において、今後プロジェクト終了時までに取り組むべきいくつかの課題が提示されたが、いずれの課題においてもその根底にあるものはプロジェクトの「持続性」をいかに確保するかというものである。なかんずく、事業終了直後の2013年中にプロジェクトを円滑に継続していくためには、関係機関、とりわけプエルトカベサス市の予算を本プロジェクトのために確保することが必要であり、予算案提出のタイミングを考えれば、これは喫緊の課題であるといえる。この点についてはニカラグア側関係機関の迅速な対応をお願いしたい。

(5) プロジェクト終了後の課題

本プロジェクト実施を担うCDRの士気は高いものの、プロジェクト終了後、これまでJICA側派遣専門家が支援してきた本プロジェクトの事務局の役割も含め、4機関の集まりであるCDRがプロジェクト推進を担う実施機関として効率的に機能するような体制整備が必要である(事務局の再構成等)。これは今次終了時評価において、CDRの各メンバーからも強く指摘された点である。

本プロジェクトの上位目標は、本プロジェクトの3つのターゲット・エリア(プエルトカベサス市Llano Norte地区、Llano Sur地区及びTasba Pri地区)のみならず、プエルトカベサス市全体、さらにプエルトカベサス市以外の先住民地域にプロジェクトの効果を波及させていくことである。このため本プロジェクト下において、既に3回RAAN内の他自治体の参加を募り「生活改善フォーラム」を開催し、本プロジェクトの拡大普及を図っている。ここまでエンド・ユーザーに効果が浸透してきたプロジェクトであればこそ、プロジェクトの今後の対象エリアの拡大に大きく期待する。そのためには前述したニカラグア側の強いオーナーシップが必要となる点はいうまでもない。

(6) TAWAN INGNIKA

本プロジェクトは現地においては、“TAWAN INGNIKA”(ミスキート語で「農村の光」という通称で呼ばれており、プロジェクト対象地の人々の間に広く認知されてきている。プエルトカベサス市においては、従来農業従事者が大部分を占める地域であるにもかかわらず農業技術の支援が行われておらず、パイオニア的なプロジェクトとして貧しい農民に生計を向上させる希望を少しずつ与え始めている。また、5年間の活動のなかで、C/Pには「持続性」及び「オーナーシップ」の重要性を理解させ、さらにFAO等の国際機関も本プロジェクトで学んだことを生かし有機農業を始めた農家を見学を訪れるといったようにドナーの注目も集めるなど、本プロジェクトの可能性は終了を間近に控え更に広がっている。この新たな「農村の光」が消えることのないよう、関係者の努力の継続を改めて期待する。

付 属 資 料

- 1．調査日程
- 2．主要面談者リスト
- 3．PDM（和文）
- 4．PO（和文）
- 5．日本側投入実績
- 6．ニカラグア側投入実績
- 7．研修・セミナー実績
- 8．成果品リスト
- 9．ミニッツ
- 10．普及ガイドライン和訳
（プロジェクトの普及モデルを説明した第2章のみ抜粋）

1. 調査日程

日付	曜日	出発	到着	活動内容	
2012/9/30	日		19:30	評価分析コンサルタント 本邦発一(DL296)マナグア着	マナグア
2012/10/1	月	8:30		JICA ニカラグア事務所打合せ	マナグア
		9:30		関係機関(カリブ海沿岸開発庁)訪問	
		11:00		関係機関(MAGFOR)訪問	
		13:30		JICA ニカラグア事務所打合せ	
		14:00		JICA ニカラグア事務所長面談	
2012/10/2	火	11:00	12:30	プエルトカベサス到着(La Costena 134 便)	プエルトカベサス
		13:00		プロジェクト打合せ	
		13:30		評価委員説明会議	
		15:00	16:10	C/P 機関(URACCAN)ヒアリング	
		16:20	18:20	活動報告聞き取り(日本人専門家)	
2012/10/3	水	8:30	9:20	C/P 機関(BICU)ヒアリング	プエルトカベサス
		9:30	10:40	関係機関(RAAN 政府生産部)ヒアリング	
		9:45	11:35	関係機関(IDR)ヒアリング	
		11:40	12:10	プロジェクト打合せ	
		14:00	15:00	C/P によるプロジェクト説明	
		15:00	15:50	C/P による活動報告及びヒアリング	
2012/10/4	木	16:00	17:00	C/P 機関(市役所)ヒアリング	プエルトカベサス
		7:40		ホテル出発	
		9:20	10:30	サイト訪問及びヒアリング:Llano Norte 地区/Santa Marta	
		10:40	11:30	サイト訪問及びヒアリング:Llano Norte 地区/Iltara	
		11:40	12:50	サイト訪問及びヒアリング:Llano Norte 地区/Beren	
		13:20	14:30	橋の工事通行止め	
		14:50	15:30	サイト訪問及びヒアリング:Llano Norte 地区/Kuakuil	
2012/10/5	金	16:30		プロジェクト打合せ	プエルトカベサス
			18:00	ホテル MONTER	
		7:00		ホテル出発	
		9:40	10:50	サイト訪問及びヒアリング:Tasba Pri 地区/Sumbila	
		11:10	11:50	サイト訪問及びヒアリング:Tasba Pri 地区/Nazareth II	
		12:10	13:20	サイト訪問及びヒアリング:Tasba Pri 地区/Nazareth	
		14:20	15:00	サイト訪問及びヒアリング:Llano Sur 地区/Trusraya	
2012/10/6	土	16:00	16:40	サイト訪問及びヒアリング:Llano Sur 地区/Betania	プエルトカベサス
			17:40	ホテル MONTER	
2012/10/7	日	8:00	13:10	日本人専門家ヒアリング 資料整理・報告書案作成	プエルトカベサス
2012/10/8	月			資料整理・報告書案作成	プエルトカベサス
		7:45	8:15	プロジェクト打合せ	
		8:20	9:20	MAGFOR プエルトカベサス支局ヒアリング	
		10:20	12:20	C/P 活動報告ヒアリング	
2012/10/9	火	14:00	17:20	日本人専門家ヒアリング	プエルトカベサス
		7:45		日本人専門家ヒアリング	
		13:10		日本人専門家ヒアリング	
		15:30		活動報告聞き取り(日本人専門家)	
		16:00		瀧口団員プエルトカベサス到着	
2012/10/10	水	16:30		日本人専門家と打合せ・ヒアリング	プエルトカベサス
		7:45		プロジェクト打合せ	
		9:10	10:00	プエルトカベサス市役所ヒアリング	
		10:10	12:00	C/P によるプロジェクト説明	
		14:00		C/P によるプロジェクト説明	

2012/10/11	木	7:00		サイト訪問及びヒアリング:Llano Norte 地区	プエルトカベサス
		14:20		資料整理・報告書案作成	
			19:00	ホテル MONTER	
2012/10/12	金 (祝)	8:00		資料整理・報告書案作成	プエルトカベサス
		16:00		C/P 機関(PANA PANA)ヒアリング	
2012/10/13	土			資料整理・報告書案作成	プエルトカベサス
				活動報告聞き取り(日本人専門家)	
			11:30	中尾団長プエルトカベサス到着	
		13:00		プロジェクト打合せ	
2012/10/14	日	14:00		C/P によるプロジェクト説明	プエルトカベサス
				資料整理・報告書案作成(大橋)	
		7:30		ホテル出発(中尾・瀧口)	
		10:30		サイト訪問及びヒアリング:Tasba Pri 地区/Sumbila	
		11:10		サイト訪問及びヒアリング:Tasba Pri 地区/Nazareth II	
		11:50		サイト訪問及びヒアリング:Tasba Pri 地区/Nazareth	
		14:00		サイト訪問及びヒアリング:Llano Sur 地区/Trusraya	
		15:30		サイト訪問及びヒアリング:Llano Sur 地区/Betania	
2012/10/15	月	16:40		プロジェクト打合せ	プエルトカベサス
			17:20	ホテル MONTER	
		8:00	12:00	合同評価(報告書案協議)	
2012/10/16	火	13:30		プロジェクト打合せ	プエルトカベサス
2012/10/17	水	8:00		合同評価(報告書案協議、合同評価報告書署名)	プエルトカベサス
		9:00	12:00	JCC 合同評価結果報告書作成	
2012/10/18	木	14:00		JCC 合同評価結果報告、ミニッツ署名	マナグア
		6:40		ホテル出発空港へ	
		7:20	9:40	La Costena 133 便	
		13:45	14:45	JICA ニカラグア事務所報告	
		15:00		大使館報告	
2012/10/19	金			マナグア発	
2012/10/20	土			(移動)	
2012/10/21	日			本邦着	

2. 主要面談者リスト

【カウンターパート】

Hemsly Francia W.	プエルトカベサス市自然資源環境部職員
Elga Thomas Bency	プエルトカベサス市自然資源環境部職員
Zamir Mairena Bermudez	BICU 大学農林学部教員
Alexa Torres Thomas	URACCAN 大学農林学部教員
Limborth Bucardo G.	PANA PANA 普及部職員
Mojareth Alvares	MAGFOR プエルトカベサス支局職員

【CDR 委員】

Gullermo Espinoza	プエルトカベサス市長
Nitza Dixon	プエルトカベサス市自然資源環境部長
Yuri Zapata Webb	URACCAN 大学副学長
Enrique Cordón A.	URACCAN 大学農林学部コーディネーター
Reynaldo Figueroa	BICU 大学副学長
Diógenes Solózano	BICU 大学農林学部長
Lucila Law Branco	PANA PANA 代表

【関係機関】

Francisco Ramón Canales	カリブ海沿岸開発庁長官
José León Avilés Lazo	カリブ海沿岸開発庁生産部長
Benjamin Dixon Cunningham	MAGFOR 副大臣
Carlos Downs	RAAN 政府生産部長
Haroldo Wilson	RAAN 政府生産部職員
Samileth Sacasa	家族経済省州事務所長
Luis Picado	家族経済省プロジェクト部長
Iquigalla Borst	MAGFOR プエルトカベサス支局

【ニカラグア側評価委員】

Charlotte Cruz Bush	プエルトカベサス市対外協力部長
Peter Salgado Garth	自然資源環境部技術者
Samuel Mercado Sanders	PANA PANA 理事長
Victor Mairena Lau	BICU 大学教員
Roberto Martínez	URACCAN 大学教員
Thelma Morales Gradiz	MAGFOR プエルトカベサス支局普及員
Carlos Downs	RAAN 政府生産部長

【専門家】

高橋 貞雄

福岡 正行

チーフアドバイザー／普及組織／営農

業務調整

【日本大使館】

鈴木 利幸

西山 慎二

参事官

一等書記官

【JICA ニカラグア事務所】

大木 智之

田中 健紀

Humberto Picado

所長

企画調査員

ナショナルスタッフ

ニカラグア国 プエルトカベサス先住民コミュニティ生計向上計画(PDM ver.3)(2011年9月)

実施期間:2008年2月～2013年2月(5年間)

対象地域:プエルトカベサス市内プロジェクト対象3地域(Llano Sur, Llano Norte, Tasba Pri)

ターゲット・グループ:プロジェクト対象地域の小規模農民(500家族)

プロジェクトの要約	指標	指標の入手手段	外部条件
<p>[上位目標]</p> <p>1. モデル農民グループで確立した農業の普及により、プエルトカベサス市全体において、農民の生計(生活水準)が向上する。</p> <p>2. プエルトカベサス市以外の先住民自治地域へ、農業普及活動が波及する。</p>	<p>2017年までに、</p> <p>1-1. 農村開発委員会の活動計画が定期的に見直され実施される。</p> <p>1-2. プエルトカベサス市内の50コミュニティにおける小規模農民の1500名が、プロジェクトにより導入された技術を適用する。</p> <p>1-3. プエルトカベサス市内の50コミュニティにおける小規模農民の1500名が、プロジェクトにより導入された技術により主要作物(イネ、豆、根菜類)の収量を増加させる。</p> <p>1-4. プエルトカベサス市内の50コミュニティにおける小規模農民の1500名が、新たに3作物またはそれ以上を新規に導入する。</p> <p>1-5. プエルトカベサス市全域で、生活改善に関する普及体制が機能している。</p> <p>2-1. プエルトカベサス市以外の先住民自治地域での農民交流会が毎年周辺3市で実施される。</p>	<p>サンプル調査報告書</p> <p>大学の年間活動報告</p>	
<p>[プロジェクト目標]</p> <p>モデル農民グループの生計(生活水準)が向上する。</p>	<p>2013年2月までに、</p> <p>1. モデル農民グループの50%が地域に適した技術を導入することにより主要作物の収量が增加する。</p> <p>2. モデル農民グループの50%が新たに3作物またはそれ以上を新規に導入する。</p> <p>3. モデル農民グループの50%が生活改善研修で学んだ内容を継続的に実践している。</p>	<p>プロジェクトによる調査報告書</p> <p>プロジェクト報告書</p> <p>モニタリング報告書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生産物の価格が急落しない ・関連する投入財や経費の価格が高騰しない ・農作物、牧畜に重大な伝染病が発生しない ・重大な自然災害が発生しない
<p>[成果]</p> <p>1) 農村開発委員会が規約と戦略計画に基づき機能している。</p> <p>2) モデル農民グループに普及された技術が導入されている。</p> <p>3) 農村開発委員会の持続的な農業普及活動の実施体制が確立される。</p>	<p>1-1. カウンターパートが計画通りに配置される。</p> <p>1-2. プロジェクト運営予算が適正に確保され、執行される。</p> <p>1-3. 委員会及び定例運営会議が適正な頻度で開催される。</p> <p>2-1. 農民プロモーターが100名(20コミュニティ×5名)育成される。</p> <p>2-2. モデル農民グループが20コミュニティで選定される(20グループ約500名)。</p> <p>2-3. モデル農民グループの50%が農業生産性向上に関する技術や手法を実践している。</p> <p>2-4. モデル農民グループの50%以上が生活改善研修で学んだ内容を実践している。</p> <p>3-1. カウンターパート機関以外の複数の機関が「持続的農業普及計画」を実施する。</p> <p>3-2. 右普及計画を執行する予算が確保される。</p>	<p>プロジェクト関連報告書、議事録、活動計画書、普及計画書</p> <p>プロジェクト報告書</p> <p>モニタリング報告書</p> <p>「持続的農業普及計画」</p> <p>農村開発委員会幹部へのインタビュー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業普及に関する市役所の方針が変わらない ・普及員および農民プロモーターが頻繁に変わらない

<p>[活動]</p> <p>1-1.農村開発委員会の役割を明確にするために戦略計画を策定する。</p> <p>1-2.農村開発委員会内にプロジェクト実施チーム(C/P および普及員)を立ち上げる。</p> <p>1-3.農村開発委員会の年間活動計画を立案する。</p> <p>1-4.生産状況の調査・分析を農民とともに実施する。</p> <p>1-5.コミュニティ自治組織とともに農民プロモーターおよびモデル農民グループを選定する。</p> <p>2-1.農村開発委員会の実証展示・研修圃場を設置する。</p> <p>2-2.プロジェクト実施チームが、農民プロモーターに研修を実施する。</p> <p>2-3.プロジェクト実施チームが農民プロモーターの圃場で技術指導を実施する。</p> <p>2-4.プロジェクト実施チームは農民プロモーターの実践する営農活動を支援する。</p> <p>2-5.プロジェクト実施チームと農民プロモーターはモデル農民グループに技術指導を実施する。</p> <p>2-6.プロジェクト実施チームはモデル農民グループと共に、モデル農民グループ以外の農民も招いた研修を実施する。</p> <p>2-7.プロジェクト実施チームはモデル農民グループによる農民交流会の開催を支援し、モデル農民グループおよび他コミュニティ農民との技術・情報交換を促進する。</p> <p>3-1.農村開発委員会が、「持続的農業普及計画」内における普及員、農民プロモーターの役割を明確化する。</p> <p>3-2.農村開発委員会は、右普及計画に関わる普及員の所属先関係機関との協議、合意形成を図る。</p> <p>3-3.農村開発委員会は、上記農業普及計画を策定し、農民プロモーターおよび普及員によって実施する。</p> <p>3-4.農村開発委員会において、研修教材と普及ガイドラインを発行する。</p> <p>3-5.農村開発委員会は、上記農業普及計画の活動内容をモニタリングする。</p> <p>3-6.農村開発委員会は、上記持続的農業普及計画の活動内容を関係機関に広報活動を実施する。</p>	<p>[投入]</p> <p>日本側</p> <p>1.専門家派遣</p> <p>長期:チーフアドバイザー／普及組織／営農 一名(2年) チーフアドバイザー／研修普及／営農 一名(3年) 業務調整／研修 一名(2年) 業務調整 一名(3年)</p> <p>短期:必要に応じ派遣</p> <p>2.C/P 研修</p> <p>3.機材供与:ピックアップトラック、オートバイ、パソコン</p> <p>ニカラグア側</p> <p>・プロジェクトの実施に必要な施設および設備の提供(実証展示研修圃場用地、研修室等)</p> <p>・JICAの長期および短期専門家の指導分野に関連するバックグラウンドを持ち合わせた、必要なカウンターパートの配置</p> <p>・燃料費、事務用品費、普及経費、出張旅費を含むカウンターパート経費の確保</p>	<p>[前提条件]</p> <p>・農村開発委員会の規約および役割分担が制定されている</p>	<p>・対象地域の治安がプロジェクトの活動に影響を与えない程度に安定している。</p> <p>・農民グループが、組織的にプロジェクトへの参加に合意する</p>
--	---	---	---

5. 日本側投入実績

1. 専門家派遣

(1) 長期専門家

No.	氏名	指導科目	派遣期間		
1	遠藤 又一	業務調整/研修	2008年2月27日	-	2010年2月26日
2	高橋 貞雄	チーフアドバイザー/普及組織/営農	2008年2月27日	-	2009年1月3日
			2009年2月23日	-	2010年2月14日
			2010年3月13日	-	2010年12月11日
			2011年2月15日	-	2012年2月24日
			2012年3月31日	-	
3	福岡 正行	業務調整	2010年2月11日	-	2010年12月16日
			2011年2月9日	-	2012年2月24日
			2012年3月22日	-	

(2) 短期専門家

No.	氏名	指導科目	派遣期間		
1	城殿 博	地域活性化のための農業開発政策調整/ドナー間協調	2011年11月15日	-	2011年12月16日
			2012年1月10日	-	2012年2月14日
			2012年5月16日	-	2012年6月2日
2	埴 暢昭	参加型開発/組織強化	2012年6月28日	-	2012年7月14日
			2012年9月10日	-	2012年9月30日
3	太田 美帆	生活改善/組織強化	2012年8月9日	-	2012年8月18日

2. 本邦研修

No.	氏名	所属先	職位		研修分野	研修内容及び受入機関	派遣期間	
			派遣時	帰国後				
1	Wilford Davis German	BICU 大学	農林学部 教員	農林学部 教員	農 村 開発	住民参加型農村開 発ネットワーク運 営・管理	2009年1月12日	-
							2009年3月18日	
2	Alexa Torrez Thomas	URACCAN 大学	プロジェク ト専従職員	農林学部 教員	農 村 開発	中南米地域農村部 生活改善を通じた 女性のリーダーシッ プ育成セミナー	2009年1月18日	-
							2009年1月31日	
3	Hemsly Francis	プエルトカベサ ス市役所(自然 資源環境部)	プロジェク ト専従職員	プロジェク ト専従 職員	農 村 開発	住民参加型農村開 発ネットワーク運 営・管理	2010年10月9日	-
							2010年12月10日	
4	Elga Torres	プエルトカベサ ス市役所(自然 資源環境部)	プロジェク ト専従職員	プロジェク ト専従 職員	農 村 開発	中南米地域資源を 生かした内発的経 済開発 A	2011年1月3日	-
							2011年2月10日	
5	Lucila Low Branco	PANA PANA	理事長	理事長	農 村 開発	準高級研修:生活 改善を通じた農村 開発	2011年1月10日	-
							2011年1月25日	
6	Limborth Bucardo G	PANA PANA	プロジェク ト専従職員	プロジェク ト専従 職員	農 村 開発	小規模農民支援有 機農業技術普及手 法	2011年5月24日	-
							2011年9月27日	

7	Nitza Dixon	プエルトカベサス市役所(自然資源環境部)	部長(プロジェクトマネージャー)	部長(プロジェクトマネージャー)	農村開発	住民参加型農村開発ネットワーク運営・管理	2011年9月23日	-
8	Kena Fenly	北大西洋自治区政府生産部	生産部職員	生産部職員	農村開発	中南米地域資源を生かした内発的経済開発A	2012年1月4日	-
9	Mojareth Alvares	農牧林業省プエルトカベサス支所	普及職員	普及職員	農村開発	野菜栽培における持続的農業技術	2012年2月5日	-
10	Zamer Danilo Mairena Bermudez	BICU 大学	農林学部教員	農林学部教員	農村開発	小規模農民支援有機農業技術普及手法	2012年6月7日	-
11	Carmen María Rayo Orozco	PANA PANA	普及職員	普及職員	農村開発	中米カリブ地域生活改善アプローチによる農村開発政策の改善	2012年10月14日	-
							2012年11月26日	

※いずれも課題別研修への参加

3. 機材供与

購入年	No.	機材名称	購入価格(米ドル)	数量	合計	利用頻度	管理状況
2008	1	車両, TOYOTA, HILUX, Pick-Up 2008 年型	26,646.00	1	26,646.00	A	A
2008	2	自動二輪車, YAMAHA, AG 200	3,565.21	2	7,130.42	A	A
2008	3	ノートパソコン; Lap-top, Acer Aspire 4720Z	1,127.00	2	2,254.00	A	A
2008	4	レーザープリンター, ZEROX, WorkCenter 4150	4,500.00	1	4,500.00	A	A
2009	5	ミニバス, NISSAN, URBAN, 2009 年型	23,950.00	1	23,950.00	B	A
2009	6	自動二輪車, HONDA, CTX200	2,700.00	2	5,400.00	A	A
2009	7	ノートパソコン; Lap-top, DELL, Vostro 1520	840.00	1	840.00	A	A
2009	8	ノートパソコン; Lap-top, DELL, Vostro 1520	840.00	1	840.00	A	A
2009	9	緊急無線通信システム一式	36,599.37	1	36,599.37	C	A
2012	10	自動二輪車, HONDA, XL 200	3,850.00	4	15,400.00	A	A
				Total	123,559.79		

<利用状況> A: 毎日, B: 週に一度, C: 時々

<管理状況> A: 良好, B: 修理必要, C: 破損

4. 現地業務費

執行期間	活動費(コルドバ)	活動費(米ドル)	総額(米ドル換算金額)
2008年2月~2008年3月	0.00		
2008年4月~2009年3月	566,213.40	70,325.18	98,635.85
2009年4月~2010年3月	1,593,796.29	59,574.25	137,320.41
2010年4月~2011年3月	1,658,435.70	35,769.56	112,906.10
2011年4月~2012年3月	1,708,517.15	65,686.99	141,960.08
2012年4月~8月20日	264,764.50	12,315.41	23,630.13
総 額	5,791,727.04	243,671.39	514,452.57

6. ニカラグア側投入実績

1. カウンターパートの配置

(1) カウンターパート(実施チーム)

機 関 名		役 職	氏 名	プロジェクト在任期間
プエルトカベサス市 役所	自然資源環境部	職員	Hemsly Francia W.	2008年2月27日～
		職員	Elga Thomas Bency	2010年1月19日～
		職員	Wilfred Jhonson	2008年2月27日～ 2008年8月31日
BICU 大学	農林学部	教員	Wilfod Devis	2008年2月27日～ 2012年2月23日
		教員	Zamir Mairena Bermudez	2011年6月21日～
URACCAN 大学	農林学部	教員	Alexa Torres Thomas	2008年5月1日～
PANA PANA	普及部	職員	Limborth Bucardo G.	2011年6月21日～
	クレジット部	職員	Samuel Saballos	2008年2月27日～ 2009年6月30日
MAGFOR	プエルトカベサス支局	職員	Mojareth Alvares	2012年5月7日～

(2) CDR 委員

機 関 名	役 職		氏 名	プロジェクト在任期間
プエルトカベサス市 役所		市長	Nancy Elizabeth Henríque	2008年2月27日～ 2009年1月29日
	★	市長	Gullermo Espinoza	2009年1月29日～
		自然資源環境部長	Amilcar Padilla Morales	2009年1月29日～ 2011年1月29日
	★★	自然資源環境部長	Nitza Dixon	2011年1月29日～
		プロジェクト部部长	Ariel Chacon	2008年2月27日～ 2009年1月29日
		プロジェクト部部长	Elvis Hernández	2009年1月29日～
		対外協力部部长	Chalotte Cruz Bush	2012年4月1日～
		対外協力部部长	Ivonne Waters	2009年1月29日～ 2012年3月31日
BICU 大学		副学長	Reynaldo Figueroa	2008年2月27日～
		農林学部長	Diógenes Solózano	2008年2月27日～
		観光学部長	Milton Sorano	2008年2月27日～
URACCAN 大学		副学長	Yuri Zapata Webb	2012年7月10日～
		副学長	Albert Stclair	2008年2月27日～ 2012年7月9日
		農林学部コーディネーター	Enrique Cerdón A.	2008年2月27日～
PANA PANA		理事長	Samuel Mercado Sanders	～
		代表	Lucila Law Branco	2008年2月27日～

★ : プロジェクトディレクター ★★ : プロジェクトマネージャー

2. プロジェクト経費

機 関	執行期間	総額(コ ルドバ)	人件費(米ドル)		事務所・圃 場家賃(米 ドル)	活動費 (米ドル)	総額米ド ル換算金 額
			人数				
プエルトカベ サス市役所	2008年2月～2008年12月		1.5	3,700.00			3,700.00
	2009年1月～2009年12月		1.0	2,563.12			2,563.12
	2010年1月～2010年12月	6,400.00	2.0	5,600.00			5,897.67
	2011年1月～2011年12月	2,900.00	2.0	5,600.00			5,729.46
	2012年1月～8月20日	600.00	2.0	3,266.00			3,291.64
	小計	9,900.00		20,729.12	0.00	0.00	21,181.90
BICU 大学	2008年2月～2008年12月		1.0	6,000.00	2,349.36		8,349.36
	2009年1月～2009年12月		1.0	6,000.00	11,212.83		17,212.83
	2010年1月～2010年12月		1.0	6,000.00	11,200.00		17,200.00
	2011年1月～2011年12月	2,900.00	2.0	9,000.00	11,200.00		20,329.46
	2012年1月～8月20日	600.00	1.0	3,500.00	65,333.00		68,858.64
	小計	3,500.00		30,500.00	101,295.19	0.00	131,950.30
URACCAN 大学	2008年2月～2008年12月		1.0	1,800.00			1,800.00
	2009年1月～2009年12月		1.0	2,160.00			2,160.00
	2010年1月～2010年12月		1.0	2,640.00			2,640.00
	2011年1月～2011年12月	2,900.00	1.0	2,640.00			2,769.46
	2012年1月～8月20日	600.00	1.0	1,540.00	0.00		1,565.64
	小計	3,500.00		10,780.00	0.00	0.00	10,935.11
PANA PANA	2008年2月～2008年12月		0.5	500.00			500.00
	2009年1月～2009年12月		0.5	500.00			500.00
	2010年1月～2010年12月		0.0	0.00			0.00
	2011年1月～2011年12月	2,900.00	1.0	2,844.00			2,973.46
	2012年1月～8月20日	627.00	1.0	3,850.00	0.00		3,876.79
	小計	3,527.00		7,694.00	0.00	0.00	7,850.26
総 額		20,427.00		69,703.12	101,295.19		171,917.56

7. 研修・セミナー実績

1. 普及員への研修

(1) 研修の詳細

課題	テーマ	実施日	参加者数	指導者
農村開発序論	同期付けと組織化の方法	2008年11月15日	18	Karla 技師(INTA 専門家)
	KAIZEN(改善)	2008年11月28日	20	Jossué 現地契約コンサル
	プロジェクトマネジメント	2008年11月21日	18	Jossué 現地契約コンサル
	-PCM	～22日		
	-PDM	2008年12月5日 ～06日	18	
	地域参加者の評価	2008年11月29日	23	Margarita 現地契約コンサル
有機農業	有機農業の基礎	2009年5月8日	37	Limborth 現地契約コンサル
		～9日		
		2009年5月15日 ～16日	26	
	有機肥料	2009年6月12日	21	Limborth 現地契約コンサル
		～13日		
		2009年8月7日 ～8日	26	
有機分解	2009年7月17日 ～18日	25	Jossué 現地契約コンサル	
熱帯作物	バナナ栽培	2009年9月16日	13	Sandra BICU 大学教授
	熱帯果樹栽培	2009年8月28日 ～29日	20	Jossué 現地契約コンサル
主要作物	フリホール豆の栽培	2009年12月12日 ～13日	21	Noel Eduarte 技師, Julio Molina 技師(INTA 専門家)
コスタリカ研修	アース大学にて	2010年2月9日	12	
		～3月9日		
農業技術	新しい農業技術	2010年11月30日	20	JICA 操 専門家、岡林 専門家
	針なし蜂の基礎	2010年12月17日	25	Jose Marti 講師
		～18日		
	針なし蜂の飼育現状報告	2011年4月16日	13	Jose Marti 講師
組織強化	動機付けと相乗効果	2010年10月20日	25	JICA 野原 専門家
		～21日		
	普及員の認定式と基調講演	2011年5月12日	28	JICA 野原 専門家
	メキシコの事例紹介	2011年8月10日		Santiago 講師(メキシコ)
生活改善	生活改善現地調査及び報告会	2012年2月20日	25	太田美帆 講師
		～21日		
	生活改善の評価手法(BILWI)	2012年8月15日	28	太田美帆 専門家
	ニカラグアでの生活改善ワークショップ(マナグア)	2012年8月16日 ～17日		太田美帆 専門家

(2) 参加人数

	プエルトカベサス内		プエルトカベサス外		合計受講 完了者数	合計参加 者総数
	受講完了者数	参加者総数	受講完了者数	参加者総数		
政府関係	8	14	0	0	8	14
(1) MAGFOR	6	7			6	7
(2) 国家林業庁	2	2			2	2
(3) 環境資源省	0	2			0	2
(4) RAAN 州政府	0	2			0	2
(5) 遺伝子改良センター・森 林種子バンク	0	1			0	1
プエルトカベサス市役所	1	4	0	0	1	4
教育機関	8	11	1	0	9	11
(6) BICU 大学	2	4	1		3	4
(7) URACCAN 大学	6	7			6	7
NGO	6	9	1	1	7	10
(8) AIKUKIWAL	1	1			1	1
(9) ADSIM	0	0	1		1	0
(10) PANA PANA	5	5			5	5
(11) PLAN - NIC.	0	1			0	1
(12) A.M.C.	0	1			0	1
(13) Cruz Roja	0	0		1	0	1
(14) MI FAMILIA	0	1			0	1
その他	0	1	0	0	0	1
(15) FAO	0	1			0	1
合計	23	39	2	1	25	40

2. 農民プロモーター研修(第1グループ)

(1) 研修の詳細

課題	テーマ	実施日	指導者
I. 地域開発の基礎	地域プロモーターの活動	2009年7月14日～15日	Margarita 現地契約コンサル
		2009年8月18日～19日	
	改善	2009年8月25日～26日	Jossué 現地契約コンサル
II. 有機農業	有機農業の基礎	2009年8月8日～9日	
		2009年9月29日～30日	Limborth 現地契約コンサル
	有機肥料	2009年10月13日～14日	
	2009年10月27日～28日	Limborth 現地契約コンサル	
		2009年11月25日～26日	
III. 熱帯農業	栄養と家庭経済	2009年12月2日～3日	Marilú Coleman 医師
		2009年12月15日～16日	Jossué 現地契約コンサル Limborth 現地契約コンサル
IV. 生活改善	改良かまどの普及	2010年2月	Ketlin Reyes 講師(赤十字)
V. 他地区での研修	農業実習	2009年2月9日～20日	Nueva Guinea, El Recreo にて 開催
VI. プロモーター総会	研修修了式、研修証書 授与式	2010年10月7日～9日	

(2) 参加人数

対象地域	コミュニティ	人数
Tasba Pri	Sumbila	4
	Nazaret	4
	Truhlaya	4
Llano Sur	Lapan	5
	Sukatpin	5
	Kligna	6
Llano Norte	Tuapi	5
	Kuakuil	6
その他	—	1
合計		40

3. 農民プロモーター研修(第2グループ)

(1) 研修の詳細

課題	テーマ	実施日	担当者
I.地域開発の基礎	地域プロモーターの活動	CP が各担当のテーマを受持、指導機関を通じて巡回して講習会を現地開催した。	Hemsly
	リーダーシップ		Hemsly, Wilford
	ジェンダーと地域社会		Elga, Alexa
	生活改善		Hemsly, Wilford
	栄養改善		Elga, Alexa
	未来地図		Zamir
II.有機農業	有機農業の基礎		Limborth
	有機肥料		Limborth
	土壌の保全と管理		Wilford
	自然環境と林業		Zamir
III.乾季農業	灌漑技術		
	水田栽培		
IV.畜産	ハリナシミツバチ	2010年11月、2011年4月	Jose Marti R
	小型家畜の飼育方法	2011年12月	Maulicio
V.他地区での研修	農業実習	2010年7月23日～30日	INTA Cebaco
	農民交流会	2011年3月24日	(Trusraya)
		2011年10月27日	(Betania)
VI.プロモーター総会	研修修了式、研修証書授与式	2012年2月9日	(Iltara)
		2012年2月10日	(Naranjar)

(2) 参加人数

対象地域	コミュニティ	参加人数
Tasba Pri	Kuakuil II	6
	Enpalme Colunbo	5
	San pablo	5
	Naranjal	4
	San Miguel	2
Llano Sur /norte	KM 51	8
	Betania	4
	KM 43	6
	Mani Watla	5
Bloque SIPBAA	Sangnilaya	5
	Auhya Tara	5

	Auhya Pihni	7
	Iltara	3
	Panua	4
	Butku	5
合計		74

4. 農民プロモーター研修(第2グループ)

課題	テーマ	実施日	担当者
I.地域開発の基礎	地域プロモーターの活動		
	リーダーシップ		
	ジェンダーと地域社会	2012年8月11日	Elga
	生活改善	2012年8月11日	Hemsly
	栄養改善		
	未来地図		

5. セミナー

実施日	参加者数	会場	内容	講師
2011年11月10日	50	州政府 会議室	CDRの活動紹介	農民プロモーター3名、CP、 CDRメンバー
2012年1月27日	38	州政府 会議室	CDRの活動紹介、ハリナシミツバチの紹介、FAOのRAAN地区での活動紹介、SDCCのRAANへの取り組み、現地見学	農民プロモーター4名、Jose Marti 講師、FAO 地域担当者、SDCC 地域担当者
～28日	18			
2012年8月15日	35	市役所 会議室	生活改善現地調査報告と評価手法	太田専門家、保健省担当者

8. 成果品リスト

年度	表題	備考	形態	
2008 年度	シシン地区の農村実態調査	プロジェクト基礎調査	報告書	
	クアグリ地区の農村実態調査	プロジェクト基礎調査	報告書	
	ラバン地区の農村実態調査	プロジェクト基礎調査	報告書	
	スカピン地区の農村実態調査	プロジェクト基礎調査	報告書	
	サアサ地区の農村実態調査	プロジェクト基礎調査	報告書	
	サグニライヤ地区の農村実態調査	プロジェクト基礎調査	報告書	
	スンビーラ地区の農村実態調査	プロジェクト基礎調査	報告書	
	ナザレ地区の農村実態調査	プロジェクト基礎調査	報告書	
	普及員能力開発	普及員システム構築	報告書	
	生産者のためのスケジュール管理	地域開発委員会と技術指導員の提案	表	
	2008年10月度対象者への普及進捗状況報告	普及フォローアップ	報告書	
	2008年11月度対象者への普及進捗状況報告	普及フォローアップ	報告書	
	啓蒙材料と学習計画のリスト	能力強化計画のフォローアップ	表	
	普及員の能力向上	技能取得カリキュラム	報告書	
	生産者のためのスケジュール管理	地域開発委員会と技術指導員の提案	表	
	地域開発の序章(地域プロモーター)	地域プロモーターの能力	報告書	
	2009 年度	有機農業	計画のフォローアップ	表
		能力向上と組織作り(Alianza)テキストのミスキート語への翻訳製本	地域プロモーターの能力	製本テキスト
プロジェクトが選定したプロモーターリスト		人的資源の構成過程	表	
2008年12月、2009年1月度対象者への普及進捗状況報告		普及フォローアップ	報告書	
能力開発対象の技術指導員リスト		地域の人的資源の構成過程	表	
2009年2月度対象者への普及進捗状況報告		普及フォローアップ	報告書	
生活向上を実現するための提案		地域開発委員会の提案	発表	
2009年2月度対象者の生活向上進捗状況報告		生活向上フォローアップ	報告書	
有機農業(概論)		プロモーターと技術指導員のマニュアル	パンフレット	
2009年3月度対象者への普及進捗状況報告		普及フォローアップ	報告書	
土壌分析		プロモーターと技術指導員のマニュアル	パンフレット	
20093月度対象者の生活向上進捗状況報告		生活向上フォローアップ	報告書	
有機肥料(堆肥とボカシ)		プロモーターと技術指導員のマニュアル	発表	
2009年4.5月度対象者への普及進捗状況報告		普及フォローアップ	報告書	
2009年4月度対象者の生活向上進捗状況報告		生活向上フォローアップ	報告書	
2009年4月度試験圃場の実験結果報告		普及フォローアップ	報告書	
遺伝子組替と生命の危機		プロモーターと技術指導員のマニュアル	発表	
2009年6月度対象者への普及進捗状況報告		普及フォローアップ	報告書	
2009 年度		2009年5月度対象者への普及進捗状況報告	生活向上フォローアップ	報告書
		2009年5月度試験圃場の実験結果報告	普及フォローアップ	報告書
	熱帯農業	プロモーターと技術指導員のマニュアル	発表	
	栄養改善と家庭経済	プロモーターと技術指導員のマニュアル	発表	
	改良かまど(西語とミスキート語)	プロモーターと技術指導員のマニュアル	パンフレット	
	2009年7月度対象者への普及進捗状況報告	普及フォローアップ	報告書	
	2009年6月度試験圃場の実験結果と活動報告	普及フォローアップ	報告書	
	生活向上のための能力開発マニュアル	技術普及員のマニュアル	報告書	
	2009年6月度対象者の生活向上進捗状況報告	生活向上フォローアップ	報告書	
	生物の多様性(概論と基礎)	技術普及員のマニュアル	報告書	
	2009年8月度対象者への普及進捗状況報告	普及フォローアップ	報告書	
	2009年7月度対象者の生活向上進捗状況報告	生活向上フォローアップ	報告書	
	2009年7月度試験圃場の実験結果と活動報告	普及フォローアップ	報告書	
	2009年9月度対象者への普及進捗状況報告	普及フォローアップ	報告書	
	2009年8月度試験圃場の実験結果と活動報告	普及フォローアップ	報告書	

	地域参加の診断	普及員のマニュアル	報告書	
	2009年8月度対象者の生活向上進捗状況報告	生活向上フォローアップ	報告書	
	プロジェクトの進捗状況(2009年5月)	地域開発委員会の提案	発表	
2009年度	能力向上活動の進捗	地域開発委員会の提案	発表	
	2009年9月～12月度対象者の生活向上進捗状況報告	生活向上フォローアップ	報告書	
	BICU 大学実験展示園場の活動計画	地域開発委員会の提案	発表	
	熱帯果樹の栽培技術	技術指導員の能力発表	発表	
	プロジェクトの活動提案	指導要員の評価	発表	
	生活改善の活動の実行と提案	地域開発委員会の提案	報告書	
	年齢における生活改善の要素	地域開発委員会の提案	表	
	プロジェクトの構成要素と戦略(草案)	地域開発委員会の提案	発表	
	豆とその遺伝子の多様性の重要性	技術指導員の能力発表	発表	
	豆の生産と遺伝子組み換え	地域開発委員会の提案	発表	
	生物季節学による豆の生産	技術指導員の能力発表	発表	
	豆の生産と経済の重要性	技術指導員の能力発表	発表	
	豆の生産	技術指導員の能力発表	発表	
	プロジェクトパイロットのプロフィール(草案)	地域開発委員会の提案	報告書	
	2010年度	農家の家計計画	プロモーターへの能力パンフレット	発表
リーダーシップ		プロモーターへの能力パンフレット	発表	
プロモーターの歌		広報活動	CD聴覚教材	
2009年9月～12月度試験園場の実験結果報告		普及実態調査	報告書	
2010年1月度対象者の生活向上進捗状況報告		生活向上フォローアップ	報告書	
プロジェクト紹介パンフレット(西語、ミスキート語など)		広報活動	パンフレット	
プロモーター農民生活環境調査		普及フォローアップ	表	
ALIANZA プロジェクト活動現場での研修(San Ignacio)		プロモーターと技術指導員のマニュアル	報告書	
年間プロジェクト運営に必要な機材の維持管理費		地域開発委員会の提案	発表	
針なし蜂の現状調査(Jose Marti)		プロモーターと技術指導員のマニュアル	報告書	
2011年農作業カレンダー(西語・ミスキート語併記)		プロモーターへの技術普及	カレンダー	
2011年農作業計画帳(西語・ミスキート語併記)		プロモーターへの技術普及	製本印刷物	
2011年度	2010年4月～6月、プロモーター農民の現状調査	普及フォローアップ	報告書	
	針なし蜂の普及基礎技術(Jose Marti)	プロモーターと技術指導員のマニュアル	報告書	
	2011年4月～7月、針なし蜂普及農家の実態調査	普及フォローアップ	報告書	
	ビタヤの基本的な栽培方法	プロモーターと技術指導員のマニュアル	パンフレット	
	BICU 大学実験展示園場の活用計画 2012年～2020年	地域開発委員会の提案	報告書	
	2011年5月～7月、プロモーター農民の現状調査	普及フォローアップ	報告書	
	水撃ポンプ	学会発表	発表	
	2012年カレンダー(西語・ミスキート語併記)	プロモーターへの技術普及	カレンダー	
	生活改善の手法	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト	
	生活改善のための地域リーダー	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト	
	農林業の仕組み	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト	
	新しい野菜を使った栄養改善	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト	
	針なし蜂・基礎編	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト	
	地域の促進者の役目	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト	
	ジェンダーと地域社会	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト	
	土壌の保全と管理	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト	
	有機農業の基礎	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト	
	農村学校	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト	
	2011年度	活動の記録DVD	広報活動	DVD視覚教材
		電子版技術普及書	プロモーターと技術指導員のマニュアル	CD視覚教材
第1回生活改善フォーラム		フォーラム	発表	
第2回生活改善フォーラム		フォーラムと現地見学	発表	
2012年度	プロモーター農民調査と分析	普及フォローアップ	報告書	
	ラジオを使った広報活動	現場技術者研修会での発表	発表	
	プロモーター活動の現状	現場技術者研修会での発表	発表	

生活改善評価手法		発表
第3回生活改善フォーラム	フォーラムと現地調査	発表
生活改善ワークショップ(マナグア)	現場技術者の発表とワークショップ	発表
技術普及の手引き	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト
針なし蜂・入門編	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト
水撃ポンプ	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト
種子保存の必要性と方法	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト
プロモーター活動の現状	プロモーターと技術指導員のマニュアル	製本テキスト
2013年カレンダー(西語・ミスキート語併記)	プロモーターへの技術普及	カレンダー

**MINUTA DE DISCUSIONES
ENTRE
LA AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON
Y
LAS AUTORIDADES CONCERNIENTES DE
LA REPUBLICA DE NICARAGUA
SOBRE
EL PROYECTO DE MEJORAMIENTO DEL NIVEL DE VIDA A TRAVÉS DEL
FORTALECIMIENTO DE LA PRODUCCIÓN AGROPECUARIA DE LAS
COMUNIDADES INDÍGENAS Y ÉTNICAS DE PUERTO CABEZAS EN
NICARAGUA**

La Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante referida como “JICA”) envió la Misión de Evaluación Final (en adelante referida como “la Misión”) encabezada por el Lic. Makoto Nakao para el “Proyecto de Mejoramiento del Nivel de Vida a través del Fortalecimiento de la Producción Agropecuaria de las Comunidades Indígenas y Étnicas de Puerto Cabezas” (en adelante referida como “el Proyecto”), a la República de Nicaragua (en adelante referido como “Nicaragua”) desde el 1 al 19 de Octubre del 2012 con el fin de realizar la Evaluación Final de etapa de prologa del Proyecto (en adelante referido como “la Evaluación”).

La Evaluación se realizó por el Comité de Evaluación Conjunta conformado por los miembros de la Misión y los miembros seleccionados de las organizaciones nicaragüenses concernientes al Proyecto, mediante las actividades tales como el estudio in situ, entrevista al personal y organizaciones relacionadas al Proyecto.

Como resultado de la Evaluación se elaboró el Informe de Evaluación y se presentó al Comité de Coordinación Conjunta del Proyecto, en la reunion celebrada el día 17 de octubre de 2012 en la ciudad de Puerto Cabezas.

Los puntos acordados en el Comité de Coordinación Conjunta, se detallan en el documento adjunto.

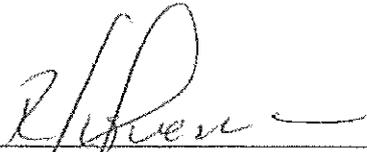
Puerto Cabezas, 17 de octubre de 2012

中 尾 誠

Makoto Nakao
Líder de la Misión de Evaluación Final
Agencia de Cooperación Internacional del
Japón



Guillermo Espinoza
Alcalde
Municipio de Puerto Cabezas
Región Autónoma de Atlántico Norte
República de Nicaragua



Reynaldo Figueroa
Vice Rector
Blue Fields Indian & Caribbean University
Centro Interuniversitario Recinto Bilwi
Moravo

P.D.



Yuri Zapata Webb
Vice Rector
Universidad de Regiones Autónomas de la
Costa Caribe Nicaragüense
Recinto Bilwi



Lucila Law Blanco
Directora Ejecutiva
PANA PANA



DOCUMENTO ADJUNTO

El Comité de Coordinación Conjunta recibió el Informe de la Evaluación presentado por el Comité de Evaluación Conjunta, y confirmó que la cooperación japonesa termina el día 26 de febrero del año 2013 y que las partes correspondientes toman las medidas necesarias para poner en práctica las recomendaciones contempladas en dicho informe, las cuales son las siguientes;

Recomendaciones para las actividades durante el periodo de cooperación

1. Finalización de los documentos

Considerando la continuidad de las actividades en la manera auto sostenible por las instituciones nicaragüenses relacionadas al Proyecto, se está elaborando tres documentos denominados "Plan Estratégico", "Programa de Extensión Agrícola" y "Guía de Extensión". Aunque ya se ha hecho primera versión o borrador de los documentos, todavía falta revisión y/o finalización. Por lo tanto, el Equipo de Ejecución y el CDR, contando con la asesoría técnica de expertos japoneses, debe finalizarlos lo antes posible.

2. Aseguración del presupuesto del año 2013

Durante el periodo de cooperación, la parte japonesa ha soportado algunas partes de los gastos que se debe cubrir por la parte nicaragüense, tales como combustible y viáticos de los miembros del Equipo de Ejecución. Estos son los costos que la parte nicaragüense debe garantizar cuando termine la cooperación. Para esto, es necesario realizar los trámites para asegurar el presupuesto del año 2013. En la manera concreta, el Equipo de Ejecución, con la asesoría técnica de expertos japoneses, elabora Plan de Operación Anual del año 2013, y teniendo aprobación de CDR, lo somete al consejo municipal de noviembre del 2012. De igual manera, se debe tomar medidas presupuestarias de los costos que corresponden a las responsabilidades de BICU, URACCAN y PANA PANA respectivamente. Son las tareas de importancia y urgencia que tiene que ejecutarse sin falta.

3. Divulgación de efectos del Proyecto

El Proyecto tiene su Objetivo Superior de extender su efecto no solamente en las tres zonas objetos sino todo el municipio de Puerto Cabezas y hasta otros municipios de la RAAN. Para cumplir este objetivo en un futuro cercano, el Proyecto especialmente en la etapa prolongada ha tenido activamente contactos con otras instituciones como el gobierno regional, otros municipios, instituciones gubernamentales y donantes internacionales, entre otras. Sin embargo tenía cierta dificultad de presentar con claridad el concepto, modelo y metodología del Proyecto ante estas instituciones.

La "Guía de Extensión", que está en el último proceso de elaboración por Equipo de Ejecución, muestra el concepto, modelo y metodología del Proyecto en su totalidad, y permitirá presentarlos en la manera más profunda. Es necesario, utilizando la guía, esforzarse en introducir el modelo de TAWAN INGNIKA creado por el Proyecto, y adquiriendo su comprensión, promover colaboraciones concretas durante y después del periodo de cooperación.

4. Reglamento de uso y mantenimiento de los equipos donados

Los equipos donados por la cooperación japonesa deben de utilizarse exclusivamente para las

W

RF

OT
RR

d

actividades del Proyecto. Por ende, es necesario que el CDR, con la asesoría de expertos japoneses, establezca un reglamento de uso y mantenimiento de los equipos donados antes de la finalización de la cooperación.

5. Fortalecimiento de la Función de Ejecución

Durante el periodo de ejecución de los 5 años del proyecto los expertos japoneses asumieron el papel de la parte ejecutiva, este rol debe ser asumido por la parte nicaragüense para garantizar la sostenibilidad, por el cual es necesario que los miembros del CDR definan un equipo de gerencia antes de la terminación de la cooperación.

6. Toma de decisión oportuna del CDR

Se ha mostrado cierta preocupación de las partes relacionadas ante la situación actual de que la toma de decisiones por el CDR no ha sido con fluidez como se espera. Para cumplir las tareas arriba mencionadas antes de la finalización de la cooperación japonesa, es primordial que el CDR tome las decisiones con rapidez teniendo mayor esfuerzo de las partes integrantes del CDR.

Recomendaciones para después del periodo de cooperación

1. Manera de ser del CDR

El CDR por el momento se compone de 4 instancias contando la Alcaldía de Puerto Cabezas como el núcleo, basándose en el supuesto de que la zona de influencia este en la municipalidad. Por otro lado, el Proyecto, en base a sus resultados positivos del periodo de cooperación, tiene meta de divulgar sus actividades hasta fuera de la municipalidad de Puerto Cabezas. También es prudente considerar que en RAAN, donde el establecimiento de Gobiernos Territoriales Indígenas y la transferencia de responsabilidades está en proceso, hay cierta posibilidad de cambio del sistema administrativo en el futuro.

Bajo esta circunstancia, es deseable que el CDR, no se aferre a la forma actual, se evolucione con flexibilidad aumentando sus miembros, y cambiando la función y el sistema de toma de decisiones, de acuerdo con el ambiente dinámico de la región.

Para garantizar la permanencia del CDR es una opción constituirse en un organismo con status legal.

2. Coordinación y colaboración con otras organizaciones

El modelo de TAWAN INGNKA introducido por el Proyecto tiene su particularidad de elevar la autoestima de comunitarios y hacerlos reconocer que los protagonistas de desarrollo son ellos mismos. Este modelo es totalmente diferente de las maneras convencionales adoptadas por varias organizaciones de ayuda que regalando cosas a la población podría crear dependencia y paternalismo.

Cuando coincide en una zona las metodologías tan distintas, a veces los efectos se disminuyan y hasta puede empeorar la situación generando cierta confusión. Por ende, se requiere crear una coordinación más efectiva con las instituciones que brindan este tipo de apoyo para buscar una mejor manera de colaboración y sinergia.

Documento de Referencia : Informe de Evaluación

INFORME DE LA EVALUACIÓN FINAL
DEL PROYECTO DE
MEJORAMIENTO DEL NIVEL DE LA VIDA A TRAVÉS
DEL FORTALECIMIENTO DE LA PRODUCCIÓN
AGROPECUARIA DE LAS COMUNIDADES
INDÍGENAS Y ÉTNICAS DE PUERTO CABEZAS EN
NICARAGUA
(Conocido como el Proyecto TAWAN INGNIKA)

Puerto Cabezas
16 de Octubre de 2012

Comité de Evaluación Conjunta

中 尾 誠

Makoto Nakao
Líder de la Misión de Evaluación Final
Agencia de Cooperación Internacional del
Japón



Peter Salgado Garth
Representante de Evaluadores
Nicaragüenses,
Técnico de Alcaldía Municipal de Puerto
Cabezas

Contenidos

Lista de Abreviaturas.....	3
Capítulo 1 Generalidades del Estudio de Evaluación Final	4
1-1. Antecedentes de la cooperación	4
1-2. Objetivo de la Evaluación.....	5
1-3. Composición del Comité de Evaluación Conjunta.....	5
1-4 Itinerario de la Evaluación.....	6
1-5. Metodología e Ítems de Evaluación	6
1-6. Diseño del Proyecto.....	7
Capítulo 2 Resultados de la Evaluación Final.....	8
2-1 Resultados reales de la implementación del Proyecto	8
2-1-1 Aportaciones de la parte japonesa.....	8
2-1-2 Aportaciones de la parte Nicaragüense.....	9
2-1-3 Logros de los resultados esperados	10
2-1-4 Logros del objetivo del Proyecto	13
2-1-5 Perspectiva de alcanzar el objetivo superior del Proyecto.....	14
2-2 Proceso de implementación del Proyecto	15
2-2-1 Actividades realizadas.....	15
2-2-2 Menciones especiales sobre el proceso de implementación del Proyecto.....	16
2-2-3 Factores que contribuyeron a la generación de resultados.....	19
2-2-4 Problemas y factores causantes de problemas.....	20
2-3 Resultados de la evaluación según los 5 criterios de evaluación.....	20
2-3-1 Pertinencia.....	20
2-3-2 Efectividad	22
2-3-3 Eficiencia.....	23
2-3-4 Impacto	24
2-3-5 Sostenibilidad.....	27
2-4 Conclusiones.....	28
Capítulo 3 Recomendaciones.....	29
Capítulo 4 Lecciones aprendidas.....	31

ANEXOS:

- 1 Itinerario de la Evaluación
- 2 Matriz de diseño del Proyecto (PDM) ver. 3



- 3 Plan de operación (PO) y resultados
- 4 Tabla de Evaluación
- 5 Aportaciones realizadas por la parte japonesa
- 6 Aportaciones realizadas por la parte nicaragüense
- 7 Seminarios y capacitaciones realizados
- 8 Lista de los materiales didácticos elaborados



Lista de Abreviaturas

A	ADSIM	Asociación de Desarrollo Social de Iglesia Morava
	AMC	Acción Medica Cristiana
B	BICU – CIUM	Bluefields Indian & Caribbean University-Centro Inter Universitario de la Iglesia Morava
	BICU – CIDCA	Bluefields Indian & Caribbean University-Centro de Investigación y Documentación de la Costa Atlántica
	BID	Banco Interamericano para el Desarrollo
C	CCC	Comité Conjunto de Coordinación
	CDR	Comité de Desarrollo Rural
	CMG-BSF	Centro de Mejoramiento Genético y Banco de Semillas Forestales
	COMAL	Cooperativa Multisectorial Comandante Alex Lucer Blandon
	C/P	Contraparte
E	EARTH	La Escuela de Agricultura de la Región Tropical Húmeda
F	FAO	Organización de las Naciones Unidas para la Alimentación y la Agricultura
	FIDA	Fondo Internacional de Desarrollo Agrícola
G	GRAAN	Gobierno Regional Autónoma del Atlántico Norte
I	INAFOR	Instituto Nacional Forestal
	INTA	Instituto Nicaragüense de Tecnología Agropecuaria
J	JICA	Agencia de Cooperación Internacional de Japón
M	MAGFOR	Ministerio de Agropecuario y Forestal
	MARENA	Ministerio del Ambiente y los Recursos Naturales
	MINSA	Ministerio de Salud
	M/M	meses/hombre
O	ONG	Organización No-Gubernamental
P	PCM	Manejo del Ciclo de Proyecto
	PDM	Matriz de Diseño del Proyecto
	PIB	Producto Interno Bruto
	PNDH	Plan Nacional de Desarrollo Humano
	PO	Plan de Operación
	POA	Plan de Operación Anual
R	RAAN	Región Autónoma del Atlántico Norte
	R/D	Registro de Discusión (en el momento de la Formación del Proyecto)
S	SDCC	Secretaría de Desarrollo de la Costa Caribe
	SEPROD	Secretaría de Producción del GRAAN
U	URACCAN	Universidad de Regiones Autónomas de la Costa Caribe Nicaragüense

Capítulo 1 Generalidades del Estudio de Evaluación Final

1-1. Antecedentes de la cooperación

La República de Nicaragua (en adelante Nicaragua) posee una extensión territorial de 129,000 Km² y 5.83 millones de población (estimación por el Banco Central de Nicaragua del 2011). Aunque estos años la economía crece en la manera estable, debido a la guerra interna que continuó por más de una década desde 1979, el PIB per cápita del país es de US\$ 1,170 (Informe del Banco Central de Nicaragua del 2011) siendo el segundo más bajo en América Latina después de Haití.

La Región Autónoma del Atlántico Norte (en adelante la RAAN) ocupa el 24.6% del área total del país y residen diversos grupos étnicos e indígenas. A pesar de su alto nivel de la pobreza, hasta hace poco no había llegado asistencia suficiente de parte de gobierno ni de donantes internacionales.

En RAAN, la mayoría de los pobladores se dedican a la agricultura de subsistencia con quema de bosques y la actividad forestal. En el litoral la pesca es la actividad principal. Con relación a la agricultura, en general el suelo es de baja fertilidad por carecer de materia orgánica, y por la limitación de tierra fértil, en muchos casos las parcelas quedan muy distantes de la comunidad. Además, los productores de la región sufren de muchos problemas de plagas y enfermedades por la falta de asistencia técnica en temas de agricultura. Bajo esta situación, los productores de la región sólo venden productos cuando hay excedente de su producción y muchas veces les hace falta hasta alimentos básicos de consumo familiar.

En los mercados del Municipio de Puerto Cabezas, los productos de venta son traídos casi 100% desde la capital del país y los productores locales no están pudiendo utilizar el mercado como fuente de su ingreso.

A pesar de la alta necesidad de asistencia técnica en el tema agropecuario, en el Municipio de Puerto Cabezas no existe la oficina del Instituto Nicaragüense de Tecnología Agropecuaria (INTA), institución oficial encargada de la investigación y extensión agropecuaria, y la Alcaldía de Puerto Cabezas tiene el rol de asistir a las comunidades. No obstante, las actividades no han sido suficientes por falta de recursos y técnicas. Hay presencia de Organizaciones No-gubernamentales (ONGs) locales y donantes pero éstos principalmente asisten en el campo de desarrollo social como micro financiación y asistencia en salud y la asistencia en la técnica agropecuaria no es suficiente.

Bajo esta circunstancia, el gobierno de Nicaragua solicitó al gobierno de Japón, una cooperación técnica para promover el mejoramiento del nivel de vida de estas comunidades a través de fortalecimiento de su sistema productivo con asistencias técnicas enfocadas a la agricultura y el desarrollo rural.

Agencia de Cooperación Internacional de Japón (en adelante JICA) mandó una misión de estudio preliminar y sostuvo una serie de discusiones con las autoridades nicaragüenses concernientes y como resultado, en febrero del año 2008, se inició un proyecto de cooperación técnica denominada "El Proyecto de Mejoramiento del Nivel de Vida a través del Fortalecimiento de la Producción Agropecuaria de las

Comunidades Indígenas y Étnicas de Puerto Cabezas en Nicaragua” (en adelante el Proyecto), conocido como Proyecto TAWAN INGNIKA, con un periodo de 4 años hasta febrero de 2012. Se ha desarrollado el Proyecto con la Alcaldía de Puerto Cabezas como institución contraparte (C/P) y con base al Comité de Desarrollo Rural (en adelante el CDR) que además de la alcaldía, se compone de miembros de la Bluefields Indian & Caribbean University-Centro Inter Universitario de la Iglesia Morava (BICU-CIUM), la Universidad de Regiones Autónomas de la Costa Caribe Nicaragüense (URACCAN) y PANA PANA que es una ONG local. En septiembre de 2011, considerando el resultado de la Evaluación Final del periodo original, se decidió prolongar un año más para lograr mejor los resultados del Proyecto.

Ante la finalización del periodo de prolonga hasta febrero de 2013, se realiza en esta ocasión la evaluación final conjunta de la parte japonesa y nicaragüense, con el propósito que explica en siguiente inciso.

1-2. Objetivo de la Evaluación

La evaluación final se efectuó con objeto de;

- 1) Revisar los resultados obtenidos del Proyecto y el proceso de implementación del mismo.
- 2) Con base en esa información, evaluar el Proyecto desde el punto de vista de los 5 criterios de evaluación; pertinencia, efectividad, eficiencia, impactos y sostenibilidad.
- 3) Aclarar y recomendar las tareas que deben ser atendidas antes y después del término del Proyecto. De la misma manera, analizar las lecciones aprendidas del Proyecto que sirvan para la ejecución de proyectos similares en el futuro.

1-3. Composición del Comité de Evaluación Conjunta

(1) Parte japonesa

Área de Trabajo	Nombre y Cargo
Líder	Makoto Nakao, Director General Adjunto / Director del Grupo 1, Departamento de Desarrollo Rural, JICA
Administración del proyecto	Akio Takiguchi, Director Adjunto de División de América Latina, Departamento de Desarrollo Rural, JICA
Análisis de evaluación	Yuki Ohashi, Consultora, Tekizaitekisho, LLC

(2) Parte nicaragüense

Institución	Nombre y Cargo
Alcaldía Municipal de Puerto Cabezas	Charlotte Cruz Bush, Directora de Cooperación Externa
i.d.	Peter Salgado Garth, Técnico de Departamento de Recursos Naturales y Medio Ambiente

PANA PANA	Samuel Mercado Sanders, Presidente de Junta Directiva
BICU-CIUM	Víctor Mairena Lau, Docente
URACCAN	Roberto Martínez, Docente
Delegación del Ministerio de Agropecuario y Forestal (MAGFOR) en Puerto Cabezas	Thelma Morales Gradiz, Extensionista de Campo
Gobierno Regional Autónoma del Atlántico Norte (GRAAN)	Carlos Downs, Secretario, Secretaria de Producción (SEPROD)

1-4 Itinerario de la Evaluación

El itinerario se adjunta como Anexo 1.

1-5. Metodología e Ítems de Evaluación

Se llevó a cabo el estudio de Evaluación Final, de acuerdo con los "Nuevos lineamientos de la JICA para la evaluación de proyectos, versión 1", basándose a la Matriz de Diseño del Proyecto (en adelante la PDM) versión 3, la versión vigente en el momento de esta evaluación (ver Anexo 2).

Mientras esta evaluación está dirigida a la totalidad del Proyecto, como ya se realizó la Evaluación Final una vez en septiembre de 2011 sobre el periodo original (de febrero de 2008 hasta febrero 2012), se analiza principalmente los avances de actividades y las situaciones reales del periodo de prolonga.

Los puntos de vista para revisar el Proyecto a través del estudio de la evaluación fueron siguientes:

Conceptos a revisar	Puntos de vista en el momento de la revisión
Resultados reales	¿Cuáles fueron los logros que se obtuvieron como resultado de la implementación del Proyecto? Y ¿Esos son los logros que se esperaban?
Proceso de la implementación del Proyecto	¿Qué ha ocurrido en el proceso de la implementación del Proyecto? Y ¿qué impactos han causado esos incidentes al cumplimiento del objetivo del Proyecto?
Relación de causa y efecto	¿La implementación del Proyecto realmente logró el cumplimiento del objetivo del mismo?

Fuente: Nuevos lineamientos de la JICA para la evaluación de proyectos, versión 1 (departamento de evaluación de la JICA, junio de 2010)

Los resultados de la revisión realizada de acuerdo con los puntos de vista arriba mencionados fueron analizados mediante los siguientes 5 criterios de evaluación.

5 Criterios	Puntos de vista
Pertinencia	Nivel de coherencia con las políticas de la asistencia de desarrollo de Japón, las políticas y prioridad del grupo meta, país receptor o donante.
Efectividad	Parámetro para medir el nivel de cumplimiento del objetivo de la asistencia de desarrollo.

Eficiencia	Se miden cuantitativa y cualitativamente las salidas (<i>outputs</i>) haciendo la comparación con los insumos (<i>inputs</i>). Es un término económico que se usa para mostrar que la asistencia de desarrollo ha utilizado recursos menos costosos para obtener resultados esperados. Con el propósito de verificar que se haya tomado el proceso más eficaz, normalmente se necesita hacer la comparación con otro método de abordaje.
Impacto	Se refiere a los cambios positivos o negativos que se generan con o sin intención, directa o indirectamente por la asistencia de desarrollo. Incluye la influencia y efectos principales que genera la asistencia de desarrollo en los indicadores del desarrollo de la sociedad local, economía, medio ambiente entre otros.
Sostenibilidad	Se analiza si siguen los beneficios obtenidos por la asistencia de desarrollo aún después de terminar la asistencia por el donante. La asistencia de desarrollo debe ser sostenible en aspectos ambientales y financieros.

Fuente: Nuevos lineamientos de la JICA para la evaluación de proyectos, versión I (departamento de evaluación de la JICA, junio de 2010)

Con el propósito de coleccionar informaciones necesarias para el análisis, se realizó el estudio tomando las siguientes maneras;

- Revisión de documentos, incluyendo las minutas, Registro de Discusiones (R/D), Informe de Evaluación Preliminar, Informe de Revisión Intermedia, informes de progreso de actividades del experto, Informe de Evaluación Final realizada en septiembre 2011, etc.
- Estudio a través de cuestionarios dirigidas al personal C/P y los miembro del CDR
- Entrevista a personas claves tal como los expertos japoneses, Alcaldía de Puerto Cabezas, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, MAGFOR, etc.
- Visitas y observaciones en las comunidades en Llano Norte, Llano Sur y Tasba Pri
- Entrevistas grupal dirigidas a los promotores y productores de grupos modelos

1-6. Diseño del Proyecto

El Objetivo Superior, el Objetivo del Proyecto y los Resultados del presente PDM Ver.3 son los siguientes:

(1) Objetivo Superior

- 1) El nivel de vida de los productores en el Municipio de Puerto Cabezas se mejora a través de la difusión agrícola establecida por los grupos modelo.
- 2) Las actividades de difusión agrícola se extienden a las aéreas indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas.

(2) Objetivo del Proyecto

Se mejora el nivel de vida de los productores de los grupos modelo.

(3) Resultados

- 1) El CDR ha funcionado de acuerdo a su reglamento y sus miembros distribuyen las responsabilidades.
- 2) Los productores del grupo modelo han introducido las técnicas impartidas.
- 3) El CDR ha establecido el mecanismo para ejecutar de manera sostenible las actividades de extensión agrícola.

(4) Duración del Proyecto

Desde el 27 de febrero de 2008 hasta el 26 de febrero de 2013 (incluyendo 1 año de prolonga)

(5) Beneficiarios

Beneficiarios directos: aproximadamente 2,500 personas que son;

- 500 productores de grupo modelo (25 productores × 20 comunidades), más
- Unos 2,000 productores aparte de los grupos modelo

Beneficiarios indirectos: aproximadamente 18,500 personas que son;

- Unas 18,500 personas que es el número de la población de las 58 comunidades en los 3 territorios del Municipio de Puerto Cabezas (7,400 en 16 comunidades de Llano Norte, 5,300 en 17 comunidades de Llano Sur, 8,300 en 29 comunidades de Tasba Prf), menos el número de beneficiarios directos).

(6) Organización Ejecutora del Proyecto

Son la Alcaldía Municipal de Puerto Cabezas de la RAAN, BICU-CIUM, URACCAN y la ONG PANA PANA.

Capítulo 2 Resultados de la Evaluación Final

2-1 Resultados reales de la implementación del Proyecto

2-1-1 Aportaciones de la parte japonesa

Se muestran a continuación las aportaciones realizadas hasta finales de septiembre de 2012 por parte de Japón. Los detalles de cada partida de las aportaciones son mostrados en el Anexo 5.

(1) Envío de los expertos

Se ha mantenido, durante un año del periodo prolongado, los envíos de mismos 2 expertos japoneses

de largo plazo en 2 áreas de especialidades; 1) jefe asesor/organización de extensión y manejo de fincas, y 2) coordinación del Proyecto, llegando un total de 102 meses/hombre (M/M) a finales de septiembre de 2012. Además, después de la evaluación realizada en septiembre de 2011, se han mandado 3 expertos japoneses de corto plazo en 3 áreas; 1) coordinación de la política de desarrollo agrícola y coordinación de donantes, 2) desarrollo participativo y fortalecimiento organizacional, y 3) mejoramiento de vida y fortalecimiento organizacional, con un total de 4.4 M/M.

(2) Capacitación de becarios C/P en el Japón

Después de la evaluación de septiembre del 2011, han participado 3 personas más de la contraparte del Proyecto y una persona de GRAAN en los cursos realizados en Japón, y participará una persona contraparte más en octubre de 2012. Así el número de becarios durante el periodo del Proyecto será 11 en total. Cabe mencionar que todas personas de técnico contraparte y algunos miembros de CDR han participado en las capacitaciones en Japón.

(3) Aportación de los equipos

Además de los equipos que ya se habían donado, tal como dos vehículos, 4 computadoras, y un fotocopador entre otros, se ha donado 4 automotores en el año 2012, y así la donación de equipos por parte del Japón alcanzó la suma de US\$ 123,559.79 desde el inicio hasta el fin del septiembre 2012.

(4) Gastos locales

Se han ejecutado gastos locales para la implementación de las actividades, principalmente en las capacitaciones y monitoreo/seguimiento y mantenimiento del campo de demostración y la oficina del Proyecto etc., llegando un total de unos US\$ 514,453 hasta el fin de agosto de 2012.

2-1-2 Aportaciones de la parte Nicaragüense

Se muestran a continuación las aportaciones realizadas por la parte nicaragüense. Los detalles de cada partida de las aportaciones son mostrados en el Anexo 6.

(1) Asignación del personal contraparte

Desde el momento de la Evaluación de septiembre de 2011, han sido mantenidos 6 personas de contraparte para el Proyecto: 2 técnicos de la Alcaldía de Puerto Cabezas, 2 técnicos de BICU-CIUM, 1 técnica de URACCAN, y 1 técnico de PANA PANA. Se ha integrado 1 técnico de MAG-FOR en mayo del 2012, como un miembro adicional de contraparte.

Por otro lado, 10 personas están siendo asignadas como miembros del CDR por 4 instituciones integrantes, de las cuales 2 son sustituidas después de la evaluación de septiembre del 2011: el Director de Cooperación Externa de Alcaldía de Puerto Cabezas y Vice Rector de URACCAN, debido al cambio de personal de cada institución.

(2) Suministro de instalaciones y equipos

Las instalaciones prestadas para la implementación del Proyecto de la parte nicaragüense son las siguientes.

- **Oficina del Proyecto**
Ha sido proporcionado segundo piso del edificio de Centro de Investigación y Documentación de la Costa Atlántica de BICU (BICU-CIDCA) para la oficina del Proyecto.
- **Campo de demostración y capacitación**
 - Campo de la facultad de agroforestal de BICU-CIUM (7 km noreste de la oficina del Proyecto)
 - Campo de la facultad de agroforestal de URACCAN (10 km noreste de la oficina del Proyecto)
 - Vivero instalado en el terreno de PANA PANA (3 km noreste de la oficina del Proyecto)

(3) Financiamiento de los gastos corrientes necesarios para la implementación del Proyecto

Un total de US\$ 171,917.56 ha sido aportado por las 4 instituciones ejecutoras del Proyecto hasta el fin de agosto de 2012. Del monto total mayoría fue del costo de personal contraparte de cada institución y los costos estimados de la oficina del Proyecto y las fincas demostrativas cubiertos por BICU-CIUM.

2-1-3 Logros de los resultados esperados

(1) Resultado esperado 1: El Comité de Desarrollo Rural ha funcionado de acuerdo a su reglamento y Plan Estratégico de CDR.

El personal contraparte necesario y el costo para mantenerlo han sido proporcionado suficientemente durante el periodo del Proyecto. Como el resultado, el nivel operativo de CDR, que consiste en los técnicos contraparte del Proyecto, está funcionando como esperado en el marco del Proyecto, y han formado los técnicos especialistas de la metodología de TAWAN INGNIKA. Sin embargo, la insuficiencia del desembolso de otros tipos de presupuesto y la menor frecuencia de la celebración del comité, que se ocurrieron durante el periodo prolongado, indican que la parte administrativa de CDR todavía falta fortalecer para que funcione satisfactoriamente. Se muestran en el siguiente cuadro los niveles de logros de cada uno de los indicadores.

En relación a la conformidad con el reglamento y Plan Estratégico, la función actual del CDR no es satisfactoria comparando con lo que se define en estos documentos, quedando todavía puntos que mejorar

para que funcione a como se esperaba.

Cuadro 2-1: Nivel de logro de los indicadores del Resultado Esperado 1

Indicadores	Nivel de logro
1-1. Número del personal contraparte	<ul style="list-style-type: none"> Ha sido asignado 6 personal contraparte conforme al R/D, complementando la falta de un personal de PANA PANA con el de BICU, aunque había tenido algunas dificultades de la asignación del personal durante los primeros años del Proyecto. Además ha sido asignado un personal de MAG-FOR desde mayo del 2012. Así el número total a la fecha supera al plan original.
1-2. Presupuesto proyectado y ejecutado para los gastos operativos del Proyecto.	<ul style="list-style-type: none"> Durante de 4 años del periodo original del Proyecto, el desglose de los costos asumidos por la parte nicaragüense eran del sueldo de C/P, alquiler de la oficina, luz, limpieza (mitad por la parte nicaragüense, mitad por la parte japonesa), contratación del guardia y el alquiler de las parcelas, siendo los 2 últimos que no se esperaban al inicio, y otros. Sin embargo, los gastos para la extensión tales como: viáticos de contrapartes, gastos de combustible y mantenimiento de vehículos no han sido asumidos por la parte nicaragüense, y desembolsó estos costos la parte japonesa para que pueda implementar las actividades según el plan operativo. Para el periodo de prologa, se hizo nuevamente esfuerzos de asegurar el presupuesto por las 4 instituciones tomando en cuenta la recomendación dada por la Evaluación de septiembre de 2011, sin embargo, no se pudo desembolsarlo en la manera oportuna y suficiente, y así no se pudo realizar visitas a las comunidades con la frecuencia definida en el plan de actividades del Proyecto.
1-3. Número de celebración del Comité Conjunto de Coordinación (CCC) y del Comité de Desarrollo Rural.	<ul style="list-style-type: none"> Está programado la reunión del CDR mensualmente, la reunión de los técnicos contraparte y expertos semanalmente, y el CCC anualmente. Con respecto al CDR, muchas veces ha sido difícil reunirse todos directivos juntos, y en el periodo prolongado disminuyó la frecuencia de reunión, debido a diferentes compromisos, las razones de salud, entre otros. La reunión del Equipo de nivel operativo está mantenida semanalmente.

(2) Resultado esperado 2: Los productores del grupo modelo han introducido las técnicas impartidas

Se considera que el nivel de logro de este resultado esperado es alto, ya que hay alta posibilidad de lograr los indicadores, como el resultado de una serie de actividades tales como las capacitaciones a los extensionistas y promotores, y seguimiento y monitoreo de los grupos modelos (detalles de capacitaciones son mostrados en Anexo 7). Se muestran en el siguiente cuadro los niveles de logros de cada uno de los indicadores.

Cuadro 2-2: Nivel de logro de los indicadores del Resultado Esperado 2

Indicadores	Nivel de logro
2-1. Numero de promotores capacitados (100 promotores en 20	<ul style="list-style-type: none"> Durante el periodo del Proyecto se realiza las capacitaciones 3 veces. Hasta la fecha está en el proceso de las capacitaciones de tercer grupo. Considerando los primeros dos grupos que han terminado, el número de

Handwritten mark

Handwritten signature

comunidades X 5 promotores.)	<p>promotores formados por el momento es 110 de 23 comunidades. Con el tercer grupo el número total de promotores capacitados llegará hasta 130.</p> <p style="text-align: center;">Numero de promotores capacitados</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>Grupos</th> <th>Numero de comunidad</th> <th>Numero de promotores formados</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Primer grupo</td> <td>8</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>Segundo grupo</td> <td>15</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>Tercer grupo</td> <td>-¹</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td><i>Total</i></td> <td>23</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">Fuente: Datos del Proyecto</p>	Grupos	Numero de comunidad	Numero de promotores formados	Primer grupo	8	36	Segundo grupo	15	74	Tercer grupo	- ¹	20	<i>Total</i>	23	130
Grupos	Numero de comunidad	Numero de promotores formados														
Primer grupo	8	36														
Segundo grupo	15	74														
Tercer grupo	- ¹	20														
<i>Total</i>	23	130														
2-2. Numero de los grupos modelos de productores seleccionados (20 grupos y 500 productores.)	<ul style="list-style-type: none"> Según el monitoreo de los grupos modelos, se estima que el número total acumulado de productores en los grupos modelos asciende a 600 personas, de las 23 comunidades arriba mencionada hasta la fecha. Al inicial se supuso crear el grupo modelo por comunidades, pero ahora existen los grupos por promotores, y ellos manejan su grupo solo o junto con otros promotores, así existen varios grupos en cada comunidad. Aunque no está confirmado el número exacto, se estima que hay alrededor de 80 grupos según el resultado de monitoreo del Equipo Técnico. La formación de grupos modelos de productores depende de la capacidad de los promotores. Algunos promotores forman grupos modelos de cerca de 20 personas y otros con 2 o 3, y también se fluctúa el número con las razones de la disponibilidad de tiempo de los integrantes, los problemas de salud, etc. 															
2-3. El 50% del grupo de productores modelo aplican técnicas y métodos para mejorar la productividad.	<ul style="list-style-type: none"> 80% de productores practican algunas de las tecnologías y técnicas sobre la mejora de la productividad agrícola². 															
2-4. Más del 50% de productores modelo aplican lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.	<ul style="list-style-type: none"> Más del 90% de los grupos modelos de productores aplican algunos de los contenidos aprendidos de la capacitación del mejoramiento del nivel la vida, sobre todo la práctica de "mejoramiento del nivel de la vida que no requiere dinero" con respecto a las condiciones de vestimenta, dieta y vivienda³. 															

(3) Resultado esperado 3: El Comité de Desarrollo Rural ha establecido el mecanismo para ejecutar de manera sostenible las actividades de extensión agrícola

Aunque el Programa de Extensión Agrícola Sostenible está todavía en el proceso de revisión, se realizó las actividades del Proyecto colaborando con diferentes instituciones además de 4 instituciones ejecutoras del Proyecto. Durante el periodo de prolonga, el Proyecto hizo aun más esfuerzo a establecer relaciones con las diferentes entidades para asegurar la sostenibilidad de las actividades, tomando en

¹ Son las comunidades que ya han incorporado en los grupos 1 o 2.

² Según la investigación que se realizó el Proyecto en febrero de 2012, tomando la muestra de 88 promotores y 61 productores de grupo de productores modelo en las 21 comunidades.

³ Ídem

172

cuenta la recomendación dada por la evaluación de septiembre de 2011. En cuanto al financiamiento del Programa, está preparando el Plan de Operación Anual (POA) para solicitarlo hasta el mes de noviembre de tal manera que pueda asegurar el presupuesto para el año 2013. Se muestran en el siguiente cuadro los niveles de logros de cada uno de los indicadores.

Cuadro 2-3: Nivel de logro de los indicadores del Resultado Esperado 3

Indicadores	Nivel de logro
3-1. Varios entidades relacionados además de los institutos contrapartes (Alcaldía, 2 universidades, PANA PANA) ejecutan el Programa de Extensión Agrícola Sostenible.	<ul style="list-style-type: none"> • Las actividades del Proyecto han sido desarrolladas con diferentes instituciones que trabajan en las 3 zonas metas del Proyecto, incluyendo las siguientes maneras: <ul style="list-style-type: none"> ➤ Los extensionistas⁴ quienes recibieron las capacitaciones del Proyecto aplican las metodologías de TAWAN INGNIKA en las actividades de sus instituciones respectivas, tal como MAGFOR, Instituto Nacional Forestal (INAFOR), Asociación de Desarrollo Social de Iglesia Morava (ADSIM), Cooperativa Multisectorial Comandante Alex Lucer Blandon (COMAL), etc. ➤ Algunas parcelas demostrativas de los grupos modelos se han establecidas mediante la colaboración con otras ONGs, tal como Acción Medica Cristiana (AMC), y MASANGNI. ➤ Se celebra el CDR con la participación de las instituciones relacionadas, tal como MAG-FOR, SEPROD/GRAAN, MASANGNI, COMAL, Aikukiwal, AMC, entre otros. • Por el momento se está revisando el Programa de Extensión Agrícola Sostenible, y la revisión será terminada hasta el fin del año 2012. • El Programa será compartida con las entidades, incluyendo MAGFOR, GRAAN, Ministerio Economía Familiar, Comunitaria, Cooperativa y Asociativa (en adelante Ministerio de Economía Familiar)⁵ y ONGs, con quienes el Proyecto ha establecido las relaciones durante del periodo del Proyecto.
3-2. Se asegura la financiación para ejecutar el "Programa" arriba mencionado.	<ul style="list-style-type: none"> • El CDR está aprobado en el Concejo municipal como una comisión permanente oficial de la alcaldía, pero el presupuesto solicitado para la ejecución de las actividades de TAWAN INGNIKA no han asegurado suficientemente, como mencionado en el nivel de logro de indicador 1-2.

2-1-4 Logros del objetivo del Proyecto

Se han logrados todos los indicadores del Objetivo del Proyecto, "Se mejora el nivel de vida de los productores de los grupos modelo", como se muestra el estado del logro de cada indicador en el siguiente cuadro.

Cuadro 2-4: Nivel de logro de los indicadores del objetivo del Proyecto

Indicadores	Nivel de logro
Antes de febrero del 2013,	<ul style="list-style-type: none"> • Más del 80 % de los productores indicaron un aumento

⁴ Un total de 40 personas recibieron las capacitaciones, y de ellos 25 cumplieron.

⁵ Antes el Instituto de Desarrollo Rural

1. El hecho de que el 50 % de productores modelo introdujeran las tecnologías agrícolas apropiadas para la zona, mejora la producción de los principales cultivos.	de la cosecha principal (arroz, frijoles y cultivo de tubérculos) ⁶ .
2. El 50 % de los productores modelo introducen más de 3 nuevos productos agrícolas (diversificación de cultivos).	• Más del 80 % de los productores introducen más de 3 nuevos productos agrícolas (diferentes tipos de hortalizas) ⁷ .
3. El 50% de los productores modelo están aplicando sosteniblemente lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.	• Más del 50 % de los productores están aplicando continuamente lo que aprendieron en las capacitaciones ⁸ .

2-1-5 Perspectiva de alcanzar el objetivo superior del Proyecto

(1) Objetivo superior 1: El nivel de vida de los productores en el Municipio de Puerto Cabezas se mejora a través de la difusión agrícola establecida por los grupos modelo.

Los datos acerca de los indicadores del objetivo superior 1 en el momento de la evaluación final se muestran en el cuadro que sigue. Para lograr este objetivo superior, es necesario asegurar la sostenibilidad y la difusión del modelo TAWAN INGNIKA.

Cuadro 2-5: Estado de los datos del indicador del Objetivo Superior 1

Indicadores	Nivel de logro
Antes del año 2017, 1-1. El plan del Comité de Desarrollo Rural se revisa periódicamente y se ejecuta.	<ul style="list-style-type: none"> • En cuanto al POA del Plan Estratégico, no se ha revisado para el año 2012. • Con respecto al Programa de Extensión que está en el proceso de revisión, todavía no se ha definido en que frecuencia se lo revisa
1-2. 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas aplican las tecnologías introducidas por el Proyecto.	<ul style="list-style-type: none"> • Por el momento 80%⁹ de los 600 productores integrados¹⁰ aplican las tecnologías introducidas por el Proyecto. Se estima que son alrededor de 500 productores. • Además de 23 comunidades directamente trabajado por el Proyecto, hay 12 comunidades mas que tienen los productores que aplican las técnicas introducidas por el Proyecto, aunque no se ha colectado el dato exacto del número de ellos.
1-3. 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas mejoran la producción de los principales	<ul style="list-style-type: none"> • Por el momento 80%¹¹ de los 600 productores integrados¹² han mejorado su producción de los principales cultivos aplicando las tecnologías introducidas por el Proyecto. Se estima que son alrededor de 500

⁶ Según la investigación que se realizó el Proyecto en febrero de 2012, tomando la muestra de 88 promotores y 61 productores de grupo de productores modelo en las 21 comunidades.

⁷ Ídem

⁸ Ídem

⁹ Ídem

¹⁰ Según el monitoreo de los grupos modelos del Proyecto

¹¹ Según la investigación que se realizó el Proyecto en febrero de 2012, tomando la muestra de 88 promotores y 61 productores de grupo de productores modelo en las 21 comunidades.

¹² Según el monitoreo de los grupos modelos del Proyecto

cultivos (arroz, frijoles, cultivos de raíces y tubérculos, etc.).	productores.
1-4. 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas introducen más de 3 nuevos productos agrícolas (diversificación de cultivos)	<ul style="list-style-type: none"> • Por el momento 80%¹³ de los 600 productores integrados¹⁴ han introducido más de 3 nuevos productos agrícolas. Se estima que son alrededor de 500 productores.
1-5. En todo el municipio de Puerto Cabezas el sistema de divulgación de mejoramiento de vida funciona apropiadamente.	<ul style="list-style-type: none"> • El Programa de Extensión Agrícola sostenible define la meta, "Las comunidades atendidas por el servicio del CDR está aumentada". • El Equipo de Ejecución del Proyecto está preparando el POA para el año 2013, que cuenta las capacitaciones del tercer grupo de capacitación y el monitoreo y seguimiento de lo demás grupos modelos del Proyecto.

(2) Objetivo superior 2: Las actividades de difusión agrícola se extienden a las áreas indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas.

Los datos del indicador del objetivo superior 2 en el momento de la evaluación final se muestran en el cuadro que sigue.

Cuadro 2-6: Estado de los datos del indicador del Objetivo Superior 2

Indicadores	Nivel de logro
2-1. Cada año, se realiza el intercambio de productores de comunidades indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas, en los 3 municipios colindantes.	<ul style="list-style-type: none"> • Hasta la fecha se realizó "Foro de Mejoramiento de vida" 3 veces, donde se presenta las actividades y experiencias de los productores de grupos modelo, y de las 3 veces participaron 2 veces los municipios de Waspan y Siuna. • Se inició intercambio con los municipios mediante el gabinete regional de producción.

2-2 Proceso de implementación del Proyecto

2-2-1 Actividades realizadas

Las actividades se han realizado de acuerdo con el Plan de Operación (PO)¹⁵. Durante el periodo prolongado, había un poco de atraso especialmente en la elaboración y la revisión de los documentos tal como la Guía de Extensión TAWAN INGNIKA, el Plan Estratégico del CDR y el Programa de Extensión Agrícola Sostenible, porque se considera la importancia de preparar la guía primero determinando claramente las metodologías TAWAN INGNIKA para que pueda planear las acciones en base a la guía, y también de otro lado para que pueda divulgar las metodologías determinadas a otras instituciones.

¹³ Según la investigación que se realizó el Proyecto en febrero de 2012, tomando la muestra de 88 promotores y 61 productores de grupo de productores modelo en las 21 comunidades.

¹⁴ Según el monitoreo de los grupos modelos del Proyecto

¹⁵ Se ha modificado la PDM como resultado de la Evaluación Final de septiembre de 2011, esto causó la necesidad de modificar las actividades, por lo que se tuvo que modificar el PO. El actual PO está vigente a partir de septiembre de 2011.

Con respecto a las actividades del campo del periodo prolongado, no se pudo realizar suficientemente las visitas de seguimiento y monitoreo debido a la insuficiencia de presupuesto. Además los disturbios sociales (el bloque de los caminos principales y el ferry, etc.) y los factores climáticos (la suspensión del ferry del río Wawa causado por la lluvia torrencial) limitaron la realización de las actividades de promotores. Sin embargo, no se han encontrado ningún promotor que deja las actividades relacionadas del Proyecto por estas razones. Los detalles del plan y resultado de cada actividad son mostrados en el documento Anexo 3.

2-2-2 Menciones especiales sobre el proceso de implementación del Proyecto

(1) Sistema de implementación del Proyecto

El proceso de la toma de decisión del Proyecto ha sido del siguiente: se realiza una reunión del Equipo de Ejecución del Proyecto (técnicos de contraparte); los técnicos comparten lo discutido con los superiores de su institución quienes son miembros del CDR (reporte informativo, comunicación y consulta); y se discuten los temas en la reunión del CDR, como el órgano supremo decisorio en la administración del Proyecto. Sin embargo, debido a los cargos que desempeñan los miembros del comité, ha sido difícil que todos estén presentes en la reunión, esta situación sigue siendo la misma durante el periodo de prologa. Aunque se circulan sin falta las actas entre ellos como una medida para remediar esta situación, se indica que no se han tomado las decisiones oportunamente para asegurar la ejecución eficaz y efectiva. Mientras que cada una de las instituciones integrantes del CDR (la Alcaldía, las 2 universidades y PANA PANA) demuestra un alto grado de conciencia, no se puede decir que el CDR en conjunto ha funcionado satisfactoriamente. A pesar de que se han notado considerables mejoras a medida que avanzó el Proyecto, todavía no están claramente definidos los papeles que les corresponden en el periodo de prologa. Como resultado, no se ha logrado generar al máximo la sinergia que se espera de la participación de dichas instituciones en el comité.

(2) Funcionamiento del nivel operativo del Proyecto

Durante el periodo prolongado, el Equipo de Ejecución del Proyecto conformado principalmente por los técnicos de contraparte ha mantenido su involucramiento activo, dedicándose a las actividades con una gran cohesión y una conciencia muy profunda sobre el Proyecto. El equipo es en sí uno de los resultados de las actividades del Proyecto. Las instituciones han asignado los técnicos de contraparte adecuados, y ellos continúan desarrollándose como facilitadores de desarrollo rural a través de las actividades del Proyecto.

La asistencia y orientación de la parte de expertos japoneses también se valora que ha sido imprescindible para todas acciones realizadas del Proyecto, demostrando sus experiencias y conocimientos

ya

técnicos adecuados y la flexibilidad en las características especiales de la zona y las diferentes situaciones causadas por los factores externos.

Se mantiene la comunicación dentro del Equipo básicamente mediante la reunión semanal que se realiza con la participación de los técnicos de contraparte. En este aspecto, no hay ningún problema en especial.

(3) Modificación de PDM

Después del inicio del Proyecto hubo las modificaciones de PDM en tres ocasiones, principalmente a nivel de actividades e indicadores. No hubo cambio significativo a nivel de objetivos ni de resultados, único que se hizo modificación de Resultado Esperado 1 en el momento de la Evaluación Final que se realizó en septiembre de 2011 a cambiar a la versión 3. La frase anterior era “El Comité de Desarrollo Rural ha funcionado de acuerdo a su reglamento y sus miembros distribuyen las responsabilidades”, y la actual es “El Comité de Desarrollo Rural ha funcionado de acuerdo a su reglamento y Plan Estratégico de CDR”.

(4) Seguimiento de las recomendaciones hechas en la Evaluación Final de septiembre de 2011

En la Evaluación Final de septiembre de 2011 se hicieron 10 recomendaciones. Se muestra el estado de seguimiento de ellas en el siguiente cuadro.

Cuadro 2-7: Estado de seguimiento de las recomendaciones de la Evaluación Final de septiembre de 2011

Recomendaciones hechas	Estado de seguimiento
<p><u>Recomendaciones para el Proyecto 1:</u> Elaborar 1) “Programa de Extensión Agrícola Sostenible” que especifica las funciones de las instituciones integrantes así como el presupuesto de las mismas, contenido de las actividades de los extensionistas y promotores de productores, cobertura geográfica, el cronograma de actividades, etc., y 2) “Guías” que determinan los procesos específicos al trabajar con tema del desarrollo rural. Ambos documentos se deben completar para diciembre de 2011.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Se preparó la primera versión del “Programa de Extensión Agrícola Sostenible” en diciembre de 2011. • Considerando la necesidad de determinar concretamente la metodología TAWAN INGNIKA para especificar las acciones que siguen, el Proyecto se hizo esfuerzo en la preparación de “Guía de Extensión TAWAN INGNIKA” primero, y después esta revisando nuevamente el “Plan Estratégico de CDR” y “Programa de Extensión Agrícola Sostenible”. Todos estos documentos serán finalizada hasta el fin del año 2012.
<p><u>Recomendaciones para el Proyecto 2:</u> Realizar un estudio de línea base socioeconómico en las comunidades beneficiarias, como parte del trabajo de extensionista, pero contando con la participación de los productores, y luego de eso introducir una metodología aún sencilla y no muy recargada, con la que sí se puede saber de manera constante información como: el área cultivada,</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Se hizo una investigación socio económico de las comunidades beneficiarias desde febrero hasta abril de 2012, tomando la muestra de 152 productores. • Se elaboró el formato de monitoreo, y se lo utilizó para la investigación arriba mencionada. Y también se podrá utilizarlo para coleccionar los datos necesarios de los indicadores de los

<p>producción de cosecha, monto de venta de productos y su precio y hasta los bienes que tiene el encuestado. Estas actividades han de ser sistematizadas hasta diciembre de 2011, recejándose en las Guías arriba mencionadas.</p>	<p>Objetivos Superiores.</p> <ul style="list-style-type: none"> • La metodología de monitoreo está definida en la "Guía de Extensión TAWAN INGNIKA", y el formato será anexado en la guía.
<p><u>Recomendaciones para el Proyecto 3:</u> Celebrar un seminario taller, en el que se hacen públicos los resultados del Proyecto para facilitar su difusión con el apoyo de la oficina de JICA en Managua Nicaragua y la colaboración con la Secretaría de Desarrollo de la Costa Caribe, invitando diferentes organizaciones tales como: las autoridades locales de las Regiones Autónomas del Atlántico, las instituciones públicas gubernamentales que trabajan en el área beneficiaria, los donantes y las ONGs.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Se celebró 3 veces los seminarios para divulgar las actividades y resultados del Proyecto. Los participantes incluye; MAG-FOR, SEPROD/GRAAN, Ministerio de Economía Familiar, Ministerio de Salud (MINS), Municipalidad de Waspan y Siuna, MASAGNI, Comal, Aikukiwal, Organización de las Naciones Unidas para la Alimentación y la Agricultura (FAO), Secretaria de Desarrollo de la Costa Caribe (SDCC), Plan Nicaragua, Agro Acción Alemán, AMC, entre otros. Se muestra los detalles de seminarios en Anexo 8.
<p><u>Recomendaciones para la parte nicaragüense 1:</u> Que el CDR elabore oportuna y adecuadamente el plan operativo del próximo año fiscal, y las instituciones correspondientes se pongan de acuerdo de la inversión requerida y a su vez, cada una de ellas tome las medidas presupuestarias necesarias. En este sentido, con miras puestas a la situación posterior al Proyecto, se espera debida presupuestarían asegurada aun en el plazo de ejecución del Proyecto.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • El POA de 2012 no se ha aprobado por el CDR, y no se pudo presentar el presupuesto en el tiempo oportuno para asegurarlo. Como se mencionó anteriormente, los costos de personal contraparte y la oficina y fincas demostrativas han sido asegurados suficientemente, pero otros costos necesarios para la implementación de las actividades, como viáticos, combustibles, mantenimiento de motocicletas, etc. ha sido insuficiente y limitó la implementación de visitas a las comunidades para el seguimiento y monitoreo.
<p><u>Recomendaciones para la parte nicaragüense 2:</u> Para fortalecer la sostenibilidad de actividades de desarrollo rural en el Municipio de Puerto Cabezas, se requiere buscar más colaboración con las instituciones principales que trabajan en el sector rural o que tienen relación con actividades del Proyecto, por tanto se debe discutir sobre la participación de las instituciones tales como MAGFOR y GRAAN en el CDR.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • En cuanto a MAG-FOR, se esta participando en el CDR y asignando un personal como técnico contraparte del Proyecto. • Con respecto a GRAAN, esta estableciendo la relación y se ha participado en los seminarios y otras actividades.
<p><u>Recomendaciones para la parte nicaragüense 3:</u> Fortalecer otro tipo de actividades como de: el sector pecuario para aprender el manejo estadístico de la finca así como para diversificar la producción y reducir el riesgo de la administración; la comercialización de productos tales como la pos cosecha, transporte y la mercadería, que contribuyan a mejorar el nivel de vida que busque más allá de la autosuficiencia; almacenamiento de semillas cosechadas para asegurar la próxima siembra así como el intercambio de semillas.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • En relación al sector pecuario, se está promoviendo la cría de pollos por URACCAN, la piscicultura de tilapia en la comunidad Nazareth, la introducción de Meliponicultura de abejas sin aguijón, y los ganados mayores y menores en diferentes comunidades. • En cuanto a la comercialización, se está participando activamente a las ferias agrícolas por la iniciativa de alcaldía. • Para asegurar las semillas, con la asistencia del técnico contraparte de MAG-FOR se está dando las capacitaciones y preparando un manual sobre "post-cosecha y almacenamiento de semillas".
<p><u>Recomendaciones para la parte nicaragüense 4:</u> Fomentar la colaboración con otros donantes para</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Se aportó la parte japonesa un experto de corto plazo para fomentar la relación con el FAO,

Ya

que ellos induzcan los resultados del presente Proyecto en sus programas o proyectos.	Fondo Internacional de Desarrollo Agrícola (FIDA), el Banco Mundial y el Banco Interamericano para el Desarrollo (BID) y se ha fortalecido relaciones interinstitucionales con su asistencia.
<u>Recomendaciones para la parte nicaragüense 5:</u> Hacer investigación mayormente por las 2 Universidades del Proyecto con temas de: la experiencia adquirida, resultados y las debilidades del Proyecto, así como el nivel de reconocimiento por parte de pobladores según territorio étnico o los enfoques a tomar del respecto, que ha de servir como una base para las futuras actividades a ser desarrolladas en las Regiones Autónomas del Atlántico.	<ul style="list-style-type: none"> • No se han realizado la investigación relacionada a esta recomendación de la parte de universidades. • Por la parte de URACCAN un estudiante está en proceso de investigación monográfica en el tema de mejoramiento de vida aplicada en el Proyecto TAWAN INGNIKA. • Por la parte del Proyecto está describiendo las experiencias y lecciones aprendidas del Proyecto en la "Guía de Extensión TAWAN INGNIKA".
<u>Recomendaciones para ambas partes de Nicaragua y Japón 1:</u> Prolongar el periodo del Proyecto por 1 año.	<ul style="list-style-type: none"> • Se ha prolongado por 1 año el periodo del Proyecto.
<u>Recomendaciones para ambas partes de Nicaragua y Japón 2:</u> En el caso de que se decide la prolongación del Proyecto, sus actividades deben estar sujetas a la PDM (ver.3).	<ul style="list-style-type: none"> • Se esta ejecutando el Proyecto conforme a la versión 3 de PDM.

2-2-3 Factores que contribuyeron a la generación de resultados

Se puede mencionar los siguientes factores que han contribuido para promover las actividades y obtener los resultados esperados.

- Muchas de las personas involucradas del Proyecto tienen conciencia del estado de los problemas de los productores de la zona y están convencidas sobre las metodologías de TAWAN INGNIKA, lo cual contribuyó al desarrollo en general de las actividades del Proyecto.
- La colaboración y coordinación con las diferentes instituciones enriqueció las actividades del Proyecto. Por ejemplo, con la participación de MAGFOR se aumentó las técnicas agrícolas que el equipo puede transferir a las comunidades (tal como la técnica de post-cosecha), y el Ministerio de Economía Familiar ofreció sus comentarios a la elaboración de la guía de extensión.
- Se han desarrollado en el nivel del campo las colaboraciones con las ONGs que trabajan en las mismas comunidades, por ejemplo se han realizado las capacitaciones de los promotores y productores en el vivero forestal de MASAGNI y la finca de AMC. En esta manera se facilitó las actividades del Proyecto, y generó la sinergia en ambas acciones.
- Se empezó las relaciones públicas y la divulgación de las actividades del Proyecto por medio de la transmisión del radio desde el año 2010. A través del radio que se emite 2 veces por semana, se han podido mantener transmitiendo las informaciones y los mensajes positivos a los productores, a pesar de que hubo los periodos difíciles de visitar a las comunidades con las razones que menciona en el

siguiente inciso.

- Los estudiantes de las prácticas, las pasantías y el estudio de URACCAN que se realizan en las comunidades complementaron algunas actividades del Proyecto, tal como los trabajos de las fincas y parcelas y las investigaciones relacionadas a las técnicas agrícolas.

2-2-4 Problemas y factores causantes de problemas

Se puede mencionar los siguientes factores que impactaron negativamente para obtener los resultados esperados, convirtiéndose en problemas para implementar el Proyecto.

- Una variedad de condiciones externas como el impacto del Huracán Félix que azotó el país antes del inicio del Proyecto (septiembre de 2007) y los incidentes tal como asalto armado que se dieron durante la ejecución de las actividades han ocasionado atraso en las actividades en general.
- Durante el periodo de prolonga, la situación social en Puerto Cabezas sigue siendo inestable y los conflictos sociales de diferentes magnitudes ocurren constantemente en Bilwi y sus alrededores, y estas circunstancias han sido un gran factor que causan atrasos en el avance de las actividades del Proyecto.
- Existen los organismos de ayuda que ofrecen materiales en la manera convencional en las comunidades, mientras el Proyecto TAWAN INGNIKA ha sido coherente en no regalar cosas a la población que impide fomentar su propia administración, priva su actitud de pensar y sus esfuerzos para inventar, de tal manera que reduzca la dependencia y paternalismo de las comunidades. Esto ha causado algunas dificultades para los técnicos del Proyecto en cambiar la mentalidad de comunitarios y lograr involucrar a más integrantes a las actividades.

2-3 Resultados de la evaluación según los 5 criterios de evaluación

2-3-1 Pertinencia

La Pertinencia del Proyecto es alta en términos de necesidades y prioridades de Nicaragua y Puerto Cabezas, de las estrategias de asistencia japonesa y de la idoneidad como medio para contribuir a las necesidades, tal como se describe a continuación.

(1) Coherencia con los temas prioritarios de los gobiernos y las necesidades de la sociedad del área del Proyecto

Como se ha mostrado en la Evaluación Final de septiembre de 2011, el Proyecto tiene alto nivel de coherencia con las políticas del gobierno central y local. De acuerdo con el Plan Nacional de Desarrollo Humano de Nicaragua (PNDH), la región objeto del Proyecto, la RAAN es que tiene la prioridad más alta en aspectos del desarrollo. Además, el "Plan de Desarrollo para la Costa Caribe (2009-2012)"

menciona como uno de los 12 objetivos a cumplir hasta el 2012: el “apoyar para dotar con capacidad productiva a 10,000 familias de comunidades indígenas y de localidades de extrema pobreza”. En el Plan Estratégico de Desarrollo 2003 -2012 de la Alcaldía de Puerto Cabezas se cita la necesidad de desplegar un programa de asistencia técnica para el desarrollo agropecuario. Por el momento no hay cambios de estas políticas y prioridades del gobierno central y local.

Las necesidades del área objeto del Proyecto tampoco no han cambiado hasta la fecha. Toda el área de los tres territorios beneficiarios depende de la agricultura, forestería o pesca artesanal como medios de la vida. Además del terreno fértil muy limitado, son territorios donde se ha efectuado muy poca asistencia de desarrollo hasta la fecha, por lo que la difusión agrícola del Proyecto responde a las necesidades de los grupos beneficiarios de dichos territorios.

(2) Coherencia con las políticas de la asistencia oficial de Japón

Las políticas de la asistencia oficial de Japón existes también siguen igual, las cuales tienen enfoque primordial en la reducción de pobreza en área rural, según el “Plan Ajustable de Mediano Plazo en la República de Nicaragua” que formuló el gobierno japonés (elaborado en junio de 2011), por lo que no hay cambio con respecto a la coherencia.

(3) Idoneidad como medio para contribuir a las necesidades

Metodología TAWAN INGNIKA

El concepto de TAWAN INGNIKA presta mayor atención a la formación de capital humano y crear productores pensantes y creativos. Para eso, al inicio de las capacitaciones de los promotores se empieza con los temas de motivación y organización, mejoramiento de vida, promotoría comunitaria y genero. Las actividades de capacitaciones son los sujetos de selección por cada comunidad dependiendo del diagnostico participativo, así se les introducen solo las técnicas adecuadas y deseadas de cada comunidad. La manera de capacitación, “Escuela de Campo” es diseñado con el propósito de formar los productores creativos, brindar las capacitaciones y asesorías técnicas en base a las necesidades, y extender las técnicas “Productor a Productor”. Se considera que todas estas metodologías contribuyen para disminuir la dependencia o el paternalismo de los habitantes del área objeto del Proyecto, aunque no es fácil y tarda tiempo, las metodologías de TAWAN INGNIKA son sumamente adecuadas comparando con las maneras convencionales.

Utilización efectiva de recursos locales

Después del Estudio de Evaluación Intermedia, el Proyecto ha adoptado rigurosamente el enfoque de “utilización efectiva de recursos locales”. El fortalecimiento del CDR en sí constituye la “utilización

efectiva de recursos locales”. Aunque falta fortalecer más el mecanismo de ejecución del CDR, la colaboración inter-institucional ha sido una forma adecuada para llevar a cabo las acciones efectiva y eficientemente. Por el momento las instituciones estatales relacionadas al desarrollo rural, los donantes y las ONGs muestran interés en el enfoque del Proyecto. Para generar más sinergia es indispensable crear un sistema que permita al CDR desempeñar un rol de liderazgo.

(4) Pertinencia de la colaboración con otras organizaciones de asistencia y otros proyectos de la JICA

El Proyecto ha venido colaborando con las instituciones relacionadas en el nivel operativo durante todo tiempo del Proyecto, y el nivel administrativo más intensivamente en el periodo prolongado, y se estableció las relaciones como mencionadas en los incisos anteriores.

Por otro lado, el Proyecto ha colaborado con otros proyectos y modalidad de JICA en diferentes ocasiones, por ejemplo, se invitó los expertos del tema de organización y técnica agrícola, realizar un seminario invitando personal de diferentes proyectos, etc.

2-3-2 Efectividad

El logro del Objetivo del Proyecto ha sido excelente como se explica a continuación, así que se considera que es alta la efectividad del Proyecto.

(1) Perspectivas de alcanzar el objetivo del Proyecto

Como se mencionó en el inciso 2-1-4 “Logros del objetivo del Proyecto”, se han superado todas metas de indicadores establecidos para medir el nivel de alcance del Proyecto.

Además, en las entrevistas de los promotores y productores realizadas por los evaluadores de esta evaluación, todos mencionaron que sus condiciones de vida han sido mejoradas en diferentes maneras, incluyendo las siguientes:

- Mejoró su dieta familiar, consume diariamente las hortalizas que antes no comían frecuentemente.
- Puede ahorrar el gasto de compra de las hortalizas porque ahora puede cosecharlas.
- Se venden alguna parte de su producción, lo cual ayuda mejorar sus ingresos económicos familiares.
- Tiene mejor productividad de su parcela y cultivos diversificados.
- Antes tenía parcela lejos de la casa, pero ahora tiene su parcela cerca y puede trabajar con mayor facilidad.
- Mejoró las relaciones con su esposo(a), otros miembros de la familia y la gente de la comunidad, después de aprender como se trata con la gente y el tema de género.
- Ganó conocimiento que se queda por siempre.

(2) Relación de causa y efectos entre el objetivo del Proyecto y los Resultados Esperados

El logro del Objetivo del Proyecto es la consecuencia de los Resultados Esperados 1 y mayormente 2. Según las personas entendidas en la materia de desarrollo rural de la zona, es difícil promover las actividades productivas en el área objeto, cuando la gente está acostumbrada a recibir ayuda financiero y de material. Sin embargo, los promotores y productores del TAWAN INGNIKA están haciendo esfuerzos en las actividades productivas utilizando sus recursos disponibles. Aunque hay algunos grupos que todavía no han llegado al nivel de aplicar los conocimientos en la manera continua y necesitan más acompañamiento, el mejoramiento de vida ha sido un efecto real del Proyecto. En cuanto al Resultado Esperado 3, se considera que la función de CDR todavía no ha sido satisfactoria para asegurar la ejecución de las actividades del modelo TAWAN INGNIKA.

Con respecto a las condiciones externas relacionadas con el cumplimiento del objetivo del Proyecto, que son “No hay cambio en las políticas de la Alcaldía en cuanto a la extensión agrícola” y “No hay cambio frecuente de extensionistas y productores del grupo modelo”, hasta el momento de la evaluación final, no se habían presentado el cambio en las políticas de la Alcaldía ni el cambio frecuente de extensionista, como son los técnicos contraparte del Proyecto. Los productores a veces retiran de las actividades dependiendo de su disponibilidad, pero según los técnicos contraparte el porcentaje de los promotores que mantenga su cargo después de las capacitaciones es alrededor de 80-85%, y se considera que no es de la magnitud de impactar el logro negativamente.

2-3-3 Eficiencia

Como se indica a continuación, el nivel de logro de cada resultado varía, como consecuencia del nivel de logro de las actividades. En cuanto al uso eficaz de aportaciones, aunque se han indicado algunos problemas en los primeros años del Proyecto, en general el Proyecto ha ejecutado las actividades eficientemente usando plenamente los recursos disponibles.

(1) Niveles de los logros de los Resultados Esperados

Como se describió en el inciso 2-1-3 “Logros de los Resultados Esperados”, se considera que se dificultó lograr el Resultado Esperado 1 en el nivel satisfactorio debido a la insuficiencia de presupuesto para algunos rubros necesarios para la ejecución de las actividades y la función limitada del CDR. Con respecto al Resultado Esperado 2, el nivel de logro es alto y satisfactorio. En cuanto al Resultado Esperado 3, aunque el Proyecto ya tiene desarrollado las colaboraciones con varias instituciones en diferentes niveles, para lograr este resultado se requiere aun más esfuerzo para asegurar el presupuesto necesario para la ejecución continua de las actividades del Proyecto.

(2) Relación de causa y efectos entre los Resultados Esperados y las actividades

Los logros de los Resultados Esperados mencionados arriba fueron generados como los frutos de las actividades del Proyecto.

Están definidas 2 condiciones externas relacionadas con el cumplimiento de los resultados esperados del Proyecto. Una de ellas es “La situación de la seguridad de los territorios beneficiarios del Proyecto está relativamente estable al grado de no afectar las actividades del mismo”, la cual afectó negativamente la implementación de las actividades del Proyecto, como mencionado en el inciso 2-2-4 “Problemas y factores causantes de problemas”. En cuanto a la otra condición externa; “Los grupos de productores acordaron participar en el Proyecto de manera organizada”, los comunitarios respetan las decisiones de las autoridades comunitarias. El Proyecto ejecuta las actividades con la aprobación de las autoridades comunitarias, en tal manera logra la participación activa de la organización comunal, aprendiendo de los casos de etapa inicial que trabajó con los líderes identificado por otras instituciones y tuvo un problema de garantizar el apoyo de lo demás en la comunidad.

(3) Calidad, cantidad y tiempo de aportaciones de insumos

Se considera que la mayoría de los aportes fueron utilizados adecuadamente para generar los resultados establecidos en la PDM. Con respecto a la primera mitad del periodo del proyecto, en algunos casos no se podía lograr convertir los aportes eficientemente en resultados, esto fue ocasionado principalmente por la falta de suficiente consenso en lo que se refiere al método de administración o el enfoque del Proyecto entre los miembros del CDR, así como del Equipo de Ejecución del Proyecto. Por ejemplo, la contratación de consultores locales no generó los resultados suficientemente que se habían esperado. Esta situación también fue generada por diversos factores externos tal como el problema de seguridad. Sin embargo, aprendido de la experiencia de los primeros años, durante la segunda mitad del mismo permitió que cada uno de los componentes de inversión sea orgánicamente vinculado con la generación de los resultados esperados.

Con respecto a los equipos donados por la parte japonesa, aunque ya se otorgó el derecho de mayor parte de equipo al CDR, todavía no está ordenado el reglamento de uso para aprovecharlos específicamente para las acciones desarrolladas por el Proyecto, aun después de terminación del Proyecto.

2-3-4 Impacto

La posibilidad de lograr los Objetivos Superiores depende del aseguramiento de sostenibilidad financiera. Por otro lado, se identificó una variedad de impactos positivos del Proyecto, como se indica a continuación.

(1) Perspectivas de alcanzar los Objetivos Superiores

Como se mencionó en el inciso 2-1-5 "Perspectiva de alcanzar el objetivo superior del Proyecto", es necesario continuar las actividades del modelo TAWAN INGNIKA dentro y fuera del municipio de Puerto Cabezas. Para lograr esto, el CDR con su equipo técnico está preparando POA del año 2013, y presentará al consejo municipal para asegurar el presupuesto necesario. También es necesario definir la meta para ir aumentando el número de las comunidades y los productores beneficiarios.

Mientras tanto, se podrá obtener los datos necesarios de los indicadores de los Objetivos Superiores mediante los resultados de monitoreo, siempre y cuando se continúe las actividades definidas en la Guía de Extensión.

(2) Relación de causa y efectos entre los Objetivos Superiores y el Objetivo del Proyecto.

En cuanto al Objetivo Superior 1, se podrá lograr como una consecuencia del Proyecto, si se mantiene las actividades desarrolladas del Proyecto aun después de la terminación de la cooperación de Japón. En el caso de Objetivo Superior 2, es necesario continuar las actividades del modelo TAWAN INGNIKA no solo en Puerto Cabezas sino también fuera de Puerto Cabezas. Aunque las actividades para promover la extensión futura no están definidas claramente en la PDM, el Proyecto vino desarrollando las relaciones con las instituciones y está participando en el gabinete regional de producción considerando la posibilidad de extender el modelo TAWAN INGNIKA fuera de Puerto Cabezas.

En la PDM están definidas las siguientes condiciones externas relacionadas con el cumplimiento de los Objetivos Superiores.

- No hay caída repentina de precios.
- No hay alza de precios de los equipos y materiales a suministrar o incremento de gastos operativos.
- No hay epidemias de enfermedades contagiosas de cultivo y ganado.
- No hay desastres naturales de gran escala.

Dentro de estas condiciones, el Huracán Félix afectó negativamente al inicio del Proyecto, y hay posibilidad de que los desastres naturales causados por el cambio climático originen alzas o caídas repentinas de precios de los productos en el futuro.

Como otro factor externo que puede afectar negativamente el logro de los Objetivos Superiores, el asistencialismo de los organismos de ayuda podría poner trabas al camino lento de la divulgación de las metodologías de TAWAN INGNIKA.

(3) Otros impactos generado como efectos del Proyecto,

A continuación se mencionan los impactos positivos del Proyecto.

- Para promover la aplicación sostenible de las técnicas, se trató de no proporcionar los materiales relacionados (herramientas agrícolas, semillas y plántulas) y se exigió la autoayuda en la obtención de los mismos. Como resultado de la implementación exhaustiva de este enfoque, han surgido comunitarios que se deshicieron de la dependencia excesiva de la ayuda material que se daba mucho, especialmente en las comunidades indígenas, y manejan su parcela con iniciativa propia.
- Uno de los promotores está dando asistencia técnica a los productores de fuera de su comunidad. Se llegan unos 9 productores de una comunidad vecina y 12 de otra comunidad a la parcela de este promotor para aprender de su conocimiento agrícola adquirido a través del Proyecto.
- Uno de los promotores se trasladó a fuera del Municipio de Puerto Cabeza, pero está cumpliendo su función de promotor en su nueva comunidad con su grupo de productores.
- Unos promotores de una comunidad está desarrollando sus actividades colaborando con un grupo religioso con unos 30 productores involucrados.
- Algunos de los promotores son conocidos como los recursos humanos formados de la zona, y les contratan una ONG para llevar a cabo sus proyectos.
- Uno de los temas sociales de las capacitaciones del modelo TAWAN INGNIKA es la equidad de género, y unos 45 % de los promotores formados son mujeres. Como consecuencia está generando varios impactos positivos en las promotoras, incluyendo los siguientes;
 - Algunas promotoras explican que antes no podían expresar sus opiniones pero ahora pueden hablar en frente de mucha gente.
 - Algunas promotoras conocieron el placer de aprender por la participación en las actividades del Proyecto y comenzaron a estudiar en la escuela secundaria de la modalidad sabatina en la escuela de Bilwi (unas 8 a 10 personas).
 - Algunas promotoras expresan que ahora sus familias las ayudan y entienden, y así la relación familiar es mejor que antes.
- Hay 25 extensionistas formados por el Proyecto, y mayoría de ellos están utilizando las técnicas y conocimiento en sus trabajos de sus instituciones.
- Los técnicos de contraparte que recibieron la capacitación en Japón están aprovechando lo adquirido en el curso de mejoramiento de vida para las clases que imparten en las universidades (URACCAN y BICU).
- Alcaldía de Waspan muestra su interés de implementar algunas actividades del modelo TAWAN INGNIKA, escuchando las experiencias del Proyecto. Ahora esta manteniendo la relación, tal como, le invita para los seminarios del Proyecto, y un técnico contraparte del Proyecto expone en el foro del tema de género en Waspan.

Cabe mencionar que no está identificado el impacto negativo causado por el Proyecto.

2-3-5 Sostenibilidad

Se ha formado el equipo técnico del Proyecto satisfactoriamente para ejecutar las acciones del modelo TAWAN INGNIKA. Sin embargo, es necesario determinar una manera de continuar las actividades del modelo TAWAN INGNIKA para asegurar la sostenibilidad y extender las metodologías introducidas del Proyecto.

(1) Aspectos institucionales y de las políticas

Todas las 4 instituciones ejecutoras del Proyecto expresan que aprecian altamente las metodologías y los logros del Proyecto y seguirán dando la importancia en la práctica para contribuir al desarrollo agrícola y el mejoramiento de la condición de vida de la zona. Además el MAG-FOR, SEPROD/GRAAN y Ministerio de Economía Familiar valoran al modelo de TAWAN INGNIKA y tienen interés de utilizarlo en alguna manera en sus proyectos. Por lo tanto, se espera que mantenga la continuidad de apoyos de cada institución.

(2) Aspectos organizacionales y financieros

Todas las 4 instituciones dicen que no habrá problema de asignar su personal de la misma manera para las acciones futuras. Entonces es posible asegurar los técnicos especialistas del modelo TAWAN INGNIKA formados a través del Proyecto. Sin embargo, es necesario asegurar el financiamiento de las actividades, tal como viáticos y combustible para realizar las actividades. Actualmente el CDR junto con el Equipo Técnico está preparando POA y presupuesto para el año 2013 para presentarlos al Consejo Municipal de Puerto Cabezas.

Acerca de la posibilidad de colaborar con otras instancias, existen diferentes instituciones tal como MAG-FOR, SEPROD/GRAAN y Ministerio de Economía Familiar que tienen interés de utilizar las metodologías de TAWAN INGNIKA en sus programas y/o proyectos. Ellos tienen planes de promover proyectos en las zonas o comunidades beneficiarias del Proyecto, y posiblemente trabajar con los promotores formados de TAWAN INGNIKA para aprovechar sus conocimientos al máximo.

Por otro lado, actualmente el CDR es un comité reconocido por el Consejo Municipal, pero aun no cuenta con el reconocimiento del Consejo Regional Autónoma. También se debe considerar que en RAAN, establecimiento de gobiernos territoriales y transferencia de responsabilidades está en proceso, y hay cierta posibilidad de cambio del sistema administrativo en el futuro. Por lo tanto es necesario ir analizando cómo debe ser el CDR para poder continuar las actividades en Puerto Cabezas y fuera de Puerto Cabezas en el futuro.

En cuanto al otro tipo de oportunidad, existe un Red de Ex-Becarios de las capacitaciones en Japón que han sido formados en diferentes temas (mejoramiento de vida, desarrollo endógeno, desarrollo rural, entre otros). Son los recursos humanos formados en los temas relacionados al modelo de TAWAN INGNIKA, y se podrían aprovechar para continuar con el trabajo que ha realizado el Proyecto.

(3) Aspectos técnicos

Los técnicos contraparte del Proyecto han sido formados suficientemente para desarrollar las actividades del modelo de TAWAN INGNIKA en diferentes comunidades de RAAN.

En cuanto a las técnicas agrícolas, se adoptaron las técnicas basadas en el estilo tradicional de cultivo de la comunidad y la agricultura local y se trató de aplicar: 1) técnicas que se pueden poner en práctica en la comunidad, 2) técnica que se pueden económicamente introducir, 3) técnica socialmente aceptable, y 4) técnicas ambientalmente sanas y sostenibles. Como ejemplos concretos se pueden mencionar el establecimiento de parcelas en el solar de la vivienda, principalmente huertos familiares, y técnicas de elaboración de abono y riego. En las comunidades, los promotores opinan que aprendieron diferentes técnicas y son muy adecuadas para ellos, por eso su conocimiento queda para continuar sus actividades aún después de la terminación del Proyecto. Además muchos de los promotores están aplicando la transferencia de conocimiento a otros productores, y creen que se puede seguir sus esfuerzos aun después de la terminación de la cooperación.

(4) Aspectos culturales, sociales, ambiental y de género

El Proyecto realiza las actividades tomando en cuenta la diversidad étnica, socioeconómica, geográfica, cultural y de medio ambiente. Por ejemplo, las capacitaciones que les ofrece en las comunidades se deciden mediante diagnostico participativo. Además, el Proyecto tiene el enfoque de género como mencionado anteriormente. Por eso se puede pensar que no hay elementos negativos en estos aspectos relacionados.

2-4 Conclusiones

Se considera que el Objetivo del Proyecto ya se ha cumplido. Aunque existen unos indicadores de los Resultados Esperados que no se han generado satisfactoriamente todavía, y unas tareas que deben cumplir durante el tiempo restante del periodo de cooperación, es posible de elevar el nivel de logro durante el periodo restante, tomando en cuenta las recomendaciones descritas en siguiente inciso. Por lo tanto, es pertinente que la cooperación japonesa termine en el periodo programado.

Capítulo 3 Recomendaciones

Para que los efectos que se han generado por el Proyecto tengan la sostenibilidad y divulgue en la región, el comité de evaluación conjunta recomienda llevar a cabo las siguientes acciones.

Recomendaciones para las actividades durante el periodo de cooperación

1. Finalización de los documentos

Considerando la continuidad de las actividades en la manera auto sostenible por las instituciones nicaragüenses relacionadas al Proyecto, se está elaborando tres documentos denominados “Plan Estratégico”, “Programa de Extensión Agrícola” y “Guía de Extensión”. Aunque ya se ha hecho primera versión o borrador de los documentos, todavía falta revisión y/o finalización. Por lo tanto, el Equipo de Ejecución y el CDR, contando con la asesoría técnica de expertos japoneses, debe finalizarlos lo antes posible.

2. Aseguración del presupuesto del año 2013

Durante el periodo de cooperación, la parte japonesa ha soportado algunas partes de los gastos que se debe cubrir por la parte nicaragüense, tales como combustible y viáticos de los miembros del Equipo de Ejecución. Estos son los costos que la parte nicaragüense debe garantizar cuando termine la cooperación. Para esto, es necesario realizar los trámites para asegurar el presupuesto del año 2013. En la manera concreta, el Equipo de Ejecución, con la asesoría técnica de expertos japoneses, elabora Plan de Operación Anual del año 2013, y teniendo aprobación de CDR, lo somete al consejo municipal de noviembre del 2012. De igual manera, se debe tomar medidas presupuestarias de los costos que corresponden a las responsabilidades de BICU, URACCAN y PANA PANA respectivamente. Son las tareas de importancia y urgencia que tiene que ejecutarse sin falta.

3. Divulgación de efectos del Proyecto

El Proyecto tiene su Objetivo Superior de extender su efecto no solamente en las tres zonas objetos sino todo el municipio de Puerto Cabezas y hasta otros municipios de la RAAN. Para cumplir este objetivo en un futuro cercano, el Proyecto especialmente en la etapa prolongada ha tenido activamente contactos con otras instituciones como el gobierno regional, otros municipios, instituciones gubernamentales y donantes internacionales, entre otras. Sin embargo tenía cierta dificultad de presentar con claridad el concepto, modelo y metodología del Proyecto ante estas instituciones.

La “Guía de Extensión”, que está en el último proceso de elaboración por Equipo de Ejecución, muestra el concepto, modelo y metodología del Proyecto en su totalidad, y permitirá presentarlos en la manera más profunda. Es necesario, utilizando la guía, esforzarse en introducir el modelo de TAWAN

INGNIKA creado por el Proyecto, y adquiriendo su comprensión, promover colaboraciones concretas durante y después del periodo de cooperación.

4. Reglamento de uso y mantenimiento de los equipos donados

Los equipos donados por la cooperación japonesa deben de utilizarse exclusivamente para las actividades del Proyecto. Por ende, es necesario que el CDR, con la asesoría de expertos japoneses, establezca un reglamento de uso y mantenimiento de los equipos donados antes de la finalización de la cooperación.

5. Fortalecimiento de la Función de Ejecución

Durante el periodo de ejecución de los 5 años del proyecto los expertos japoneses asumieron el papel de la parte ejecutiva, este rol debe ser asumido por la parte nicaragüense para garantizar la sostenibilidad, por el cual es necesario que los miembros del CDR definan un equipo de gerencia antes de la terminación de la cooperación.

6. Toma de decisión oportuna del CDR

Se ha mostrado cierta preocupación de las partes relacionadas ante la situación actual de que la toma de decisiones por el CDR no ha sido con fluidez como se espera. Para cumplir las tareas arriba mencionadas antes de la finalización de la cooperación japonesa, es primordial que el CDR tome las decisiones con rapidez teniendo mayor esfuerzo de las partes integrantes del CDR.

Recomendaciones para después del periodo de cooperación

1. Manera de ser del CDR

El CDR por el momento se compone de 4 instancias contando la Alcaldía de Puerto Cabezas como el núcleo, basándose en el supuesto de que la zona de influencia este en la municipalidad. Por otro lado, el Proyecto, en base a sus resultados positivos del periodo de cooperación, tiene meta de divulgar sus actividades hasta fuera de la municipalidad de Puerto Cabezas. También es prudente considerar que en RAAN, donde el establecimiento de Gobiernos Territoriales Indígenas y la transferencia de responsabilidades está en proceso, hay cierta posibilidad de cambio del sistema administrativo en el futuro.

Bajo esta circunstancia, es deseable que el CDR, no se aferre a la forma actual, se evolucione con flexibilidad aumentando sus miembros, y cambiando la función y el sistema de toma de decisiones, de acuerdo con el ambiente dinámico de la región.

Para garantizar la permanencia del CDR es una opción constituirse en un organismo con status legal.

2. Coordinación y colaboración con otras organizaciones

El modelo de TAWAN INGNIKA introducido por el Proyecto tiene su particularidad de elevar la autoestima de comunitarios y hacerlos reconocer que los protagonistas de desarrollo son ellos mismos. Este modelo es totalmente diferente de las maneras convencionales adoptadas por varias organizaciones de ayuda que regalando cosas a la población podría crear dependencia y paternalismo.

Cuando coincide en una zona las metodologías tan distintas, a veces los efectos se disminuyan y hasta puede empeorar la situación generando cierta confusión. Por ende, se requiere crear una coordinación más efectiva con las instituciones que brindan este tipo de apoyo para buscar una mejor manera de colaboración y sinergia.

Capítulo 4 Lecciones aprendidas

El Proyecto ha logrado crear un modelo de extensión apropiada y también desarrollar capacidad humana y equipo de trabajo con habilidad de aplicar ese modelo en el área donde no había sistema de extensión. Aunque falta fortalecer mecanismo que garantiza la sostenibilidad del modelo, es admirable los esfuerzos que se ha hecho el Equipo del Proyecto, porque es una tarea de otra dimensión que fortalecer un sistema existente.

Cabe mencionar que el Proyecto ha mostrado flexibilidad en cuanto a las maneras y los contenidos de capacitaciones en el proceso de búsqueda del modelo efectivo y aplicable, no aferrando a supuestos del inicio.

Obviamente es primordial realizar estudio detallado y tener supuesto basándose al resultado del mismo en la etapa de planificación, sin embargo, también es importante y necesario abordar tareas nuevas con flexibilidad de acuerdo con los hechos surgidos en el proceso de ejecución y/o la situación dinámica.

Anexo 1: Itinerario de la Evaluación

Fecha y día		Desde	Hasta	Actividades	
01/10/2012	Lun	8:30		JICA Orientación 1	Managua
		9:30		Entrevista con SDCC	
		11:00		Entrevista con MAGFOR	
		13:30		JICA Orientación 2	
		14:00		Reunión con Director de JICA Nicaragua	
02/10/2012	Mar	11:00	12:30	Vuelo a Puerto Cabeza (La Costeña #134)	Puerto Cabezas
		13:00		Reunión con Expertos de JICA	
		13:30		Reunión de Evaluadores (Explicación de método de evaluación)	
		15:00	16:10	Entrevista con URACAAN	
		16:20	18:20	Entrevista con Expertos de JICA	
		8:30	9:20	Entrevista con BICU	
		9:30	10:40	Entrevista con SEPROD/GARRN	
		9:45	11:35	Entrevista con IDR	
		11:40	12:10	Entrevista con Expertos de JICA	
		14:00	15:00	Presentación de las actividades del Proyecto por técnicos C/Ps	
		15:00	15:50	Entrevista con técnicos C/Ps	
		16:00	17:00	Entrevista con Alcalde de Puerto Cabezas	
		04/10/2012	Jue	9:20	
10:40	11:30			Visita y entrevista en campo (Llano Norte/Iltara)	
11:40	12:50			Visita y entrevista en campo (Llano Norte/Beren)	
14:50	15:30			Visita y entrevista en campo (Llano Norte/Kuakuil)	
16:30				Reunión con Expertos de JICA	
05/10/2012	Vie	9:40	10:00	Visita y entrevista en campo (Tasba Pri/Sumbira)	Puerto Cabezas
		11:10	11:50	Visita y entrevista en campo (Tasba Pri/Nazareth II)	
		12:10	13:20	Visita y entrevista en campo (Tasba Pri/Nazareth), ONG (Acción Medica Cristiano)	
		14:20	15:00	Visita y entrevista en campo (Llano Sur) Trusraya	
06/10/2012	Sab	8:00	13:10	Entrevista con Expertos de JICA	Puerto Cabezas
				Documentación	
07/10/2012	Dom			Documentación	Puerto Cabezas
08/10/2012	Lun	7:45	8:15	Reunión con Expertos de JICA	Puerto Cabezas
		8:20	9:20	Entrevista con MAGFOR	
		10:20	12:20	Entrevista con técnicos C/Ps	
		14:00	17:20	Entrevista con Expertos de JICA	
09/10/2012	Mar	7:45		Entrevista con Expertos de JICA y Documentación	Puerto Cabezas
		15:30		Llegada de Sr. Takiguchi	
		16:30		Reunión con Expertos de JICA	
10/10/2012	Mie	7:45		Reunión con Expertos de JICA	Puerto Cabezas
		14:00		Presentación de las actividades del Proyecto por técnicos C/Ps Entrevista con Alcaldía/ Dep. Recursos Naturales y Medio Ambiente	
11/10/2012	Jue	8:00		Taller de la evaluación de Mejoramiento de Vida (Visita/Llano)	Puerto Cabezas
		PM		Documentación	
12/10/2012	Vie	8:00		Reunión con Expertos de JICA	Puerto Cabezas
		16:00		Entrevista con Pana Pana	
13/10/2012	Sab	AM		Documentación	Puerto Cabezas
				Llegada de Sr. Nakao	
		14:00		Presentación de las actividades del Proyecto por técnicos C/Ps	
		15:00		Reunión con Expertos de JICA	
14/10/2012	Dom	10:30		Visita y entrevista en campo (Tasba Pri/Sumbira)	Puerto Cabezas
		11:10		Visita y entrevista en campo (Tasba Pri/Nazareth II)	
		11:50		Visita y entrevista en campo (Tasba Pri/Nazareth)	

		14:00		Visita y entrevista en campo (Llano Sur/ Trusraya)	
		15:30		Visita y entrevista en campo (Llano Sur/Betania)	
15/10/2012	Lun	8:00	12:00	Evaluación conjunta (Discusión de Informe de Evaluación)	Puerto Cabezas
		13:30		Documentación	
16/10/2012	Mar	8:00		Documentación y preparación para CCC Firma de Informe de Evaluación	Puerto Cabezas
17/10/2012	Mie	9:00	12:00	Documentación y preparación para CCC	Puerto Cabezas
		14:00		Comité de Coordinación Conjunta (CCC) Presentación de Informe de Evaluación, Firma de la M/M)	
18/10/2012	Jue	7:20	9:40	Salida a Managua (La Costeña #133)	Managua
		13:45	14:45	Reunión con JICA Nicaragua	
		15:00		Reporte a Embajada de Japón	

Pa

Anexo 2: PDM (ver.3)

Proyecto de Mejoramiento del Nivel de la Vida a través del Fortalecimiento de la Producción Agropecuaria de las Comunidades Indígenas y Etnicas de Puerto Cabezas en Nicaragua

(PDM ver. 3, Septiembre 2011)

Periodo del Proyecto: Febrero de 2008 – Febrero de 2013 (5 años)

Área de impacto: tres territorios del Municipio de Puerto Cabezas (Llano Norte, Llano Sur, Tasba Pri),

Grupo enfocado: Pequeños productores del área de impacto del Proyecto. (500 familias)

Resumen del Proyecto	Indicadores	Medios de Verificación	Condiciones Externas
<p>(Objetivo superior)</p> <p>1. El nivel de vida de los productores en el Municipio de Puerto Cabezas se mejora a través de la difusión agrícola establecida por los grupos modelo.</p> <p>2. Las actividades de difusión agrícola se extienden a las áreas indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas.</p>	<p>Antes del año 2017,</p> <p>1-1 El plan del Comité de Desarrollo Rural se revisa periódicamente y se ejecuta.</p> <p>1-2 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas aplican las tecnologías introducidas por el Proyecto.</p> <p>1-3 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas mejoran la producción de los principales cultivos (arroz, frijoles, cultivos de raíces y tubérculos, etc.).</p> <p>1-4 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas introducen más de 3 nuevos productos agrícolas (diversificación de cultivos)</p> <p>1-5 En todo el municipio de Puerto Cabezas el sistema de divulgación de mejoramiento de vida funciona apropiadamente.</p> <p>2-1 Cada año, se realiza el intercambio de productores de comunidades indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas, en los 3 municipios colindantes.</p>	<p>Informe sobre la encuesta por muestreo.</p> <p>Informe anual de actividades de las universidades</p>	
<p>(Objetivo del Proyecto)</p> <p>Se mejora el nivel de vida de los productores de los grupos modelo.</p>	<p>Antes de febrero del 2013,</p> <p>1. El hecho de que el 50% de productores modelo introdujeran las tecnologías agrícolas apropiadas para la zona, mejora la producción de los principales cultivos.</p> <p>2. El 50% de los productores modelo introducen más de 3 nuevos productos agrícolas (diversificación de cultivos).</p> <p>3. El 50% de los productores modelo están aplicando sosteniblemente lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.</p>	<p>Informe de estudio por el Proyecto</p> <p>Informe del Proyecto</p> <p>Informe de monitoreo</p>	<p>- No hay caída repentina de precios.</p> <p>- No hay alza de precios de los equipos y materiales a suministrar o incremento de gastos operativos.</p> <p>- No hay epidemias de enfermedades contagiosas de cultivo y ganado.</p> <p>- No hay desastres naturales de gran escala.</p>
<p>(Resultados del Proyecto)</p> <p>1) El Comité de Desarrollo Rural ha funcionado de acuerdo a su reglamento y Plan Estratégico de CDR.</p>	<p>1-1. Número del personal contraparte</p> <p>1-2. Presupuesto proyectado y ejecutado para los gastos operativos del Proyecto.</p> <p>1-3. Número de celebración del Comité Conjunto de Coordinación y del Comité de Desarrollo Rural.</p>	<p>Informes vinculados al Proyecto</p>	<p>No hay cambio en las políticas de la Alcaldía en cuanto a la extensión agrícola.</p>

Am

<p>2) Los productores del grupo modelo han introducido las técnicas impartidas.</p> <p>3) El Comité de Desarrollo Rural ha establecido el mecanismo para ejecutar de manera sostenible las actividades de extensión agrícola.</p>	<p>2-1 Numero de promotores capacitados (100 promotores en 20 comunidades X 5 promotores.)</p> <p>2-2 Numero de los grupos modelos de productores seleccionados.(20 grupos y 500 productores.)</p> <p>2-3 El 50% del grupo de productores modelo aplican técnicas y métodos para mejorar la productividad.</p> <p>2-4 Más del 50% de productores modelo aplican lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.</p> <p>3-1 Varios entidades relacionados además de los institutos contrapartes(Alcaldía, 2 universidades, PanaPana) ejecutan el Programa de Extensión Agrícola Sostenible.</p> <p>3-2 Se asegura la financiación para ejecutar el "Programa" arriba mencionado.</p>	<p>Informe del Proyecto</p> <p>Informe de monitoreo</p> <p>Programa de extensión agrícola sostenible</p> <p>Entrevistas a los integrantes del Comité de Desarrollo rural.</p>	<p>No hay cambio frecuente de extensionistas y productores del grupo modelo.</p>
<p>(Actividades del Proyecto)</p> <p>1-1. Formular Plan Estratégico del CDR para determinar el funcionamiento del Comité de Desarrollo Rural.</p> <p>1-2. Conformar un equipo técnico para la ejecución del Proyecto(Contrapartes y extensionistas).</p> <p>1-3. Elaborar un plan anual de actividades del Comité de Desarrollo Rural.</p> <p>1-4. Realizar estudios sobre la producción y analizar los resultados junto con los productores.</p> <p>1-5. Seleccionar los promotores y los grupos modelos de productores junto con los comunitarios.</p> <p>2-1 Establecer fincas demostrativas del Comité de Desarrollo Rural.</p> <p>2-2 El equipo técnico del Proyecto ejecuta las capacitaciones para los promotores.</p> <p>2-3 Proporcionar asistencia técnica a los promotores en sus fincas por el equipo técnico (técnicos extensionistas).</p> <p>2-4 Coordinar apoyo por parte del equipo técnico a las actividades agropecuarias que los promotores realizan.</p> <p>2-5 Proporcionar asistencia técnica a los productores del grupo modelo por el equipo técnico y los promotores.</p>	<p>(Aportaciones) (Parte japonesa)</p> <p>1. Envío de expertos Expertos a largo plazo: Un (1) responsable de organización de extensión agrícola/manejo de finca (jefe, por 2 años) Un (1) responsable de Capacitación de extensión agrícola/manejo de finca (jefe, por 3 años) Un (1) Responsable de coordinación/capacitación (por 2 años). Un (1) Responsable de coordinación del Proyecto (por 3 años)</p> <p>Expertos a corto plazo: Depende de la necesidad</p> <p>2. Capacitación del personal contraparte</p> <p>3. Suministro de equipos y materiales (camioneta de tina/ motocicleta/ computadora)</p> <p>(Parte nicaragüense)</p> <p>1. Suministro de instalaciones y equipos (terrenos para establecer finca y aulas para capacitación)</p> <p>2. Asignación del personal contraparte</p> <p>Financiamiento de los gastos corrientes necesarios para la implementación del Proyecto.</p>		<p>La situación de la seguridad de los territorios beneficiarios del Proyecto está relativamente estable al grado de no afectar las actividades del mismo</p> <p>Los grupos de productores acordaron participar en el Proyecto de manera organizada.</p>

Handwritten mark

<p>2-6 Proporcionar asistencia técnica a los productores que no son miembros del grupo modelo por los extensionistas junto con el grupo modelo.</p> <p>2-7 Coordinar apoyo por parte del equipo técnico para realizar reuniones de intercambio en experiencias entre productores organizados de otras comunidades y el grupo modelo.</p> <p>3-1 El Comité de Desarrollo Rural(CDR) define claramente el rol de los extensionistas y promotores dentro del "Programa de Extensión Agrícola Sostenible"</p> <p>3-2 El CDR referente al "Programa de Extensión" arriba mencionado y su correlación con los extensionistas, delibera y obtiene consenso con las instituciones, a las que pertenecen estos extensionistas.</p> <p>3-3 El CDR formula "Programa de Extensión" arriba mencionado y ejecuta a través de los promotores y extensionistas.</p> <p>3-4 Publicar materiales didácticos para la capacitación, y guías para la extensión en el Comité de Desarrollo Rural</p> <p>3-5 El CDR monitorea las actividades del "Programa de Extensión" arriba mencionado.</p> <p>3-6 El CDR realiza relaciones públicas sobre actividades del "Programa de Extensión" a las entidades relacionadas.</p>			
		<p>(Condición Previa) Se estableció el reglamento del Comité de Desarrollo Rural y los miembros distribuyen las responsabilidades</p>	

Handwritten signature

Handwritten mark

Anexo 3: Plan de operación (PO) y resultados

Resultados y Actividades	Actividades detalladas	Resultado	Plan y resultado																			
			2011					2012												2013		
			8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
Resultado 1) El Comité de Desarrollo Rural ha funcionado de acuerdo a su reglamento y Plan Estratégico de CDR.																						
1-1. Formular el Plan Estratégico del CDR para determinar el funcionamiento del Comité de Desarrollo Rural.	1-1-1. Revisar nuevamente la estrategia del CDR y definir identidad. → Determinar Estratégico del CDR	Plan	Terminado																			
	1-1-2. Definir el reglamento del CDR. (Plantilla, Presupuesto, Equipo).	Plan	Terminado																			
	1-1-3. Revisar el Plan Estratégico de CDR según el avance de actividad y necesidad.	Plan	→																			
	1-1-4. Revisar el funcionamiento del CDR según la confirmación de realidad y coherencia.	Plan	→																			
1-2. Conformar un equipo técnico para la ejecución del Proyecto (Contrapartes y extensionistas).	1-2-1. Fortalecer el equipo núcleo del Proyecto.	Plan	→																			
	1-2-2. Realizar el intercambio con Proyecto Alianza (Metodología de motivación y organización) (incluye a los extensionistas)	Plan	Δ			Δ																
	1-2-3. Intercambio con D TASPAN, INTA (incluye a los extensionistas)	Plan			Δ						Δ								Δ			
	1-2-4. Envío de capacitación al Japón	Plan										Δ							Δ			
1-3. Elaborar un plan anual de actividades del Comité de Desarrollo Rural	1-3-1. Informar y presentar la avance de las actividades en CDR.	Plan				Δ					Δ								Δ			
	1-3-2. Elaborar un plan anual de actividades del CDR (de enero a diciembre).	Plan					Δ													Δ		
1-4. Realizar estudios sobre la producción y analizar los resultados junto con los productores	1-4-1. Definir metodología del DRP.	Plan	Terminado																			
	1-4-2. Actualizar datos del diagnóstico participativo en las comunidades de intervención.	Plan	→ Depende de la necesidad																			
	1-4-3. Realizar encuentros de evaluación en conjunto con los promotores para presentar resultados de la actualización del diagnóstico participativo.	Plan	→																			
1-5. Seleccionar los promotores y los grupos modelos de productores junto con los comunitarios	1-5-1. Evaluar el funcionamiento de los promotores (40 promotores) del 1er. Año	Plan	Terminado																			
	1-5-2. Definir conjuntamente el proceso de selección de promotores del 3er. Grupo.	Plan	Empezar la capacitación de 3er grupo →																			

Handwritten signature

Handwritten mark

Resultado 3) El Comité de Desarrollo Rural ha establecido el mecanismo para ejecutar de manera sostenible las actividades de extensión agrícola.						
3-1.	El Comité de Desarrollo Rural(CDR) define claramente el rol de los extensionistas y promotores dentro del "Programa de Extensión Agrícola Sostenible"	3-1-1. Preparar los datos de datos de los extensionistas (Especialidad, área de trabajo etc.)	Plan	Terminado		
			Resultado			
3-2.	El CDR referente al "Programa de Extensión" arriba mencionado y su correlación con los extensionistas, delibera y obtiene consenso con las instituciones, a las que pertenecen estos extensionistas.	3-2-1. Tener autorización de correlación de los extensionistas de MAGFOR, Comal (ONG), MASANGNI(ONG), Action Medical(Siena ONG) etc en las actividades del Proyecto.	Plan	Terminado		
			Resultado			
		3-2-2. Seleccionar un grupo de extensionistas que tengan autorización para participar y apoyar en las actividades del proyecto	Plan	Terminado		
			Resultado			
3-3.	El CDR formula "Programa de Extensión" arriba mencionado y ejecuta a través de los promotores y extensionistas.	3-3-1. Formula "Programa de Extensión Sostenible" basado se en Plan estratégico de CDR.	Plan	Terminado		
			Resultado			
		3-3-2. Realizar actividades según el Programa de Extensión Sostenible.	Plan			
			Resultado			
3-4.	Publicar materiales didácticos para la capacitación, y guías para la extensión en el Comité de Desarrollo Rural	3-4-1. Utilizar y monitorear los materiales didácticos en las capacitaciones.	Plan			
			Resultado			
		3-4-2. Editar los materiales didácticos tomando en cuenta los resultados de monitoreo y las características socioculturales del grupo.	Plan	Terminado		
			Resultado			
		3-4-3. Editar la guía de las actividades de extensión agrícola(Ver.1) de CDR.	Plan	Terminado		
			Resultado			
3-4-4. Utilizar y monitorear la guía de las actividades de extensión agrícola(Ver.2) de CDR.	Plan					
	Resultado					
3-5.	El CDR monitorea las actividades del "Programa de Extensión" arriba mencionado.	3-5-1. Realizar monitoreo periódico por CDR.	Plan			
			Resultado			
		3-5-2. Preparar informe de monitoreo por parte del CDR.	Plan			
			Resultado			
3-6.	El CDR realiza relaciones públicas sobre actividades del "Programa de Extensión" a las entidades relacionadas.	3-5-3. Celebrar Seminario y intercambio etc.	Plan			
			Resultado			

Aportaciones

1	Experto	Coordinador	Plan											
			Resultado											
2	Experto	Asesor líder/Capacitación de extensión/Manejo de finca	Plan											
			Resultado											
3	Experto(Corto Plazo)	Coordinación de las políticas de desarrollo rural para la activación comunitaria/coordinación entre donantes	Plan											
			Resultado											
4	Experto(Corto Plazo)	Desarrollo participativo/Empoderamiento de organización	Plan											
			Resultado											
5	Experto(Corto Plazo)	KAIZEN(Mejoramiento de vida)	Plan											
			Resultado											
6	Evaluación final		Plan											
			Resultado											

Handwritten signature

Anexo 4: Tabla de Evaluación

Criterio de Evt.	Programas de Evaluación		Bases de Juicio/ Datos necesarios	Fuente de Información	Métodos de recopilación de datos
	Principales	Preocupaciones secundarias			
Perspectiva de lograr el Objetivo Superior	Resumen del Proyecto		Indicadores	Medios de Verificación	
	1. El nivel de vida de los productores en el Municipio de Puerto Cabezas se mejora a través de la difusión agrícola establecida por los grupos modelo.		Antes del año 2017, 1-1 El plan del Comité de Desarrollo Rural se revisa periódicamente y se ejecuta. 1-2 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas aplican las tecnologías introducidas por el Proyecto. 1-3 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas mejoran la producción de los principales cultivos (maíz, frijoles, cultivos de raíces y tubérculos, etc.). 1-4 1,500 pequeños productores en 50 comunidades del Municipio de Puerto Cabezas introducen más de 3 nuevos productos agrícolas (diversificación de cultivos) 1-5 En todo el municipio de Puerto Cabezas el sistema de divulgación de mejoramiento de vida funciona apropiadamente.	Informe sobre la encuesta por muestreo.	Revisión de documentos Entrevistas
	2. Las actividades de difusión agrícola se extienden a las áreas indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas.		2-1 Cada año, se realiza el intercambio de productores de comunidades indígenas fuera del Municipio de Puerto Cabezas, en los 3 municipios colindantes.	Informe anual de actividades de las universidades	Revisión de documentos Entrevistas
Perspectiva de lograr el Objetivo del Proyecto	Resumen del Proyecto		Indicadores	Medios de Verificación	
	Se mejora el nivel de vida de los productores de los grupos modelo.		Antes de febrero del 2013, 1. El hecho de que el 50% de productores modelo introdujeran las tecnologías agrícolas apropiadas para la zona, mejora la producción de los principales cultivos. 2. El 50% de los productores modelo introducen más de 3 nuevos productos agrícolas (diversificación de cultivos). 3. El 50% de los productores modelo están aplicando sosteniblemente lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.	Informe de estudio por el Proyecto Informe del Proyecto Informe de monitoreo	Revisión de documentos Entrevistas
Logros de los Resultados Esperados	Resumen del Proyecto		Indicadores	Medios de Verificación	
	1) El Comité de Desarrollo Rural ha funcionado de acuerdo a su reglamento y Plan Estratégico de CDR.		1-1. Número del personal contraparte 1-2. Presupuesto proyectado y ejecutado para los gastos operativos del Proyecto. 1-3. Número de colaboración del Comité Conjunto de Coordinación y del Comité de Desarrollo Rural.	Informes vinculados al Proyecto	Revisión de documentos Entrevistas
	2) Los productores del grupo modelo han introducido las técnicas impartidas.		2-1 Número de promotores capacitados (100 promotores en 20 comunidades X 5 promotores.) 2-2 Número de los grupos modelos de productores seleccionados (20 grupos y 600 productores.) 2-3 El 50% del grupo de productores modelo aplican técnicas y métodos para mejorar la productividad. 2-4 Más del 50% de productores modelo aplican lo aprendido en la capacitación sobre el mejoramiento de la vida.	Informe del Proyecto Informe de monitoreo	Revisión de documentos Entrevistas
	3) El Comité de Desarrollo Rural ha establecido el mecanismo para ejecutar de manera sostenible las actividades de extensión agrícola.		3-1 Varios entes relacionados además de los institutos contrapartes (Alcaldía, 2 universidades, PanaPana) ejecutan el Programa de Extensión Agrícola Sostenible. 3-2 Se asegura la financiación para ejecutar el "Programa" arriba mencionado.	Programa de extensión agrícola sostenible Entrevistas a los integrantes del Comité de Desarrollo Rural.	Revisión de documentos Entrevistas
Aportación de la parte nicaragüense	Asignación del personal contraparte		Director del Proyecto Gerente del Proyecto Personal Contraparte: 6 personas Personal Administrativo: Secretaría y otros personal de apoyo necesario	Plan de aportaciones (RD, etc.), Informes de expertos	Revisión de documentos
	Instalaciones y equipos		Suministro de instalaciones y equipos (terrenos para establecer Encos y aulas para capacitación)	Plan de aportaciones (RD, etc.), Informes de expertos	Revisión de documentos
	Costo del Proyecto		Financiamiento de los gastos corrientes necesarios para la implementación del Proyecto.	Plan de aportaciones (RD, etc.), Informes de expertos	Revisión de documentos
Aportación de la parte japonesa	Envío de Expertos		1 de organización de extensión agrícola/manejo de finca (jefe, por 2 años) 1 de Capacitación de extensión agrícola/manejo de finca (jefe, por 3 años) 1 de coordinación/capacitación (por 2 años). 1 de coordinación del Proyecto (por 3 años)	Plan de aportaciones (RD, etc.), Informes de expertos	Revisión de documentos
	Capacitación del personal contraparte		Capacitación en Japón o tercer país	Plan de aportaciones (RD, etc.), Informes de expertos	Revisión de documentos
	Equipos y materiales		camioneta de finca/motocicleta/computador	Plan de aportaciones (RD, etc.), Informes de expertos	Revisión de documentos
	Costos del Proyecto		(No menciona en PDM ni RD)	Plan de aportaciones (RD, etc.), Informes de expertos	Revisión de documentos

Handwritten signature or initials.

Handwritten signature.

Criterio de Eva.	Preguntas de Evaluación		Bases de Juicio/ Datos necesarios	Fuente de Información	Métodos de recopilación de datos
	Preguntas	Preguntas secundarias			
Proceso de implementación del Proyecto	Implementación de las actividades	¿Se han progresado las actividades según el plan?	Tiempo de implementación, resultados, avances, influencias de algunos factores en las actividades	Informes de expertos, PO, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 expertos, CP, CDR	Revisión de documentos Entrevistas Cuestionarios
		¿Está funcionando adecuadamente el sistema de la gestión de proyecto?	Sistema de la gestión y el método de operación de las actividades	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 expertos, CP, CDR	Revisión de documentos Entrevistas Cuestionarios
	Estructura (sistema) de operación y gestión del Proyecto	¿Cómo se ha llevado a cabo la comunicación entre las partes involucradas?	Realización de las reuniones (CCC y otros) Manera y frecuencia de la comunicación	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 Alcaldía de PC, BICU-CIUMA, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Revisión de documentos Entrevistas Cuestionarios
		¿Ha sido suficiente la iniciativa del personal contraparte e instituciones ejecutoras del Proyecto?	Nivel de participación de CP, CDR Realización de aportaciones Avances de los temas pendientes para la parte nicaragüense	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 Alcaldía de PC, BICU-CIUMA, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Revisión de documentos Entrevistas
		¿Ha sido adecuado el monitoreo del Proyecto?	Frecuencia de las actividades de monitoreo Método de monitoreo Si los resultados de monitoreo están compartidos entre las personas interesadas	expertos, CP, CDR	Entrevistas
		¿Hay algún problema en el método de transferencia de tecnología?	Métodos de la transferencia de conocimiento Nivel de satisfacción y entendimiento de los participantes	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 expertos, CP, CDR, promotores	Revisión de documentos Entrevistas
	Colocación adecuada de personal	¿Ha sido adecuado los expertos japoneses colocados al Proyecto? ¿Ha sido suficiente la participación de los mismos?	Especialidad de los expertos, tiempo y volumen asignado, roles de cada expertos	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 expertos, CP, CDR	Revisión de documentos Entrevistas Cuestionarios
		¿Ha sido adecuado los miembros del personal CP del Proyecto? ¿Ha sido suficiente la participación de los mismos?	Profesión de CP, tipo de contrato, tiempo completo o parcial, nivel de participación	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 expertos, CP	Revisión de documentos Entrevistas Cuestionarios
		¿Ha sido suficiente la participación de los miembros de CDR?	Nivel de participación y voluntad en las actividades	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 expertos, CP, CDR	Revisión de documentos Entrevistas Cuestionarios
	Participación y reconocimiento de beneficiarios y otras partes interesadas	¿Están reconocidos los promotores, productores de las comunidades piloto, y otras organizaciones incorporadas sobre los conceptos y contenidos del Proyecto?	Actividades involucradas y manera de involucramiento	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 expertos, CP, CDR, promotores	Revisión de documentos Entrevistas Cuestionarios
	Otros asuntos surgidos en el proceso de implementación	Seguimientos de las recomendaciones de la evaluación final de Noviembre de 2011	Recomendaciones para el Proyecto (1) Preparación del "Programa de Extensión Agrícola Sostenible" y "Guías" que determinan los procesos específicos al trabajar con tema del desarrollo rural.	Informes de expertos, Informes de progresos Alcaldía de PC, BICU-CIUMA, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP	Revisión de documentos Entrevistas
			Recomendaciones para el Proyecto (2) Realización de un estudio de línea base socioeconómico en las comunidades beneficiarias y la sistematización del mismo.		
Recomendaciones para el Proyecto (3) Celebración de un seminario-taller, en el que se hacen públicos los resultados del Proyecto.					
Recomendaciones para la parte nicaragüense (1) Asignación de presupuesto de CDR					
Recomendaciones para la parte nicaragüense (2) Participación de las instituciones tales como MAGFOR y GRAAN en el CDR					
Recomendaciones para la parte nicaragüense (3) Fortalecer las actividades en el sector pecuario, la postcosecha, transporte y la mercadería, y el almacenamiento de semillas cosechadas					
Recomendaciones para la parte nicaragüense (4) Fomentar la colaboración con otros donantes					
Recomendaciones para la parte nicaragüense (5) Investigación en la experiencia adquirida, resultados y las deudas del Proyecto, así como el nivel de reconocimiento por parte de pobladores según territorio étnico o los enfoques a tomar del respecto, etc.					
Recomendaciones para ambas partes de Nicaragua y Japón (1) Prolongar el período del Proyecto por 1 año Recomendaciones para ambas partes de Nicaragua y Japón (2) Implementar las actividades según PDM ver.3					

Criterio de Eva.	Preguntas de Evaluación		Bases de Juicio/ Datos necesarios	Fuente de Información	Métodos de recopilación de datos	
	Preguntas	Preguntas secundarias				
		Revisión de PDM y indicadores	Contenidos y razones de las revisiones de PDM y indicadores durante el periodo del Proyecto	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, encargado de JICA	Entrevistas	
		¿Se ha surgido algunos problemas después de la Eva. Final de 2011 hasta el momento? ¿Cómo se ha hecho frente a los problemas?	Avances de las actividades, situaciones de los asuntos pendientes y sus contramedidas realizadas	Informes de expertos, Informes de progresos	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP	Revisión de documentos Entrevistas
Pertinencia	Necesidad	¿El proyecto es consistente con las necesidades de la sociedad de Nicaragua y grupos objetivos del Proyecto? ¿Hay algunos cambios en las necesidades confirmadas en el momento de la Eva. Final de 2011?	Necesidades de la sociedad de Nicaragua y los áreas objetos del Proyecto	Informe de Eva. Preliminar, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Revisión de documentos Entrevistas Cuestionarios
		¿El proyecto es consistente con la política de desarrollo de Nicaragua?	Política de gobierno nicaragüense Política y planes de la municipalidad de PC	Última versión de PNDH, Informe de Eva. Final de 2011	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Revisión de documentos Entrevistas
	Prioridad	¿El proyecto es consistente con la política de asistencia para el extranjero de Japón?	Política de asistencia para Nicaragua de Japón, el plan de la JICA para la implementación de programas por Nicaragua	Plan de asistencia de JICA	Oficina de JICA Nicaragua	Revisión de documentos Entrevistas
		¿El proyecto es adecuado como estrategia para producir un efecto con respecto a los temas de desarrollo del campo y sector objetivo de Nicaragua?	Si están adecuados el método del proyecto, conocimiento introducido, actores involucrados, etc.	Informe de Eva. Preliminar, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR, promotores	Revisión de documentos Entrevistas Cuestionarios
	Otros	¿La selección del grupo objetivo es adecuada y suficiente?	Maneros y criterios de selección de los grupos objetivos, actividades realizadas por los grupos objetivos y efectos generados	Informe de Eva. Preliminar, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP	Revisión de documentos Entrevistas
		¿Está definida claramente la colaboración y demarcación con la cooperación de otros proyectos/programas? ¿Qué efectos de sinergia hay?	Si está clara la colaboración y/o demarcación con otros proyectos/programas brindados por otros donantes, JICA, y gobierno nicaragüense, Colaboraciones realizadas y sus efectos de sinergia	Informe de Eva. Preliminar, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011, documentos de otros proyectos/programas relacionados de donantes/JICA/Alcaldía de PC	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Revisión de documentos Entrevistas
¿Se ha presentado algún cambio en el entorno del proyecto (política, sociedad, economía, etc.)?		Cambios organizacionales de las instituciones ejecutoras del Proyecto, cambios de situación del Proyecto, nuevos proyectos relacionados de otros donantes, situación de los cambios de política, economía, y social	Informe de Eva. Preliminar, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP	Revisión de documentos Entrevistas	
¿Es probable alcanzar el objetivo del Proyecto?		Resultados de los logros de indicadores del objetivos del Proyecto	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Revisión de documentos Entrevistas	
Efectividad	Pronóstico de Logros del Objetivo del proyecto	¿Existen algunos factores que impiden o promueven el logro de objetivo del Proyecto?	Problemas y/o oportunidades para lograr el objetivo del Proyecto	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Revisión de documentos Entrevistas
		¿El logro de Resultados Esperados es suficiente para alcanzar el objetivo del proyecto?	Factores necesarios (excluyendo los resultados esperados) para lograr el objetivo del Proyecto	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP	Entrevistas	
	Relaciones causales entre Resultados Esperados y Objetivo del Proyecto	En este momento, ¿las condiciones externas de los Resultados Esperados hacia el Objetivo del Proyecto siguen siendo correctas? ¿Es probable que los supuestos importantes se concreten?	Cambio en las políticas de la Alcaldía en cuanto a la extensión agrícola Cambio frecuente de extensionistas y productores del grupo modelo	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Revisión de documentos Entrevistas
		Si están correctas las condiciones todavía Si hay nuevas condiciones externas	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP	Entrevistas		

Pa

Criterio de Eva.	Preguntas de Evaluación		Bases de Juicio Datos necesarios	Fuente de Información	Métodos de recopilación de datos
	Preguntas	Preguntas secundarias			
Eficiencia	Nivel de logro de los Resultados Esperados	¿El nivel de logro de los Resultados Esperados es adecuado?	Resultados de los logros de indicadores de los resultados esperados	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P	Revisión de documentos Entrevistas
		¿Cuáles son los factores que impiden o promueven los logros de los Resultados Esperados?	Problemas y/o oportunidades para lograr los resultados esperados	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P	Revisión de documentos Entrevistas
	Relaciones causales entre Actividades y Resultados Esperados	¿Las actividades fueron suficientes para producir el producto?	Resultados de las actividades y sus logros	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011	Revisión de documentos
		¿Las condiciones externas de las Actividades a los Resultados Esperados son correctas en este momento? ¿Hay alguna influencia a partir de las condiciones externas?	Si la situación de la seguridad de los territorios beneficiarios del Proyecto está relativamente estable al grado de no afectar las actividades del mismo Si los grupos de productores acordaron participar en el Proyecto de manera organizada.	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P, CDR	Revisión de documentos Entrevistas
		¿Están correctas las condiciones todavía Si hay nuevas condiciones externas	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P	Entrevistas	
	Momento (oportuno o inoportuno), calidad y cantidad de las exportaciones	¿Se materializaron los insumos en cantidad y calidad adecuadas en el momento adecuado para conducir las actividades según lo planeado?	Resultados de las exportaciones, proceso de implementación, y las actividades realizadas	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011, PO Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P, encargado de JICA	Revisión de documentos Entrevistas Cuestionarios
¿Hay posibilidades de producir el objetivo superior como un efecto del proyecto?		Logros actuales y previstos del objetivo superior según los indicadores	Informe de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P	Revisión de documentos Entrevistas	
Impacto	Predicción del logro del Objetivo Superior	¿Es posible verificar el efecto en la evaluación ex-post con los indicadores definidos?	Posibilidad de obtener las informaciones necesarias para medir los logros según indicadores	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P	Entrevistas
		¿Cuáles son los factores que impiden o promuevan los logros del objetivo superior?	Problemas y/o oportunidades para lograr el objetivo superior	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P	Revisión de documentos Entrevistas
		¿El objetivo superior y el objetivo del Proyecto son consistentes?	Resultados del Proyecto y otras condiciones para lograr el objetivo superior	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P	Entrevistas
	Relaciones causales entre el Objetivo Superior y el Objetivo del Proyecto	¿Las condiciones externas del objetivo del proyecto hacia el objetivo superior también son correctas en este momento? ¿Existe una posibilidad alta que las condiciones externas sean verdad?	Si habrá caída repentina de precios. Si habrá alza de precios de los equipos y materiales a suministrar o incremento de gastos operativos. Si habrá epidemias de enfermedades contagiosas de cultivo y ganado. Si habrá desastres naturales de gran escala.	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P, CDR	Entrevistas
		¿Están correctas las condiciones todavía Si hay nuevas condiciones externas	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P	Entrevistas	
	Otras repercusiones	¿Existen diferentes influencias positivas y negativas del Proyecto?	¿Hay algunas influencias sobre el establecimiento de políticas y sobre la preparación de leyes, sistemas, normas y similares?	Informe de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P	Revisión de documentos Entrevistas
		¿Hay algunas influencias sobre los aspectos sociales y culturales tales como género, derechos humanos, ricos y pobres?	Informe de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P, CDR, productores	Revisión de documentos Entrevistas	
		¿Hay algunas influencias económicas sobre la sociedad objetivo y los beneficiarios?	Informe de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, C/P, CDR, productores	Revisión de documentos Entrevistas	

Pa

Criterio de Eva.	Preguntas de Evaluación		Bases de juicio/ Datos necesarios	Fuente de información	Métodos de recolección de datos
	Preguntas	Preguntas secundarias			
Sostenibilidad	Políticas y sistemas	¿La política de asistencia continuará aún cuando termine la cooperación?	Tendencia y prospecto de la política de Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, y otras organizaciones relacionadas	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Entrevistas
		¿Los reglamentos y sistemas legales pertinentes para la extensión de las actividades del Proyecto están preparados?	Situación actual de los reglamentos y sistemas legales relacionados	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Entrevistas
	Aspectos organizativos y financieros	¿Se tiene la capacidad organizativa suficiente para implementar actividades que produzcan efectos aún cuando termine la cooperación?	Asignación de recursos humanos y estructura de ejecución de Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, y CDR	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Entrevistas
		¿Las agencias de implementación tienen un sentido de conciencia de la iniciativa propia suficientemente asegurado?	Políticas y planes de Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA y CDR para la continuación de las actividades y los resultados del Proyecto	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Entrevistas
		¿El presupuesto (incluyendo los gastos de operación) está asegurado?	Plan de inversión, tendencia y prospecto de asignación de presupuesto	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR	Entrevistas
	Tecnología	¿Se están aceptando la técnica y conocimiento empleados en el proyecto?	Nivel de tecnología, factores sociales y convencionales, etc. Si están utilizadas las tecnologías.	Informes de expertos, Informes de progresos, Informe de Eva. Final de 2011 Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR, promotores	Revisión de documentos Entrevistas Cuestionarios
		¿Es probable que la agencia de implementación pueda mantener el nivel de tecnología y el mecanismo para su difusión?	Mecanismo para la capacitación Si están formados los capacitadores.	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP	Entrevistas
			Si está considerado el método de difusión de la técnica y conocimiento	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP	Entrevistas
	Sociedad, cultura y medio ambiente	¿Hay alguna posibilidad de inhibir un efecto sostenido por la falta de consideración hacia las mujeres, los pobres y los socialmente vulnerables, y el medio ambiente?	Si existe algunos problemas sociales generados por las actividades introducidas del Proyecto	Alcaldía de PC, BICU-CIUM, URACCAN, PANA PANA, expertos, CP, CDR, promotores	Entrevistas

Pa

Anexo 5: Aportaciones realizadas por la parte japonesa

1. Envío de expertos

(1) Expertos de largo plazo

No.	Nombre	Cargo	El tiempo de Trabajo	
1	Yuichi Endo	Coordinador / Capacitación	27/02/2008	- 26/02/2010
2	Sadao Takahashi	Jefe Asesor / Extensión Agrícola / Manejo de Finca	27/02/2008	- 03/01/2009
			23/02/2009	- 14/02/2010
		Jefe Asesor / Extensión Agrícola / Manejo de Finca / Capacitación	13/03/2010	- 11/12/2010
			15/02/2011	- 24/02/2012
31/03/2012	-			
3	Masayuki Fukuoka	Coordinador	11/02/2010	- 16/12/2010
			09/02/2011	- 24/02/2012
			22/03/2012	-

(2) Expertos de corto plazo

No.	Nombre	Cargo	El tiempo de Trabajo	
1	Hiroshi Kidono	Coordinación de la política de desarrollo agrícola para la reactivación local / Coordinación con donantes	15/11/2011	- 16/12/2011
			10/01/2012	- 14/02/2012
			16/05/2012	- 02/06/2012
2	Nobuaki Hanawa	Desarrollo participativo / Fortalecimiento organizacional	28/06/2012	- 14/07/2012
			10/09/2012	- 30/09/2012
3	Miho Ota	Mejoramiento de Vida / Fortalecimiento Organizacional	09/08/2012	- 18/08/2012

2. Capacitación en Japón

No	Nombre del becarios	Institución	Cargo		Tema	Tema e institución encargada de la capacitación	Periodo
			Al momento de Capacitación	Actual			
1	Wilford Davis German	BICU-CIUM	Profesor de Agro- Forestal	Profesor de Agro- Forestal	Desarrollo Rural	Fortalecimiento de las Redes para el Desarrollo Rural Participativo para la Región América Central y el Caribe (JICA Tsukuba)	12/01/2009 - 18/03/2009
2	Alexa Torrez Thomas	URACCAN	Profesor de Agro- Forestal	Profesor de Agro- Forestal	Desarrollo Rural	Fortalecimiento de las Liderazgo Femenino Mediante el mejoramiento de Vida Rural (JICA Tokyo)	18/01/2009 - 31/01/2009
3	Hemsly Francis	Alcaldía	Funcionario de la Dirección de Recursos Naturales y Medio Ambiente	Funcionario de la Dirección de Recursos Naturales y Medio Ambiente	Desarrollo Rural	Fortalecimiento de las Redes para el Desarrollo Rural Participativo para la Región América Central y el Caribe (JICA Tsukuba)	09/10/2010 - 10/12/2010
4	Elga Torres	Alcaldía	Funcionario de la Dirección de Recursos Naturales y Medio Ambiente	Funcionario de la Dirección de Recursos Naturales y Medio Ambiente	Desarrollo Rural	Endogenous Regional Economic Development Utilizing Local Resources para la Region America Central y el Caribe (JICA Chubu)	03/01/2011 - 10/02/2011
5	Lucila Low	Pana Pana	Director	Director	Desarrollo Rural	Rural Development Through	10/01/2011 -

Ya

[Handwritten signature]

	Branco		Ejecutiva, Pana Pana	Ejecutiva, Pana Pana	Rural	Livelihood Improvement (by KAIZEN) for Central and South America (JICA Tsukuba)	25/01/2011
6	Limborth Bucardo G	Pana Pana	Departamento de Proyecto	Departamento de Proyecto	Desarrollo Rural	Extension Methodologies of Organic Agriculture Techniques for Small Scale Farmers (JICA Tsukuba)	24/05/2011 - 27/09/2011
7	Nitza Dixon	Alcaldía	Directora de Recursos Naturales y Medio Ambiente	Directora de Recursos Naturales y Medio Ambiente	Desarrollo Rural	Fortalecimiento de las Redes para el Desarrollo Rural Participativo para la Región América Central y el Caribe (JICA Tsukuba)	23/09/2011 - 25/10/2011
8	Kena Fenly	GRAAN	Funcionario de la Dirección de Producción	Funcionario de la Dirección de Producción	Desarrollo Rural	Endogenous Regional Economic Development Utilizing Local Resources para la Region America Central y el Caribe (JICA Chubu)	04/01/2012 - 24/01/2012
9	Mojareth Alvares	MAGFOR	Extensionista Técnico	Extensionista Técnico	Desarrollo Rural	Extension Methodologies of Organic Agriculture Techniques for Small Scale Farmers (Koibuchi)	05/02/2012 - 26/02/2012
10	Zamer Danilo Mairena Bermudez	BICU- CIUM	Profesor de Agro-Forestal	Profesor de Agro-Forestal	Desarrollo Rural	Extension Methodologies of Organic Agriculture Techniques for Small Scale Farmers (JICA Tsukuba)	07/06/2012 - 14/09/2012
11	Carmen María Rayo Orozco	Pana Pana	Departamento de Proyecto	Departamento de Proyecto	Desarrollo Rural	Mejoramiento de Vida en el programa de desarrollo rural Para la Región América Central y El Caribe	14/10/2012 - 26/11/2012

3. Aportación de los equipos

Año	No.	Detalle de equipos	Precio en US\$	Cantidad	Total	Uso	Mantenimiento	Derecho
2008	1	Vehículo, TOYOTA, HILUX, Doble Cabina, Modelo 2009	26,646.00	1	26,646.00	A	A	JICA
2008	2	Motorcycle, YAMAHA, AG 200	3,565.21	2	7,130.42	A	A	CDR
2008	3	Personnel computer; Lap-top, Acer Aspire 4720Z	1,127.00	2	2,254.00	A	A	CDR
2008	4	Foto Copiador, ZEROX, WorkCenter 4150	4,500.00	1	4,500.00	A	A	CDR
2009	5	Mini Bus, TOYOTA, HIACE, Motor 3000c.c., 89HP, Model 2010	23,950.00	1	23,950.00	B	A	CDR
2009	6	Motorcycle, HONDA, CTX200	2,700.00	2	5,400.00	A	A	CDR
2009	7	Personnel computer; Lap-top, DELL, Vostro 1520	840.00	1	840.00	A	A	CDR
2009	8	Personnel computer; Lap-top, DELL, Vostro 1520	840.00	1	840.00	A	A	JICA
2009	9	Sistema de Radio Comunicación	36,599.37	1	36,599.37	C	A	CDR
2012	10	Motorcycle, Honda, XL 200	3,850.00	4	15,400.00	A	A	CDR
				Total	123,559.79			

<Frecuencia del uso> A: todos los días, B: semanal, C: de vez en cuando

<Estado de mantenimiento> A: buena, B: se requiere reparación, C: averiado

Pa

[Handwritten signature]

4. Gastos Locales

Periodo	Costos en Córdoba	Costos en US\$	Total* (US\$)
Febrero de 2008 – Marzo de 2008	0.00	0.00	0.00
Abril de 2008 – Marzo de 2009	566,213.40	70,325.18	98,635.85
Abril de 2009 – Marzo de 2010	1,593,796.29	59,574.25	137,320.41
Abril de 2010 – Marzo de 2011	1,658,435.70	35,769.56	112,906.10
Abril de 2011 – Marzo de 2012	1,708,517.15	65,686.99	141,960.08
Abril de 2012 – 20 de Agosto de 2012	264,764.50	12,315.41	23,630.13
TOTAL	5,791,727.04	243,671.39	514,452.57

* Montos convertidos en dólares estados unidos con tipo de cambio promedio de cada año.

Anexo 6: Aportaciones realizadas por la parte nicaragüense

1. Asignación de personal contraparte

(1) Personal Contraparte

Instituto		Cargo	Nombre	Periodo
Alcaldía de Puerto Cabezas	Departamento de Naturaleza y Medio Ambiente	Contraparte Técnico	Hemsly Francia W.	27/02/2008 –
		Contraparte Técnico	Elga Thomas Bency	19/01/2010 –
		Contraparte Técnico	Wilfred Jhonson	27/02/2008 – 31/08/2008
BICU	Facultad de Agroforestal	Docente	Wilfod Devis	27/02/2008 –
		Docente	Zamir Mairena Bermudez	21/06/2011 –
URACCAN	Facultad de Agroforestal	Docente	Alexa Torres Thomas	01/05/2008 –
Pana Pana	Dept. de Proyecto	Contraparte Técnico	Limborth Bucardo G.	21/06/2011 –
	Dept. de Credito	Contraparte Técnico	Samuel Saballos	27/02/2008 – 30/06/2009
MAGFOR	Puerto Cabezas	Contraparte Técnico	Mojareth Alvares	07/05/2012 –

(2) Miembro de CDR

Instituto	Cargo	Nombre	Periodo
Alcaldía de Puerto Cabezas	Alcaldesa	Nancy Elizabeth Henrique	27/02/2008 – 29/01/2009
	★ Alcalde	Guillermo Espinoza	29/01/2009 –
	Director de Recursos Naturales y Medio Ambiente	Amílcar Padilla Morales	29/01/2009 – 29/01/2011
	★ Directora de Recursos Naturales y Medio Ambiente	Nitza Dixon	29/01/2011 –
	★ Director de Planificación y Desarrollo Local	Ariel Chacon	27/02/2008 – 29/01/2009
	Director de Planificación y Desarrollo Local	Elvis Hernández	29/01/2009 –
	Director de Cooperación Externa	Ivonne Waters	29/01/2009 – 31/03/2012
	Director de Cooperación Externa	Charlotte Cruz Bush	01/04/2012 –
BICU-CIUM	Vise Rector	Reynaldo Figueroa	27/02/2008 –
	Decano de Facultad de Agroforestería	Diógenes Solózano	27/02/2008 –
	Decano de Turismo	Milton Sorano	27/02/2008 –
URACCAN	Vise Rector	Albert Stclair	27/02/2008 – 09/07/2012
	Vise Rector	Yuri Zapata Webb	10/07/2012 –
	Coordinador de Agroforestería	Enrique Córdón A.	27/02/2008 –
Pana Pana	Gerente General	Samuel Mercado Sanders	
	Presidenta	Lucila Law Branco	27/02/2008 –

★: Director del Proyecto ★★: Gerente del Proyecto

Pa

AA

2. Financiamiento de los gastos corrientes necesarios para la implementación del Proyecto

Institución	Periodo	Total en Córdoba	Costo de personal (\$ de EE. UU.)		Costo de oficina y/o finca demostrativa (\$ de EE UU)	Costo de actividades (\$ de EE UU)	Costo total en \$ de EE UU
			No. de persona				
Alcaldía de Puerto Cabezas	Febrero de 2008 - Diciembre de 2008		1.5	3,700.00			3,700.00
	Enero de 2009 - Diciembre de 2009		1.0	2,563.12			2,563.12
	Enero de 2010 - Diciembre de 2010	6,400.00	2.0	5,600.00			5,897.67
	Enero de 2011 - Diciembre de 2011	2,900.00	2.0	5,600.00			5,729.46
	Enero de 2012 - Agosto de 2012	600.00	2.0	3,266.00			3,291.64
	Total	9,900.00		20,729.12	0.00	0.00	21,181.90
	BICU-CUMA	Febrero de 2008 - Diciembre de 2008		1.0	6,000.00	2,349.36	
Enero de 2009 - Diciembre de 2009			1.0	6,000.00	11,212.83		17,212.83
Enero de 2010 - Diciembre de 2010			1.0	6,000.00	11,200.00		17,200.00
Enero de 2011 - Diciembre de 2011		2,900.00	2.0	9,000.00	11,200.00		20,329.46
Enero de 2012 - Agosto de 2012		600.00	1.0	3,500.00	65,333.00		68,858.64
Total		3,500.00		30,500.00	101,295.19	0.00	131,950.30
URACCAN		Febrero de 2008 - Diciembre de 2008		1.0	1,800.00		
	Enero de 2009 - Diciembre de 2009		1.0	2,160.00			2,160.00
	Enero de 2010 - Diciembre de 2010		1.0	2,640.00			2,640.00
	Enero de 2011 - Diciembre de 2011	2,900.00	1.0	2,640.00			2,769.46
	Enero de 2012 - Agosto de 2012	600.00	1.0	1,540.00	0.00		1,565.64
	Total	3,500.00		10,780.00	0.00	0.00	10,935.11
	Pana Pana	Febrero de 2008 - Diciembre de 2008		0.5	500.00		
Enero de 2009 - Diciembre de 2009			0.5	500.00			500.00
Enero de 2010 - Diciembre de 2010			0.0	0.00			0.00
Enero de 2011 - Diciembre de 2011		2,900.00	1.0	2,844.00			2,973.46
Enero de 2012 - Agosto de 2012		627.00	1.0	3,850.00	0.00		3,876.79
Total		3,527.00		7,694.00	0.00	0.00	7,850.26
Total			20,427.00		69,703.12	101,295.19	

Pa

PA

Anexo 7: Seminarios y capacitaciones realizados

1. Capacitaciones para los extensionistas

(1) Detalles de capacitaciones

MODULO	CONTENIDOS	FECHAS	PARTICIPANTES	EXPOSITORES
I. Introducción al Desarrollo Rural	Metodología de motivación y Organización	15/11/2008	18	Ing. Karla Nicaragua (Experta de INTA)
	KAIZEN	28/11/2008	20	Ing. Jossué Brenes (Asesor del Proyecto)
	Manejo del ciclo del proyecto -PCM	21/11/2008 y 22/11	18	Ing. Jossué Brenes (Asesor del Proyecto)
	-PDM	05/12/2008 y 06/12	18	
	Diagnóstico Rural Participativo	29/11/2008	23	Ing. Margarita Munguía (Asesora del Proyecto)
II. Agricultura Orgánica	Generalidades de la agricultura orgánica	08/05/2009 y 09/05	37	Téc. Limborth Bucardo (Asesor del Proyecto)
		15/05/2009 y 16/05	26	
	Abono orgánico	12/06/2009 y 13/06	21	Tec. Limborth Bucardo (Consultor del Proyecto)
		07/08/2009 y 08/08	26	
	Biodigestor	y 18/07	25	Ing. Jossué Brenes (Consultor del Proyecto)
III. Cultivos Tropicales	Cultivo de plátano	16/09/2009	13	Ing. Sandra Segura (Prof. de la BICU)
	Frutas tropicales	28/08/2009 y 29/08	20	Ing. Jossué Brenes (Asesor del Proyecto)
IV. Granos básicos	El Cultivo de Frijol	12/12/2009 y 13/12	21	Ing. Noel Eduarte y Ing. Julio Molina (Experta de INTA)
V. Curso en Consta Rica	Universidad EARTH	9/02/2010 – 09/03/2010	12	
VI. Técnicas Agrícolas	Nuevas técnicas	30/11/2010	20	Ing. Misao y Ing. Okabayashi (Expertos de JICA)
	Básicos de Meliponicultura	17/12/2010 y 18/12	25	Ing. José Martí
	Situación de cría de abejas sin aguijón	16/04/2011	13	Ing. José Martí
VII. Fortalecimiento Organizativo	Motivación y sinergia	20/10/2010 y 21/10	25	Ing. Nohara (Experto de JICA)
	Certificación de extensionistas	12/05/2011	28	Ing. Nohara (Experto de JICA)
	Ejemplos de México	10/08/2011		Ing. Santiago (de México)
VIII. Mejoramiento de Vida	Reporte de la investigación del campo	20/02/2012 y 21/02	25	Dra. Miho Ota (Experta de JICA)
	Metodología de evaluación (en Bilwi)	15/08/2012	28	Dra. Miho Ota (Experta de JICA)
	Taller sobre mejoramiento de vida en Nicaragua (en Managua)	16/08/2012 y 17/08		Dra. Miho Ota (Experta de JICA)

Pa

Pa

(2) Numero de Participantes

	Puerto Cabezas		Fuera de Puerto Cabezas		Participación completa	Total de participantes
	Participación completa	Total de participantes	Participación completa	Total de participantes		
GOBIERNO	8	14	0	0	8	14
(1) MAGFOR	6	7			6	7
(2) INAFOR	2	2			2	2
(3) MARENA	0	2			0	2
(4) Gobierno Regional	0	2			0	2
(5) CMG-BSF	0	1			0	1
ALCALDIA	1	4	0	0	1	4
ACADEMICO	8	11	1	0	9	11
(6) BICU-CIUM	2	4	1		3	4
(7) URACCAN	6	7			6	7
ONG	6	9	1	1	7	10
(8) AIKUKIWAL	1	1			1	1
(9) ADSIM	0	0	1		1	0
(10) PANA PANA	5	5			5	5
(11) PLAN - NIC.	0	1			0	1
(12) A.M.C.	0	1			0	1
(13) Cruz Roja	0	0		1	0	1
(14) MI FAMILIA	0	1			0	1
OTROS	0	1	0	0	0	1
(15) FAO	0	1			0	1
TOTAL	23	39	2	1	25	40

2. Capacitaciones para los promotores (Primer grupo)

(1) Contenidos de la capacitación

MODULO	CONTENIDOS	FECHAS	EXPOSITOR
I. Introducción al desarrollo rural	Metodología de motivación y Organización y Promotoria comunal	2009/7/14 y 15	Ing. Margarita Munguía
		2009/8/18 y 19	Asesor del Proyecto
	KAIZEN	2009/8/25 y 26 2009/8/8 y 9	Ing. Jossué Brenes (Asesor del Proyecto)
II. Agricultura orgánica	Generalidades de la agricultura orgánica	2009/9/29 y 30	Téc. Limborth Bucardo (Asesor del Proyecto)
		2009/10/13 y 14	
	Abonos orgánicos	2009/10/27 y 28 2009/11/25 y 26	Tec. Limborth Bucardo
III. Cultivos tropicales	Nutrición y Economía Familiar	2009/12/2 y 3	Lic. Marilú Coleman Experta Médicos del Mundo
		2009/12/15 y 16	Ing. Jossué Brenes Limborth Bucardo
IV. Mejoramiento de Vida	Fogones mejorados	Febrero 2009	Téc. Kettlin Reyes (La Cruz Roja)
V. Otras actividades		2010/02/ a 16	Nueva Guinea, El Recreo
VI. Asamblea General		2010/02/ a 16	

(2) Numero de participantes

Territorio	Comunidad	Numero de Participante
Tasba Pri	Sumbila	4
	Nazaret	4
	Truhlaya	4
Llano Sur	Lapan	5
	Sukatpin	5
	Kligna	6
Llano Norte	Tuapi	5
	Kuakuil	6
Otro		1
Total		40

3. Capacitaciones para los promotores (Segundo grupo)

(1) Contenidos de la capacitación

MODULO	CONTENIDOS	FECHAS	EXPOSITOR
I. Introducción al desarrollo rural	Actividades de Promotores	Personal C/P realizó cada tema durante todo periodo de la capacitación	Hemsly
	Liderazgo Comunitario		Hemsly, Wilford
	Genero		Elga , Alexa
	Mejoramiento de Vida		Hemsly, Wilford
	Mejora de la nutrición		Elga , Alexa
	Mapa Futuro		Zamir
II. Agricultura orgánica	Elementos de la Agricultura Orgánica		Limborth
	Abono orgánico		Limborth
	La Vida en el Suelo		Wilford
	Los Sistema Agroforestales		Zamir
III. Cultivos tropicales	Riego		
	Cultivo de arrozal		
IV. Mejoramiento de Vida	Meliponicultura	11/2011, 04/2012	José Martí R
	Aprendizaje de Campo	12/2011	Mauricio
V. Otras actividades	Practica de agricultura	23/07/2010 a 30	INTA Cebaco
	Intercambio	24/03/2011	(Trusraya)
		27/11/2011	(Betania)
VI. Asamblea General	Asamblea General	09/02/2009	(Iltara)
		10/02/2009	(Naranjar)

(2) Numero de participantes

Territorio	Comunidad	Numero de Participante
Tasba Pri	Kuakuil II	6
	Enpalme Colunbo	5
	San pablo	5
	Naranjal	4
	San Miguel	2
Llano Sur /norte	KM 51	8
	Betania	4
	KM 43	6
	Mani Watla	5
Bloque SIPBAA	Sangnilaya	5

Pa

	Auhya Tara	5
	Auhya Pihni	7
	Iltara	3
	Panua	4
	Butku	5
Total		74

4. Capacitaciones para los promotores (Tercer grupo)

MODULO	CONTENIDOS	FECHAS	EXPOSITOR
I. Introducción al desarrollo rural	Actividades de Promotores		
	Liderazgo Comunitario		
	Genero	11/08/12	Elga
	Mejoramiento de Vida	11/08/12	Hemsly
	Mejora de la nutrición		
	Mapa Futuro		
II. Agricultura orgánica	Elementos de la Agricultura Orgánica		
	Abono orgánico		
	La Vida en el Suelo		
	Los Sistema Agroforestales		
III. Cultivos tropicales	Riego		
	Cultivo de arrozal		
IV. Mejoramiento de Vida	Meliponicultura		
	Aprendizaje de Campo		
V. Otras actividades	Practica de agricultura		
	Intercambio		
VI. Asamblea General	Asamblea General		

5. Seminarios

Fecha	Numero de participantes	Lugar	Contenido	Expositores
10/11/2011	50	Sala de reunión de GRAAN	Actividades de CDR	3 promotores, personal C/P, miembros de CDR
27/01/2012 - 28	38	Sala de reunión de GRAAN	Actividades de CDR, meliponicultura, actividades de FAO en RAAN, actividades de SDCC en RAAN, visita al campo	4 promotores, José Martí, Encargado de FAO, Encargado de SDCC
	18			
15/08/2012	35	Sala de reunión de Alcaldía	Actividades del mejoramiento de vida y metodología de evaluación	Experta Ota, Encargado de MINSA

Pa

Anexo 8: Lista de los materiales didácticos elaborados

TITULO	CONCEPTO	FORMA
Año 2008		
Informe de diagnostico participativo comunidad de Sisin	Creación de una línea base del proyecto	Documento
Informe de diagnostico participativo comunidad de Kuakuil	Creación de una línea base del proyecto	Documento
Informe de diagnostico participativo comunidad de Lapan	Creación de una línea base del proyecto	Documento
Informe de diagnostico participativo comunidad de Sukatpín	Creación de una línea base del proyecto	Documento
Informe de diagnostico participativo comunidad de Sahsa	Creación de una línea base del proyecto	Documento
Informe de diagnostico participativo comunidad de Sagnilaya	Creación de una línea base del proyecto	Documento
Informe de diagnostico participativo comunidad de Sumubila	Creación de una línea base del proyecto	Documento
Informe de diagnostico participativo comunidad de Nazareth	Creación de una línea base del proyecto	Documento
Programa de capacitación a Extensionistas	Currículo de capacitación para formación de extensionistas.	Documento
Calendarización del programa de capacitación para productor	Propuesta para su revisión por equipo técnico y comité de Desarrollo Rural	Cuadro
Informe del avance de componente de capacitación octubre 2008	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Informe del avance de componente de capacitación Noviembre 2008	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Listado de los planes de estudio y materiales didácticos	Plan programático/herramientas de Seguimiento plan de capacitación	Cuadro
Programa de capacitación a Extensionistas	Currículo de capacitación	Documento
Calendarización del programa de capacitación para productor	Propuesta para su revisión por equipo técnico y comité de Desarrollo Rural	Cuadro
Introducción al Desarrollo Rural (Promotoría comunal)	Capacitación a promotores rurales	Documento
Año 2009		
Plan de capacitación-Agricultura Orgánica	Plan programático / herramientas de Seguimiento	Cuadro
Texto de Motivación y Organización	Capacitación a promotores rurales	Texto
Lista final de promotores a ser capacitado por el proyecto	Proceso de Formación de recursos humanos	Cuadro
Informe del avance de componente de capacitación diciembre 2008 -Enero 2009	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Lista final de extensionistas a ser capacitados	Proceso de Formación de recursos humanos locales	Cuadro
Informe del avance de componente de capacitación Febrero 2009	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Valoración de propuestas de implementación de mejoramiento de vida	Presentado al Comité de Desarrollo Rural	Presentación
Informe del avance de componente de Mejoramiento de vida Febrero 2009	Seguimiento componente Mejoramiento de Vida	Documento
Agricultura Orgánica (Generalidades)	Manual para extensionistas y promotor	Folleto
Informe del avance de componente de capacitación Marzo 2009	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Identificación y Clasificación de suelo	Manual para extensionistas y promotor	Folleto
Informe de avance de componente de Mejoramiento de vida Marzo del 2009	Seguimiento componente Mejoramiento de Vida	Documento
Abonos Orgánicos (Compost - bocashi)	Manual para extensionistas y promotor	Presentación
Informe del avance de componente de capacitación de Abril - Mayo 2009	Seguimiento al plan de capacitación	Documento
Informe de avance de componente de Mejoramiento de vida Abril del 2009	Seguimiento al plan de capacitación de vida	Documento
Informe de avance de actividades de Finca Experimental abril - del 2009	Seguimiento de capacitación	Documento
Transgénicos un peligro para la vida	Manual para extensionistas y promotor	Presentación
Informe del avance de componente de capacitación Junio 2009	Seguimiento plan de capacitación	Documento

Pa

Informe del avance de componente de Mejoramiento de vida Mayo 2009	Seguimiento componente Mejoramiento de Vida	Documento
Informe de avance de actividades de finca experimental. Mayo del 2009	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Cultivos Tropicales	Manual para extensionistas y promotor	Presentación
Introducción a la nutrición y economía familiar	Manual para extensionistas y promotor	Presentación
Kubus Raya Paskaia Smalkanka (Fogones ecológicos) (Español y Miskito)	Manual para extensionistas y promotor	Folleto
Informe de componente de capacitación Julio 2009	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Informe del avance de actividades de Finca Experimental Junio del 2009	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Manual de capacitación para extensionistas en mejoramiento de vida	Manual para extensionistas	Documento
Informe del avance del componente de Mejoramiento de vida Junio del 2009	Seguimiento componente Mejoramiento de vida	Documento
Biodiversidad (Generalidades y sistemas constructivo)	Manual para extensionistas	Documento
Informe del avance de componente de capacitación Agosto 2009	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Informe de avance de componente de Mejoramiento de vida Julio de 2009	Seguimiento componente Mejoramiento de vida	Documento
Informe de avance de actividades de finca experimental Julio del 2009	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Informe de avance de componente de capacitación Septiembre 2009	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Informe de avance de actividades de finca experimental. Agosto 2009	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Diagnostico Rural Participativo	Manual para Extensionistas	Documento
Informe de avance de componente de Mejoramiento de vida Agosto 2009	Seguimiento componente Mejoramiento de vida	Documento
Informe de avance del proyecto (Mayo del 2009)	Presentado al comité de Desarrollo Rural	Presentación
Avance de actividades en el componente de capacitación	Presentado al comité de Desarrollo Rural	Presentación
Informe del cumplimiento de las actividades realizadas en el componente de Mejoramiento de Vida. Septiembre - Diciembre del 2009	Seguimiento componente Mejoramiento de vida	Documento
Plan Operativo de la finca experimental de BICU-CIUM	Presentado al comité de Desarrollo Rural	Presentación
Plan de capacitación en establecimiento y manejo de Frutas Tropicales	presentación para capacitar Extensionistas	Presentación
Propuesta de actividad para el proyecto	Para valoración por equipo técnico	Presentación
Propuesta de ejecución de actividades de mejoramiento de vida	Presentado al comité de Desarrollo Rural	Documento
Cronograma de actividades para el componente de mejoramiento de vida	Presentado al comité de Desarrollo Rural	Cuadro
Estrategia de implementación de los componentes del Proyecto (Borrador)	Para ser revisado por el Comité de Desarrollo rural	Presentación
Diversidad genética presente en el frijol y su importancia	Presentación para capacitar a Extensionistas	Presentación
Mejoramiento genético del cultivo de frijol	Presentación para capacitar a Extensionistas	Presentación
Etapas fenología del cultivo de frijol	Presentación para capacitar a extensionistas	Presentación
Generalidades del cultivo de frijol y su importancia económica	Presentación para capacitar a extensionistas	Presentación
Producción de semilla de frijol	Presentación para capacitar a Extensionistas	Presentación
Perfil de Proyecto Piloto (borrador)	para ser revisado por grupo multidisciplinario	Documento
Año 2010		
Planificación de la economía agrícola familiar	Folleto de capacitación para promotores	Presentación
Liderazgo	folletos de capacitación a promotores	Presentación
Canción de Promotores	Relaciones Publicas	CD
Informe de avance finca experimental Septiembre -Diciembre del 2009	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Informe del avance de componerte de Mejoramiento de vida Enero del 2010	Seguimiento componente Mejoramiento de vida	Documento
Folleto de Proyecto TAWAN INGNKA	Relaciones Publicas	Folleto
Monitoreo de la Vida de todos los Promotores	Seguimiento plan de capacitación	Cuadro

ya

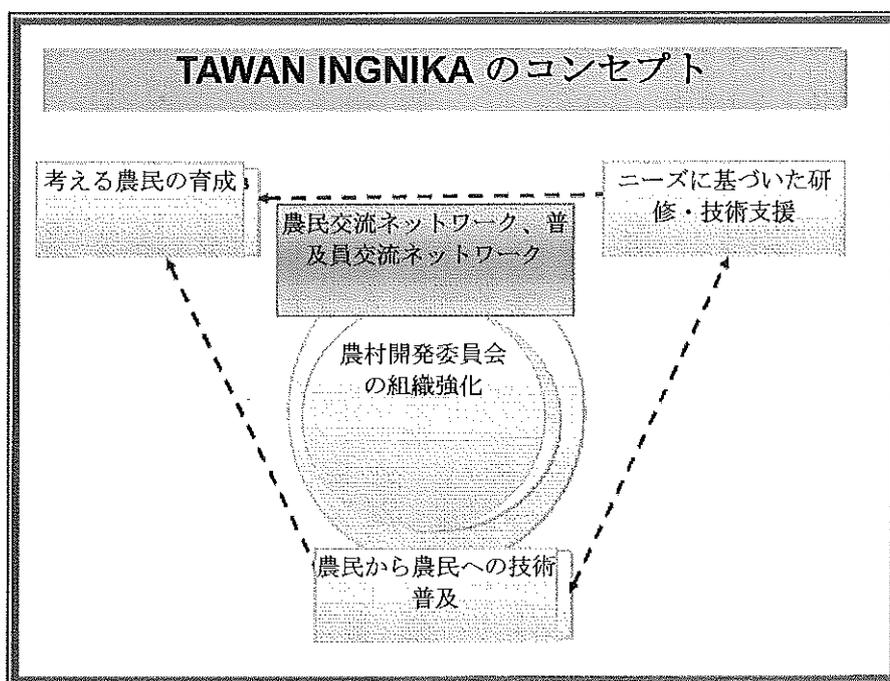
Información de Taller de Alianza en San Ignacio	Manual para extensionistas y promotor	Documento
Información de los costos de mantenimiento de los equipos por año	para ser revisado por grupo multidisciplinario	Presentación
INFORME NÚMERO UNO DE CONSULTORIA CRIA DE ABAJAS NATIVAS-MELIPONICULTURA	Manual para extensionistas y promotor	Documento
INFORME NÚMERO UNO DE CONSULTORIA CRIA DE ABAJAS NATIVAS-MELIPONICULTURA	Manual para extensionistas y promotor	Documento
Calendario de Agricultura	Seguimiento plan de capacitación	Calendario
Panificador de Agricultura	Seguimiento plan de capacitación	Planificador
Año 2011		
Monitoreo de todos los Promotores	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Información de los costos de mantenimiento de los equipos por año	Manual para extensionistas y promotor	Documento
Monitoreo a los Promotores de Meliponicultura (Abril a Junio)	Seguimiento plan de capacitación	Documento
El cultivo de Pitaya	Manual para extensionistas y promotor	Folleto
Plan Operativo de la finca experimental de BICU-CIUM 2012 a 2020	Presentado al comité de Desarrollo Rural	Documento
Monitoreo a los Promotores de tres territorios (Mayo a Junio)	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Bomba Ariete	Congreso	Presentación
Calendario 2012	Seguimiento plan de capacitación	Calendario
Guía Practica de Mejoramiento de Vida	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Liderazgo Comunitario con Enfoque de Mejoramiento de Vida	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Los Sistema Agroforestales	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Mejora de la nutrición con verduras	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Meliponicultura (Básico)	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Promotora Comunitaria	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Genero	Manual para extensionistas y promotor	Manual
La Vida en el Suelo	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Elementos de la Agricultura Orgánica	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Mi Escuelita de Campo	Manual para extensionistas y promotor	Manual
DVD de Proyecto	Relaciones Publicas	DVD
10 Manuales digitalizados	Manual para extensionistas y promotor	CD
Foro de Mejoramiento de Vida(Primero)	Foro	Presentación
Foro de Mejoramiento de Vida(Segundo)	Foro y Visita de Campo	Presentación
Año 2012		
Investigación y Análisis de los Promotores	Seguimiento plan de capacitación	Documento
Publicidad por radio local	Curso para Técnicos Locales	Presentación
Actividades de Promotores	Curso para Técnicos Locales	Presentación
Metodología de Evaluación del Mejoramiento de Vida		Presentación
Foro de Mejoramiento de Vida (Tercero)	Foro y Visita de Campo	Presentación
Taller de Mejoramiento de Vida (en Managua)		Presentación
Manual de Extensión Técnica (está en el proceso de finalización)	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Meliponicultura (Introducción) (está en el proceso de finalización)	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Bomba Ariete (está en el proceso de finalización)	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Conservación de Semilla (está en el proceso de finalización)	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Actividades de Promotores (está en el proceso de finalización)	Manual para extensionistas y promotor	Manual
Calendario 2013 (está en el proceso de finalización)	Seguimiento plan de capacitación	Calendario

Pa



第2章

ECA TAWAN INGNIKA¹【民衆の光 農村学校】 のコンセプトとモデル



¹ TAWAN INGNIKA はミスキート語で「民衆の光（農村の光）」の意

1. ECA² Tawan Ingnika の基本コンセプト

1-1. ECA Tawan Ingnika の基本コンセプト

TAWAN INGNIKA(タワン・イングニカ=民衆の光)モデルの基本的なコンセプト(概念)は、「人的資源の育成」であり、そのコンセプトは **Tawan Ingnika** 農村学校 (**ECA**) における活動に代表される。

この農村における学校、参加型の農業普及システムでは、新たな生産の可能性(新しい栽培方法、新規作目の導入など)を実際の経験を通して得られた知識を基に、農民たち自身で、栽培技術や生活改善に関する技術の選択を行うこととなる。また農民たちがグループとして、定期的に集まりグループ活動を行い、これら新しい技術の導入の実験・経験を通し、その技術をお互いに評価する場となる。

また、農業生産や生活改善に関する基本的な能力を身に付け、農民の持っている可能性や能力を互いに強化し、各分野のエキスパートとなることを支援する「壁のない学校」と考えられる。食糧安全保証に向けて多様な作付を行うことにより、外的脅威に対する脆弱性を緩和し(危険分散)、農村部および都市の住民の健康および教育環境を改善し、さらに生産の多様化と安定した天然資源を持続的に活用することで、コミュニティの開発に寄与し、最終的には収入を上げることを目標に掲げている。

ECA(農村学校)のコンセプトの最も重要なポイントは、農民自身が「自分たちの生産の場」が学校のような学びの場としての役割を担っている事を理解することである。

ECA は、技術を共有する普及員も、援助を受ける農民も、従来型のトップダウンによる普及方法ではなく、平行して互いに学び合うことができる、「協働・共生」の場としての役割を持つ。

1-2. コンセプトを支える3つのポイント

² Escuela de Campo、農村学校

ECA Tawan Ingnika のコンセプトを支える 3 ポイントを、以下のダイアグラムに示す。

- 考える農民の育成

新たな技術（農業生産技術、生活改善技術）を農村部へ導入する場合、それぞれの村落、それぞれの地域により環境・社会条件が異なることは想定されることであり、加えて予想外の問題が発生することも多々ある。従って、それぞれの状況に対し柔軟に対応を講じることの出来る農民自身の能力開発が不可欠となる。この柔軟な対応力を具えた農民を「考える農民」と定義し、「考える農民」を普及員による研修、巡回指導、組織強化支援などを通じて育成することはプロジェクトを実施していく上で非常に重要なポイントとなる。プロジェクトの育成する普及員の役割はこのような「考える農民」の育成にある。農民がコミュニティ開発の主役であり、農民のオーナーシップなくして農村開発は望めない。特に、農民プロモーターと同コミュニティ内の農民／周辺村落農民グループ／個別農家を結びつける農民プロモーター／モデル農民グループは、対面する様々な技術的／社会的に困難な状況に対処出来るだけの能力が開発されることが求められ、Tawan Ingnika の普及モデルである農村交流ネットワークのキーポイントとなる。

- ニーズに基づいた研修・技術支援

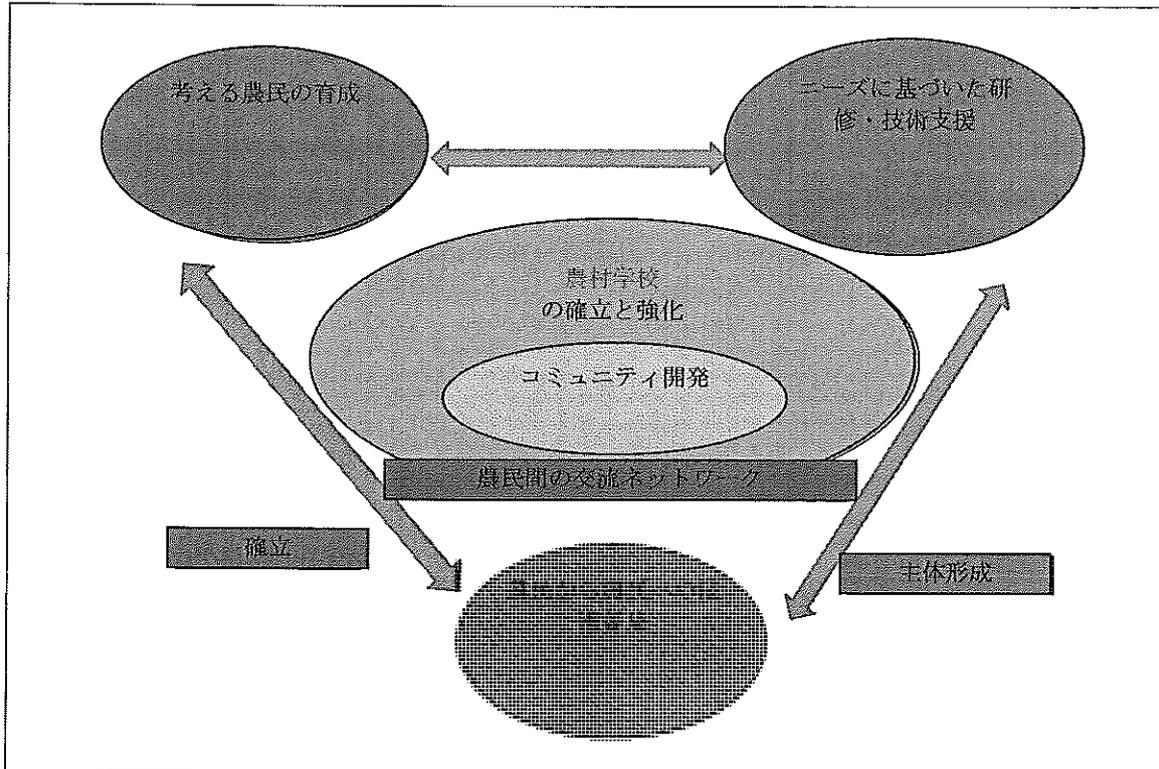
開発された技術の取捨選択／適応を行う主体となるのは農民であることに鑑み、プロジェクトにおける研修・技術開発および導入の出発点は農民からのニーズ調査としている。すなわち、プロジェクトが開発・導入する技術は農民が必要としている技術であることが前提条件となり、プロジェクトはニーズ調査から抽出された技術について大学やその他の圃場において実証／展示／研修を行う。更にグループ毎の PRA により抽出された技術について、巡回指導／研修を通じて、実習展示圃場において農民による技術の実証／習得／選択を行う。今後のプロジェクト活動においては、「考える農民」として能力が強化される為にも、農民自身により技術ニーズの特定や技術リソースへの働きかけが実践されるようになることが望ましい。

- 農民から農民への技術普及

2) で導入された「ニーズに基づいた技術」をグループ内外に普及していくには、1) 「考える農民」が主体となることとし、この組み合わせにより実施する技術普及を「農民から農民への技術普及」と定義する。農民から農民への技術普及を推進するにあたっては、各普及員は農民が自発性を発揮できるようにオーナーシップの醸成に考慮すると共に、伝統的に行われている協働作業（ゆい）などの慣習を最大限に発揮するよう配慮することとする。農村開発委員

会の役割はこの農民間の交流ネットワークの促進にある。また、本格的に農民から農民への普及技術を展開する際には、コミュニティ間、対象グループ間、農民プロモーターと他グループ間などの人間関係、村落間の社会関係の形成経緯などに配慮する必要がある。

ECA Tawan Ingnika コンセプトを支える3つのポイント



出典：Tawan Ingnika

1-3. ECA Tawan Ingnika の特徴

ECA TAWAN INGNIKA のキーワードは以下の通りである。

創造性、モチベーション、イニシアチブ、自主性、相乗（シナジー）

効果、共生

以下の点が、ECA Tawan Ingnika の主な特徴である。

ECA は

- 農業・牧畜生産を通して生活レベルを改善する手法を学べる
- 協働学習の場である
- 普及員と農民プロモーター、モデル農民グループや農村開発に関係する全ての人々が、共に考え、創造性や地域にある資源全てを活用し、問題を解決することができる場である
- 生活改善手法や適正技術を農民から農民へ普及する
- コミュニティを協働で発展できる場所
- 自分の可能性を知り、共に前進していくことができる場所

1-4.従来の方法と ECA Tawan Ingnika との比較

従来型の「研修所」や「訓練センター」での技術研修を通じた普及方法や、普及員から農家へ向けたトップダウン式の普及方法は、これを実施する行政の能力に応じて、地理的・社会的な対象範囲が限定される。資金的、人間的な制限が強い開発途上国においては、おのずからその対象となる範囲はきわめて狭くならざるを得ない。「農村学校」は普及の主役を普及員から農家に転換することによって、こういった限界性を克服するだけでなく、より現場の農家ニーズに答え得る普及方法として期待されている。篤農家などの農村リーダーを核として技術の波及を図る事例や、小グループを組織して技術研修の受け皿とすると同時に周辺農村への普及主体として育成を図る事例など、地域事情や技術の性格などに応じた多様な形態がある。

従来型の普及方法と **Tawan Ingnika** 型の普及方法の違いを考察すると以下の表のとおりである。

ここで述べたいことは、**ECA Tawan Ingnika** のモデルが今まで同地域で行われてきたプロジェクトの教訓から、どのようにして生まれてきたかである。

農民には条件を付けずには何も与えない。これは農民を尊重しているからであり、かつ農民のポテンシャルを信じているからである。物を与えるということは将来的に一層の問題と貧困をもたらすことにつながる。なぜなら、物を与えることにより、農民たちが慣れてしまい努力をする姿勢を奪うばかりでなく、農民たちから、創意工夫、皆で考え地元資源を有効利用する姿勢、能力を育成する機会を奪ってしまうことになるからである。他の言い方をすると物を与えることは問題や貧困を与えることに他ならない。

従来の普及と Tawan Ingnika の普及

	従来の普及（これまでのもの）	Tawan Ingnika タイプの普及
1	研修センター、建物	建物はないが農場、圃場、畑などがある
2	教師や普及員による教育	総合学習。 ファシリテータと農民
3	資機材を与える。	何も与えない。地元資源や物々交換の活用
4	普及員の視点からで設定された学習テーマ	農民が自分たちのニーズをベースにして選択した学習テーマ
5	技術者から農民への普及	農民から農民への普及
6	旅費、食事、軽食（インセンティブ）	農民が Tawan Ingnika の技術者と共同で総合的に準備
7	普及員が活動を評価	活動の進展とプロセスを農民と技術者と共に評価する
8	失敗は許されない	失敗からさらに学べることもある、よって失敗しても良い（失敗はチャンス）

出典：Tawan Ingnika、高橋貞雄専門家作成

1-5. ECA における CDR の役割

農業普及における CDR(農村開発委員会)の役割は農民間の活動を活発にすることである。農業技術および生活改善技術について、農民間の普及を実施する場所は、コミュニティ内がふさわしく、特に最も重要なポイントが ECA における活動を側面的に支援することである。

1-6. ECA Tawan Ingnika はどのように機能するか？

ECA の役割は、普及員と共に他の農民に学んだ知識や技術を共に伝えていく「農民プロモーター」の自発的活動を促していくことである。

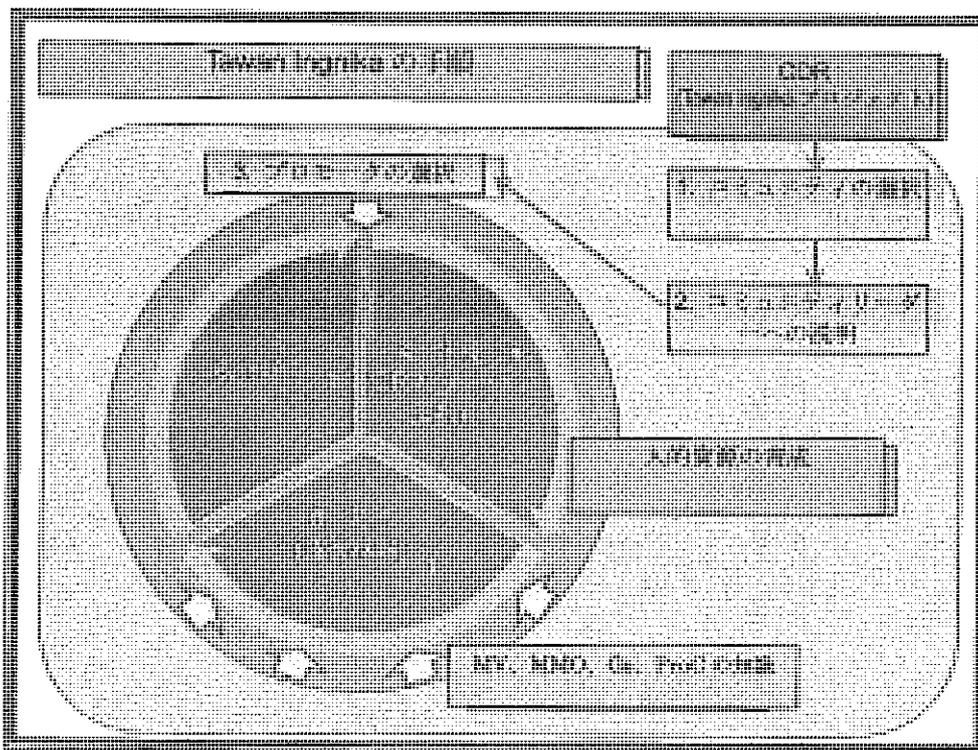
2. TAWAN INGNIKA モデル

2-1. ECA を通した Tawan Ingnika 農村普及モデル

実際に **Tawan Ingnika** モデルを適応し評価した結果としていえることは、プエルトカベサス市の農村開発、農業技術普及のための適切なモデルについてのコンセンサスを得られたことである。このモデルは **RAAN** で適切に機能し役立つことを我々は確信している。

本モデルは、下記のフローチャートが示すようにプロジェクトサイクルに基づく。このモデルでは、プロジェクトサイクルは **Plan** (計画)、**Do** (実行)、**See** (反省) である。計画は **Plan** に、実行は **Do**、評価は **See** に相当する。

本モデルが、農民、主にコミュニティのプロモーターの間で「プロジェクトサイクルの習得」の過程として機能することが期待される。プロジェクトを通して実施する経験・知見を通して彼らがこれらを体得・体験し、最終的にそれを取り入れ、適応することが期待されている。



出典 : Tawan Ingnika プロジェクト作成 (2012)

第 5 ステップ、技術移転の実施レベルでは、サンドイッチのように、農業・牧畜技術面と人間開発の側面と間に強い連携（コンビネーション）があることがわかる。このように、「人的資源の育成」を最大限考慮しつつ **ECA** のコンセプトを実

行に移している。

プロジェクトサイクルは、一つのサイクルでは終わらない。生産者の状況が改善されるまで活動は続くのである。このプロセスで最も重要なことは、彼らが「計画」「実行」「評価」のサイクルを全ての活動に適用することに習熟することである。評価段階では、農民間で「反映」という言葉がよく用いられる。次回の活動サイクルまでに計画を積極的に立てられるよう、どのように活動を行なったか、なぜ上手くいったか、いかなかったかをよく熟考する必要があるからである。

2-2. モデルの手続き

Tawan Ingnika の農業普及モデルの手順には、2-1 のフローチャートが示すように 6 つのステップがある、ここでは扱う対象に限定して説明する。詳細は第 3 章で記す。

Tawan Ingnika モデルのステップ

ステップ 1. コミュニティの選択

- CDR は組織間レベルでの連携を通して、既存データ、各コミュニティの実際の生活の状況に応じた、候補コミュニティを選択する

ステップ 2. コミュニティのリーダーへの説明

- CDR もしくはチームの技術者は、コミュニティのリーダーに対し、コミュニティの信頼における農民プロモーターの候補者を特定するためにプロジェクトの内容を説明する。

ステップ 3. コミュニティのプロモータの選出

- リーダーとコミュニティの会議で、コミュニティの農民プロモーターの候補者を選び、CDR に推薦する。

ステップ 4. 計画

- コミュニティの農民プロモーターの研修を開始する。PRA 参加型農村調査を盛り込んだ計画ワークショップも共にスタート

ステップ 5. 実行

- コミュニティの農民プロモーターは、CDR の普及技術者から技術支援を受け、ECA を適用し、自身の農業・牧畜活動をスタートさせる。
- 以下のテーマ；コミュニティでの普及、モチベーションと組織化の手法(MMO)、生活改善(MV)およびジェンダー --- を盛り込んだ人的資源開発のワークショップを

農業・牧畜技術移転の活動前に行なう

ステップ 6. 評価

- 各活動の終了時、モデル農民グループと農民プロモーター、技術者の間で全体評価を行なう

